



目次

- 改訂情報
 - はじめに
 - 対象読者
 - 本書の構成
 - 本書内の説明について
-

[索引](#)

- Resin
 - resin-web 設定
 - ヘルス機能
 - ログ設定
- コアモジュール
 - ネットワーク設定
 - サーバコンテキスト設定
 - ストレージ設定ファイル
 - サービスセレクトア設定
 - Identifier 設定
 - initializer 設定
 - IPアドレス取得元設定
- マルチデバイス
 - クライアントタイプマスタ
- 国際化機能
 - 日付と時刻の形式マスタ
 - ロケールマスタ
 - タイムゾーンマスタ
 - 数値形式マスタ
- スクリプト開発モデル
 - source-config.xml
- データベースアクセス機能
 - データソースマッピング設定
- メールモジュール
 - メール設定
- Webモジュール
 - リクエスト制御設定
 - レスポンスヘッダ設定
- IM-Propagation
 - IM-Propagation 設定
 - IM-Propagation 受信側設定
 - IM-Propagation 送信側設定
- テナント管理機能
 - システム管理者用スクリプト開発モデルルーティング設定
 - システム管理者用IM-JavaEE Frameworkルーティング設定
 - システム管理者用サブレットルーティング設定
 - 認可判断モジュール設定
 - 認可設定画面設定
 - ポリシー部分編集定義設定
 - 認可設定画面 保護リソース設定
 - ルーティングテーブル用 認可リソースマッパー定義設定
 - リソースタイプ拡張設定
 - サブジェクトタイプ拡張設定
 - 暗号化設定
 - サブジェクトリゾルバ (DeclaredSubjectResolver)拡張設定
 - サブジェクトリゾルバ (OnDemandSubjectResolver)拡張設定
 - 認可ポリシーキャッシュ対象設定
 - パスワード履歴管理設定
 - スクリプト開発モデルルーティング設定
 - IM-JavaEE Frameworkルーティング設定
 - サブレットルーティング設定
 - ショートカットアクセス設定
 - システム期間情報の管理
 - セキュア・トークンフィルタ設定
- サービス機構モジュール
 - キャッシュ設定
 - キャッシュデフォルト設定
- UI
 - セッション管理設定
 - UI タグコンポーネント設定
 - テーマの適用方法設定 HeadWithFooterThemeBuilder
 - テーマの適用方法設定 HeadWithContainerThemeBuilder
 - テーマの適用方法設定 HeadOnlyThemeBuilder
 - テーマの適用方法設定 BodyOnlyThemeBuilder
 - テーマの適用方法設定 NoThemeBuilder
 - テーマの適用方法設定 FullThemeBuilder
 - ライブラリ群設定
 - SP版ユーティリティメニュー設定
 - 画面表示設定
 - 文字サイズ変更機能表示設定
- Webサービス 認証・認可クライアント
 - SOAPClientオブジェクトの設定
- 認証機能
 - 認証設定 (一般ユーザ用)
 - 認証確認設定 (一般ユーザ用)
 - 認証確認対象ページ設定 (一般ユーザ用)
 - 認証セッション設定 (一般ユーザ用)
 - 認証外部ページURL許可リスト設定
 - リクエストパラメータ設定
 - セッション情報チェック設定
 - 認証エラー画面設定
- 統合Windows認証機能
 - 統合Windows認証設定
 - 統合Windows認証パス設定
- システム管理機能
 - 認証設定 (システム管理者用)
 - 認証IPアドレス制限設定 (システム管理者用)
 - 認証確認設定 (システム管理者用)
 - 認証確認対象ページ設定 (システム管理者用)
 - 認証セッション設定 (システム管理者用)
- LDAP認証モジュール
 - LDAP認証設定ファイル
- ジョブスケジューラ
 - ジョブスケジューラの設定
- パスワードリマインダ機能
 - パスワードリマインダ設定
- IM-共通マスタ
 - IM-共通マスタ設定
- ViewCreator
 - ViewCreatorの設定
 - ViewCreatorの関数設定
 - ViewCreatorファイルリソースの設定
 - グラフ描画ライブラリ情報の設定
- IMBox
 - Cassandra設定
 - IMBox設定
 - チャット表示設定
- IM-ContentsSearch

Resin

resin-web 設定

項目

- 概要
- リファレンス
 - ログハンドラ設定
 - リソース設定
 - JSP 設定
 - タグ再利用設定
 - データベース設定
 - コネクション取得待ち時間設定
 - ドライバ設定
 - ドライバタイプ設定
 - ドライバ URL 設定
 - ユーザ設定
 - パスワード設定
 - 暗号化パスワード設定
 - 接続タイムアウト時間設定
 - 最大コネクション数設定
 - 最大アイドル時間設定
 - 最大オーバーフローコネクション数設定
 - 最大プール内生存時間設定
 - プリベアドステートメントキャッシュ設定
 - セッション設定
 - セッションIDの再利用設定
 - セッションタイムアウト設定
 - CookieのHttpOnly属性
 - CookieのSecure属性
 - CookieのSameSite属性
 - JSPプリコンパイル設定

- システム管理者用グローバルナビ設定
- システム管理者用ホームウィジェット設定
- システム管理者用ユーティリティメニュー設定
- ブラウザロケールデコレータ設定
- IM-Notice
 - IM-Notice 設定
 - IM-Notice Mobile設定
 - IM-Notice MQ設定
 - IM-Notice MQブローカー設定
- 招待機能と外部ユーザ
 - 招待権限リスト設定
 - 招待メールデフォルト設定
- プロジェクトチーム機能
 - 利用機能アプリケーション設定
 - 利用機能設定
 - プロジェクトチーム認可設定
- リバースプロキシ
 - リバースプロキシの設定
- Salesforce連携
 - Salesforceクライアントの設定
- Kibanaポートレット
 - Kibana ポートレットの設定
- セッション管理モジュール
 - セッションストア設定
 - セッションリスナ設定
- セッション管理 組込Hazelcast連携
 - Hazelcast設定
- 外部メニュー連携
 - 外部メニュー連携接続先設定
- iAP-iWP間SSO連携モジュール(IM-HybridSSO)
 - SSO連携用マッピング設定
- Solrサーバ接続設定
- 検索画面設定
- 検索権限生成設定
- 検索フィールド設定
- テキスト抽出設定
- 検索結果テンプレート設定
- IM-FileExchange
 - IM-FileExchangeの設定
- IM-Wiki
 - IM-Wiki設定
- OAuth認証機能
 - クライアント詳細設定
 - クライアントリソース設定
 - クライアントのアクセス範囲設定
- OAuthクライアント
 - OAuthプロバイダ設定
- ログ
- 互換モジュール
 - 汎用設定ファイル
- IBM Watson 設定
 - IBM Watson クライアント設定
- Web API Maker
 - Web API Makerセキュアトークンフィルタ設定
- スマートメニューランキング
 - スマートメニューランキング設定
 - スマートメニューランキングパス設定
- ログインポートレット
 - ログインポートレット表示設定
- 多要素認証モジュール
 - 多要素認証設定
 - アプリ認証設定
- TableMaintenance
 - TableMaintenanceの設定
- IM-BloomMaker for Accel Platform
 - ファイルアップロードエレメント設定

概要

Resin に関する設定です。

索引

モジュール Resin

フォーマット なし

トファイル

(xsd)

設定場所 WEB-INF/resin-web.xml

```
<web-app xmlns="http://caucho.com/ns/resin" xmlns:resin="urn:
<log-handler name="" class="jp.co.intra_mart.common.platform
<!-- im_service(im_asynchronous) -->
<resource jndi-name="jca/work" type="jp.co.intra_mart.system.
<jsp>
<recycle-tags>>false</recycle-tags>
</jsp>
<database jndi-name="jdbc/default">
  <driver>
    <type>org.postgresql.ds.PGConnectionPoolDataSource</type>
    <url>jdbc:postgresql://localhost:5432/iap_db</url>
    <user>imart</user>
    <password>imart</password>
    <preparedStatementCacheQueries>0</preparedStatement
  </driver>
  <max-connections>20</max-connections>
  <prepared-statement-cache-size>0</prepared-statement
</database>
<session-config>
  <reuse-session-id>>false</reuse-session-id>
  <session-timeout>30</session-timeout>
</session-config>
</web-app>
```

変更年月日	変更内容
2012-12-21	初版
2013-04-01	第2版 下記を追加・変更しました <ul style="list-style-type: none"> 「IPアドレス取得元設定」を追加 「認証Pアドレス制限設定 (システム管理者用)」を追加 「IM-FileExchangeの設定」を追加 「認可設定画面設定」を追加 「リソースタイプ拡張設定」を追加 「LDAP認証設定ファイル」を追加 「外部メニュー連携接続先設定」を追加 「ポリシー部分編集定義設定」に「コールバック設定」を追加 「Cassandra設定」に「キースペース」を追加 「IMBox設定」に「Noticeタイムラインのメッセージ表示件数」、「1メッセージの通知先に指定できるユーザ数の上限値」、「1メッセージに添付可能なファイル数の上限値」を追加
2013-07-01	第3版 下記を追加・変更しました <ul style="list-style-type: none"> 「本書内の説明について」を追加 「UI タグコンポーネント設定」を追加 「テーマの適用方法設定 HeadWithFooterThemeBuilder」を追加 「テーマの適用方法設定 HeadWithContainerThemeBuilder」を追加 「テーマの適用方法設定 HeadOnlyThemeBuilder」を追加 「テーマの適用方法設定 BodyOnlyThemeBuilder」を追加 「テーマの適用方法設定 NoThemeBuilder」を追加 「ViewCreatorの関数設定」を追加 「認可設定画面設定」に「リソースグループバックアップ設定」「バックアップ先パス設定」「バックアップ最大件数設定」を追加 「Cassandra設定」に「接続認証設定」「接続ユーザ名」「パスワード」を追加
2013-10-01	第4版 下記を追加・変更しました <ul style="list-style-type: none"> 「外部メニュー連携接続先設定」に「メニュー設定画面での表示順序設定」に関する説明を追加 「システムログ」に「ログメッセージコード」に関する説明を追加 「キャッシュ設定」に「属性」に関する説明を追加、更新 「キャッシュデフォルト設定」に「属性」に関する説明を追加、更新 「resin-web 設定」の「プリベアドステートメントキャッシュ設定」に関する説明を更新 「汎用設定ファイル」の「VirtualFile72, NetworkFile72 APIにおけるエンコーディングの設定」に関する説明を追加 「サービスセレクトタ設定」を追加 「暗号化設定」の設定ファイルの設置場所を更新 「IMBox設定」に「非表示のグループ一覧のグループ表示件数」に関する説明を追加 「サブレットルーティング設定」に認可を使用する際の注意点を追加 「メール設定」に「SMTPS(SMTP over SSL)設定」に関する説明を追加

ログハンドラ設定

タグ名

ログハンドラに関する設定です。

【設定項目】

```
<web-app>
<log-handler name="" class="jp.co.intra_mart.common.platform
</web-app>
```

必須項目 ×

複数設定 ○

設定値・設定する内容 ログハンドラに関する設定をします。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ web-app

【属性】

属性名	説明	必須	デフォルト値
name	ログハンドラの名前を指定します。	○	なし
class	ログハンドラのクラス名を指定します。	○	なし



この設定は変更しないでください。

リソース設定

タグ名

リソースに関する設定です。

【設定項目】

```
<web-app>
<resource jndi-name="jca/work" type="jp.co.intra_mart.system.
</web-app>
```

必須項目 ×

複数設定 ○

設定値・設定する内容 リソースに関する設定をします。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ web-app

変更年月日	変更内容
2014-01-01	第5版 下記を追記・変更しました <ul style="list-style-type: none"> 「ログ」の項目を「ログ仕様書」に移動 「認可判断モジュール設定」の「decision-config」タグ「combinator」属性の説明を修正 「キャッシュ設定」にサイズ計算に関する警告を追加 「キャッシュデフォルト設定」にサイズ計算に関する警告を追加 「IM-ContentsSearch」に「検索画面設定」を追加 「IM-ContentsSearch」に「検索権限生成設定」を追加 「IM-ContentsSearch」に「テキスト抽出設定」を追加 「IM-ContentsSearch」に「検索フィールド設定」を追加 属性 path に関するワイルドカードの説明を追加 <ul style="list-style-type: none"> 「システム管理者用スクリプト開発モデルルーティング設定」 「システム管理者用IM-JavaEE Frameworkルーティング設定」 「システム管理者用サーブレットルーティング設定」 「スクリプト開発モデルルーティング設定」 「IM-JavaEE Frameworkルーティング設定」 「サーブレットルーティング設定」 「IMBox設定」に「表示に関する設定」を追加 「IMBox設定」に「利用不可ユーザを表示するか否かを判定する値」を追加 「IMBox設定」に「アンケートに投票をしたユーザー一覧のユーザ表示件数」を追加 「IMBox設定」に「利用不可ユーザのユーザー一覧のユーザ表示件数」を追加 「パスワード履歴管理設定」の「パスワード履歴管理対象外クライアントタイプ」に関する省略時のデフォルト値を更新 「レスポンスヘッダ設定」を追加 「テーマの適用方法設定 HeadWithFooterThemeBuilder」のテーマの適用方法の参照先を変更しました。 「テーマの適用方法設定 HeadWithContainerThemeBuilder」のテーマの適用方法の参照先を変更しました。 「テーマの適用方法設定 HeadOnlyThemeBuilder」のテーマの適用方法の参照先を変更しました。 「テーマの適用方法設定 BodyOnlyThemeBuilder」のテーマの適用方法の参照先を変更しました。 「テーマの適用方法設定 NoThemeBuilder」のテーマの適用方法の参照先を変更しました。 「IM-FileExchangeの設定」の「listener」タグ「show-guest-address」属性を追加 「メール設定」の「smtps」タグ「enable」属性の説明を修正 「メール設定」の「smtps」タグ「starttls」属性の説明を修正 「メール設定」の「encode」タグ「locale」属性の説明を修正 「キャッシュ設定」の「cache」タグ「enable」属性の説明を修正 「キャッシュデフォルト設定」の「cache」タグを「default-cache」に修正 「キャッシュデフォルト設定」の「mbeans」タグを追加

【属性】

属性名	説明	デフォルト必須	ルト値
jndi-name	リソースの JNDI 名を指定します。	○	なし
type	リソースのタイプを指定します。	○	なし

注意
この設定は変更しないでください。

JSP 設定

タグ名

JSP に関する設定です。

【設定項目】

```
<web-app>
<jsp>
...
</jsp>
</web-app>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定 JSP の設定をします。
値・設定する内容

単位・なし
型

省略時のデフォルト値

親タグ web-app

タグ再利用設定

タグ名

JSP に関する設定です。

タグクラスのインスタンスを再利用します。

【設定項目】

```
<web-app>
<jsp>
<recycle-tags>>false</recycle-tags>
</jsp>
</web-app>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

変更年月日	変更内容
2014-04-01	第6版 下記を追記・変更しました <ul style="list-style-type: none"> 「外部メニュー連携接続先設定」の「menu-provider」タグに「target-tenant」属性を追加 「外部メニュー連携接続先設定」の「メニュープロバイダの接続先ログイングループ設定」に関する説明を更新 「統合Windows認証機能」を追加 「IMBox設定」の「tns:comet_flag」タグの説明にアプリケーション通知を追加 「IMBox設定」の「tns:mail」タグと「tns:from」タグに注意事項を追加 「パスワード履歴管理設定」に「group」タグの説明を追加 「パスワード履歴管理設定」の各タグ・属性に関してデフォルト値の説明を更新 「メール設定」の「smtp-server」タグに関する説明を更新 「UI」から「GoogleChromeFrame設定」を削除 「パスワードリマインダ設定」に「urlLimitDateFormat」タグの説明を追加 「パスワードリマインダ設定」に「mailCc」タグの説明を追加 「パスワードリマインダ設定」に「mailBcc」タグの説明を追加 「パスワードリマインダ設定」に「address」タグの説明を追加 「ストレージ設定ファイル」の「パブリックストレージディレクトリ名設定」に関数説明を更新 「システム管理者用グローバルナビ設定」を追加 「システム管理者用ホームウィジェット設定」を追加 「システム管理者用ユーティリティメニュー設定」を追加 「認証設定 (システム管理者用)」に「強制ログイン時のセッション再作成の有無」パラメータの説明を追加 「ショートカットアクセス設定」の概要を更新しました。 「パスワード履歴管理設定」の概要を更新しました。 「認証設定 (一般ユーザ用)」に「自動ログインについて」と、「強制ログイン時のセッション再作成の有無」パラメータの説明を追加 「リクエストパラメータ設定」に「im_tenant_id」パラメータの説明を追加
2014-05-30	第7版 下記を追記・変更しました <ul style="list-style-type: none"> 「ヘルス機能」を追加 「initializer 設定」を追加
2014-08-01	第8版 下記を追記・変更しました <ul style="list-style-type: none"> 「ログ設定」を追加 「検索結果テンプレート設定」を追加 「resin-web 設定」の「max-connections」タグのデフォルト値を修正 「テキスト抽出設定」の概要に記載しているサンプルを更新 「検索画面設定」に「sort」タグの説明を追加 「検索画面設定」に「default-order」タグの説明を追加 「LDAP認証設定ファイル」の「connect-timeout」タグの単位・型を修正 「SSO連携用マッピング設定」を追加 「認可設定画面設定」に「Excelインポート設定」タグの説明を追加 「認可設定画面設定」に「Excelエクスポート設定」タグの説明を追加 「リクエストパラメータ設定」で「ログイン・ログアウト時に利用する遷移先URL」設定時の注意を追記

設定値・設定する内容	true タグのインスタンスを再利用します。 false タグのインスタンスを再利用しません。
単位・型	真偽値 (true/false)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	jsp

注意
この設定は変更しないでください。

データベース設定

タグ名	database
-----	----------

データベース接続に関する設定です。

【設定項目】

```
<web-app>
<database jndi-name="jdbc/default">
...
</database>
</web-app>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	データベース接続を行うための設定をします。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	web-app

【属性】

属性名	説明	必須
jndi-name	このデータベース設定のJNDI名を設定します。	○

コネクション取得待ち時間設定

タグ名	connection-wait-time
-----	----------------------

データベースコネクションの取得待ち時間です。コネクション取得時に

【設定項目】

```
<web-app>
<database jndi-name="jdbc/default">
...
<connection-wait-time>30s</connection-wait-time>
...
</database>
</web-app>
```

必須項目	×
複数設定	×

変更年月日	変更内容
2014-12-01	第9版 下記を追記・変更しました <ul style="list-style-type: none"> 「OAuth認証機能」を追加 「IMBox設定」に「スレッド内の返信メッセージ取得件数」を追加 「スクリプト開発モデル」を追加 「IM-Notice」を追加 「LDAP認証設定ファイル」は、ひな形として利用されることを追記 「セッション管理設定」の注意の内容を修正
2015-04-01	第10版 下記を追記・変更しました <ul style="list-style-type: none"> 「サービスセレクトタ設定」リスナ設定の列から QueueServiceのIDを削除しました。 「リクエスト制御設定」処理中のリクエストの有効期間単位についてを追記 「メール設定」に「mail-headers」タグの説明を追加 「メール設定」に「header」タグの説明を追加 「IMBox設定」に「Unread Messages (PC版)のメッセージ表示件数」を追加 「IMBox設定」に「Unread Messages (SP版)のメッセージ表示件数」を追加 「ロケールマスタ」のシステムロケール変更に関する説明を修正

設定値・設定する内容	コネクションの滞留待ち時間を設定します。
単位・型	文字列（数値 + 時間単位） 時間単位に利用可能な文字は以下の通りです。 ms（ミリ秒）、s（秒）、m（分）、h（時）、
省略時のデフォルト値	30s（30秒）
親タグ	database

ドライバ設定

タグ名

JDBC ドライバに関する設定です。

【設定項目】

```
<web-app>
<database jndi-name="jdbc/default">
<driver>
...
</driver>
</database>
</web-app>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容

JDBC ドライバの設定をします。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値

親タグ database

ドライバタイプ設定

タグ名

JDBC ドライバのタイプに関する設定です。

【設定項目】

```
<web-app>
<database jndi-name="jdbc/default">
<driver>
<type>org.postgresql.ds.PGConnectionPoolDataSource</type>
...
</driver>
</database>
</web-app>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容

JDBC ドライバのタイプの設定をします。

単位・型 文字列

変更年月日	変更内容
2015-08-01	<p>第11版 下記を追記・変更しました</p> <ul style="list-style-type: none"> 「resin-web 設定」に「JSPブリコンパイル設定」を追加。 「source-config.xml」に「source-config.xmlの有効範囲」を追加 「IMBox設定」に「非表示メッセージタイムラインのスレッド表示件数」を追加 「IMBox設定」に「入力チェック設定」を追加 「IMBox設定」に「グループ名の重複チェック設定」を追加 「テーマの適用方法設定 HeadWithFooterThemeBuilder」に属性client-typeとlibraries-pathを追加 「テーマの適用方法設定 HeadWithContainerThemeBuilder」に属性client-typeとlibraries-pathを追加 「テーマの適用方法設定 HeadOnlyThemeBuilder」に属性client-typeとlibraries-pathを追加 「テーマの適用方法設定 BodyOnlyThemeBuilder」に属性client-typeとlibraries-pathを追加 「テーマの適用方法設定 NoThemeBuilder」に属性client-typeとlibraries-pathを追加 「テーマの適用方法設定 FullThemeBuilder」を追加 「ライブラリ群設定」を追加 「認証設定（一般ユーザ用）」の以下に関する警告を修正 <ul style="list-style-type: none"> ログインページURL ログイン実行ページURL ログアウト実行ページURL 「認証設定（システム管理者用）」の以下に関する警告を修正 <ul style="list-style-type: none"> ログインページURL ログイン実行ページURL テナント初期設定ページURL 「認証確認設定（一般ユーザ用）」の以下に関する警告を修正 <ul style="list-style-type: none"> 認証確認ページURL 認証確認実行ページURL 「認証確認設定（システム管理者用）」の以下に関する警告を修正 <ul style="list-style-type: none"> 認証確認ページURL 認証確認実行ページURL 「IM-Notice」に「Baidu APIキーの設定」を追加

省略時のデフォルト値	なし
親タグ	driver

コラム

弊社では、Resin 4.0.56 以降をご利用の場合は **Connector** Resin 4.0.55 以前では、**java.sql.Driver** をご利用ください Resin 4.0.56 以降でも **java.sql.Driver** を利用することは可能です。

ドライバ URL 設定

タグ名	url
-----	-----

JDBC ドライバの URL に関する設定です。

【設定項目】

```
<web-app>
<database jndi-name="jdbc/default">
<driver>
...
<url>jdbc:postgresql://localhost:5432/iap_db</url>
...
</driver>
</database>
</web-app>
```

必須項目	<input type="radio"/>
複数設定	<input checked="" type="checkbox"/>
設定値・設定する内容	JDBC ドライバの URL の設定をします。
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	driver

ユーザ設定

タグ名	user
-----	------

接続するデータベースのユーザに関する設定です。

【設定項目】

```
<web-app>
<database jndi-name="jdbc/default">
<driver>
...
<user>imart</user>
...
</driver>
</database>
</web-app>
```

必須項目	<input type="radio"/>
複数設定	<input checked="" type="checkbox"/>
設定値・設定する内容	データベースのユーザの設定をします。

変更年月日	変更内容
2015-12-01	第12版 下記を追記・変更しました <ul style="list-style-type: none"> 「source-config.xml」に「ファイル単位での設定方法」を追加 「source-config.xml」に「HTMLコメントを削除する設定」を追加 「JSPプリコンパイル設定」の内容を修正 「パスワード履歴管理設定」の「パスワードの長さチェック」に属性 min の最小値、および、属性 max の最大値に関する説明を追記 「LDAP認証設定ファイル」にバージョンによってファイルの扱いが異なることを追記 「OAuthクライアント」に「OAuthプロバイダ設定」を追加 「ジョブスケジューラ」に「ジョブスケジューラサービスの設定」を追記 「ジョブスケジューラ」に「遅延起動の設定」を追記 「ジョブスケジューラ」に「起動判定処理の設定」を追記 「ジョブスケジューラ」に「最大遅延時間 (秒)」を追記 「ジョブスケジューラ」に「起動判定チェック間隔 (ミリ秒)」を追記 「ライブラリ群の指定」に client-type に pc を指定した定義を追記 「テーマの適用方法設定 HeadWithFooterThemeBuilder」の属性 libraries-version の client-type に pc を指定した場合の記述を追記 「テーマの適用方法設定 HeadWithContainerThemeBuilder」に属性 libraries-version の client-type に pc を指定した場合の記述を追記 「テーマの適用方法設定 HeadOnlyThemeBuilder」に属性 libraries-version の client-type に pc を指定した場合の記述を追記 「テーマの適用方法設定 BodyOnlyThemeBuilder」に属性 libraries-version の client-type に pc を指定した場合の記述を追記 「テーマの適用方法設定 NoThemeBuilder」に属性 libraries-version の client-type に pc を指定した場合の記述を追記 「テーマの適用方法設定 FullThemeBuilder」に属性 libraries-version の client-type に pc を指定した場合の記述を追記 「resin-web 設定」の「ブリベアドステートメントキャッシュ設定」に PostgreSQL JDBC を使用する際の説明を追記 「ストレージ設定ファイル」に「シンボリックリンク設定」を追記 「ポリシー部分編集定義設定」に、resource-group-authorizer 要素」に指定するクラスの型を追記 「LDAP認証設定ファイル」に「SSL接続(LDAPS)の設定」を追記

単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	driver

パスワード設定

タグ名	password
-----	----------

接続するデータベースのユーザのパスワードに関する設定です。

【設定項目】

```
<web-app>
<database jndi-name="jdbc/default">
<driver>
...
<password>imart</password>
...
</driver>
</database>
</web-app>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	データベースのユーザのパスワードの設定をします。
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	driver

暗号化パスワード設定

タグ名	resin:Password
-----	----------------

接続するデータベースのユーザのパスワードに関する設定です。暗号化されたパスワードを使用する場合に使用します。

このタグを使用する場合は、予めパスワードを暗号化してください。パ

```
C:\resin-pro-4.x.xx>resin password-encrypt <パスワード>
password: {RESIN}WFpCuWYySFzuOK1Gda0TxQ==
```

Linux 環境の場合は resinctl コマンドを使用してください。resinctl コマンドを使用するには Resin がコンパイル、インストール済

```
[resin-pro-4.x.xx]# bin/resinctl password-encrypt <パスワード>
password: {RESIN}WFpCuWYySFzuOK1Gda0TxQ==
```

このタグを使用するには設定ファイルに以下のネームスペースが記述さ

```
xmlns:resin="urn:java:com.caucho.resin"
```

【設定項目】

変更年月日	変更内容
2016-04-01	第13版 下記を追記・変更しました <ul style="list-style-type: none"> 「日付と時刻の形式マスタ」に警告を追加 「IM-共通マスタ設定」に「APIモデルバリデーション」を追記 「パスワード暗号化アルゴリズムクラス」にパスワードの保存方式が「暗号化」方式である場合に利用可能である旨の説明を追記 「暗号化設定」にパスワードの保存方式が「暗号化」方式である場合に利用可能である旨の説明を追記 「暗号化設定」のカテゴリの説明に役割に関する記述を追記 「招待機能と外部ユーザ」を追加 「リバースプロキシ」を追加 「テキスト抽出設定」の概要に記載しているサンプルを更新 <ul style="list-style-type: none"> DocuWorks に対応するための設定値を追加 「Identifier 設定」を追加
2016-08-01	第14版 下記を追記・変更しました <ul style="list-style-type: none"> 「システム管理者用グローバルナビ設定」のメニュー設定に「useiframe」属性の説明を追記 「システム管理者用ユーティリティメニュー設定」のメニュー設定に「useiframe」属性の説明を追記 「パラメータ設定」の「name」属性の必須項目を「×」に修正 「パラメータ設定」の「value」属性の必須項目を「×」に修正 「テーマの適用方法設定 HeadWithFooterThemeBuilder」の「パスの設定」に注意を追記 「テーマの適用方法設定 HeadWithContainerThemeBuilder」の「パスの設定」に注意を追記 「テーマの適用方法設定 HeadOnlyThemeBuilder」の「パスの設定」に注意を追記 「テーマの適用方法設定 BodyOnlyThemeBuilder」の「パスの設定」に注意を追記 「テーマの適用方法設定 NoThemeBuilder」の「パスの設定」に注意を追記 「テーマの適用方法設定 FullThemeBuilder」の「パスの設定」に注意を追記 「リバースプロキシ」の「proxy-pass-reverse」属性の複数設定を「○」に修正 「リクエスト制御設定」の利用されていない要素を削除 <ul style="list-style-type: none"> 「inspection」要素を削除 「ヘルスアクション」にヘルスアクションの注意を追記 「ジョブスケジューラの設定」の「ジョブストアの設定」を追記 「ジョブスケジューラの設定」の「ロック獲得設定」を追記 「ネットワーク設定」の「ホストアドレス設定」にコラムを追記 「ネットワーク設定」の「マルチキャストアドレス」にコラムを追記 「グラフ描画ライブラリ情報の設定」を追加 「ViewCreatorの設定」のグラフ描画用プログラムパスに利用不可である旨の警告を追記 「SP版ユーティリティメニュー設定」を追加 「Salesforceクライアントの設定」を追加
2016-12-01	第15版 下記を追記・変更しました <ul style="list-style-type: none"> 「数値形式マスタ」を追加 DB2に関する記述を削除

```
<web-app xmlns="http://caucho.com/ns/resin" xmlns:resin="urn:j
...
<database jndi-name="jdbc/default">
<driver>
...
<password>
<resin:Password value="{RESIN}WFpCuWyYSFzuOK1Gda0T
</password>
...
</driver>
</database>
</web-app>
```

必須 ×
項目

複数 ×
設定

設定 なし
値・
設定
する
内容

単 なし
位・
型

省略 なし
時の
デ
フォ
ルト
値

親タ password
グ

【属性】

属性名	説明	デフォルト値	必須
value	暗号化されたパスワードを設定します。	○	なし

接続タイムアウト時間設定

タ max-active-time
グ
名

コネクションを取得してからの利用可能時間を設定します。この時間を

【設定項目】

```
<web-app>
<database jndi-name="jdbc/default">
...
<max-active-time>6h</max-active-time>
...
</database>
</web-app>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する 接続タイムアウト時間設定
内容

変更年月日	変更内容
2017-04-01	第16版 下記を追記しました <ul style="list-style-type: none"> 「Kibana ポートレットの設定」を追加 「セッション管理モジュール」を追加 「セッション管理 組込Hazelcast連携」を追加 「IBM Watson 設定」を追加
2017-08-01	第17版 下記を追記・変更しました <ul style="list-style-type: none"> 「ログ設定」の「rollover-size」属性のデフォルト値を変更 「Web API Maker」を追加 「resin-web 設定」に以下の設定を追加 <ul style="list-style-type: none"> コネクション取得待ち時間設定 接続タイムアウト時間設定 最大アイドル時間設定 最大オーバーフローコネクション数設定 最大プール内生存時間設定 「パスワード履歴管理設定」に以下の設定を追加、更新 <ul style="list-style-type: none"> 「パスワード文字列チェック」にcheck-password-class属性を追加 「パスワード利用可能文字 (英文字)」にenable属性を追加 「パスワード利用可能文字 (数字)」にenable属性を追加 「パスワード利用可能文字 (その他)」にenable属性を追加 「パスワード利用可能文字グループ」を追加 「パスワード履歴内のパスワードの利用禁止」にinclude属性を追加 「ユーザコードパスワードの利用禁止」にinclude属性を追加 「ViewCreatorの設定」の「クエリ編集画面設定」を追記 「プロジェクトチーム機能」を追加
2017-12-01	第18版 下記を追記しました <ul style="list-style-type: none"> 「スマートメニューランキング」を追加 「ログインポートレット」を追加 「IM-共通マスタ設定」に「あいまい検索 (ユーザ検索)」を追記
2018-04-01	第19版 下記を追記しました <ul style="list-style-type: none"> 「セッション情報チェック設定」に以下の設定を追加、更新 <ul style="list-style-type: none"> 「セッション情報を保存するCookieのhttponly属性」を追加 「セッション情報を保存するCookieのsecure属性」を追加 「認証設定 (一般ユーザ用)」に「ユーザコードのlocalStorage保存」を追加 「認証設定 (システム管理者用)」に「ユーザコードのlocalStorage保存有無」を追加 「IM-ContentsSearch」の「検索画面設定」に以下の設定を追加 <ul style="list-style-type: none"> 「検索方法の初期値の設定」を追加 「数値形式マスタ」の「数値形式の設定」にcssjs-path属性を追加 「多要素認証モジュール」を追加 「IM-Wiki設定」を追加

単位・型	文字列 (数値 + 時間単位)
	時間単位に利用可能な文字は以下の通りです。
	ms (ミリ秒)、s (秒)、m (分)、h (時)、
省略時のデフォルト値	6h (6時間)
親タグ	database

最大コネクション数設定

タグ名	max-connections
-----	-----------------

データベースプールで利用可能なコネクションの最大数を設定します。

【設定項目】

```
<web-app>
<database jndi-name="jdbc/default">
...
<max-connections>20</max-connections>
...
</database>
</web-app>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容
コネクションの最大数

単位・型
数値

省略時のデフォルト値
1024

親タグ database

最大アイドル時間設定

タグ名	max-idle-time
-----	---------------

データベースプールでアイドル状態のコネクションを保持する最大時間

【設定項目】

```
<web-app>
<database jndi-name="jdbc/default">
...
<max-idle-time>60s</max-idle-time>
...
</database>
</web-app>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容
最大アイドル時間

変更年月日	変更内容
2018-08-01	第20版 下記を追記しました <ul style="list-style-type: none"> 「ネットワーク設定」に以下の設定を追加 <ul style="list-style-type: none"> 「最大通信スレッド数」を追加 「到達確認/再送用最大通信スレッド数」を追加 「多要素認証モジュール」の「アプリ認証設定」に以下の設定を追加 <ul style="list-style-type: none"> 「認証アプリ発行者情報の設定」を追加 「ブラウザロケールデコレータ設定」を追加 「resin-web 設定」に ConnectionPoolDataSource に関する説明を追加 「メール設定」に以下の設定を追加 <ul style="list-style-type: none"> 「SSLプロトコル群」を追加 「SSLプロトコル設定」を追加 「メールセッションプロパティ群」を追加 「メールセッションプロパティ設定」を追加 「IM-共通マスタ設定」に「プロフィール画像」を追加
2018-12-01	第21版 下記を追記しました <ul style="list-style-type: none"> 「IM-Wiki設定」に以下の設定を追加 <ul style="list-style-type: none"> 「添付ファイル数上限値」を追加 「IM-共通マスタ設定」に「検索ダイアログ設定」を追加
2019-04-01	第22版 下記を追記しました <ul style="list-style-type: none"> 「ヘルスチェック」のHealthSystemHealthCheckの状態に対し、Resin 4.0.44以降の動作を追記 「セッション管理 組込Hazelcast連携」の「セッションストア永続化設定」に注意事項を追加 「セッション管理 組込Hazelcast連携」の「セッションストアメモリサイズ設定」にコラムを追加 「IMBox設定」の「新着メッセージ通知、アプリケーション通知（電球アイコン）にコメント通信を利用するか否かを判定する値」に関する説明を修正
2019-08-01	第23版 下記を追記しました <ul style="list-style-type: none"> 「LDAP認証設定ファイル」の「searching-dn」タグの設定値・設定する内容の例を追加
2019-12-01	第24版 下記を追記しました <ul style="list-style-type: none"> 「ネットワーク設定」の「initial-members」タグの必須項目を「×」に修正
2020-04-01	第25版 下記を追記しました <ul style="list-style-type: none"> 「シェアードデータベース設定」の接続 ID に関する注意事項を追記 「認証エラー画面設定」を追加 「統合Windows認証設定」に利用可能パラメータ一覧を追加 「クライアント詳細設定」にcode-challenge属性を追加 「TableMaintenance」を追加 「ViewCreatorの設定」に利用可能パラメータ一覧を追加 「画面表示設定」を追加 「文字サイズ変更機能表示設定」を追加

単位・型	文字列（数値 + 時間単位）
	時間単位に利用可能な文字は以下の通りです。
	ms（ミリ秒）、s（秒）、m（分）、h（時）、
省略時のデフォルト値	60s
親タグ	database

最大オーバーフローコネクション数設定

タグ名	max-overflow-connections
-----	--------------------------

コネクション取得待ち時間設定の設定時間を超越してコネクションを

【設定項目】

```
<web-app>
<database jndi-name="jdbc/default">
...
<max-overflow-connections>1024</max-overflow-connect
...
</database>
</web-app>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	オーバーフローコネクションの最大数
単位・型	数値
省略時のデフォルト値	1024
親タグ	database

最大プール内生存時間設定

タグ名	max-pool-time
-----	---------------

データベースコネクションプールで扱うコネクションの最大生存時間を

【設定項目】

```
<web-app>
<database jndi-name="jdbc/default">
...
<max-pool-time>24h</max-pool-time>
...
</database>
</web-app>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	最大プール内生存時間
単位・型	文字列（数値 + 時間単位）
	時間単位に利用可能な文字は以下の通りです。
	ms（ミリ秒）、s（秒）、m（分）、h（時）、
省略時のデフォルト値	24h

変更年月日	変更内容
2020-08-01	第26版 下記を追記しました <ul style="list-style-type: none"> 「IM-Notice Mobile 設定」からGoogle Cloud Messaging の設定を削除、Firebase Cloud Messaging の設定を追加 「OAuth クライアント」に「コード交換用証明キー(PKCE)」を追加 「ViewCreator の設定」に画面表示のタイムゾーン設定、CSV 出力のタイムゾーン設定を追加 「ViewCreator の設定」の「show-confirm-zip」タグの親タグを「export-data-settings」に修正 「ViewCreator の設定」の「query-list-settings」タグの必須項目を「x」に修正 「キャッシュ設定」にバーチャルテナント利用時のキャッシュ容量に関する説明を追加
2020-12-01	第27版 下記を追記しました <ul style="list-style-type: none"> 「IM-BloomMaker for Accel Platform」を追加 「IM-BloomMaker for Accel Platform」に「ファイルアップロードエレメント設定」を追加
2021-08-01	第28版 下記を追記しました <ul style="list-style-type: none"> 「ストレージ設定ファイル」の「class-name」タグに利用可能実装クラスを追加 「resin-web 設定」に以下の設定を追加 <ul style="list-style-type: none"> 「Cookie のHttpOnly 属性」を追加 「Cookie のSecure 属性」を追加 「Cookie のSameSite 属性」を追加 「Hazelcast 設定」の「セッションストアメモリサイズ設定」のデフォルト値を 1024 に修正 「パスワード履歴管理設定」に画面上での設定変更についての注釈を追加

親タグ	database
-----	----------

プリベアドステートメントキャッシュ設定

タグ名	prepared-statement-cache-size Postgresql Driver, Version 9.4-1201 以降のライバの初期化パラメータに設定
-----	--

PreparedStatement を使用して SQL を発行すると、作成されたステートメントがキャッシュされ、次回同じ SQL が発行された場合、キャッシュされたステートメントが使用されます。prepared-statement-cache-size は、キャッシュを行うステートメントの数を指定します。intra-mart Accel Platform では、機能により SQL の発行や内容が回数制限されている場合、8, 16 程度の個数が設定されている場合キャッシュにヒットせず、プリベアドステートメントのキャッシュが適切にヒットするように設定する必要があります。

【設定項目】

以下の JDBC ドライバを使用する場合は prepared-statement-cache-size

- Oracle
- Microsoft SQLServer
- Postgresql Driver, Version 9.4-1201 以前

```
<web-app>
  <database jndi-name="jdbc/default">
    ...
    <prepared-statement-cache-size>0</prepared-statement-cache-size>
  </database>
</web-app>
```

Postgresql Driver, Version 9.4-1202 以降を使用する場合は JDBC ドライバの初期化パラメータに preparedStatementCacheQueries

```
<web-app>
  <database jndi-name="jdbc/default">
    <driver>
      ...
      <init-param>
        <param-name>preparedStatementCacheQueries</param-name>
        <param-value>0</param-value>
      </init-param>
    </driver>
  </database>
</web-app>
```

Postgresql Driver で ConnectionPoolDataSource を利用する場合は

```
<web-app>
  <database jndi-name="jdbc/default">
    <driver>
      ...
      <preparedStatementCacheQueries>0</preparedStatementCacheQueries>
    </driver>
  </database>
</web-app>
```

必須項目	x
複数設定	x
設定値・設定する内容	プリベアドステートメントのキャッシュ数
単位・型	数値
省略時のデフォルト値	0
親タグ	database Postgresql Driver, Version 9.4-1202 以降の場合、Postgresql Driver で ConnectionPoolDataSource

セッション設定

タグ名	session-config
-----	----------------

はじめに

セッションに関する設定です。

項目
<ul style="list-style-type: none"> 対象読者 本書の構成 本書内の説明について

対象読者

次の利用を対象としています。

intra-mart Accel Platform を利用したアプリケーション開発
intra-mart Accel Platform 上でのシステム運用

本書の構成

本書は intra-mart Accel Platform で提供されている設定ファイルに関する説明を行っています。

- 機能（モジュール）別の設定ファイルの種類
- 設定ファイル別の仕様説明
- 設定項目に対する設定内容および注意点の説明

本書内の説明について

- 「デフォルト値」
該当の設定を省略した場合の値です。製品出荷時の値ではありません。

【設定項目】

```
<web-app>
<session-config>
...
</session-config>
</web-app>
```

必須項目 ×

複数設定 ○

設定値・ セッションに関する設定をします。

設定する
内容

単位・型 なし

省略時の なし

デフォルト
値

親タグ web-app

セッションIDの再利用設定

タグ reuse-session-id
名

HTTP セッションの ID を再利用するかどうかを設定します。
true を設定した場合、過去に利用されたセッション ID を再利用します。
再利用されるのは ID のみで、過去に保管されていたセッションの情報は
ログイン、ログアウトにおいて、セッションを再作成しますが、その時

【設定項目】

```
<web-app>
<session-config>
<reuse-session-id>false</reuse-session-id>
</session-config>
</web-app>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定 HTTP セッションの ID を再利用するかどうかを設定
する内容

単位・型 真偽値(true/false)

省略時のデ
フォルト値 true

親タグ session-config

セッションタイムアウト設定

タグ session-timeout
名

HTTP セッションのタイムアウト時間です。指定した時間セッションを

【設定項目】

```
<web-app>
<session-config>
<session-timeout>30</session-timeout>
</session-config>
</web-app>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	HTTP セッションがタイムアウトされるまでの時間
単位・型	数値
省略時のデフォルト値	30
親タグ	session-config

注意

セッションタイムアウトは、設定された時間に対して、最大 1 分を超えてタイムアウトしない。例えば、セッションタイムアウトを 30 分に設定した場合、セ

CookieのHttpOnly属性

タグ名
cookie-http-only

セッション情報を管理するための Cookie に HttpOnly 属性を付与するかどうかを設定した場合、Cookie のスコープは HTTP リクエストのみとなる。

【設定項目】

```
<web-app>
  <session-config>
    <cookie-http-only>true</cookie-http-only>
  </session-config>
</web-app>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	Cookie に HttpOnly 属性を付与するかどうかを設定する内容
単位・型	真偽値(true/false)
省略時のデフォルト値	false
親タグ	session-config

CookieのSecure属性

タグ名
cookie-secure

セッション情報を管理するための Cookie に Secure 属性を付与するかどうかを設定した場合、HTTPS 通信の時のみ Cookie を送信します。

【設定項目】

```
<web-app>
  <session-config>
    <cookie-secure>true</cookie-secure>
  </session-config>
</web-app>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	Cookie に Secure 属性を付与するかどうかを設定する内容
単位・型	真偽値(true/false)

省略時のデフォルト値	false
親タグ	session-config

CookieのSameSite属性

タグ名	cookie-same-site
-----	------------------

セッション情報を管理するための Cookie に SameSite 属性を設定し、外部サイトから intra-mart Accel Platform に対するリクエストにおい

【設定項目】

```
<web-app>
  <session-config>
    <cookie-same-site>Lax</cookie-same-site>
  </session-config>
</web-app>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	Cookie の SameSite 属性として Strict, Lax, 各設定値の説明は、後述の「設定値」を参照し
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	ブラウザの設定に準拠します。 ブラウザのバージョンによってデフォルト値が
親タグ	session-config

【設定値】

設定値	説明
Strict	Cookie の SameSite 属性として Strict 外部サイトから intra-mart Accel Platform へ従って、外部サイトから遷移した場合はI
Lax	Cookie の SameSite 属性として Lax を外部サイトから intra-mart Accel Platform が送信されます。 POST リクエストや、fetch API, XMLHttpRequest が送信されません。 従って、その場合には未認証状態で処理:
None	Cookie の SameSite 属性として None 外部サイトから intra-mart Accel Platform

注意
SameSite 属性に None を指定した場合は、必ず Secure 属性 SameSite 属性が None で Secure 属性が true でない場合、

注意
SameSite 属性は Resin 4.0.57 以降で設定が可能です。

JSPプリコンパイル設定

Web アプリケーションに含まれる JSP をサーバ起動時にプリコンパイル通常 JSP はページがアクセスされた時にコンパイルされますが、JSP プリコンパイル設定を行うには、**com.caucho.jsp.JspPrecomp**

```
<web-app>
<listener>
<listener-class>com.caucho.jsp.JspPrecompileListener</listener-class>
<init>
<extension>jsp</extension>
</init>
</listener>
</web-app>
```

<extension> タグにはプリコンパイルを行うファイルの拡張子を指定します。上記の例では Web アプリケーションに含まれるすべての jsp ファイルにプリコンパイルが適用されます。さらに詳細にプリコンパイル対象を指定する場合は **<fileset>** タグを使用します。

```
<web-app>
<listener>
<listener-class>com.caucho.jsp.JspPrecompileListener</listener-class>
<init>
<fileset>
<include>/**/*.jsp</include>
<exclude>/a.jsp</exclude>
<exclude>/foo/c.jsp</exclude>
</fileset>
</init>
</listener>
</web-app>
```

<include> タグはプリコンパイルの対象とするファイル名、**<exclude>** タグは除外するファイル名を指定します。上記の例で Web アプリケーション内に含まれるすべてのパスの jsp ファイルにプリコンパイルが適用されます。

ヘルス機能

概要

Resinにはサーバの状態を監視するためのヘルス機能が含まれています。ヘルス機能を使用してPDFレポートを生成することが可能です。

主に、ヘルス機能は「診断」「メーター」「レポート」の機能から成ります。これらの機能を使用してシステム管理が可能です。

例えば、ヘルス機能の「診断」部分を設定することにより、ヘルス機能を使用して診断レポートを生成したり、また、「メーター」とWeb管理コンソールとなる[/resin-admin]を設定することも可能です。

以下にそれぞれの機能の設定・使用方法を記述します。

/resin-admin

項目

- [/resin-adminの設定](#)

/resin-admin WebコンソールはResinサーバの管理を提供します。ユーザーとしてログインすることができます。

Webコンソールを有効に利用するためには、スレッドダンプ、プロファイラなどの機能を使用する必要があります。

/resin-adminの設定

/resin-admin を使用可能にするためには管理者ユーザとパスワードを作成する必要があります。

1. コマンドラインから「generate-password」を実行します。このコマンドはLinuxの例

```
> resinctl generate-password admin my-password
admin_user : admin
admin_password : {SSHA}HTfP60Ceq0K0IAvN31wQtBxtqI9D-
```

Windowsの例

```
> resin.exe generate-password admin my-password
admin_user : admin
admin_password : {SSHA}HTfP60Ceq0K0IAvN31wQtBxtqI9D-
```

2. ユーザとパスワードを<resin.properties>ファイルに記述します。

```
# Access to /resin-admin and remote CLI is password restrict
# Use "resinctl generate-password" and copy/paste here to s
admin_user : admin
admin_password : {SSHA}HTfP60Ceq0K0IAvN31wQtBxtqI9D-
```

3. ローカル以外のIPアドレスからアクセスする場合は<resin.prope

```
# Permit access to /resin-admin from non-local network ip-ac
web_admin_external : true
```

4. Resinインスタンスを再起動し、ブラウザから /resin-admin に
<http://localhost:8080/resin-admin/>

コラム

CPUグラフ、NetworkグラフはそれぞれLinuxの /proc/stats
Windowsでは使用できません。

診断

設定

ヘルス設定

項目

- [概要](#)
- [health.xml](#)
- [デフォルトの設定](#)
 - [ヘルスシステム](#)
 - [ヘルスチェック](#)
 - [ヘルスアクションとヘルスコンディション](#)

概要

ヘルス機能の設定はhealth.xmlに記述します。設定には以下のものが含

- [ヘルスシステム](#) - ヘルスシステム本体の設定
- [ヘルスチェック](#) - システムのチェックを行う設定
- [ヘルスアクション](#) - タスクを実行する設定（サーバ再起動、ヒープ
- [ヘルスコンディション](#) - ヘルスアクションの実行条件を設定

これらの設定を組み合わせて、システムに異常が発生した場合にどのよ

health.xml

health.xmlは以下のパスに配置されています。

- Linuxのパス
 - デフォルトのインストールパスの場合

```
/etc/resin/health.xml
```

- インストールパスを指定した場合

```
%RESIN_HOME%/conf/health.xml
```

- Windowsのパス

```
%RESIN_HOME%/conf/health.xml
```

デフォルトの設定

ヘルス設定に関する各種設定項目には、デフォルトの値が設定されてい
以下に各設定を解説します。

ヘルスシステム

ヘルスシステム本体の設定はデフォルトで以下のように記述されていま

```
<health:HealthSystem>
  <enabled>true</enabled>
  <startup-delay>15m</startup-delay>
  <period>5m</period>
  <recheck-period>30s</recheck-period>
  <recheck-max>5</recheck-max>
  <check-timeout>5m</check-timeout>
</health:HealthSystem>
```

- **enabled** - ヘルスシステムを有効に設定
- **startup-delay** - Resin起動開始からヘルスシステムが監視を始め
- **period** - ヘルスチェックの監視間隔を5分に設定
- **recheck-period** - 異常を検知した場合に、再確認を行う監視間隔
- **recheck-max** - 再確認を行う回数を5回に設定
- **check-timeout** - ヘルスチェックのタイムアウトを5分に設定

ヘルスチェック

ヘルスチェックはデフォルトで以下のように設定されています。

- **<health:ConnectionPoolHealthCheck>** - データベースコネ
- **<health:CpuHealthCheck>** - CPU使用率が異常に上昇してい
- **<health:HealthSystemHealthCheck>** - ヘルスシステムが正
- **<health:HeartbeatHealthCheck>** - クラスタのハートビート
- **<health:JvmDeadlockHealthCheck>** - デッドロックが発生
- **<health:MemoryPermGenHealthCheck>** - JavaVMのPerm
- **<health:MemoryTenuredHealthCheck>** - JavaVMのTenu
- **<health:TransactionHealthCheck>** - コミットの失敗はない

コラム

<health:CpuHealthCheck> のデフォルト設定はヘルスステ環境に応じて必要な場合に *critical-threshold* 属性を設定して

ヘルスアクションとヘルスコンディション

ヘルスアクションとヘルスコンディションの設定内容はデフォルトでは

```
<health:ActionSequence>
  <health:IfHealthCritical time="2m"/>

  <health:FailSafeRestart timeout="10m"/>
  <health:Dumpjmx/>
  <health:DumpThreads/>
  <health:ScoreboardReport/>
  <health:DumpHeap/>
  <health:DumpHeap hprof="true"
    hprof-path="{resin.logDirectory}/heap.hprof"/>
  <health:StartProfiler active-time="2m" wait="true"/>
  <health:Restart/>
</health:ActionSequence>
```

この設定はヘルスシステムがResinの異常を検知した場合、様々な情報以下にその解説を記述します。

1. もしヘルスチェックのどれかひとつでもヘルスステータス「CRIT
2. 情報収集に遅延が発生した場合のために、強制再起動を行うまで
3. JMXダンプを生成
4. スレッドダンプを生成
5. スコアボードレポートを生成
6. ヒープダンプを生成
7. hprofフォーマットのヒープダンプを生成
8. プロファイラを開始し、2分間分のサーバ情報を生成
9. Resinインスタンスの再起動を実行

コラム

<health:IfHealthCritical time="2m"/> は、ヘルスシステムまず5分間隔で監視を行い、ヘルスステータス「CRITICAL」をもし、2分間「CRITICAL」のままであった場合Resinの再起動

コラム

プロファイラはResinの制限によりPDFレポートに出力されまPDFレポートの「CPU Profile」には「A CPU profile was no

また、デフォルトで以下のヘルスアクションが設定されています。

```
<health:Restart>
<health:IfHealthFatal/>
</health:Restart>
```

これは、ヘルスチェックのどれかひとつでもヘルスステータス「FATAL」デフォルトの設定では下記のヘルスチェックが「FATAL」を返します。

- <health:HealthSystemHealthCheck> - ヘルスシステム自体が異常
- <health:jvmDeadlockHealthCheck> - JavaVMによってデッドロック

リファレンス

ヘルスシステム

項目

- <health:HealthSystem>
 - 属性

<health:HealthSystem>

ヘルスシステムのチェックや再チェックの頻度を設定します。この要素は必須です。

属性

属性名	説明
enabled	ヘルスシステムの有効/無効。
startup-delay	サーバ起動時にチェックの開始を遅延させる時間
period	チェックの間隔。
recheck-period	再チェックの間隔。
recheck-max	通常のチェック間隔に戻るまでに行う再チェックの回数

コラム

ヘルスチェックの監視間隔を極端に短く設定すると、環境によ

ヘルスチェック

項目

- ヘルスステータス
- システム チェック
 - <health:ConnectionPoolHealthCheck>
 - <health:CpuHealthCheck>
 - <health:HealthSystemHealthCheck>
 - <health:HeartbeatHealthCheck>
 - <health:jvmDeadlockHealthCheck>
 - <health:LicenseHealthCheck>
 - <health:MemoryPermGenHealthCheck>
 - <health:MemoryTenuredHealthCheck>
 - <health:TransactionHealthCheck>
- ユーザ チェック
 - <health:HttpStatusHealthCheck>
 - <health:ExprHealthCheck>

ヘルスステータス

ヘルスチェックは実行されるたびにヘルスステータスとメッセージを生成します。下記はヘルスステータスと一般的な意味の一覧です。

名前	順序	説明
UNKNOWN	0	ヘルスチェックがまだ実行されていないステータスです。
OK	1	ヘルスチェックの結果、正常な状態です。
WARNING	2	ヘルスチェックの結果、警告のしきい

名前	順序	説明
CRITICAL	3	ヘルスチェックの結果、重大な状態が
FATAL	4	ヘルスチェックは致命的な状態である れます。

システム チェック

[<health:ConnectionPoolHealthCheck>](#)

[<health:ConnectionPoolHealthCheck>](#)では、Resinのデータベース

属性

属性名	説明	型	デフォルト
enabled	チェックの有無	boolean	true

状態

ヘルスステータス	状態
WARNING	resin-web 設定 の <max-connections> を超過
CRITICAL	resin-web 設定 の <max-overflow-connectio

設定例

```
<health:ConnectionPoolHealthCheck/>
```

[<health:CpuHealthCheck>](#)

[<health:CpuHealthCheck>](#)では、CPU使用率を監視します。マルチニ

属性

属性名	説明
enabled	チェックの有無
warning-threshold	ヘルスステータス「WARNING」のしきい値
critical-threshold	ヘルスステータス「CRITICAL」のしきい値

状態

ヘルスステータス	状態
WARNING	CPUのどれかが <i>warning-threshold</i> を超過した場合。
CRITICAL	CPUのどれかが <i>critical-threshold</i> を超過した場合。

設定例

```
<health:CpuHealthCheck>
  <warning-threshold>95</warning-threshold>
  <critical-threshold>99</critical-threshold>
</health:CpuHealthCheck>
```

[<health:HealthSystemHealthCheck>](#)

[<health:HealthSystemHealthCheck>](#)では、ヘルスシステム自体を監
このヘルスチェック項目は、独立したスレッドを使用してヘルスチェッ

属性

属性名	説明
enabled	チェックの有無
thread-check-period	独立したスレッドの確認頻度
freeze-timeout	ヘルスシステムがフリーズし、ヘルスチ: 断するまでの最大時間

状態

ヘルステータス	状態
FATAL	Resin 4.0.43 以前の場合 ヘルスチェックが <i>freeze-timeout</i> 。
FATAL	Resin 4.0.43 以前の場合 ヘルスチェックが許容される期間内に出されず。
CRITICAL	Resin 4.0.44 以降の場合 ヘルスチェックが <i>freeze-timeout</i> 。
CRITICAL	Resin 4.0.44 以降の場合 ヘルスチェックが許容される期間内に出されず。

設定例

```
<health:HealthSystemHealthCheck>
<thread-check-period>1m</thread-check-period>
<freeze-timeout>15m</freeze-timeout>
</health:HealthSystemHealthCheck>
```

[<health:HeartbeatHealthCheck>](#)

[<health:HeartbeatHealthCheck>](#)では、クラスタの他のメンバーから属性

属性名	説明	型	デフォルト
enabled	チェックの有無	boolean	true

状態

ヘルステータス	状態
WARNING	クラスタの既知のメンバーからのハートビートが
WARNING	クラスタの既知のメンバーからのハートビートが 合。

設定例

```
<health:HeartbeatHealthCheck/>
```

[<health:jvmDeadlockHealthCheck>](#)

[<health:jvmDeadlockHealthCheck>](#)では、JavaVMによってデッドロ

属性

属性名	説明	型	デフォルト
enabled	チェックの有無	boolean	true

状態

ヘルステータス	状態
FATAL	デッドロックのスレッドが検出された場合。

設定例

```
<health:jvmDeadlockHealthCheck/>
```

[<health:LicenseHealthCheck>](#)

[<health:LicenseHealthCheck>](#)では、Resin-Proのライセンスの期限:

属性

属性名	説明	型	デフォルト
-----	----	---	-------

属性名	説明	型	デフォルト
enabled	チェックの有無	boolean	true
warning-period	ライセンス警告の期間	期間	30日 (30D)

状態

ヘルステータス	状態
WARNING	ライセンスが <i>warning-period</i> の期間内に切れたと判

設定例

```
<health:LicenseHealthCheck>
<warning-period>30D</warning-period>
</health:LicenseHealthCheck>
```

```
<health:MemoryPermGenHealthCheck>
```

<health:MemoryPermGenHealthCheck>では、JavaVMのPermGenを監視します。

コラム

このヘルスチェックは、JavaVMベンダの実装によっては使用されず、JavaVMにPermGenメモリプールが存在しない場合は、ヘルス

属性

属性名	説明
enabled	チェックの有無
memory-free-min	クリティカルな状況の空きメモリ
free-warning	警告のしきい値
objectName	明示的にメモリの統計を照会するMBeanを検索します。

状態

ヘルステータス	状態
UNKNOWN	JavaVMにPermGenメモリプールが存在しない
WARNING	メモリプールの空き領域が、ガベージコレクション
CRITICAL	メモリプールの空き領域が、ガベージコレクション

設定例

```
<health:MemoryPermGenHealthCheck>
<memory-free-min>1m</memory-free-min>
<free-warning>0.01</free-warning>
</health:MemoryPermGenHealthCheck>
```

```
<health:MemoryTenuredHealthCheck>
```

<health:MemoryTenuredHealthCheck>では、JavaVMのTenuredメモリを監視します。

コラム

JavaVMにTenuredメモリプールが存在しない場合は、JavaVM

属性

属性名	説明
enabled	チェックの有無

属性名	説明
memory-free-min	クリティカルな状況のメモリフ
free-warning	警告のしきい値
objectName	明示的にメモリの統計を照会す なMBeanを検索します。

状態

ヘルスステータス	状態
UNKNOWN	JavaVMにTenuredメモリプールが存在しない 合。
WARNING	メモリプールの空き領域が、ガベージコレクシ
CRITICAL	メモリプールの空き領域が、ガベージコレクシ

設定例

```
<health:MemoryTenuredHealthCheck>
  <memory-free-min>1m</memory-free-min>
  <free-warning>0.01</free-warning>
</health:MemoryTenuredHealthCheck>
```

[<health:TransactionHealthCheck>](#)

[<health:TransactionHealthCheck>](#)では、Resinのトランザクション

属性

属性名	説明	型	デ フォ ルト
enabled	チェックの有無	boolean	true

状態

ヘルス ステータス	状態
WARNING	前回のチェック以降にコミット失敗があった場合。

設定例

```
<health:TransactionHealthCheck/>
```

ユーザ チェック

[<health:HttpStatusHealthCheck>](#)

[<health:HttpStatusHealthCheck>](#)では、HTTP GETのリクエストをイ
視します。

属性

属性名	説明
enabled	チェックの有無
ping-host	チェック対象のホスト (<i>url</i> が URI の場
ping-port	チェック対象のポート (<i>url</i> が URI の場
url	チェック対象のURLまたはURI
socket-timeout	ソケット接続のタイムアウト限
regexp	HTTPステータスコードの正規表現

状態

ヘルスステータス	状態
CRITICAL	HTTP GET リクエストが接続に失敗した場合、 合。

設定例

```
<health:HttpStatusHealthCheck>
<ping-host>localhost</ping-host>
<ping-port>8080</ping-port>
<url>/custom-test-1.jsp</url>
<url>/custom-test-2.jsp</url>
<socket-timeout>2s</socket-timeout>
<regexp>^2|^3</regexp>
</health:HttpStatusHealthCheck>
```

<health:ExprHealthCheck>

<health:ExprHealthCheck>では、ユーザが指定したEL式の評価を行う属性

属性名	説明
enabled	チェックの有無
fatal-test	trueと評価された場合に、ステータスにFATALとするEL式。
critical-test	trueと評価された場合に、ステータスにCRITICALとするEL式。
warning-test	trueと評価された場合に、ステータスにWARNINGとするEL式。

状態

ヘルステータス	状態
FATAL	<i>fatal-test</i> がtrueと評価された場合。
CRITICAL	<i>critical-test</i> がtrueと評価された場合。
WARNING	<i>warning-test</i> がtrueと評価された場合。

設定例

```
<health:ExprHealthCheck>
<critical-test>${mbean('java.lang:type=Threading').ThreadCount}>
</health:ExprHealthCheck>
```

ヘルスアクション

項目
• <health:ActionSequence>
• <health:CallJmxOperation>
• <health:DumpHeap>
• <health:DumpHprofHeap>
• <health:DumpJmx>
• <health:DumpThreads>
• <health:ExecCommand>
• <health:FailSafeRestart>
• <health:PdfReport>
• <health:Restart>
• <health:ScoreboardReport>
• <health:SendMail>
• <health:Snapshot>
• <health:StartProfiler>

ヘルスアクションは特定の条件に応じてタスクを実行、またはヘルスチェックシステムによって実行されます。ヘルスアクションは通常、1つ以上のヘルスコンディションを伴います。コンディションが無いヘルスアクションは、実行される可能性があります。コンディションが無いヘルスアクションは、実行されません。

注意
ヘルスアクションはダンプ情報を出力するなど実行中にJava VMのヘルスコンディションを設定してください。

<health:ActionSequence>

子に設定されているヘルスアクションを順に実行します。

属性

なし

設定例

```
<health:ActionSequence>
<health:DumpThreads/>
<health:DumpHeap/>
<health:IfHealthCritical time="5m"/>
</health:ActionSequence>
```

```
<health:CallJmxOperation>
```

パラメータを指定して、JMX MBeanのオペレーションを実行します。

属性

属性名	説明
objectName	JMX MBeanの名前。
operation	メソッドの名前。
operationIndex	複数のメソッドが一致する場合のユニークなインデックス。
param	適切な型に変換されるメソッドのパラメータ。

設定例

```
<health:CallJmxOperation>
<objectName>java.lang:type=Threading</objectName>
<operation>resetPeakThreadCount</operation>
<health:IfNotRecent time='5m'/>
</health:CallJmxOperation>
```

```
<health:DumpHeap>
```

メモリヒープダンプを生成します。

ヒープダンプは、Resinの内部ログデータベースとログファイルに記録されます。

属性

属性名	説明
hprof	ユーザが読めるタイプのダンプではなく、HPROF
hprof-path	HPROFファイルの出力パス。(hprof がtrueの場合)
hprof-path-format	タイムスタンプのトークンを使用して、動的に出力します。
log	ヒープダンプをResinの内部データベースに格納されます。

設定例

```
<health:DumpHeap>
<hprof>true</hprof>
<hprof-path-format>${resin.home}/log/dump-%H:%M:%S.%s.hprof
<health:OnAbnormalStop/>
</health:DumpHeap>
```

```
<health:DumpHprofHeap>
```

以下の設定と同様の意味をもつヘルスアクションです。

```
<health:DumpHeap>
<hprof>true</hprof>
</health:DumpHeap>
```

```
<health:DumpJmx>
```

すべてのJMX属性および値のダンプを生成するヘルスアクションです。

JMXダンプは、Resinの内部ログデータベースとログファイルに記録されます。

属性

属性名	説明
log	JMXダンプをResinの内部データベースに格納されるに書き込みます。

設定例

```
<health:DumpJmx/>
```

```
<health:DumpThreads>
```

スレッドダンプを生成します。

スレッドダンプは、Resinの内部ログデータベースとログファイルに記録

属性

属性名	説明
only-active	現在アクティブなスレッドのみ出力します。(RUI)
log	スレッドダンプをResinの内部データベースに格納書き込みます。

設定例

```
<health:DumpThreads>
  <only-active>false</only-active>
</health:DumpThreads>
```

```
<health:ExecCommand>
```

オペレーティングシステムのシェルコマンドを実行します。

属性

属性名	説明
command	実行するコマンド。 <i>dir</i> が設定されている場
dir	実行するディレクトリのパス。
timeout	コマンド実行のタイムアウト。完了していな
env	コマンドに使用する環境変数。

設定例

```
<health:ExecCommand>
  <dir>/tmp</dir>
  <command>remediation.sh</command>
  <timeout>2s</timeout>
  <env>
    <name>resin_home</name>
    <value>${resin.home}</value>
  </env>
  <env>
    <name>password</name>
    <value>foo</value>
  </env>
</health:ExecCommand>
```

```
<health:FailSafeRestart>
```

Resinを設定した時間に再起動します。通常、シャットダウン情報を集め

属性

属性名	説明	デフォルト	型
timeout	再起動を強制実行するまでの時間。	なし	期間

設定例

```
<health:ActionSequence>
  <health:FailSafeRestart timeout="10m"/>
  <health:DumpThreads/>
  <health:DumpHeap/>
  <health:StartProfiler active-time="5m"/>
  <health:Restart/>

  <health:IfHealthCritical time="5m"/>
</health:ActionSequence>
```

[<health:PdfReport>](#)

PHPスクリプトからPDFレポートを生成するヘルスアクションです。

属性

属性名	説明	型
path	PDFを生成する.phpファイルのパス。	String
report	レポートタイプのキー。	String
period	レポートに出力する過去期間。	期間
log-directory	PDFを出力するディレクトリ。	String

設定例

```
<health:PdfReport>
<path>${resin.home}/doc/admin/pdf-gen.php</path>
<report>Summary</report>
<period>7D</period>
<health:IfCron value="0 0 ** 0"/>
</health:PdfReport>
```

[<health:Restart>](#)

Resinを再起動します。

属性

なし

設定例

```
<health:Restart/>
```

[<health:ScoreboardReport>](#)

関連したスレッドのグループについて簡潔なスレッドアクティビティレ:

属性

属性名	説明
log	PDFレポートに加えて、サーバログに書き込みます。
type	スコアボードレポートのタイプ。
greedy	falseの場合、スレッドが複数のグループに分類されます。

設定例

```
<health:ScoreboardReport>
<health:OnAbnormalStop/>
</health:ScoreboardReport>
```

[<health:SendMail>](#)

現在のResinのヘルスステータスの概要を記載したメールを送信します。

属性

属性名	説明	型	デフォルト
to	メールの送信先アドレス	String	なし
from	メールの送信元アドレス	String	resin@localhost

設定例

```
<health:SendMail>
<to>admin@yourdomain.com</to>
<to>another_admin@yourdomain.com</to>
<from>resin@yourdomain.com</from>
</health:SendMail>
```

[<health:Snapshot>](#)

以下に示す一連のアクションを実行します。

- スレッドダンプ
- ヒープダンプ
- JMXダンプ
- PDFレポート

これらはサーバの問題をデバッグするために必要な全ての情報を想定し、このアクションは通常、予期しない問題に対して実行されることを想定

属性

属性名	説明
log	PDFレポートに加えて、サーバログに書き込みます。
path	PDFを生成する.phpファイルのパス。
report	レポートタイプのキー。
period	レポートに出力する過去期間。

設定例

```
<health:Snapshot>
<health:OnAbnormalStop/>
</health:Snapshot>
```

```
<health:StartProfiler>
```

プロファイラ開始します。結果は、Resinの内部ログデータベースとログ

属性

属性名	説明	型	デフォルト
active-time	プロファイラを実行する時間	期間	5秒(5)
sampling-rate	サンプリングレート	期間	10ミ 秒 (10m)
depth	スタックトレースの深さ。	int	16

設定例

```
<health:ActionSequence>
<health:FailSafeRestart timeout="10m"/>
<health:DumpThreads/>
<health:DumpHeap/>
<health:StartProfiler active-time="5m"/>
<health:Restart/>

<health:IfHealthCritical time="5m"/>
</health:ActionSequence>
```

ヘルスコンディション

項目

- 基本条件
 - <health:IfCron>
 - <health:IfExpr>
 - <health:IfNotRecent>
 - <health:IfRechecked>
 - <health:IfUptime>
- 組み合わせ条件
 - <health:And>
 - <health:Nand>
 - <health:Nor>
 - <health:Not>
 - <health:Or>
- ヘルスチェック条件
 - <health:IfHealthOk>
 - <health:IfHealthWarning>
 - <health:IfHealthCritical>
 - <health:IfHealthFatal>
 - <health:IfHealthUnknown>
 - <health:IfMessage>
 - <health:IfRecovered>
- ライフサイクル条件
 - <health:OnStart>
 - <health:OnStop>
 - <health:OnAbnormalStop>
 - <health:OnRestart>

コンディション（条件）またはプレディケート（叙述）は、一連の基準
コンディションは期間ごとに評価されます。すべての条件が真と評価さ
コンディションが無いアクションは期間毎に一度実行されます。複数の

基本条件

基本条件は一般的な基準を評価し条件がマッチした場合にtrueを返しま
基本条件はヘルスチェックの状態を評価しません。代わりに、その日の

<health:IfCron>

現在時刻が **cronスタイル** で設定された範囲だった場合にマッチします。
これは、定期的なアクションをスケジュールしたり、重要な時間帯に再

属性

属性名	説明	型	デフォルト
enable-at	有効とするcron時間。	cronスタイル	なし
disable-at	無効とするcron時間。	cronスタイル	なし

設定例

```
<health:Restart>
<health:IfCron>
  <enable-at>0 0 ***</enable-at>
  <disable-at>5 0 ***</disable-at>
</health:IfCron>
</health:Restart>
```

<health:IfExpr>

JSP EL式の評価に基づいてマッチします。式は、システムプロパティ、

属性

属性名	説明	型	デフォルト
-----	----	---	-------

属性名	説明	型	デフォルト
test	JSP EL式。	EL	なし

設定例

```
<health:Restart>
<health:IfExpr>
<test>${mbean('java.lang:type=Threading').ThreadCount > 10}
</health:IfExpr>
</health:Restart>
```

<health:IfNotRecent>

前回の実行後からの時間の長さに応じてマッチします。これは頻繁な実

属性

属性名	説明	型	デフォルト
time	再びアクションを実行できるまでの時間。	期間	なし

設定例

```
<health:HttpStatusHealthCheck ee:Named="httpStatusCheck":
<url>http://localhost:8080/test-ping.jsp</url>
</health:HttpStatusHealthCheck>

<health:DumpHeap>
<health:IfHealthCritical healthCheck="{httpStatusCheck}"/>
<health:IfNotRecent time='5m'/>
</health:DumpHeap>
```

<health:IfRechecked>

再チェックの必要回数を実行されている場合にマッチします。再チェックはヘルスチェック固有の条件ではないので、HealthSystem

属性

なし

設定例

```
<health:Restart>
<health:IfHealthFatal/>
<health:IfRechecked/>
</health:Restart>
```

<health:IfUptime>

起動してからの時間の長さに応じてマッチします。

属性

属性名	説明	型	デフォルト
limit	起動後の時間。	期間	なし

設定例

```
<health:Restart>
<health:IfUptime limit="12h"/>
</health:Restart>
```

組み合わせ条件

基本条件やヘルスチェック条件を組み合わせたり、これらの条件を使用

<health:And>

全ての子のプレディケートがマッチしている場合にマッチします。

属性

なし

設定例

```
<health:Restart>
<health:And>
  <health:IfHealthCritical health-check="{memoryTenuredHe
  <health:IfHealthCritical health-check="{memoryPermGenHe
</health:And>
</health:Restart>
```

<health:Nand>

全ての子のプレディケートが失敗している場合にマッチします。

属性

なし

設定例

```
<health:Restart>
<health:Nand>
  <health:IfHealthCritical health-check="{memoryTenuredHe
  <health:IfHealthCritical health-check="{memoryPermGenHe
</health:Nand>
</health:Restart>
```

<health:Nor>

全ての子のプレディケートが一致しない場合にマッチします。

属性

なし

設定例

```
<health:Restart>
<health:Nor>
  <health:IfHealthCritical health-check="{memoryTenuredHe
  <health:IfHealthCritical health-check="{memoryPermGenHe
</health:Nor>
</health:Restart>
```

<health:Not>

子のプレディケートがfalseの場合にマッチします。

属性

なし

設定例

```
<health:Restart>
<health:IfHealthCritical health-check="{memoryTenuredHea
<health:Not>
  <health:IfCron>
    <enable-at>0 7 * * * </enable-at>
    <disable-at>0 11 * * * </disable-at>
  </health:IfCron>
</health:Not>
</health:Restart>
```

<health:Or>

子のプレディケートのいずれかがマッチしている場合にマッチします。

属性

なし

設定例

```
<health:Restart>
<health:Or>
  <health:IfHealthCritical health-check="{memoryTenuredHe
  <health:IfHealthCritical health-check="{memoryPermGenHe
</health:Or>
</health:Restart>
```

ヘルスチェック条件

ヘルスチェック条件は、ヘルスチェックの結果をあらゆる側面から評価パラメータ「health-check」で特定の名前が付けられたヘルスチェック

[<health:IfHealthOk>](#)

ヘルスステータスが「OK」の場合にマッチします。

属性

属性名	説明
health-check	参照するヘルスチェック。

time	開始状態からの最少時間。
------	--------------

設定例

```
<health:Restart>
<health:Not>
  <health:IfHealthOk health-check="{memoryTenuredHealthC
</health:Not>
</health:Restart>
```

[<health:IfHealthWarning>](#)

ヘルスステータスが「WARNING」の場合にマッチします。

属性

属性名	説明
health-check	参照するヘルスチェック。

time	開始状態からの最少時間。
------	--------------

設定例

```
<health:Restart>
<health:IfHealthWarning health-check="{memoryTenuredHe
</health:Restart>
```

[<health:IfHealthCritical>](#)

ヘルスステータスが「CRITICAL」の場合にマッチします。

属性

属性名	説明
health-check	参照するヘルスチェック。

time	開始状態からの最少時間。
------	--------------

設定例

```
<health:Restart>
<health:IfHealthCritical health-check="{memoryTenuredHea
</health:Restart>
```

[<health:IfHealthFatal>](#)

ヘルスステータスが「FATAL」の場合にマッチします。

属性

属性名	説明
health-check	参照するヘルスチェック。

time	開始状態からの最少時間。
------	--------------

設定例

```
<health:Restart>
<health:IfHealthFatal health-check="${memoryTenuredHealth}"/>
</health:Restart>
```

<health:IfHealthUnknown>

ヘルスステータスが「UNKNOWN」の場合にマッチします。

属性

属性名	説明
health-check	参照するヘルスチェック。

time	開始状態からの最少時間。
------	--------------

設定例

```
<health:Restart>
<health:IfHealthUnknown health-check="${memoryTenuredHealth}"/>
</health:Restart>
```

<health:IfMessage>

ヘルスチェック結果のメッセージが正規表現に一致する場合にマッチします。

属性

属性名	説明
health-check	参照するヘルスチェック。

time	開始状態からの最少時間。
------	--------------

regexp	ヘルスメッセージにマッチする正規表現。
--------	---------------------

設定例

```
<health:Restart>
<health:IfHealthCritical/>
<health:IfMessage health-check="${httpStatusCheck}" regexp=".*"/>
</health:Restart>
```

<health:IfRecovered>

リカバリされた際にマッチします。リカバリとは「FATAL」、「CRITICAL」の状態です。

属性

属性名	説明
-----	----

属性名	説明
health-check	参照するヘルスチェック。

設定例

```
<health:SendMail>
  <to>admin@yourdomain</to>
  <health:IfRecovered health-check="{cpuHealthCheck}" />
</health:SendMail>
```

ライフサイクル条件

ライフサイクル条件はResinの状態変化を評価します。Resinのライフサイ

<health:OnStart>

Resinが開始しようとしている場合にマッチします。

属性

なし

設定例

```
<health:SendMail>
  <to>admin@yourdomain.com</to>
  <health:OnStart/>
</health:SendMail>
```

<health:OnStop>

Resinが停止された場合にマッチします。

属性

なし

設定例

```
<health:SendMail>
  <to>admin@yourdomain.com</to>
  <health:OnStop/>
</health:SendMail>
```

<health:OnAbnormalStop>

Resinが正常ではない終了コードを返して停止している場合にマッチします。

属性

なし

設定例

```
<health:PdfReport snapshot='true'>
  <health:OnAbnormalStop/>
</health:PdfReport>
```

<health:OnRestart>

Resinがwatchdogによって再起動された場合にマッチします。これは一

属性

なし

設定例

```
<health:SendMail>
  <to>admin@yourdomain.com</to>
  <health:OnRestart/>
</health:SendMail>
```

設定値

期間

単位	意味
ms	ミリ秒
s	秒
m	分
h	時
D	日
W	週
M	月
Y	年

メーター

項目

- [設定](#)
 - [health.xml](#)
 - [ヘルスメーター名](#)
- [JMXメーター](#)
 - [<health:JmxMeter>](#)
 - [<health:JmxDeltaMeter>](#)
- [統計分析](#)
 - [<health:AnomalyAnalyzer>](#)
 - [<health:IfHealthEvent>](#)

ヘルスメーターはResinの管理コンソール(/resin-admin)に視覚的にわか

設定

[health.xml](#)

health.xmlにはあらかじめJMXメーターが設定されています。health.x

[ヘルスメーター名](#)

ヘルスメーター名はキーをパイプ文字(|)で連結して名前が付けられてい
ヘルスメーターの統計はResinクラスタの各メンバー間で共有されてい
ず。

名前に含まれるパイプ文字は、ヘルスメーターをドリルダウンに分類し

```
<health:JmxDeltaMeter>
  <name>JVM|Compilation|Compilation Time</name>
  <object-name>java.lang:type=Compilation</object-name>
  <attribute>TotalCompilationTime</attribute>
</health:JmxDeltaMeter>
```

この例では **JVM|Compilation|Compilation Time** をベースにヘル
管理コンソールではクラスタメンバーのインデックスと最初の2つのキー

```
00|JVM|Compilation|Compilation Time
```

JMXメーター

JMX MBean属性の数値をヘルスメーターにグラフ表示することができま

```
<health:JmxMeter>
```

JMX MBeanの数値属性の現在値をグラフに表示します。

属性

属性名	説明	型
name	管理コンソールに表示するヘルスメーターの名前	String
objectName	JMX MBean の名前	String
attribute	サンプリングするMBeanの属性	String

```
<health:JmxMeter>
  <name>OS|Memory|Physical Memory Free</name>
  <object-name>java.lang:type=OperatingSystem</object-name>
  <attribute>FreePhysicalMemorySize</attribute>
</health:JmxMeter>
```

```
<health:JmxDeltaMeter>
```

JMX MBeanの数値属性の現在値と以前の値の差をグラフに表示します。

属性

属性名	説明	型
name	管理コンソールに表示するヘルスマーターの名前	String
objectName	JMX MBean の名前	String
attribute	サンプリングするMBeanの属性	String

設定例

```
<health:JmxDeltaMeter>
  <name>JVM|Compilation|Compilation Time</name>
  <object-name>java.lang:type=Compilation</object-name>
  <attribute>TotalCompilationTime</attribute>
</health:JmxDeltaMeter>
```

統計分析

```
<health:AnomalyAnalyzer>
```

AnomalyAnalyzerは平均値からの偏差をチェックし現在の値を監視し、突然スレッドがブロックされた場合など異常な変化を検出することができ

属性

属性名	説明
meter	分析するヘルスマーターの名前 (<health:JmxMeter>の属性)
health-event	<health:IfHealthEvent>の条件に一致するヘルスイベント
min-samples	平均値を計算するために必要なサンプル数
sigma-threshold	標準偏差から異常とみなされるサンプル数

設定例

```
<health:JmxMeter>
  <name>JVM|Thread|JVM Blocked Count</name>
  <objectName>resin:type=JvmThreads</objectName>
  <attribute>BlockedCount</attribute>
</health:JmxMeter>

<health:AnomalyAnalyzer>
  <meter>JVM|Thread|JVM Blocked Count</meter>
  <health-event>caucho.thread.anomaly.jvm-blocked</health-event>
</health:AnomalyAnalyzer>

<health:DumpThreads>
  <health:IfHealthEvent regexp="caucho.thread"/>
  <health:IfNotRecent time="15m"/>
</health:DumpThreads>
```

```
<health:IfHealthEvent>
```

一致するヘルスイベントに応じてアクションを起こします。これは、通常のヘルスマーターの属性

属性

属性名	説明	型
regex	<health-event> が一致する正規表現。	java.util.r

設定例

```

<health:JmxMeter>
  <name>JVM|Thread|JVM Blocked Count</name>
  <objectName>resin:type=jvmThreads</objectName>
  <attribute>BlockedCount</attribute>
</health:JmxMeter>

<health:AnomalyAnalyzer>
  <meter>JVM|Thread|JVM Blocked Count</meter>
  <health-event>caucho.thread.anomaly.jvm-blocked</health-e
</health:AnomalyAnalyzer>

<health:DumpThreads>
  <health:IfHealthEvent regex="caucho.thread"/>
  <health:IfNotRecent time="15m"/>
</health:DumpThreads>
    
```

レポート

項目

- レポートの取得
 - 自動的なPDFレポートの生成
- レポートの概要
- ヒープダンプ
 - クラスローダーのヒープダンプ
- スレッドダンプ
- CPUプロファイル
- ロギング
- JMXダンプ

Resin にはシステムの状態をPDFレポートに出力する機能が含まれてい

レポートの取得

レポートを取得する簡単な方法は、コマンド「pdf-report」を使用する

Linuxの例

```
> resinctl pdf-report
```

Windowsの例

```
> resin.exe pdf-report
```

自動的なPDFレポートの生成

PDFレポートは毎週生成されるようにhealth.xmlに設定することができ

```

<health:PdfReport>
  <path>${resin.root}/doc/admin/pdf-gen.php</path>
  <report>Summary</report>
  <period>7D</period>
  <snapshot/>
  <mail-to>${email}</mail-to>
  <mail-from>${email_from}</mail-from>
  <!-- <profile-time>60s</profile-time> -->

  <health:IfCron value="0 0 * * 0"/>
</health:PdfReport>
    
```

上の例では、スナップショットを作成して、PDFレポートを生成し指定送信先のメールアドレスはresin.propertiesに記述します。

```
# Set the email address to receive weekly and restart PDF reports
email : admin@example.com
```

次の例では、watchdogによる再起動時にPDFファイルを生成します。

```
<health:PdfReport>
<path>${resin.root}/doc/admin/pdf-gen.php</path>
<title>Restart</title>
<watchdog/>
<mailto>user@example.com</mailto>

<health:OnRestart/>
</health:PdfReport>
```

レポートの概要

以下の内容がレポートに出力されます。

- サーバ環境の概要 - JavaVM、OS、Resinのバージョンなど
- ヘルスメーターのグラフ - レポートが出力されるまでの統計グラフ
- ヒープダンプ - ヒープメモリ使用量の上位
- CPUプロファイル - CPUプロファイルの最も活動的な位置
- スレッドダンプ - スナップショット取得時のResin内の全てのスレ
- ログレポート - java.util.loggingから出力された最新の「warning
- JMXダンプ - スナップショット取得時の全てのJMX Mbeanデータ

レポートはいくつかの状況で使用するよう設計されています。

- Resinのバグレポート - Resin自体のサポートのために、スナップ
- 再起動やクラッシュの分析 - JavaVMが何らかの理由でクラッシュし
- CPUとパフォーマンス - JavaVMが予想外にCPUを使用した場合、
- スレッドのロック - スレッドダンプおよびCPUは、ロックされたコ

ヒープダンプ

ヒープダンプは、システムのメモリ割り当ての概要を示します。異常なヒープダンプはオブジェクト自身のサイズとその子孫のサイズで「self+desc」以下の例は、一般的なアイドル状態のResinのヒープダンプです。

Class Name	self+desc	self	count
byte[]	22.23M	22.23M	14741
com.caucho.db.block.Block	20.28M	134.9K	2410
char[]	13.89M	13.89M	122606
com.caucho.util.LruCache	7.52M	30.4K	317
java.lang.String	7.15M	1.97M	61426
..			

最初にあるbyte[]とBlockは、主にResinの内部プロキシキャッシュと「self+desc」が、大きなbyte[]バッファを持っているためです。

同様に、char[]バッファを含んでいるため、java.lang.Stringの「self+

クラスローダーのヒープダンプ

ヒープダンプには、クラスローダのメモリ使用量を個別に表示する項目: クラスに基づいたメモリリークを確認するためにこのレポートを使用す

スレッドダンプ

CPUに関する問題やスタックスレッドの場合、スレッドダンプを確認す: いくつものスレッドが異常な個所で連なりロック状態になっているかを

スレッドダンプのレポートは、同様のスタックトレースを有しているス: ブロックされたスレッドとロックを保持しているスレッドがグループ化

以下の例は正常なブロック状態を示しています。JDKのSSL実装は1つの: この場合「http://*:8444-17」という名前のスレッドがSocksSocket「http://*:8444-10」、「http://*:8444-11」)


```

http://*:8444-17
java.net.PlainSocketImpl.socketAccept
-- locked java.net.SocksSocketImpl@1199747469
java.net.PlainSocketImpl.accept
java.net.ServerSocket.implAccept
...
com.caucho.env.thread.ResinThread.runTasks
com.caucho.env.thread.ResinThread.run

http://*:8444-1
waiting on java.net.SocksSocketImpl@4782b18d owned by [126] f
http://*:8444-10
waiting on java.net.SocksSocketImpl@4782b18d owned by [126] f
http://*:8444-11
waiting on java.net.SocksSocketImpl@4782b18d owned by [126] f
java.net.PlainSocketImpl.accept
java.net.ServerSocket.implAccept
com.sun.net.ssl.internal.ssl.SSLServerSocketImpl.accept
...
com.caucho.env.thread.ResinThread.runTasks
com.caucho.env.thread.ResinThread.run

...

```

CPUプロファイル

Resinの制限により、**CPU**プロファイルを**PDF**レポートに出力すること
PDFレポートの「**CPU Profile**」には「**A CPU profile was not ge**

ロギング

最新の警告ログが出力されます。

```

Log(Warning)

2011-09-21 11:06:07 warning WarningService: Resin restarting due
configuration change

```

JMXダンプ

JMXダンプはシステム内のすべてのJMX MBeanとその値を出力します。

```

JMX Dump

JMImplementation:type=MBeanServerDelegate
ImplementationName Resin-JMX
ImplementationVendor Caucho Technology
ImplementationVersion Resin-4.0.s110921
MBeanServerId Resin-JMX
SpecificationName Java Management Extensions
SpecificationVendor Sun Microsystems
SpecificationVersion 1.4

com.sun.management:type=HotSpotDiagnostic
...

```

watchdog

項目

- [概要](#)
- [コマンドライン](#)
 - [console](#)
 - [start](#)
 - [stop](#)
 - [status](#)

信頼性とセキュリティを高めるために、独立したResin watchdogプロ
 になっている場合、Resinのインスタンスを再起動します。

概要

watchdogは独立したサービスとして密かに実行されるため、ほとんど
 ン上の全てのResin JavaVMを監視します。

ユーザがwatchdogに注意を払う必要がある場合は、環境に深刻な問題
 Resinがクラッシュしたり予期せずプロセスが終了した場合、watchdog

指示する必要があります。

コマンドラインから起動、停止、再起動を行ってください。

コマンドライン

console

「console」コマンドは開発時のために使用します。コンソールウィンドウ

Linuxの例

```
> resinctl console -server app-0
```

Windowsの例

```
> resin.exe console -server app-0
```

start

「start」コマンドは指定されたIDの新しいResinインスタンスを起動し

Linuxの例

```
> resinctl start -server app-0
Resin/4.0.xx started -server 'app-0' with watchdog at 127.0.0.1:6600
```

Windowsの例

```
> resin.exe start -server app-0
Resin/4.0.xx started -server 'app-0' with watchdog at 127.0.0.1:6600
```

stop

「stop」コマンドは指定されたIDのResinインスタンスを停止します。

Linuxの例

```
> resinctl stop -server app-0
Resin/4.0.xx stopped for watchdog at 127.0.0.1:6600
```

Windowsの例

```
> resin.exe stop -server app-0
Resin/4.0.xx stopped for watchdog at 127.0.0.1:6600
```

status

「status」コマンドはwatchdogサービスによって管理されている現在の

Linuxの例

```
> resinctl status
Resin/4.0.xx status for watchdog at 127.0.0.1:6600

watchdog:
  watchdog-pid: 25088

server 'app-0' : ACTIVE
  password: missing
  watchdog-user: imart
  user: imart
  root: /home/imart/resin-pro-4.0.xx
  conf: /home/imart/resin-pro-4.0.xx/conf/resin.xml
..
```

Windowsの例

```
> resin.exe status
Resin/4.0.xx status for watchdog at 127.0.0.1:6600

watchdog:
watchdog-pid: 192

server 'app-0': ACTIVE
password: missing
watchdog-user: imart
user: imart
root: /C:/resin-pro-4.0.xx
conf: /C:/resin-pro-4.0.xx/conf/resin.xml
..
```

ログ設定

項目

- [java.util.logging](#)
 - [概要](#)
 - [ログ名](#)
 - [ログレベル](#)
 - [<log-handler>](#)
 - [ログハンドラ タイムスタンプ](#)
 - [ログハンドラ アーカイブ](#)
 - [ログハンドラ ELフォーマット](#)
 - [Logger: アプリケーションのロギング](#)
 - [カスタムログハンドラとライブラリログハンドラ](#)
 - [カスタムログフォーマット](#)
 - [Resinビルトイン ログハンドラ](#)
 - [BamLogHandler](#)
 - [EventLogHandler](#)
 - [JmsLogHandler](#)
 - [MailLogHandler](#)
 - [SyslogHandler](#)
 - [ログローテーションとアーカイブ](#)
 - [サイズによるロールオーバー](#)
 - [時間によるロールオーバー](#)
 - [アーカイブファイル](#)
 - [ロール オーバーの無効](#)
 - [圧縮](#)
 - [標準出力のリダイレクト](#)
 - [stdoutログ](#)
 - [属性](#)
 - [stderrログ](#)
 - [属性](#)
 - [<access-log>](#)
 - [フォーマットパターン](#)
 - [属性](#)
 - [ログのパス](#)

Resinは JDK logging インタフェース の出力先を指定し、Webアプリタ

java.util.logging

概要

Resinは すべての内部ログにJDK 標準の java.util.logging を使用し、`l` ログ設定は、ログハンドラとログレベルの2つの部分があります。

ログハンドラはResinのログをどこに出力するかを指示します。Resinにハンドラが含まれています。

ファイルベースログハンドラの例

```
<log-handler name="com.foo" level="all"
  path="${resin.root}/log/foo.log"
  timestamp "[%y-%m-%d %H:%M:%S.%s] {%tthread} " />
```

<logger> は名前付きロガーのログレベルを設定します。<logger> は

ロガーおよびログハンドラ名は階層的であるため、「com.foo」<logg

「fine」レベルのログ出力設定の例

```
<logger name="com.foo" level="fine"/>
<logger name="com.foo.bar" level="finest"/>
```

ログ名

JDK logging API は階層型の命名方式を使用しています。通常、名前は

例えば、<logger name="example.hogwarts" ...> は "example.h

Resin自身のロギングは、Resinのクラス名に基づいています。以下はR

名前	意味
""	すべてをデバッグします。
com.caucho.ejb	EJBの処理。
com.caucho.jsp	JSPのデバッグ。
com.caucho.java	Java コンパイル。
com.caucho.server.port	TCPポートのデバッグおよびスド。
com.caucho.server.http	HTTP関連のデバッグ。
com.caucho.server.webapp	Webアプリケーション関連のデバッグ。
com.caucho.server.cache	キャッシュ関連のデバッグ。
com.caucho.sql	データベースプール。
com.caucho.transaction	トランザクションの処理。

ログレベル

ロガーレベルは、与えられたデバッグ粒度のログを有効にします。「se

けのデバッグ情報を表示します。

ログレベルは JDK java.util.logging.Level に定義される値と一致して

名前	API	用途
off		ログをオフにする。
severe	log.severe("...")	Webアプリケーション：行を妨げる障害。
warning	log.warning("...")	ブラウザにレスポンス
info	log.info("...")	Webアプリケーション：
config	log.config("...")	設定に関する詳細な
fine	log.fine("...")	ソースコードに精通し
finer	log.finer("...")	開発者が使用する詳細
finest	log.finest("...")	詳細なトレースを行
all		全てのメッセージが

<log-handler>

JDK java.util.logging.* API のためのログハンドラを設定します。

java.util.logging には 2 つの手順があります。ログハンドラのセットの

ログ名にハンドラをアタッチします。

カスタムハンドラを構成する <log-handler> には最も共通的な設定で

ます。

ログハンドラ タイムスタンプ

ログタグのタイムスタンプは、日付と時刻の値に置換される「%」のコー

コード	意味
%a	曜日 (省略)
%A	曜日 (詳細)

コード	意味
%b	月（省略）
%B	月（詳細）
%c	Javaロケールの日付
%d	月（数字2桁）
%H	24時間の時（数字2桁）
%I	12時間の時（数字2桁）
%j	年の日数
%m	月（数字2桁）
%M	分
%p	午前/午後
%S	秒
%s	ミリ秒
%W	年の週数（数字3桁）
%w	週の日数（数字1桁）
%y	年（数字2桁）
%Y	年（数字4桁）
%Z	タイムゾーン（名称）
%z	タイムゾーン（+/-0800）
%{thread}	現在のスレッドの名前
%{level}	現在のログレベル
%{env}	現在のクラスロード環境

典型的なlogタグのタイムスタンプの例

```
<log-handler name="" path='stderr:' timestamp="[%H:%M:%S.%s]" />
```

```
[22:50:11.648] WebApp/doc] starting
[22:50:11.698] http listening to *:8080
[22:50:11.828] hmx listening to *:6800
```

ログハンドラ アーカイブ

以下の例はロールオーバー ファイルに書き込む標準的なログハンドラで

```
<log-handler name="" level="all"
timestamp="[%Y/%m/%d %H:%M:%S.%s] %{thread} } "/>
<logger name="com.caucho" level="info"/>
```

デフォルトのアーカイブ形式は以下の通りです。

- rollover-period が 1日（1D） 以上の場合。

```
path + ".%Y%m%d"
```

- rollover-period が 1日（1D） より小さい場合。

```
path + ".%Y%m%d.%H"
```

たとえば、標準エラー出力を使用するすべてのログに設定する例は以下

```
<log-handler name="" level='all' path='stderr:' timestamp="[%H:
```

```
<log-handler name=" level='finer' path='log/debug.log'
timestamp="[%H:%M:%S.%s]"
rollover-period='1h' rollover-count='1'/>
```

ログハンドラ ELフォーマット

Resinの <log-handler> のformat属性には、各ログメッセージのフォーマット文字列の例

```
<log-handler name=" level='all' path='stderr:' timestamp="[%H:
format=" ${log.level} ${log.name} ${log.message}"/>
```

ログ EL 変数

変数	説明
<code>\${log.level}</code>	ログレベル。
<code>\${log.name}</code>	ロガー名。
<code>\${log.shortName}</code>	ロガー名を短くは無く “Foo
<code>\${log.message}</code>	ログメッセー
<code>\${log.millis}</code>	イベントが発
<code>\${log.sourceClassName}</code>	ロギングを要している場合があり
<code>\${log.sourceMethodName}</code>	ロギングを要していない場合があ
<code>\${log.threadID}</code>	ロギングの要するスレッドIDを取得。
<code>\${log.thrown}</code>	ロギングの要する例外のクラス名 (java.lang.Throwable)
<code>\${thread}</code>	現在のスレッド名
<code>\${request}</code>	サーブレットのリクエスト
<code>\${session}</code>	HTTPセッション
<code>\${cookie['JSESSIONID']}</code>	リクエストのCookie

また、フォーマット文字列で環境EL変数を使用することもできます。

```
<web-app>
<log name=" level='all' path='log/debug.log' timestamp="[%H:%M:%S.%s]"
format=" [${app.contextPath}] ${log.message}"/>
...
</web-app>
```

```
[14:55:10.189] [/foo] `null' returning JNDI java:
model for EnvironmentClassLoader[web-app:http://localhost:8080/foo]
[14:55:10.189] [/foo] JNDI lookup `java:comp/env/caucho/auth'
exception javax.naming.NameNotFoundException: java:comp/env/caucho/auth
[14:55:10.199] [/foo] Application[http://localhost:8080/foo] starting
```

Logger: アプリケーションのロギング

アプリケーションでロギングを行うために、JDKのロギング機能を利用します。多すぎるロギングは少ないロギングと同じくらい開発者の混乱を招

ログ名は実装しているクラスの完全なクラス名にすべきです。別の名前

ログレベルは、アプリケーション全体で一貫しているべきです。Resinで

finerのロギングの例

```

import java.util.logging.Logger;
import java.util.logging.Level;

public class Foo {
    private static final Logger log
        = Logger.getLogger(Foo.class.getName());

    ...

    void doFoo(String bar)
    {
        // check for log level if your logging call does anything more
        // than pass parameters
        if (log.isLoggable(Level.FINER))
            log.finer(this + "doFoo(" + bar + ")");

        ...

        log.info(...);

        try {
            ...
        } catch (ExpectedException ex) {
            log.log(Level.FINEST, "expected exception", ex);
        }
    }
    ...
}

```

カスタムログハンドラとライブラリログハンドラ

カスタムハンドラとライブラリのログハンドラは、CanDI XMLの構文をJDK FileHandler の例

```

<web-app xmlns="http://caucho.com/ns/resin"
  xmlns:jdk-logging="urn:java.util.logging">

  <log-handler name="com.foo" level="info">
    <jdk-logging:FileHandler>
      <new>
        <value>/tmp/test.out</value>
      </new>
    </jdk-logging:FileHandler>
  </logger>

</web-app>

```

```

package com.foo.demo;

import java.util.logging.*;

public class MyHandler extends Handler
{
    @Override
    public void publish(LogRecord record)
    {
        System.out.println(getFormatter().format(record));
    }

    @Override
    public void flush();
    {
    }

    @Override
    public void close();
    {
    }
}

```

カスタムログフォーマット

ログハンドラと同様に、ログメッセージの書式をカスタマイズできます。

サイトの情報をより適切に収集するために、ログメッセージの書式をカスタムフォーマットの設定例

```
<log-handler name="com.foo" level="warning" path="WEB-INF/lc
<formatter><mypkg:MyFormatter/></formatter>
</log-handler>
```

MyFormatter.java

```
package com.mycom.mypkg;

import java.util.logging.*;

public class MyFormatter extends Formatter
{
    @Override
    public String format(LogRecord record)
    {
        return "[" + record.getLevel() + "] " + record.getMessage();
    }
}
```

Resinビルトイン ログハンドラ

ResinはJMS、HMTTPおよび syslog サービスなどに一般的なログパター
また、カスタム ハンドラを作成することも簡単です。

BamLogHandler

BAMハンドラは、BAMエージェントにログメッセージを発行します。エ
ドレスとしてJID (Jabber id) が必要です。

BAM ハンドラ設定の例

```
<logger name="com.foo">
<resin:BamLogHandler level="warning">
<to>test@localhost</to>
</resin:BamLogHandler>
</logger>
```

EventLogHandler

イベントハンドラは、CanDIイベントシステムへの LogEvent を発行し
ます。ログハンドラのクラス名は com.caucho.log.EventLogHandler で

イベントハンドラ設定の例

```
<logger name="com.foo">
<resin:EventLogHandler level="warning"/>
</logger>
```

JmsLogHandler

JMS ハンドラは JMS キューにログ メッセージを発行します。

JMS ハンドラ設定の例

```
<web-app xmlns="http://caucho.com/ns/resin"
xmlns:ee="urn:java:ee"
xmlns:resin="urn:java:com.caucho.resin">

<resin:MemoryQueue ee:Named="myQueue"/>

<logger name="com.foo">
<resin:JmsLogHandler level="warning">
<target>${myQueue}</target>
</resin:JmsLogHandler>
</logger>

</web-app>
```

MailLogHandler

メールハンドラは email アドレスにログメッセージを送信します。メー

MailLogHandler 属性

属性名	説明
-----	----

属性名	説明
to	メールアドレス
delay-time	最初のメールを送信する前に待機する時間
mail-interval-min	メールメッセージの最小間隔
properties	JavaMailのプロパティ

メールハンドラ設定の例

```
<logger name="">
  <resin:MailLogHandler level="warning">
    <to>admin@foo.com</to>
    <properties>
      mail.smtp.host=127.0.0.1
      mail.smtp.port=25
    </properties>
  </resin:MailLogHandler>
</logger>
```

SyslogHandler

UNIXシステムでは、SyslogHandlerを使用してsyslogにメッセージを記

SyslogHandler 設定の例

```
<logger name="">
  <resin:SyslogLogHandler level="warning">
    <facility>daemon</facility>
    <severity>notice</severity>
  </resin:SyslogLogHandler>
</logger>
```

facility に使用可能な値は、user, mail, daemon、auth、lpr、news、daemon です。

severityには、emerg、alert、crit、err、warning、notice、info、d

「man 3 syslog」と「man syslog.conf」を参照してください。

ログローテーションとアーカイブ

ログローテーションは毎週または毎日ごとにログファイルをアーカイブ

ResinのログローテーションはJDK logging、HTTPアクセスログ、標準

サイズによるロールオーバー

ファイルサイズが一定量に達したときにロールオーバーが行われます。I

「rollover-size」は最大サイズを指定するために使用し、バイト（500I
ます。

時間によるロールオーバー

最後にロールオーバーされてから一定の期間が経過したときにロールオ
れていなければ、時間によるロールオーバーを実行しません。サイズに

「rollover-period」は期間を指定するために使用し、日（15D）、週

アーカイブファイル

ロールオーバーが行われると、ログファイルの名前が変更され（アーカ

「archive-format」は、アーカイブファイルの名前を指定します。これ
に使用するものと同じです。

デフォルトの動作は「rollover-period」の値に依存します。「rollover
名はオリジナルのパスに「.%Y%m%d」が追加されたものです。

「rollover-period」が一日未満の場合、アーカイブファイル名はオリジ

ロールオーバーの無効

```
<stdout-log path="/log/stdout.log" rollover-size="1024mb"/>
```

圧縮

ログのロールオーバー ファイルは gzip や zip で圧縮することができます。

```
<log name="" level="warning" path='log/error.log'
archive-format="%Y-%m-%d.error.log.gz"
rollover-period="1D"/>

<access-log path="log/access.log"
archive-format="access-%Y%m%d.log.gz"
rollover-period="1D"/>
```

標準出力のリダイレクト

stdoutログ

System.out の送信先を設定します。

stdoutログの設定は、親の設定より優先されます。例えば、<web-app> <host>のstdoutログの設定より優先されます。



注意

「path」はコマンドライン「-stdout」で指定されたパスと同

属性

属性名	説明
archive-format	ロールオーバーされたアーカイブファイル名の
path	出力先のパス
path-format	パスを決定するためのフォーマットを指定しま
rollover-count	ロールオーバーファイルの最大数。
rollover-period	ロールオーバーを行う頻度。日 (15D)、週 (:
rollover-size	ロールオーバーを行うファイルの最大サイズ。 (10mb)。
timestamp	行の先頭に使用する タイムスタンプ のフォーマ

デフォルトのアーカイブフォーマットは以下の通りです。

- rollover-period が 1日 (1D) 以上の場合。

```
path + ".%Y%m%d"
```

- rollover-period が 1日 (1D) より小さい場合。

```
path + ".%Y%m%d.%H"
```

次の例は <host> に System.out を構成します。<web-app>の出力

```
<host id='foo.com'>
<stdout-log path='/var/log/foo/stdout.log'
rollover-period='1W'/>
...
</host>
```

stderrログ

System.err の送信先を設定します。

stderrログの設定は、親の設定より優先されます。例えば、<web-app> のstderrログの設定より優先されます。



注意

「path」はコマンドライン「-stderr」で指定されたパスと同

属性名	説明
archive-format	ロールオーバーされたアーカイブファイル名の
path	出力先のパス
path-format	パスを決定するためのフォーマットを指定しま
rollover-count	ロールオーバーファイルの最大数。
rollover-period	ロールオーバーを行う頻度。日 (15D)、週 (:
rollover-size	ロールオーバーを行うファイルの最大サイズ。 (10mb)。
timestamp	行の先頭に使用する タイムスタンプ のフォーマ

デフォルトのアーカイブフォーマットは以下の通りです。

- rollover-period が 1日 (1D) 以上の場合。

```
path + ".%Y%m%d"
```

- rollover-period が 1日 (1D) より小さい場合。

```
path + ".%Y%m%d.%H"
```

次の例は <host> に System.out を構成します。<web-app>の出力

```
<host id='foo.com'>
  <stderr-log path='/var/log/foo/stderr.log'
             rollover-period='1W'/>
  ...
</host>
```

<access-log>

<access-log> は、アクセス ログ ファイルを構成します。

<web-app> の子に定義されている場合、<host>の定義をオーバーラ

デフォルトのアーカイブフォーマットは以下の通りです。

- rollover-period が 1日 (1D) 以上の場合。

```
path + ".%Y%m%d"
```

- rollover-period が 1日 (1D) より小さい場合。

```
path + ".%Y%m%d.%H"
```

アクセス ログのフォーマット変数は Apache 変数に従ってください。

フォーマットパターン

パターン	説明
%b	返却されるコンテンツの長さ。
%D	リクエストの処理が完了するまでにかかった時間。(マ秒)
%h	リモートIPアドレス。
{xxx}i	リクエストヘッダ。
{xxx}o	レスポンスヘッダ。
{xxx}c	Cookieの値。
%n	リクエストの属性値。
%r	リクエストURL。
%s	ステータスコード。
%S	セッションID。
{xxx}t	日時のフォーマット。
%T	リクエストの処理が完了するまでにかかった時間。(秒)

パターン	説明
%u	リモートユーザ。
%U	リクエストURI。
%v	バーチャルホストのサーバ名。

デフォルトのフォーマットは以下の通りです。

```
"%h %l %u %t \"%r\" %>s %b \"%{Referer}i\" \"%{User-Agent}i\""
```

属性

属性名	説明
path	出力先のパス
path-format	パスを決定するためのフォーマットを指定
archive-format	ロールオーバーされたアーカイブファイル
auto-flush	要求のたびにメモリバッファをフラッシュ
auto-flush-time	メモリ バッファをフラッシュする時間
exclude	リクエストのURIが一致する場合、アクセス
format	アクセス ログのフォーマット。
hostname-dns-lookup	IPアドレスの代わりにDNS名を記録。(パ
rollover-period	ロールオーバーを行う頻度。日 (15D)、
rollover-size	ロールオーバーを行うログファイルの最大
rollover-count	ロールオーバーファイルの最大数。

<host> に <access-log> を設定する例。

```
<cluster id="app-tier">
  <host id="">
    <access-log path='log/access.log'>
      <rollover-period>2W</rollover-period>
    </access-log>
  </host>
</cluster>
```

ログのパス

「path」はメッセージの送信先を決定するために使用します。一般的にまたはコンソールに表示するために標準出力、標準エラー出力に移行す

パス	説明
ファイ ルシス テムの パス	ファイルに出力します。
stdout:	標準出力に出力します。
stderr:	標準エラー出力に出力します。

標準出力にログメッセージを出力する例

```
<log name="" level="all" path="stdout:"/>
```

ネットワーク設定

項目

- 概要
- リファレンス
 - クラスタリングID
 - ポート番号
 - ポートレンジ
 - プロトコルバージョン設定
 - 最大通信スレッド数
 - 到達確認/再送最大通信スレッド数
 - ユニキャスト設定
 - マルチキャスト設定
 - 初期起動ホスト設定
 - ホストアドレス設定
 - マルチキャストアドレス
 - マルチキャストポート番号
 - 初期起動ホスト数

概要

intra-mart Accel Platform を分散環境で利用する場合のクラスタリン

モジュール	コアモジュール
フォーマット ファイル(xsd)	WEB-INF/schema/network-agent-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/network-agent-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<network-agent-config
  xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/service/client/config/network-agent-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/system/service/client/config/network-agent-config"
  <id>clusterId</id>
  <bind-port>5200</bind-port>
  <port-range>2</port-range>
  <preferIPv4Stack>true</preferIPv4Stack>
  <TCP>
    <initial-hosts>
      <host address="127.0.0.1"/>
    </initial-hosts>
  </TCP>
</network-agent-config>
```

リファレンス

クラスタリングID

タ id
グ
名

クラスタリングを構成するグループの一意のIDです。
Webアプリケーション毎に一意となるIDを設定してください。

【設定項目】

```
<network-agent-config>
  <id>clusterId</id>
</network-agent-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	Webアプリケーション毎に一意のIDを設定します。
単位・型	文字列 (xxxxxxx)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	network-agent-config

注意
Webアプリケーション間で同じIDが設定されている場合、予期せず、Webアプリケーション毎に一意となるIDを指定してください。

ポート番号

タグ名
bind-port

Web Application Server 間で通信を行う際に利用するポート番号を指

【設定項目】

```
<network-agent-config>
<bind-port>5200</bind-port>
</network-agent-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	利用するポート番号を設定します。
単位・型	数値 (1024 - 65535)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	network-agent-config

ポートレンジ

タグ名
port-range

bind-portで指定されたポート番号が既に使用されている場合に代替えと例えば、bind-portに5200、port-rangeに2が設定されており、5200番

【設定項目】

```
<network-agent-config>
<port-range>2</port-range>
</network-agent-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	利用するポート番号のレンジを設定します。
単位・型	数値 (0 -)
省略時のデフォルト値	なし

親タグ network-agent-config

プロトコルバージョン設定

タグ preferIPv4Stack
 グ
 名

通信を行う際のプロトコルバージョンを指定します。
 trueを設定するとIPv4 ソケットを使用して通信を行います。

【設定項目】

```
<network-agent-config>
<preferIPv4Stack>true</preferIPv4Stack>
</network-agent-config>
```

必須項目 ○

複数設定 ×

設定値・設定する内容	false	IPv6 ソケットを使用して通信を行います。
	true	IPv4 ソケットを使用して通信を行います。

単位・型 真偽値 (true/false)

省略時のデフォルト値 なし

親タグ network-agent-config



注意
 intra-mart Accel Platform では、IPv6をサポートしていない

最大通信スレッド数

タグ max-threads
 グ
 名

サーバ間通信に利用するスレッドの最大数を指定します。
 最大通信スレッド数についての詳細は「[サービス仕様書 分散環境の構築](#)」

【設定項目】

```
<network-agent-config>
<max-threads>10</max-threads>
</network-agent-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容 サーバ間通信を行うスレッドの最大スレッド数

単位・型 数値

省略時のデフォルト値 10 (マルチキャスト設定を行っている場合は 8)

親タグ network-agent-config

到達確認／再送最大通信スレッド数

タグ max-oob-threads
 グ
 名

到達確認や再送などの通信に利用するスレッドの最大数を指定します。
 到達確認／再送最大通信スレッド数についての詳細は「[サービス仕様書](#)」

【設定項目】

```
<network-agent-config>
<max-oob-threads>8</max-oob-threads>
</network-agent-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定	通信内容の到達確認や再送を行うスレッドの最大スレッドの内容
単位・型	数値
省略時のデフォルト値	8
親タグ	network-agent-config

ユニキャスト設定

```
タグ
TCP
名
```

この設定を行うとユニキャストでの通信を行います。

【設定項目】

```
<network-agent-config>
<TCP>
...
</TCP>
</network-agent-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定	ユニキャストでの通信を行う際に必要になる設定をする内容
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	network-agent-config



注意

この設定を行った場合、マルチキャストの設定(UDP)は行えま

マルチキャスト設定

```
タグ
UDP
名
```

この設定を行うとマルチキャストでの通信を行います。

【設定項目】

```
<network-agent-config>
<UDP>
...
</UDP>
</network-agent-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定	マルチキャストでの通信を行う際に必要になる設定をする内容

単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	network-agent-config

注意
この設定を行った場合、ユニキャストの設定(TCP)は行えませ

初期起動ホスト設定

タグ名	initial-hosts
-----	---------------

intra-mart Accel Platform を初期起動時のサーバのホストアドレスを初期起動ホストはクラスタリングを行う際に通信を行う起点として動作後から起動したサーバはこの初期起動ホストに指定されているサーバと

【設定項目】

```
<network-agent-config>
<TCP>
  <initial-hosts>
  ...
</initial-hosts>
</TCP>
</network-agent-config>
```

必須項目	<input type="radio"/>
複数設定	<input checked="" type="checkbox"/>
設定値・設定する内容	初期起動時するサーバのホストアドレスを設定します。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	TCP

ホストアドレス設定

タグ名	host
-----	------

Web Application Server のサーバアドレスを指定します。

【設定項目】

```
<network-agent-config>
<TCP>
  <initial-hosts>
    <host address="127.0.0.1"/>
  </initial-hosts>
</TCP>
</network-agent-config>
```

必須項目	<input type="radio"/>
複数設定	<input type="radio"/>
設定値・設定する内容	サーバアドレスを設定します。
単位・型	文字列 (xxx.xxx.xxx.xxx)

省略時のデフォルト値	なし
親タグ	initial-hosts

【属性】

属性名	説明	必須	デフォルト値
address	サーバアドレスを指定します。	○	なし

i コラム

- 「address」属性にはホスト名を設定することも可能です
- ホスト名に紐づくIPアドレスが変わった場合はAPサーバを

```

<TCP>
<initial-hosts>
  <host address="app0-host"/>
  <host address="app1-host"/>
  <host address="app2-host"/>
</initial-hosts>
</TCP>
    
```

マルチキャストアドレス

タグ名	mcast-address
-----	---------------

通信時に使用するマルチキャストアドレスを指定します。

【設定項目】

```

<network-agent-config>
<UDP>
  <mcast-address>228.10.10.10</mcast-address>
</UDP>
</network-agent-config>
    
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	マルチキャストアドレスを設定します。
単位・型	文字列 (xxx.xxx.xxx.xxx)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	UDP

i コラム

- <mcast-address>にはホスト名を設定することも可能です
- ホスト名に紐づくIPアドレスが変わった場合はAPサーバを

```

<UDP>
  <mcast-address>app0-host</mcast-address>
</UDP>
    
```

マルチキャストポート番号

タグ名
mcast-port

通信時に使用するマルチキャストアドレスのポート番号を指定します。

【設定項目】

```
<network-agent-config>
<UDP>
  <mcast-port>45588</mcast-port>
</UDP>
</network-agent-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	マルチキャストアドレスのポート番号を設定します。
単位・型	数値 (1024 - 65535)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	UDP

初期起動ホスト数

タグ名
initial-members

intra-mart Accel Platform を初期起動時のサーバ台数を指定します。

【設定項目】

```
<network-agent-config>
<UDP>
  <initial-members>1</initial-members>
</UDP>
</network-agent-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	初期起動時のサーバ台数を設定します。
単位・型	数値 (0 -)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	UDP

サーバコンテキスト設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [ホームディレクトリ](#)
 - [一時ファイルディレクトリ](#)
 - [ログファイルディレクトリ](#)
 - [サーバ文字コード](#)
 - [ベースURL](#)

[概要](#)

モジュール	コアモジュール
フォーマット ファイル(xsd)	WEB-INF/schema/server-context-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/server-context-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<server-context-config
  xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/platform/config/server-cor
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/system/platform/con
  <home-directory>WEB-INF</home-directory>
  <work-directory>WEB-INF/work</work-directory>
  <log-directory>WEB-INF/log</log-directory>
  <server-charset>UTF-8</server-charset>
  <!--
  <base-url>http://127.0.0.1:8080/imart</base-url>
  -->
</server-context-config>
```

リファレンス

ホームディレクトリ

タグ名
home-directory

アプリケーションのホームディレクトリを指定します。
ホームディレクトリは設定ファイルやソースのパスを解決する際の基底

【設定項目】

```
<server-context-config>
  <home-directory>WEB-INF</home-directory>
</server-context-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 アプリケーションの基底ディレクトリを設定します。

単位・型 文字列 (xxx/xxx)

省略時のデフォルト値 なし

親タグ server-context-config



注意
この設定を変更した場合、intra-mart Accel Platform が起動

一時ファイルディレクトリ

タグ名
work-directory

intra-mart Accel Platform で利用する一時ファイルディレクトリを設

【設定項目】

```
<server-context-config>
  <work-directory>WEB-INF/work</work-directory>
</server-context-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・ 設定する 内容	一時ファイルディレクトリを設定します。
単位・型	文字列 (xxx/xxx)
省略時の デフォル ト値	なし
親タグ	server-context-config

ログファイルディレクトリ

タグ log-directory

intra-mart Accel Platform が出力するログファイルの出力先を指定し：

【設定項目】

```
<server-context-config>
<log-directory>WEB-INF/log</log-directory>
</server-context-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・ 設定する 内容	ログファイルディレクトリを設定します。
単位・型	文字列 (xxx/xxx)
省略時の デフォル ト値	なし
親タグ	server-context-config

サーバ文字コード

タグ server-charset

intra-mart Accel Platform の文字コードを設定します。
この設定は、サーバで文字列を扱う時に Unicode との文字コード変換を

【設定項目】

```
<server-context-config>
<server-charset>UTF-8</server-charset>
</server-context-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・ 設定する 内容	サーバ文字コードを設定します。
単位・型	文字列 (xxx)
省略時の デフォル ト値	なし
親タグ	server-context-config



注意

この設定は変更しないでください。

ベースURL

タグ base-url
グ
名

intra-mart Accel Platform のベースURLを設定します。
この設定は、サーバで特定のURLを生成する際等に利用されます。
Web Server と Web Application Server でURLが異なる場合等に、ク

【設定項目】

```
<server-context-config>
  <base-url>http://127.0.0.1:8080/imart</base-url>
</server-context-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内 容	クライアント（ブラウザ等）からアクセスを行 容
単位・型	文字列
省略時のデフォルト 値	リクエストURLから自動的に解決されます。
親タグ	server-context-config

ストレージ設定ファイル

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [文字コード設定](#)
 - [ストレージAPI実装クラス設定](#)
 - [使用禁止文字群](#)
 - [使用禁止文字設定](#)
 - [ストレージ設定](#)
 - [ストレージルートパス設定](#)
 - [システムストレージディレクトリ名設定](#)
 - [パブリックストレージディレクトリ名設定](#)
 - [グループストレージディレクトリ名設定](#)
 - [設定ファイル配置用ディレクトリ名設定](#)
 - [互換モジュール用ディレクトリ名設定](#)
 - [ストレージディレクトリ名設定](#)
 - [テンポラリストレージディレクトリ名設定](#)
 - [ファイル同期キー設定](#)
 - [シンボリックリンク設定](#)

概要

ストレージの利用に関する設定ファイルです。

モジュール	コアモジュール
フォーマット ファイル (xsd)	WEB-INF/schema/storage-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/storage-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<storage-config xmlns="http://jp.co/intra-mart/foundation/service
mart/foundation/service/client/file/config ../schema/storage-config.x
<charset>UTF-8</charset>
<class-name>jp.co.intra_mart.system.service.client.file.Storageel
<unable-characters>
<unable-character>\</unable-character>
<unable-character>:</unable-character>
<unable-character>*</unable-character>
<unable-character>?</unable-character>
<unable-character>&quot;</unable-character>
<unable-character>&lt;</unable-character>
<unable-character>&gt;</unable-character>
<unable-character>|</unable-character>
</unable-characters>
<storage-info>
<root-path-name>/tmp/storage</root-path-name>
<system-directory-name>system</system-directory-name>
<public-directory-name>public</public-directory-name>
<group-directory-name>groups</group-directory-name>
<configuration-directory-name>conf</configuration-direc
<compatible-directory-name>public</compatible-director
<storage-directory-name>storage</storage-directory-nam
<temporary-directory-name>temp</temporary-director
</storage-info>
<synchronize-info>
<synchronize-key>im_system_storage_synchronize_key</syn
</synchronize-info>
</storage-config>
```

リファレンス

文字コード設定

タ charset
グ
名

テキストファイルの読み込み、書き込み時に利用する文字コードを指定

【設定項目】

```
<storage-config>
<charset>UTF-8</charset>
...
</storage-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	テキストファイルの読み込み、書き込み時に利用する内容
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	storage-config



注意

intra-mart Accel Platform では、利用可能な文字コードをU

ストレージAPI実装クラス設定

タ class-name
グ
名

Storage APIにおける実装クラスの指定を行います。

【設定項目】

```
<storage-config>
...
<class-name>jp.co.intra_mart.system.service.client.file.External
...
</storage-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	ストレージに対する読み込み、書き込み指定されるクラスは、jp.co.intra_mart.system.service.client.file.External標準は以下の実装クラスを提供し、jp.co.intra_mart.system.service.client.file.Externaljp.co.intra_mart.system.service.client.file.External
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	storage-config

注意
この設定はストレージに対する操作を行うための実装を定義し

使用禁止文字群

- タブ unable-charactors
- グ
- 名

ファイル名、ディレクトリ名等における使用禁止文字群です。

【設定項目】

```
<storage-config>
...
<unable-charactors>
<unable-character>\</unable-character>
<unable-character>:</unable-character>
<unable-character>*</unable-character>
<unable-character>?</unable-character>
<unable-character>&quot;</unable-character>
<unable-character>&lt;</unable-character>
<unable-character>&gt;</unable-character>
<unable-character>|</unable-character>
</unable-charactors>
...
</storage-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	ファイル名、ディレクトリ名等で使用禁止となる内容
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	storage-config

使用禁止文字設定

タグ unable-character
グ
名

ファイル名、ディレクトリ名等における使用禁止文字の設定を行います。

【設定項目】

```
<storage-config>
...
<unable-charactors>
<unable-character>\</unable-character>
<unable-character>:</unable-character>
<unable-character>*</unable-character>
<unable-character>?</unable-character>
<unable-character>&quot;</unable-character>
<unable-character>&lt;</unable-character>
<unable-character>&gt;</unable-character>
<unable-character>|</unable-character>
</unable-charactors>
...
</storage-config>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	ファイル名、ディレクトリ名等で使用禁止となる文: 標準で禁止している文字は : * ? " < > が設定され
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	unable-charactors



注意
この設定はWindows, Linux等で利用されるファイルシステム

ストレージ設定

タグ storage-info
グ
名

ストレージのルートパス等を指定します。

【設定項目】

```
<storage-config>
...
<storage-info>
...
</storage-info>
...
</storage-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	ストレージのパス等の情報を設定します。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	storage-config

タグ `root-path-name`
 名

ストレージルートとして利用するファイルシステム上のパスを指定します。この設定では、システムプロパティの利用が可能です。
 \${システムプロパティのキー} 形式で記述を行うことによりシステム。例えば、Resinを利用した場合は、Resinがインストール（展開）されたその為 \${resin.home}/storage と記述した場合はResinがインストールされたパス。この値は通常、ストレージとして利用するNFS等の共有ディスクのパス。/tmp等、OS起動時に削除される可能性のあるパス等の指定は行わない。

【設定項目】

```
<storage-config>
...
<storage-info>
<root-path-name>/tmp/storage</root-path-name>
...
</storage-info>
...
</storage-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	ストレージルートとして利用するファイルシステムの内容
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	storage-info

システムストレージディレクトリ名設定

タグ `system-directory-name`
 名

システムストレージとして利用されるディレクトリ名を設定します。指定されたディレクトリ名は、ストレージルートパス設定が行われたパス。

【設定項目】

```
<storage-config>
...
<storage-info>
...
<system-directory-name>system</system-directory-name>
...
</storage-info>
</storage-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	システムストレージとして利用されるディレクトリ名
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	storage-info

注意

この設定は、他のストレージディレクトリ名設定（public-dir）
この設定は、intra-mart Accel Platform において利用される

パブリックストレージディレクトリ名設定

タグ public-directory-name
名

パブリックストレージとして利用されるディレクトリ名を設定します。
指定されたディレクトリ名は、ストレージルートパス設定が行われたパ

intra-mart Accel Platform 2013 Winter以前
指定したディレクトリがパブリックストレージのルートディレクトリで

intra-mart Accel Platform 2014 Spring以降
指定したディレクトリの直下に作成されるテナントIDをディレクトリ名
この設定はテナント作成時にストレージルートパスが指定されていない
テナント作成時にストレージルートパスが指定されている場合は、この

【設定項目】

```
<storage-config>
...
<storage-info>
...
<public-directory-name>public</public-directory-name>
...
</storage-info>
</storage-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定す	パブリックストレージとして利用されるディレクトリ名
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	storage-info

注意

この設定は、他のストレージディレクトリ名設定（system-dir）
この設定は、intra-mart Accel Platform において利用される

グループストレージディレクトリ名設定

タグ group-directory-name
名

グループストレージとして利用されるディレクトリ名を設定します。
指定されたディレクトリ名は、ストレージルートパス設定が行われたパ

【設定項目】

```
<storage-config>
...
<storage-info>
...
<group-directory-name>groups</group-directory-name>
...
</storage-info>
</storage-config>
```

必須項目	○
複数設定	×

設定値・設定 する内容	グループストレージとして利用されるディレクトリ:
単位・型	文字列
省略時のデ フォルト値	なし
親タグ	storage-info

注意
この設定は、他のストレージディレクトリ名設定（system-diグループストレージは過去の互換性および、将来的な利用の為この設定は、 intra-mart Accel Platform において利用される

設定ファイル配置用ディレクトリ名設定

タグ configuration-directory-name
名

設定ファイル配置用として利用されるディレクトリ名を設定します。
指定されたディレクトリ名は、ストレージルートパス設定が行われたバ

【設定項目】

```
<storage-config>
...
<storage-info>
...
<configuration-directory-name>conf</configuration-direc
...
</storage-info>
</storage-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定 する内容	設定ファイル配置用として利用されるディレクトリ:
単位・型	文字列
省略時のデ フォルト値	なし
親タグ	storage-info

注意
この設定は、他のストレージディレクトリ名設定（system-di設定ファイル配置用ディレクトリ名設定は、将来的な利用の為この設定は、 intra-mart Accel Platform において利用される

互換モジュール用ディレクトリ名設定

タグ compatible-directory-name
名

互換モジュール用として利用されるディレクトリ名を設定します。
指定されたディレクトリ名は、ストレージルートパス設定が行われたバ

【設定項目】

```
<storage-config>
...
<storage-info>
...
  <compatible-directory-name>public</compatible-directory-name>
...
</storage-info>
</storage-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定	互換モジュール用として利用されるディレクトリ名を設定する内容
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	storage-info

注意

互換モジュールを利用した場合のストレージディレクトリはパブリックストレージ、システムストレージ、テンポラリストレージそれぞれ指定されたディレクトリ名は、パブリックストレージ、システムストレージ、

ストレージディレクトリ名設定

タグ storage-directory-name
名

パブリックストレージ、システムストレージ、テンポラリストレージそれぞれ指定されたディレクトリ名は、パブリックストレージ、システムストレージ、

【設定項目】

```
<storage-config>
...
<storage-info>
...
  <storage-directory-name>storage</storage-directory-name>
...
</storage-info>
</storage-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定	ストレージディレクトリとして利用されるディレクトリ名を設定する内容
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	storage-info

注意

この設定は、intra-mart Accel Platform において利用される

テンポラリストレージディレクトリ名設定

タグ temporary-directory-name
名

テンポラリストレージとして利用されるディレクトリ名を設定します。指定されたディレクトリ名は、ストレージルートパス設定が行われたパ

【設定項目】

```
<storage-config>
...
<storage-info>
...
<temporary-directory-name>temp</temporary-directory-
...
</storage-info>
</storage-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	テンポラリストレージとして利用されるディレクトリの内容
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	storage-info

 注意

この設定は、他のストレージディレクトリ名設定（system-dir）と併用される。この設定は、intra-mart Accel Platform において利用される。

ファイル同期キー設定

タグ名

synchronize-key

分散環境において、ストレージを操作する際の同期化用ロックキーの設定。この項目は将来的な利用の為に予約項目です。

【設定項目】

```
<storage-config>
<synchronize-info>
<synchronize-key>im_system_storage_synchronize_key</synchronize-info>
</storage-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	同期化用のロックに利用するキー値を設定します。
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	synchronize-info

シンボリックリンク設定

タグ名

permit-symlink

ストレージのルートパスの配下外に実体をもつシンボリックリンクやジストレージのルートパスとは、ストレージ設定で設定される各ストレージ本設定は、intra-mart Accel Platform 2015 Winter(Lydia) 以降で利

【設定項目】

```
<storage-config>
...
<permit-symlink>>false</permit-symlink>
...
</storage-config>
```

必須項目	×				
複数設定	×				
設定値・設定する内容	<table border="1"> <tr> <td>true</td> <td>ストレージのルートバス配下外に!</td> </tr> <tr> <td>false</td> <td>ストレージのルートバス配下外に!</td> </tr> </table> ん。	true	ストレージのルートバス配下外に!	false	ストレージのルートバス配下外に!
true	ストレージのルートバス配下外に!				
false	ストレージのルートバス配下外に!				
単位・型	真偽値 (true/false)				
省略時のデフォルト値	false				
親タグ	storage-config				

! 注意

シンボリックリンクやジャンクションを利用した場合、ストレ

サービスセレクト設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [サービス設定](#)
 - [リスナの設定](#)
 - [サービスを起動するサーバの指定](#)
 - [サービスを起動させないサーバの指定](#)
 - [サーバアドレス](#)

概要

intra-mart Accel Platform の各サービスが起動するサーバの選出方法:

モジュール	コアモジュール
フォーマットファイル	WEB-INF/schema/service-selector-config (xsd)
設定場所	WEB-INF/conf/service-selector-config/sei

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<service-selector-config
  xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/service/selector/config/ser
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/system/service/selec
<services>
  <service service-id="server.service.controller"/>
</services>
</service-selector-config>
```

リファレンス

サービス設定

タグ名

各サービスの選出方法を設定します。

【設定項目】

```
<service-selector-config>
  <services>
    <service service-id="XXXXX" />
  </services>
</service-selector-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 service 各サービスの選出方法の設定

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ service-selector-config

リスナの設定

タグ service
タグ名

サービスが起動するサーバの選出方法を設定します。

【設定項目】

```
<services>
  <service service-id="XXXXX" />
</services>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 サービスが起動するサーバの選出方法を設定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ services

【属性】

属性名	説明
service-id	選出方法を設定するサービスのID。
select-num	サービスが起動するサーバの台数を指定します。(す。)

コラム

intra-mart Accel Platform で提供されている各サービス

- ServerManager : 「server.service.controller」
- TaskService : 「server.service.task.managemen
- JobSchedulerService : 「server.service.job_sche

サービスを起動するサーバの指定

タグ assign-hosts
タグ名

サービスを起動するサーバを指定する場合に設定します。
単一のサーバで起動するサービスの場合、指定されているサーバを優先し指定されているサーバが起動していない場合は、動的にサービスが起動

複数のサーバで起動するサービスの場合、指定されているサーバでサービスが起動しているサーバが起動していない場合は、動的にサービスが起動

【設定項目】

```
<service service-id="XXXXX">
  <assign-hosts>
    <host>10.0.0.1</host>
  </assign-hosts>
</service>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	host サービスが起動するサーバを指定します。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	service

サービスを起動させないサーバの指定

タグ名

サービスを起動させないサーバを指定する場合に設定します。
この設定に指定されているサーバのみ起動している場合はサービスは起

【設定項目】

```
<service service-id="XXXXX">
  <invalid-hosts>
    <host>10.0.0.1</host>
  </invalid-hosts>
</service>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	host サービスを起動させないサーバのアドレス。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	service

サーバアドレス

タグ名

サーバアドレスを設定します。
サービスを起動するサーバ、または、サービスを起動しないサーバの

【設定項目】

```
<assign-hosts>
  <host>10.0.0.1</host>
</assign-hosts>
```

必須項目	○
複数設定	○
設定値・設定内容	サーバアドレスを指定します。
単位・型	文字列 (xxx.xxx.xxx.xxx)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	assign-hosts, invalid-hosts

サーバアドレスには以下のワイルドカードを指定することができます。

• アスタリスク（*）

同じネットワークセグメントの全てのサーバを指定する場合に使用
例えば以下のような指定が可能です。

```
* : 全てのサーバ
10.* : 「10」のセグメント内のサーバ
10.0.* : 「10.0」のセグメント内のサーバ
10.0.0.* : 「10.0.0」のセグメント内のサーバ
```



注意

- アスタリスクは「10.0.0.1*」のようにドット（.）単位
- アスタリスクは末尾のみ指定可能です。「10.0.*.0」よ

• レンジ（[XX-XX]）

サーバアドレスの範囲指定を行う場合に使用します。
例えば以下のような指定が可能です。

```
10.0.[1-100].1 : 「10.0.1」から「10.0.100」のセグメントのアド
10.0.0.[1-100] : 「10.0.0.1」から「10.0.0.100」までのアドレス
```



コラム

- レンジはセグメント毎に指定してください。
- レンジは「10.0.[1-10].[1.-100]」のように複数指定す

Identifier 設定

項目	<ul style="list-style-type: none"> • 概要 • リファレンス <ul style="list-style-type: none"> ○ サービスプロバイダ設定
----	---

概要

ユニークIDを生成する以下のAPIに関する設定です。

- スクリプト開発
 - Identifier オブジェクト
- Java 開発
 - jp.co.intra_mart.foundation.service.client.information.Id

モジュール	コアモジュール
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/identifier-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/identifier-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<identifier-config xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
  xmlns="http://intra-mart.co.jp/foundation/identifier/identifier-cor
  xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/foundation/identifier

  <generator-class>jp.co.intra_mart.foundation.service.client.inf

</identifier-config>
```

リファレンス

サービスプロバイダ設定

タ generator-class
グ
名

ユニークIDを生成するサービスプロバイダの設定を行います。

jp.co.intra_mart.foundation.service.client.information.Ide
未設定の場合は intra-mart Accel Platform 2015 Winter(Lydia) 以前

intra-mart Accel Platform 2016 Spring(Maxima) から変更された新
jp.co.intra_mart.foundation.service.client.information.Ne

【設定項目】

```
<identifier-config>
  <generator-class>jp.co.intra_mart.foundation.service.client.inf
</identifier-config>
```

必須 ×
項目

複数 ×
設定

設定 なし
値・
設定
する
内容

単 なし
位・
型

省略 なし
時の
デ
フォ
ルト
値

親タ identifier-config
グ

注意

intra-mart Accel Platform 2015 Winter(Lydia) 以前の Ide
ます。

- IDに含まれるシーケンス番号が 1,296 (36の二乗) で最

intra-mart Accel Platform 2016 Spring(Maxima) 以降では

- 同一ミリ秒で発行可能なシーケンス番号の数を、 1,296

- 同一ミリ秒内に 1,679,616回以上 呼び出された場合には

- 必ず従来の方式で発行されたIDより大きな値が発行されま
- その他、以下の仕様については従来と同様です。

- 発行されるIDの桁数 (15桁)

- IDに利用される文字の種類 (0~9 および a~z)

新しいID発行方式を有効にしてシステムを稼働させた後に、従
従来の方式に戻すとIDをソートした際の順序に不整合が発生し

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [サーバサイドJavaScript グローバル関数、または拡張APIの設定](#)
 - [サーバサイドJavaScript グローバル関数 : Javaクラス](#)
 - [サーバサイドJavaScript グローバル関数 : JavaScript関数](#)
 - [拡張API : Javaクラス](#)
 - [拡張API : JavaScript関数](#)
 - [IMARTタグの設定](#)
 - [拡張IMARTタグ : Javaクラス](#)
 - [拡張IMARTタグ : JavaScript関数](#)
 - [ApplicationInitializer設定](#)
 - [起動時初期化Javaクラス](#)
 - [起動時初期化 js ファイルのパス](#)

概要

intra-mart Accel Platform 起動時に、実行する初期化処理を設定した拡張API、グローバル関数、拡張imartタグの設定を含みます。また、初期化クラス、および、初期化スクリプトの設定を含みます。既存のファイルは編集しないでください。

モジュール	コアモジュール
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/initializer-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/products/initializer/initializer-

注意

ファイル名の initializer-XXX.xml のXXXはショートモジュールIDとはモジュールIDをピリオド(.)で分割例として、モジュールIDが「org.example.foo」場合は「init

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<initializer-config
  xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/secure/product/initializer/"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/system/secure/prod

<java-script-api>
  <global-function-class>sample.common_libs.global_fnction.Gl
  <global-function-script>sample/common_libs/global_fnction#
  <api-class>sample.common_libs.api.InstanceApi</api-class>
  <api-script>sample/common_libs/api#staticApi</api-script>
</java-script-api>

<jssp-tag>
  <tag-class>sample.common_libs.imart_tag.ImSampleTag#sam
  <tag-script>sample/common_libs/imart_tag#imSampleTag</tag
</jssp-tag>

<initializer>
  <class-name>sample.common_libs.Init</class-name>
  <script-name>sample/common_libs/init</script-name>
</initializer>
</initializer-config>
```

リファレンス

[サーバサイドJavaScript グローバル関数、または拡張APIの設定](#)

タグ名
java-script-api

サーバサイドJavaScript グローバル関数、拡張APIの設定を行います。

【設定項目】

```
<initializer-config
  xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/secure/product/initializer/initializer"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/system/secure/product/initializer/initializer"

  <java-script-api>
    <global-function-class>sample.common_libs.global_fncn.Glo
    <global-function-script>sample/common_libs/global_fncn#
    <api-class>sample.common_libs.api.InstanceApi</api-class>
    <api-script>sample/common_libs/api#staticApi</api-script>
  </java-script-api>

</initializer-config>
```

必須項目	×								
複数設定	×								
設定値・設定する内容	<table border="1"> <tr> <td>global-function-class</td> <td>グローバル関数: 関数</td> </tr> <tr> <td>global-function-script</td> <td>グローバル関数: 関数</td> </tr> <tr> <td>api-class</td> <td>オブジェクトを返す関数</td> </tr> <tr> <td>api-script</td> <td>オブジェクトを返す関数</td> </tr> </table>	global-function-class	グローバル関数: 関数	global-function-script	グローバル関数: 関数	api-class	オブジェクトを返す関数	api-script	オブジェクトを返す関数
global-function-class	グローバル関数: 関数								
global-function-script	グローバル関数: 関数								
api-class	オブジェクトを返す関数								
api-script	オブジェクトを返す関数								
単位・型	なし								
省略時のデフォルト値	なし								
親タグ	initializer-config								

サーバサイドJavaScript グローバル関数 : Javaクラス

タグ名 global-function-class

指定したJavaクラスで サーバサイドJavaScript グローバル関数の登録を行います。

【設定項目】

```
<java-script-api>
  <global-function-class>sample.common_libs.global_fncn.Glo
</java-script-api>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	グローバル関数を実装したJavaクラスのパス#実行関数名
単位・型	文字列 (xx.xxx.xx#xxxx)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	java-script-api

サーバサイドJavaScript グローバル関数 : JavaScript関数

タグ名 global-function-script

指定したJavaScript関数で サーバサイドJavaScript グローバル関数の登録を行います。

【設定項目】

```
<java-script-api>
  <global-function-script>sample/common_libs/global_fncn#g
</java-script-api>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	グローバル関数を定義する js ファイルのパス#実行関数
単位・型	文字列 (xx/xxx/xx#xxxx)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	java-script-api

拡張API : Javaクラス

タグ名

指定したJavaクラスで拡張APIの登録を行います。

【設定項目】

```
<java-script-api>
<api-class>sample.common_libs.api.InstanceApi</api-class>
</java-script-api>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	オブジェクトを定義した Javaクラスパス
単位・型	文字列 (xx.xxx.xx)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	java-script-api

拡張API : JavaScript関数

タグ名

指定したJavaScript関数で拡張APIの登録を行います。

【設定項目】

```
<java-script-api>
<api-script>sample/common_libs/api#staticApi</api-script>
</java-script-api>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	オブジェクトを定義した js ファイルパス#オブジェクト
単位・型	文字列 (xx/xxx/xx#xxxx)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	java-script-api

IMARTタグの設定

タグ名
jssp-tag

IMARTタグの設定を行います。

【設定項目】

```
<initializer-config
  xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/secure/product/initializer/"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/system/secure/prod

<jssp-tag>
  <tag-class>sample.common_libs.imart_tag.ImSampleTag</tag-
  <tag-script>sample/common_libs/imart_tag#imSampleTag</tag-
</jssp-tag>

</initializer-config>
```

必須項目	×	
複数設定	×	
設定値・設定する内容	tag-class	IMARTタグを定義したJavaク
	tag-script	IMARTタグを定義した js フ 実行関数
単位・型	なし	
省略時のデフォルト値	なし	
親タグ	initializer-config	

拡張IMARTタグ : Javaクラス

タグ名
tag-class

指定したJavaクラスでIMARTタグの登録を行います。

【設定項目】

```
<jssp-tag>
  <tag-class>sample.common_libs.imart_tag.ImSampleTag</tag-
</jssp-tag>
```

必須項目	×	
複数設定	○	
設定値・設定する内容	IMARTタグを定義したJavaクラスのパス	
単位・型	文字列 (xx.xxx.xx)	
省略時のデフォルト値	なし	
親タグ	jssp-tag	

拡張IMARTタグ : JavaScript関数

タグ名
tag-script

指定したJavaScript関数でIMARTタグの登録を行います。

【設定項目】

```
<jssp-tag>
<tag-script>sample/common_libs/imart_tag#imSampleTag</tag-script>
</jssp-tag>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	IMARTタグを定義した js ファイルのパス#実行回数
単位・型	文字列 (xx.xxx.xx#xxxx)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	jssp-tag

ApplicationInitializer設定

タグ名

初期化クラス、および、初期化スクリプトの設定を行います。

【設定項目】

```
<initializer-config
xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/secure/product/initializer/config"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/system/secure/product/initializer/config http://intra-mart.co.jp/system/secure/product/initializer/config"
>
<initializer>
<class-name>sample.common_libs.Init</class-name>
<script-name>sample/common_libs/init</script-name>
</initializer>
</initializer-config>
```

必須項目	×				
複数設定	×				
設定値・設定する内容	<table border="0"> <tr> <td>class-name</td> <td>初期化Javaクラスのパス</td> </tr> <tr> <td>script-name</td> <td>初期化 js ファイルのパス</td> </tr> </table>	class-name	初期化Javaクラスのパス	script-name	初期化 js ファイルのパス
class-name	初期化Javaクラスのパス				
script-name	初期化 js ファイルのパス				
単位・型	なし				
省略時のデフォルト値	なし				
親タグ	initializer-config				

起動時初期化Javaクラス

タグ名

指定したJavaクラスが起動時に初期化対象となる設定を行います。

【設定項目】

```
<initializer>
<class-name MBean="false">sample.common_libs.imart_tag.ImartTag</class-name>
</initializer>
```

必須項目

複数設定

設定 初期化Javaクラスのパス
 値・設定する
 内容

単位・型 文字列 (xx.xxx.xx)

省略時のデフォルト値 なし

親タグ initializer

【属性】

属性名	説明	必須
MBean	MBeanServerに登録するかどうかを指定します。	×

起動時初期化 js ファイルのパス

タグ名 script-name

指定した js ファイルが起動時に初期化対象となる設定を行います。

【設定項目】

```
<initializer>
<script-name>sample/common_libs/init</script-name>
</initializer>
```

必須項目 ×

複数設定

設定 初期化 js ファイルのパス
 値・設定する
 内容

単位・型 文字列 (xx/xxx/xx)

省略時のデフォルト値 なし

親タグ initializer

IPアドレス取得元設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [リモートIPアドレス設定](#)
 - [リモートIPアドレス取得元HTTPヘッダ設定](#)

概要

リモートホストのIPアドレスを取得する元となるHTTPヘッダを設定し、リモートホストのIPアドレスを使用して認可でアクセス制御を行ったり、

デフォルト（未設定）の状態では javax.servlet.ServletRequest#getしかし、ロードバランサやプロキシサーバを使用している環境では、jaこの場合、代替となるHTTPヘッダ（X-Forwarded-For など）を設定す

ここで設定された順にヘッダ値を取得していき、IPアドレスに変換でき、最後まで取得できなかった場合は、 javax.servlet.ServletRequest#g javax.servlet.ServletRequest#getRemoteAddr() の動作について詳

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/ip-address-detector-config
設定場所	WEB-INF/conf/ip-address-detector-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<ip-address-detector-config xmlns="http://www.intra-mart.jp/http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/http/utility/ip-address-detector-config" >
  <remote-address>
    <http-header delimiter="," position="first">X-Forwarded-For</http-header>
    <http-header>X-LB-Remote-Addr</http-header>
  </remote-address>
</ip-address-detector-config>
```

リファレンス

リモートIPアドレス設定

タグ名 remote-address

アクセス元のリモートホストのIPアドレスを取得する元の場所を定義し：

【設定項目】

```
<ip-address-detector-config>
  <remote-address>
    . . . . .
  </remote-address>
</ip-address-detector-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	なし
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	ip-address-detector-config

リモートIPアドレス取得元HTTPヘッダ設定

タグ名 http-header

アクセス元のリモートホストのIPアドレスを取得するHTTPヘッダ名を定

ここで設定された順にヘッダ値を取得していき、IPアドレスに変換できず最後まで取得できなかった場合は、 javax.servlet.ServletRequest#g

【設定項目】

```
<ip-address-detector-config>
<remote-address>
<http-header delimiter="," position="first">X-Forwarded-For<
</http-header>X-LB-Remote-Addr</http-header>
</remote-address>
</ip-address-detector-config>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	HTTPヘッダ名
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	remote-address

【属性】

属性名	説明						
delimiter	ヘッダに設定されている値を区切る文字列です。省略した場合は区切らず、取得できたそのままの値						
position	delimiter で区切られた複数の値から評価に使用する delimiter を省略した場合は使用されません。 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>first</td> <td>最初の値を評価します。</td> </tr> <tr> <td>last</td> <td>最後の値を評価します。</td> </tr> <tr> <td>数値</td> <td>指定された位置の値を評価します。範囲外 ん。 正の数を指定した場合は、最初から数えて 定めます。 負の数を指定した場合は、最後から数えて 定めます。</td> </tr> </table>	first	最初の値を評価します。	last	最後の値を評価します。	数値	指定された位置の値を評価します。範囲外 ん。 正の数を指定した場合は、最初から数えて 定めます。 負の数を指定した場合は、最後から数えて 定めます。
first	最初の値を評価します。						
last	最後の値を評価します。						
数値	指定された位置の値を評価します。範囲外 ん。 正の数を指定した場合は、最初から数えて 定めます。 負の数を指定した場合は、最後から数えて 定めます。						

注意
X-Forwarded-For ヘッダは非標準のため、ロードバランサや使用するロードバランサ、プロキシサーバの実装に応じて、di

クライアントタイプマスタ

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [クライアントタイプの設定](#)

概要

クライアントタイプを使用するための設定を行います。

モジュール	マルチデバイス
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/client-type-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/client-type-config/{任意のフ :

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<client-type-config
  xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/multi_device/client_type/c
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://intra_mart.co.jp/system/multi_device
  <client-type-info class="jp.co.intra_mart.system.multi_device.cl
</client-type-config>
```

リファレンス

クライアントタイプの設定

タグ名 `client-type-info`

intra-mart Accel Platformで使用できるクライアントタイプを定義しま

【設定項目】

```
<client-type-config>
  <client-type-info class="jp.co.intra_mart.system.multi_device.cl
</client-type-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タ client-type-config
グ

【属性】

属性名	説明
class	Javaインタフェース <code>jp.co.intra_mart.founc</code> クラスのFQDNを指定します。
default	このクライアントタイプをシステム・デフォ

 注意

default="true" のクライアントタイプ設定が複数ある場合、
して扱われます。
default="true" のクライアントタイプが見つからない場合、

日付と時刻の形式マスタ

項目

- 概要
- リファレンス
 - 「日付と時刻の形式」の設定
 - 「日付と時刻の形式」識別子の設定
 - 「日付と時刻の形式」ロケールの設定
 - 「日付と時刻の形式」フォーマットの設定
 - 「日付と時刻の形式」フォーマット識別子の設定
 - 「日付と時刻の形式」フォーマットパターンの設定

概要

intra-mart Accel Platformで利用する日付と時刻の形式のマスタ情報をここで設定した内容は、以下の画面から選択して利用することができます。

- テナント管理 > テナント情報 > 日付と時刻の形式
- 個人設定 > 日付と時刻の形式

モジュール	国際化機能
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/date-time-format-config(xsd)
設定場所	WEB-INF/conf/date-time-format-config/

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<date-time-format-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/system/i18n/datetime/date-time-
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/system/i18n/dateti
  <format-set default="true">
  <format-set-id>IM_DATETIME_FORMAT_SET_EN_BASE</format-set-id>
  <locale>en</locale>
  <format type="date">
  <format-id>IM_DATETIME_FORMAT_DATE_STANDARD</format-id>
  <pattern default="true">MMM d, yyyy</pattern>
  <pattern>MMM dd, yyyy</pattern>
  <pattern>d/M/yyyy</pattern>
  <pattern>d/MM/yyyy</pattern>
  <pattern>dd/MM/yyyy</pattern>
  <pattern>d-MMM-yyyy</pattern>
  <pattern>dd-MMM-yyyy</pattern>
  <pattern>d MMM, yyyy</pattern>
  <pattern>dd MMM, yyyy</pattern>
  <pattern>d MMM yyyy</pattern>
  <pattern>dd MMM yyyy</pattern>
  <pattern>yyyy-MM-dd</pattern>
  <pattern>yyyy/MM/dd</pattern>
  <pattern>yyyy/M/d</pattern>
  <pattern>MM/dd/yyyy</pattern>
  <pattern>M/d/yyyy</pattern>
  </format>
  <format type="date">
  <format-id>IM_DATETIME_FORMAT_DATE_SIMPLE</format-id>
  <pattern default="true">MMM d</pattern>
  <pattern>MMM dd</pattern>
  <pattern>d/M</pattern>
  <pattern>d/MM</pattern>
  <pattern>dd/MM</pattern>
  <pattern>d-MMM</pattern>
  <pattern>dd-MMM</pattern>
  <pattern>d MMM</pattern>
  <pattern>dd MMM</pattern>
  <pattern>MM-dd</pattern>
  </format>
  <format type="date">
  <format-id>IM_DATETIME_FORMAT_DATE_INPUT</format-id>
  <pattern default="true">yyyy/MM/dd</pattern>
  <pattern>yyyy/M/d</pattern>
  <pattern>MM/dd/yyyy</pattern>
  <pattern>M/d/yyyy</pattern>
```

```

</pattern>my/yyyy</pattern>
<pattern>dd/MM/yyyy</pattern>
<pattern>d/M/yyyy</pattern>
</format>
<format type="time">
<format-id>IM_DATETIME_FORMAT_TIME_STANDARD</format-id>
<pattern default="true">h:mm a</pattern>
<pattern>hh:mm a</pattern>
<pattern>H:mm</pattern>
<pattern>HH:mm</pattern>
</format>
<format type="time">
<format-id>IM_DATETIME_FORMAT_TIME_TIMESTAMP</format-id>
<pattern default="true">h:mm:ss a</pattern>
<pattern>hh:mm:ss a</pattern>
<pattern>H:mm:ss</pattern>
<pattern>HH:mm:ss</pattern>
</format>
<format type="time">
<format-id>IM_DATETIME_FORMAT_TIME_INPUT</format-id>
<pattern default="true">HH:mm</pattern>
<pattern>H:m</pattern>
</format>
</format-set>
<format-set>
<format-set-id>IM_DATETIME_FORMAT_SET_JA_BASE</format-set-id>
<locale>ja</locale>
<format type="date">
<format-id>IM_DATETIME_FORMAT_DATE_STANDARD</format-id>
<pattern>yyyy'年'M'月'd'日'</pattern>
<pattern>yyyy'年'MM'月'dd'日'</pattern>
<pattern>yyyy/M/d</pattern>
<pattern default="true">yyyy/MM/dd</pattern>
<pattern>yyyy-MM-dd</pattern>
</format>
<format type="date">
<format-id>IM_DATETIME_FORMAT_DATE_SIMPLE</format-id>
<pattern>M'月'd'日'</pattern>
<pattern>MM'月'dd'日'</pattern>
<pattern>M/d</pattern>
<pattern default="true">MM/dd</pattern>
<pattern>MM-dd</pattern>
</format>
<format type="date">
<format-id>IM_DATETIME_FORMAT_DATE_INPUT</format-id>
<pattern default="true">yyyy/MM/dd</pattern>
<pattern>yyyy/M/d</pattern>
</format>
<format type="time">
<format-id>IM_DATETIME_FORMAT_TIME_STANDARD</format-id>
<pattern>ah:mm</pattern>
<pattern>ahh:mm</pattern>
<pattern default="true">H:mm</pattern>
<pattern>HH:mm</pattern>
</format>
<format type="time">
<format-id>IM_DATETIME_FORMAT_TIME_TIMESTAMP</format-id>
<pattern>ah:mm:ss</pattern>
<pattern>ahh:mm:ss</pattern>
<pattern default="true">H:mm:ss</pattern>
<pattern>HH:mm:ss</pattern>
</format>
<format type="time">
<format-id>IM_DATETIME_FORMAT_TIME_INPUT</format-id>
<pattern default="true">HH:mm</pattern>
<pattern>H:m</pattern>
</format>
</format-set>
<format-set>
<format-set-id>IM_DATETIME_FORMAT_SET_ZHCN_BASE</format-set-id>
<locale>zh_CN</locale>
<format type="date">
<format-id>IM_DATETIME_FORMAT_DATE_STANDARD</format-id>
<pattern>yyyy'年'M'月'd'日'</pattern>
<pattern>yyyy'年'MM'月'dd'日'</pattern>
<pattern>yyyy/M/d</pattern>
<pattern>yyyy/MM/dd</pattern>
<pattern default="true">yyyy-M-d</pattern>
<pattern>yyyy-MM-dd</pattern>
<pattern>d MMM yyyy</pattern>
<pattern>dd MMM yyyy</pattern>
</format>
<format type="date">
<format-id>IM_DATETIME_FORMAT_DATE_SIMPLE</format-id>
<pattern>M'月'd'日'</pattern>
<pattern>MM'月'dd'日'</pattern>
<pattern>M/d</pattern>

```

```

</pattern>MM/dd</pattern>
<pattern default="true">M-d</pattern>
<pattern>MM-dd</pattern>
<pattern>d MMM</pattern>
<pattern>dd MMM</pattern>
</format>
<format type="date">
<format-id>IM_DATETIME_FORMAT_DATE_INPUT</format-id>
<pattern default="true">yyyy/MM/dd</pattern>
<pattern>yyyy/M/d</pattern>
<pattern>yyyy-MM-dd</pattern>
<pattern>yyyy-M-d</pattern>
</format>
<format type="time">
<format-id>IM_DATETIME_FORMAT_TIME_STANDARD</format-id>
<pattern>ah:mm</pattern>
<pattern>ahh:mm</pattern>
<pattern default="true">H:mm</pattern>
<pattern>HH:mm</pattern>
</format>
<format type="time">
<format-id>IM_DATETIME_FORMAT_TIME_TIMESTAMP</format-id>
<pattern>ah:mm:ss</pattern>
<pattern>ahh:mm:ss</pattern>
<pattern default="true">H:mm:ss</pattern>
<pattern>HH:mm:ss</pattern>
</format>
<format type="time">
<format-id>IM_DATETIME_FORMAT_TIME_INPUT</format-id>
<pattern default="true">HH:mm</pattern>
<pattern>H:m</pattern>
</format>
</format-set>
</date-time-format-config>
    
```

リファレンス

「日付と時刻の形式」の設定

タグ名
format-set

intra-mart Accel Platformで利用する「日付と時刻の形式」を定義し、詳細な設定は配下のタグで行います。このタグでは、システム・デフォルトの設定を行います。

【設定項目】

```

<date-time-format-config>
<format-set default="true">
. . . . .
</format-set>
</date-time-format-config>
    
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ date-time-format-config

【属性】

属性名	説明
default	true の場合、システム・デフォルトの「日付と時刻」 います。

「日付と時刻の形式」識別子の設定

タグ名
format-set-id

「日付と時刻の形式」を識別するための識別子を設定します。

【設定項目】

```
<date-time-format-config>
  <format-set>
    <format-set-id>IM_DATETIME_FORMAT_SET_EN_BASE</format-set-id>
    . . . . .
  </format-set>
</date-time-format-config>
```

必須項目	<input type="radio"/>
複数設定	<input checked="" type="checkbox"/>
設定値・設定する内容	「日付と時刻の形式」の識別子
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	format-set

「日付と時刻の形式」ロケールの設定

タグ名
locale

「日付と時刻の形式」のロケールを設定します。
設定するロケールは、ロケールマスタファイルに定義されている必要が

【設定項目】

```
<date-time-format-config>
  <format-set>
    . . . . .
    <locale>en</locale>
    . . . . .
  </format-set>
</date-time-format-config>
```

必須項目	<input type="radio"/>
複数設定	<input checked="" type="checkbox"/>

設定 ロケールID
値・
設定
する
内容

単 文字列
位・
型

省略 なし
時の
デ
フォ
ルト
値

親タ format-set
グ

「日付と時刻の形式」フォーマットの設定

タ format
グ
名

フォーマットの種類（「日付」「時刻」）を設定します。

【設定項目】

```
<date-time-format-config>
  <format-set>
    . . . . .
    <format type="date">
      . . . . .
    </format>
  </format-set>
</date-time-format-config>
```

必須
項目

複数
設定

設定 なし
値・
設定
する
内容

単 なし
位・
型

省略 なし
時の
デ
フォ
ルト
値

親タ format-set
グ

【属性】

属性名	説明	必
type	date 日付用のフォーマットとして扱われます。	C
	time 時刻用のフォーマットとして扱われます。	

「日付と時刻の形式」フォーマット識別子の設定

タグ名
format-id

フォーマットを識別するための識別子を設定します。

【設定項目】

```
<date-time-format-config>
  <format-set>
    . . . . .
    <format type="date">
      <format-id>IM_DATETIME_FORMAT_DATE_STANDARD</format-id>
      . . . . .
    </format>
  </format-set>
</date-time-format-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容 なし

単位・型 文字列

省略時のフォルト値 なし

親タグ format

「日付と時刻の形式」フォーマットパターンの設定

タグ名
pattern

ユーザに提供するフォーマットパターン文字列を設定します。

【設定項目】

```
<date-time-format-config>
  <format-set>
    . . . . .
    <format type="date">
      . . . . .
      <pattern default="true">MMM d, yyyy</pattern>
      <pattern>MMM dd, yyyy</pattern>
      . . . . .
    </format>
  </format-set>
</date-time-format-config>
```

必須項目

複数設定	○
設定値・設定する内容	フォーマットパターン文字列
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	format

【属性】

属性名	説明
default	true の場合、初期状態におけるデフォルト値として扱います。

注意

2016 Spring(Maxima)より、「[一般ユーザ操作ガイド](#)」- 「入力形式のフォーマットパターン文字列を編集・追加を行った入力形式のフォーマットパターン文字列のデフォルト値は変更テナントとユーザで設定した日付・時刻の「入力形式」を参照してください。

ロケールマスタ

項目
<ul style="list-style-type: none"> 概要 リファレンス <ul style="list-style-type: none"> ロケールの設定 文字エンコーディングの設定

概要

intra-mart Accel Platformで利用するロケールの設定を行います。

モジュール	国際化機能
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/locale-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/locale-config/{任意のファイル名}

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<locale-config
  xmlns="http://intra_mart.co.jp/system/i18n/locale/config/locale-c
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://intra_mart.co.jp/system/i18n/locale/c
  <locale name="en" default="true">
    <encoding-name>UTF-8</encoding-name>
  </locale>
  <locale name="ja">
    <encoding-name>UTF-8</encoding-name>
  </locale>
  <locale name="zh_CN">
    <encoding-name>UTF-8</encoding-name>
  </locale>
</locale-config>
```

リファレンス

ロケールの設定

タグ名

intra-mart Accel Platformで利用するロケールを定義します。

【設定項目】

```
<locale-config>
<locale name="en">
. . . . .
</locale>
</locale-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容

単位・型

省略時のデフォルト値

親タグ locale-config

【属性】

属性名	説明
name	ロケール ID を設定します。
default	true の場合は、システム・デフォルトのロケールが適 ます。

注意
運用開始後にシステムロケールを **追加する** 場合には制約があ
運用開始後にシステムロケールを追加した場合、そのまま運用
加したロケール分のデータを補完してください。

- 言語追加ガイド
- 国際化支援機能仕様書

なお、運用開始後にシステムロケールを **削除する** 事は推奨し

注意
default="true" のロケールが複数ある場合、設定ファイルの
default="true" のロケールが見つからない場合、設定ファイ

文字エンコーディングの設定

タグ名 encoding-name

【設定項目】

```
<locale-config>
<locale name="en">
  <encoding-name>UTF-8</encoding-name>
</locale>
</locale-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・ 文字エンコーディングを設定します。
設定する
内容

単位・型 文字列

省略時の なし
デフォル
ト値

親タグ locale

タイムゾーンマスタ

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [タイムゾーンの設定](#)

概要

intra-mart Accel Platformで利用するタイムゾーンの設定を行います。

モジュール	国際化機能
フォーマットファ イル(xsd)	WEB-INF/schema/time-zone-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/time-zone-config/{任意のファ

```
<time-zone-config
xmlns="http://www.intra_mart.co.jp/system/i18n/timezone/config/"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:schemaLocation="http://www.intra_mart.co.jp/system/i18n/tim
<time-zone-id>Asia/Tokyo</time-zone-id>
<time-zone-id>Asia/Shanghai</time-zone-id>
<time-zone-id>UTC</time-zone-id>
<time-zone-id>America/New_York</time-zone-id>
</time-zone-config>
```

リファレンス

タイムゾーンの設定

タグ time-zone-id
名

intra-mart Accel Platformで利用するタイムゾーンをタイムゾーン ID

【設定項目】

```
<time-zone-config>
<time-zone-id>Asia/Tokyo</time-zone-id>
</time-zone-config>
```

必須項目	<input type="radio"/>
複数設定	<input type="radio"/>
設定値・設定する内容	タイムゾーン ID
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	time-zone-config

注意
設定可能なタイムゾーン ID は、JDK でサポートされるタイム

数値形式マスタ

項目	<ul style="list-style-type: none"> • 概要 • リファレンス <ul style="list-style-type: none"> ◦ 数値形式の設定 ◦ パラメータの設定
----	---

概要

intra-mart Accel Platformで利用する数値形式のマスタ情報を設定し、ここで設定した内容は、以下の画面から選択して利用することができます。

- [テナント管理](#) > [テナント情報](#) > [数値形式](#)
- [個人設定](#) > [数値形式](#)

モジュール	国際化機能
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/decimal-format-config.xml
設定場所	WEB-INF/conf/decimal-format-config/{任意}

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<decimal-format-config
xmlns="http://www.intra-mart.jp/system/i18n/number/decimal-format"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/system/i18n/number/decimal-format"
>
  <decimal-format id="comma_period" default="true" csjs-path="im_i18n/number/decimal-format/comma_period"
  <parameter param-name="grouping-separator" param-value=","/>
  <parameter param-name="decimal-separator" param-value="."/>
  </decimal-format>
  <decimal-format id="space_comma" csjs-path="im_i18n/number/decimal-format/space_comma"
  <parameter param-name="grouping-separator" param-value=","/>
  <parameter param-name="decimal-separator" param-value="."/>
  </decimal-format>
  <decimal-format id="apostrophe_period" csjs-path="im_i18n/number/decimal-format/apostrophe_period"
  <parameter param-name="grouping-separator" param-value=","/>
  <parameter param-name="decimal-separator" param-value="."/>
  </decimal-format>
  <decimal-format id="period_comma" csjs-path="im_i18n/number/decimal-format/period_comma"
  <parameter param-name="grouping-separator" param-value=","/>
  <parameter param-name="decimal-separator" param-value="."/>
  </decimal-format>
</decimal-format-config>
```

リファレンス

数値形式の設定

タグ名
decimal-format

intra-mart Accel Platformで利用する「数値形式」を定義します。

【設定項目】

```
<decimal-format-config>
  <decimal-format id="comma_period" class="jp.co.intra_mart.fc
path="im_i18n/number/format/standard_formatter.min.js">
  . . . . .
  </decimal-format>
</decimal-format-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ decimal-format-config

【属性】

属性名	説明
id	数値形式 ID を設定します。
class	フォーマット処理を行うクラスのパスを指定します。
default	true の場合は、システム・デフォルトの数値形式

属性名	説明
csjs-path	ブラウザ上でフォーマット処理を行う際に利用するパスを指定します。 指定されたパスに定義された関数を使ってフォーマット指定の場合はブラウザ上でフォーマット処理を行います。

コラム

csjs-path属性は 2018 Spring(Skylark) 以降で利用できます。

注意

class属性を指定しない場合、フォーマット処理にはjp.co.intr

注意

default="true" の数値形式が複数ある場合、設定ファイルの default="true" の数値形式が見つからない場合、設定ファイ

パラメータの設定

タグ名
parameter

数値形式のパラメータを設定します。

【設定項目】

```
<decimal-format-config>
  <decimal-format id="comma_period" default="true">
    <parameter param-name="grouping-separator" param-value=">
    <parameter param-name="decimal-separator" param-value=">
  </decimal-format>
</decimal-format-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容
なし

単位・型
なし

省略時のデフォルト値
なし

親タグ
decimal-format

【属性】

属性名	説明	デフォルト値	必須
param-name	パラメータ名を設定します。	なし	<input type="checkbox"/>
param-value	パラメータ値を設定します。	なし	<input type="checkbox"/>

source-config.xml

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [文字エンコーディングの設定](#)
 - [JavaScriptの設定](#)
 - [JavaScriptコンパイラの設定](#)
 - [最適化レベルの設定](#)
 - [Viewの設定](#)
 - [Viewコンパイラの設定](#)
 - [XMLエスケープの設定](#)
 - [JavaScriptエスケープの設定](#)
 - [ID属性を自動的に付加する設定](#)
 - [HTMLコメントを削除する設定](#)
- [source-config.xmlの有効範囲](#)
- [ファイル単位での設定方法](#)

概要

source-config.xmlは、スクリプト開発モデルのプログラムソースおよびこの設定ファイルは、ディレクトリに対して有効であり、そのディレクトリ、そのディレクトリ以下のすべてのプログラムソースに対して設定内

モジュール	スクリプト開発モデル
フォーマットファイル (xsd)	なし
設定場所	スクリプト開発モデルのプログラムが配置さ

```
<resource-file>
  <charset>UTF-8</charset>
  <javascript>
    <compiler enable="true" />
    <!-- enable:true = Auto compiler to Java class -->
    <!-- enable:false = Interpreter -->

    <optimize level="0" />
    <!-- level:0 to 9 = Optimize level of Compile -->
  </javascript>
  <view>
    <compiler enable="true" />
    <!-- enable:true = Auto compiler -->
    <!-- enable:false = Interpreter -->
  </view>
</resource-file>
```

リファレンス

文字エンコーディングの設定

タグ名

プログラムソースの文字エンコーディングの指定です。intra-mart Acc

【設定項目】

```
<resource-file>
  <charset>UTF-8</charset>
</resource-file>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	文字エンコーディング名
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	上位ディレクトリに配置された source-config.xml の値
親タグ	resource-file

注意

intra-mart Accel Platform および関連するアプリケーション
この設定には必ず「UTF-8」を指定してください。

JavaScriptの設定

タグ名

スクリプト開発モデルのJavaScriptに関する設定を行います。

【設定項目】

```
<resource-file>
  <javascript>
  </javascript>
</resource-file>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	JavaScriptの各種設定を指定します。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	resource-file

JavaScriptコンパイラの設定

タグ名

JavaScriptコンパイラに関する設定を行います。

【設定項目】

```
<resource-file>
  <javascript>
    <compiler enable="true" />
  </javascript>
</resource-file>
```

必須項目	×
複数設定	×

設定値・設定する内容 JavaScriptコンパイラの設定を指定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ javascript

【属性】

属性名	説明
enable	JavaScriptコンパイラの有効・無効を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>true</i> を設定した場合、JavaScriptをJavaがメモリ上にキャッシュされ、以降パフォーマンスは向上しますが、ソースのサーバを再起動しなければいけません。 • <i>false</i> を設定した場合、JavaScriptをイ反映されます。開発をスムーズに進めるパフォーマンスは期待できません。この設定はIM-JugglingのビルドウィザードからWARファイルは「結合テスト環境」を選択していると、デルのプログラムがインタプリタモードで実行

最適化レベルの設定

タグ名 optimize

JavaScriptコンパイラの最適化に関する設定を行います。

【設定項目】

```
<resource-file>
  <javascript>
    <optimize level="0" />
  </javascript>
</resource-file>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容 JavaScriptコンパイラの最適化レベルを指定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ javascript

【属性】

属性名	説明
level	JavaScriptコンパイラのプログラム解析に最適化レベルが適用される場合は、その適用範囲が大きくなります。0を設定した場合は、プログラムを最適化して実行する事は、パフォーマンスが期待できない複雑な機能な為、プログラムの最適化レベルを適用する場合は、その適用範囲

注意

intra-mart Accel Platform および関連するアプリケーションこの設定には必ず「0」を指定してください。

Viewの設定

タグ名

スクリプト開発モデルのHTMLに関する設定を行います。

【設定項目】

```
<resource-file>
  <view>
  </view>
</resource-file>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・ HTMLの各種設定を指定します。

設定する

内容

単位・型 なし

省略時の

デフォル

ト値

親タグ resource-file

Viewコンパイラの設定

タグ名

Viewコンパイラに関する設定を行います。

【設定項目】

```
<resource-file>
  <view>
    <compiler enable="true" />
  </view>
</resource-file>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・ Viewコンパイラの設定を指定します。

設定する

内容

単位・型 なし

省略時の

デフォル

ト値

親タグ view

【属性】

属性名

説明

属性名	説明
enable	Viewコンパイラの有効・無効を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>true</i> を設定した場合、HTMLをコンパイル) がメモリ上にキャッシュされ、以後パフォーマンスは向上しますが、ソースのサーバを再起動しなければいけません) • <i>false</i> を設定した場合、HTMLをインタされます。開発をスムーズに進めることパフォーマンスは期待できません。この記 IM-JugglingのビルドウィザードからWARは「結合テスト環境」を選択していると、デルのプログラムがインタプリタモードでま

XMLエスケープの設定

タグ名
escapeXml

XMLエスケープに関する設定を行います。
 <imart> タグの属性に指定された文字列に対してXMLエスケープを行
 詳しい説明はAPIリストの [エスケープ処理に関して](#) を参照してください

コラム
 全ての<imart>タグがエスケープ機能に対応しているわけでは
 <imart>タグのAPIドキュメントを参照してください。

【設定項目】

```
<resource-file>
  <view>
    <escapeXml enable="true" />
  </view>
</resource-file>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容 XMLエスケープの各種設定を指定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ view

【属性】

属性名	説明
enable	XMLエスケープの有効・無効を指定します
exclusion	XMLエスケープ処理の対象外とする文字列
delimiter4exclusion	XMLエスケープ処理の対象外とする文字列

JavaScriptエスケープの設定

タグ名
escapejs

JavaScriptエスケープに関する設定を行います。
 <imart> タグの属性に指定された文字列に対してJavaScriptエスケープ
 詳しい説明はAPIリストの [エスケープ処理に関して](#) を参照してください

コラム

全ての<imart>タグがエスケープ機能に対応しているわけではない。
 <imart>タグのAPIドキュメントを参照してください。

【設定項目】

```
<resource-file>
  <view>
    <escapejs enable="true" />
  </view>
</resource-file>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容 JavaScriptエスケープの各種設定を指定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ view

【属性】

属性名	説明
enable	JavaScriptエスケープの有効・無効を指定
exclusion	JavaScriptエスケープ処理の対象外とする
delimiter4exclusion	JavaScriptエスケープ処理の対象外とする

ID属性を自動的に付加する設定

タグ名
replicateNameTold

<imart type="hidden"> タグ使用時に、name属性に指定された値を
 例えば、name属性に「foo」と値が指定された場合、プログラム実行時

```
<INPUT type="hidden" name="foo" id="foo">
```

【設定項目】

```
<resource-file>
  <view>
    <replicateNameTold enable="true" />
  </view>
</resource-file>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容 ID属性を自動的に付加する設定を指定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ view

【属性】

属性名	説明
enable	<ul style="list-style-type: none"> • <i>true</i> を設定した場合、name属性に設定され • <i>false</i> を設定した場合、id属性を付加しませ

 **注意**

intra-mart Accel Platform および関連するアプリケーション replicateNameTold は対応しているプログラムソースにのみ

HTMLコメントを削除する設定

タグ名 removeHTMLComments

プログラム実行時に「<!-->」で囲まれているHTMLコメント部分を削

【設定項目】

```
<resource-file>
  <view>
    <removeHTMLComments enable="true" />
  </view>
</resource-file>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定内容 HTMLコメントを削除する設定を指定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ view

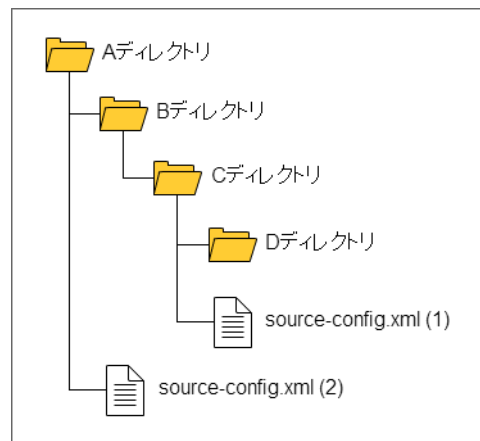
【属性】

属性名	説明
enable	<ul style="list-style-type: none"> • <i>true</i> を設定した場合、HTMLコメントを削除 • <i>false</i> を設定した場合、HTMLコメントを削除

source-config.xmlの有効範囲

下図のようにsource-config.xmlを配置した場合、各プログラムが参照

- Aディレクトリ直下のプログラム：(2)の設定内容を参照します。
- Bディレクトリ直下のプログラム：(2)の設定内容を参照します。
- Cディレクトリ直下のプログラム：(1)の設定内容を参照します。
- Dディレクトリ直下のプログラム：(1)の設定内容を参照します。



ファイル単位での設定方法

スクリプト開発モデルのプログラムは、HTMLファイルとJSファイルの

<対象ファイルラベル名.properties>ファイルを作成し、以下のように
て<対象ファイルラベル名.properties>ファイルの設定を利用します。

```

charset=プログラムの文字エンコーディング名
javascript.compile.enable=JavaScriptコンパイラの設定
javascript.optimize.level=JavaScriptコンパイラの最適化レベル
view.compile.enable=Viewコンパイラの設定
view.escapeXml.enable=XMLエスケープの有効・無効
view.escapeXml.exclusion=XMLエスケープ処理の対象外とする文字列
view.escapeXml.delimiter4exclusion=「view.escapeXml.exclusion」
view.escapeJs.enable=JavaScriptエスケープの有効・無効
view.escapeJs.exclusion=JavaScriptエスケープ処理の対象外とする文字
view.escapeJs.delimiter4exclusion=「view.escapeJs.exclusion」に掛
view.replicateNameTold.enable=ID属性を自動的に付加する設定
view.removeHTMLComments.enable=HTMLコメントを削除する設定
  
```

例えば、ファイルが文字コード「UTF-8」で作成されたsample.htmlと
sample.propertiesを作成し、以下の内容を記述します。

```

charset=UTF-8
javascript.compile.enable=true
javascript.optimize.level=0
view.compile.enable=false
  
```

データソースマッピング設定

項目

- 概要
- リファレンス
 - システムデータベース設定
 - シェアードデータベース設定
 - テナントデータベース設定
 - リソース参照名
 - データベース種別
 - シェアードデータベース接続ID
 - テナントデータベース テナントID

概要

intra-mart Accel Platform で利用するデータベースと Web Applicati

モジュール	データベースアクセスモジュール
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/data-source-mapping-con
設定場所	WEB-INF/conf/data-source-mapping-config.:

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<data-source-mapping-config xmlns:xsi="http://www.w3.org/20
  xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/database/config/data-sour
  xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/system/database/co
<system-data-source>
  <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/default</resource-
  <database-name>oracle</database-name>
</system-data-source>
<shared-data-source>
  <connect-id>default</connect-id>
  <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/default</resource-
</shared-data-source>
<tenant-data-source>
  <tenant-id>default</tenant-id>
  <resource-ref-name>java:comp/env/jdbc/default</resource-
</tenant-data-source>
</data-source-mapping-config>
```

リファレンス

システムデータベース設定

タグ system-data-source
名前

システムデータベースとして利用するデータソースを設定します。

【設定項目】

```
<data-source-mapping-config>
<system-data-source>
  <resource-ref-name>xxxxxxxxxxxx</resource-ref-name>
  <database-name>xxxxxxxxxxxx</database-name>
</system-data-source>
</data-source-mapping-config>
```

必須項目	○
複数設定	×

設定値・設定する内容	resource-ref-name	システムデータベース
	database-name	接続データベースの種類
単位・型	なし	
省略時のデフォルト値	なし	
親タグ	data-source-mapping-config	

シェアードデータベース設定

タグ名 shared-data-source

シェアードデータベースとして利用するデータソースを設定します。

【設定項目】

```
<data-source-mapping-config>
<shared-data-source>
<connect-id>XXXXXXXXXXXX</connect-id>
<resource-ref-name>XXXXXXXXXXXX</resource-ref-name>
<database-name>XXXXXXXXXXXX</database-name>
</shared-data-source>
</data-source-mapping-config>
```

必須項目	×	
複数設定	○	
設定値・設定する内容	connect-id	シェアードデータベース
	resource-ref-name	シェアードデータベース
	database-name	接続データベースの種類
単位・型	なし	
省略時のデフォルト値	なし	
親タグ	data-source-mapping-config	

注意
 接続 ID は 100 文字以内を推奨します。
 接続 ID が 100 文字を超過する場合、一部のアプリケーション

テナントデータベース設定

タグ名 tenant-data-source

テナントデータベースとして利用するデータソースを設定します。

【設定項目】

```
<data-source-mapping-config>
<tenant-data-source>
<tenant-id>XXXXXXXXXXXX</tenant-id>
<resource-ref-name>XXXXXXXXXXXX</resource-ref-name>
<database-name>XXXXXXXXXXXX</database-name>
</tenant-data-source>
</data-source-mapping-config>
```

必須項目	×	
複数設定	○	

設定値・設定する内容	tenant-id	このデータベース設定
	resource-ref-name	テナントデータベース
	database-name	接続データベースの種別
単位・型	なし	
省略時のデフォルト値	なし	
親タグ	data-source-mapping-config	

リソース参照名

タグ名	resource-ref-name
-----	-------------------

Web Application Server に設定されているリソース参照名を指定する。

【設定項目】

```
<data-source-mapping-config>
<system-data-source>
  <resource-ref-name>XXXXXXXXXXXX</resource-ref-name>
</system-data-source>
</data-source-mapping-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	intra-mart Accel Platform で利用するデータソースの内容
単位・型	文字列 (java:comp/env/xxxxx)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	system-data-source, shared-data-source, tena

データベース種別

タグ名	database-name
-----	---------------

接続先データベースの種別を指定する項目です。
この項目が指定されていない場合は、データベースの種別は接続先デ

【設定項目】

```
<data-source-mapping-config>
<system-data-source>
  <database-name>XXXXXXXXXXXX</database-name>
</system-data-source>
</data-source-mapping-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	接続先データベースの種類
単位・型	文字列 (oracle, sql server, postgresql)
省略時のデフォルト値	接続先データベースのデータベース種別にあわせて
親タグ	system-data-source, shared-data-source, ten



注意

指定されたデータベースの種別と接続先データベースの種別が

シェアードデータベース接続ID

タグ名 `connect-id`

シェアードデータベースの接続IDを指定する項目です。
接続IDには各シェアードデータベース毎の一意のIDを設定してください。

【設定項目】

```
<data-source-mapping-config>
  <shared-data-source>
    <connect-id>xxxxxxxxxxxxx</connect-id>
  </shared-data-source>
</data-source-mapping-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容 シェアードデータベースの接続ID

単位・型 文字列 (xxxxxxxxxxxxx)

省略時のデフォルト値 なし

親タグ shared-data-source

テナントデータベース テナントID

タグ名 `tenant-id`

このデータベース設定を利用するテナントのテナントIDを指定する項目

【設定項目】

```
<data-source-mapping-config>
  <tenant-data-source>
    <tenant-id>xxxxxxxxxxxxx</tenant-id>
  </tenant-data-source>
</data-source-mapping-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容 テナントID

単位・型 文字列 (xxxxxxxxxxxxx)

省略時のデフォルト値 なし

親タグ tenant-data-source

メール設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [SMTPの設定](#)
 - [SMTPサーバ設定](#)
 - [SMTPS\(SMTP over SSL\)設定](#)
 - [SSLプロトコル群](#)
 - [SSLプロトコル設定](#)
 - [SMTP Authentication設定](#)
 - [SMTP Authenticationユーザ設定](#)
 - [SMTP Authenticationパスワード設定](#)
 - [X-Mailerヘッダ設定](#)
 - [デバッグ設定](#)
 - [コネクションタイムアウト設定](#)
 - [タイムアウト設定](#)
 - [メールセッションプロパティ群](#)
 - [メールセッションプロパティ設定](#)
 - [コンテンツタイプ群](#)
 - [コンテンツタイプ設定](#)
 - [リスナ群設定](#)
 - [リスナ設定](#)
 - [メールヘッダ群設定](#)
 - [メールヘッダ設定](#)
 - [メールエンコード設定](#)
 - [文字コード設定](#)
 - [MIMEエンコード設定](#)
 - [ボディエンコード設定](#)

概要

メール送信に関する設定です。
デフォルトの設定としてjavamail-config.xmlが用意されています。
多言語対応として、javamail-config_{ロケールID}.xmlが存在します。

モジュール	メールモジュール
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/javamail-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/javamail-config/javamail-con WEB-INF/conf/javamail-config/{任意のファイ

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<javamail-config xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema
xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/mail/javamail/config/javan
xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/system/mail/javama

<smtp>
<smtp-server id="default" host="localhost" port="25">
<smtps enable="false" starttls="false"/>
<auth enable="false">
<user/>
<password/>
</auth>
<x-mailer>intra-mart MailSender ver 8.0</x-mailer>
<debug>>false</debug>
<connection-timeout>60000</connection-timeout>
<timeout>60000</timeout>
<session-properties>
<session-property name="mail.smtp.xxxx" value="yyyy"/>
</session-properties>
</smtp-server>
</smtp>

<content-type>
<file extension=".txt" content-type="text/plain"/>
<file extension=".gif" content-type="image/gif"/>
<file extension=".jpg" content-type="image/jpeg"/>
<file extension=".png" content-type="image/png"/>
</content-type>

<listener>
<listener-class>jp.co.intra_mart.foundation.mail.javamail.listener
</listener>

<encode>
<charset>UTF-8</charset>
<mime-encoding>B</mime-encoding>
<content-transfer-encoding>base64</content-transfer-en
</encode>

</javamail-config>

```

リファレンス

SMTPの設定

タグ
名

SMTPの設定を行います。

メールの送信時に使用するSMTPの設定を行います。

【設定項目】

```

<javamail-config>
<smtp>
<smtp-server id="default" host="localhost" port="25">
....
</smtp-server>
</smtp>
</javamail-config>

```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・ SMTPの各種設定を指定します。

設定する

内容

単位・型 なし

省略時の なし

デフォル

ト値

親タグ javamail-config

SMTPサーバ設定

タグ名

SMTPサーバの設定を行います。

複数のSMTPサーバの定義を行うことが可能です。

APIからのメール送信時にSMTPサーバが指定されていない場合、テナントIDと同じIDのSMTPサーバの設定が存在しない場合に利用され

【設定項目】

```
<javamail-config>
<smtp>
  <smtp-server id="default" host="localhost" port="25">
    ....
  </smtp-server>
</smtp>
</javamail-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容

SMTPサーバの設定を指定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値

なし

親タグ smtp

【属性】

属性名	説明
id	このSMTPサーバの設定を特定する一意のAPIからのメール送信時にこのIDを指定すを指定しなかった場合、テナントIDと同じは、標準設定（default）を利用します。
host	SMTPサーバのホスト名またはIPアドレス
port	SMTPサーバのポート名を指定します。

SMTPS(SMTP over SSL)設定

タグ名

SMTPS(SMTP over SSL)の設定を行います。

SMTPSを利用するにはJavaランタイムがSMTPサーバのSSL証明書を信頼している場合、javax.net.ssl.SSLHandshakeEx JavaランタイムがSMTPサーバのSSL証明書を信頼済みであることを確認

【設定項目】

```
<javamail-config>
<smtp>
  <smtp-server id="default" host="localhost" port="25">
    <smtps enable="true" starttls="false"/>
    ....
  </smtp-server>
</smtp>
</javamail-config>
```

必須項目

複数設定 ×

設定値・設定内容 SMTPS(SMTP over SSL)の設定を指定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ smtp-server

【属性】

属性名	説明
enable	SMTPサーバとの通信をSSLによる暗号化通信はfalseを設定してください。
starttls	TLS/STARTTLSによる暗号化通信を行いますを設定してください。 この設定を有効にする場合はenable属性も有効にしてください。

SSLプロトコル群

タグ名 protocols

SSLによる暗号化通信を行う際に利用するSSLプロトコル群の設定を行います。

【設定項目】

```
<javamail-config>
<smtp>
  <smtp-server id="default" host="localhost" port="25">
    <smtps enable="true" starttls="false">
      <protocols>
        ....
      </protocols>
    </smtp-server>
  </smtp>
</javamail-config>
```

必須項目 ×


複数設定 ×

設定値・設定内容 SSLプロトコル群を指定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ smtps

 **コラム**
本設定は 2018 Summer(Tiffany) 以降、利用可能です。

SSLプロトコル設定

タグ名 protocol

SSLによる暗号化通信を行う際に利用するSSLプロトコルの設定を行います。メールサーバによって許容するSSLプロトコルが制限されている場合に注意してください。

【設定項目】

```
<javamail-config>
<smtp>
  <smtp-server id="default" host="localhost" port="25">
    <smtps enable="true" starttls="false">
      <protocols>
        <protocol>TLSv1.2</protocol>
      </protocols>
    </smtps>
  </smtp-server>
</smtp>
</javamail-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容 SSLプロトコルを指定します。
2018年8月現在、指定可能な値は以下の通りです。

TLSv1

TLSv1.1

TLSv1.2

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ protocols



コラム

本設定は 2018 Summer(Tiffany) 以降、利用可能です。



コラム

SSLプロトコル設定を行わない場合に利用するSSLプロトコル
これは JavaMail 1.4.1 の仕様です。

SMTP Authentication設定

タグ auth
親タグ

SMTP Authenticationを利用する場合に指定する要素です。

【設定項目】

```
<javamail-config>
<smtp>
  <smtp-server id="default" host="localhost" port="25">
    <auth enable="false">
      ....
    </auth>
  </smtp-server>
</smtp>
</javamail-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容 SMTP Authenticationを利用する際の設定を指定する
内容

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ smtp-server

【属性】

属性名	説明
enable	SMTP Authenticationの利用設定を行います。場合はfalseを設定してください。

SMTP Authenticationユーザ設定

タグ名

SMTP Authenticationを利用する際のユーザを設定します。

【設定項目】

```
<javamail-config>
<smtp>
<smtp-server id="default" host="localhost" port="25">
  <auth enable="true">
    <user>USER</user>
    ...
  </auth>
</smtp-server>
</smtp>
</javamail-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定 SMTP Authenticationを利用する際のユーザを設定する内容

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 なし

親タグ auth

SMTP Authenticationパスワード設定

タグ名

SMTP Authenticationを利用する際のパスワードを設定します。

【設定項目】

```
<javamail-config>
<smtp>
<smtp-server id="default" host="localhost" port="25">
  <auth enable="true">
    ....
    <password>PASSWORD</password>
  </auth>
</smtp-server>
</smtp>
</javamail-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定 SMTP Authenticationを利用する際のパスワードを設定する内容

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 なし

親タグ auth

X-Mailerヘッダ設定

タグ名

X-Mailerメールヘッダに指定する値の設定を行います。

【設定項目】

```
<javamail-config>
<smtp>
  <smtp-server id="default" host="localhost" port="25">
    ...
    <x-mailer>intra-mart MailSender ver 8.0</x-mailer>
    ...
  </smtp-server>
</smtp>
</javamail-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定内容	メール送信時にX-Mailerヘッダとして送信する値を記述する内容
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	smtp-server

デバッグ設定

タグ名

JavaMailにデバッグオプションを設定します。

【設定項目】

```
<javamail-config>
<smtp>
  <smtp-server id="default" host="localhost" port="25">
    ...
    <debug>>false</debug>
    ...
  </smtp-server>
</smtp>
</javamail-config>
```

必須項目	○				
複数設定	×				
設定値・設定内容	<table border="0"> <tr> <td>false</td> <td>デバッグ設定を行いません。</td> </tr> <tr> <td>true</td> <td>デバッグ設定を行います。</td> </tr> </table>	false	デバッグ設定を行いません。	true	デバッグ設定を行います。
false	デバッグ設定を行いません。				
true	デバッグ設定を行います。				
単位・型	真偽値 (true/false)				
省略時のデフォルト値	なし				
親タグ	smtp-server				

コネクションタイムアウト設定

タグ名

SMTPサーバ接続時のコネクションタイムアウト値を設定します。

【設定項目】

```
<javamail-config>
<smtp>
  <smtp-server id="default" host="localhost" port="25">
    ...
    <connection-timeout>60000</connection-timeout>
    ...
  </smtp-server>
</smtp>
</javamail-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	SMTPサーバ接続時の接続タイムアウト値を-1が設定された場合は接続タイムアウトは設定可能な数値の単位はミリ秒です。
単位・型	数値 (1以上 または -1)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	smtp-server

タイムアウト設定

タグ名

メール送信時におけるタイムアウト値を設定します。

【設定項目】

```
<javamail-config>
<smtp>
  <smtp-server id="default" host="localhost" port="25">
    ...
    <timeout>60000</timeout>
    ...
  </smtp-server>
</smtp>
</javamail-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	メール送信時におけるタイムアウト値を設定します。-1が設定された場合はタイムアウトは発生しません。設定可能な数値の単位はミリ秒です。
単位・型	数値 (1以上 または -1)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	smtp-server

メールセッションプロパティ群

タグ名

JavaMailによるメール操作実行時のメールセッションのプロパティ群を

【設定項目】

```
<javamail-config>
<smtp>
  <smtp-server id="default" host="localhost" port="25">
  ...
  <session-properties>
  ...
  </session-properties>
  ...
</smtp-server>
</smtp>
</javamail-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・ メールセッションのプロパティ群。

設定する

内容

単位・型 なし

省略時の

デフォル

ト値

親タグ smtp-server



コラム

本設定は 2018 Summer(Tiffany) 以降、利用可能です。

メールセッションプロパティ設定

タグ session-property

名

JavaMailによるメール操作実行時のメールセッションのプロパティを設定
JavaMailの仕様により定義されているプロパティの値を設定してください

【設定項目】

```
<javamail-config>
<smtp>
  <smtp-server id="default" host="localhost" port="25">
  ...
  <session-properties>
    <session-property name="mail.smtp.xxxx" value="yyyy"/>
  </session-properties>
  ...
</smtp-server>
</smtp>
</javamail-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・ メールセッションのプロパティ。

設定する

内容

単位・型 なし

省略時の

デフォル

ト値

親タグ session-properties

【属性】

属性名	説明	必須
name	メールセッションのプロパティ名を設定します。	<input type="radio"/>
value	メールセッションのプロパティ値を設定します。	<input type="radio"/>

i コラム
本設定は 2018 Summer(Tiffany) 以降、利用可能です。

i コラム
メール送信時には一部のプロパティが自動的にメールセッションに自動的に付与されたメールセッションプロパティと本設定のメ

! 注意
JavaMailの仕様で定義されている各プロパティの挙動について

コンテンツタイプ群

タグ名
content-type

メール送信時に添付するファイルのコンテンツタイプ群の設定を行います。

【設定項目】

```
<javamail-config>
<content-type>
...
</content-type>
</javamail-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	メール送信時に添付するファイルのコンテンツタイプ
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	javamail-config

コンテンツタイプ設定

タグ名
file

メール送信時に添付するファイルのコンテンツタイプの設定を行います。コンテンツタイプの設定は添付ファイルの拡張子に対しての設定です。

【設定項目】

```
<javamail-config>
<content-type>
<file extension=".txt" content-type="text/plain"/>
<file extension=".gif" content-type="image/gif"/>
<file extension=".jpg" content-type="image/jpeg"/>
<file extension=".png" content-type="image/png"/>
</content-type>
</javamail-config>
```

必須項目	<input type="radio"/>
複数設定	<input type="radio"/>

設定値・設定する内容	メール送信時に添付するファイルのコンテンツタイプ
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	content-type

【属性】

属性名	説明
extension	拡張子を指定します。必ずピリオド (.) で始まる形 い。
content-type	コンテンツタイプ属性です。拡張子に対応したコン 텐츠。

リスナ群設定

タグ名

メール送信時に動作するリスナ群を指定します。

【設定項目】

```
<javamail-config>
<listener>
  <listener-class></listener-class>
</listener>
</javamail-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	メール送信時に動作するリスナ群を指定します。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	javamail-config

リスナ設定

タグ名

メール送信時に動作するリスナを指定します。
指定するリスナは、jp.co.intra_mart.foundation.mail.javamail.listener
デフォルトでは、半角カナを全角カナに変換する為のリスナ (jp.co.intl)

【設定項目】

```
<javamail-config>
<listener>
  <listener-class></listener-class>
</listener>
</javamail-config>
```

必須項目	○
複数設定	○

設定値・設定内容 メール送信時に動作するリスナを指定します。

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 なし

親タグ listener

メールヘッダ群設定

タグ名 mail-headers

メールヘッダ群を指定します。

【設定項目】

```
<javamail-config>
<mail-headers>
...
</mail-headers>
</javamail-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容 メール送信時に付与されるメールヘッダ群を指定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ javamail-config

メールヘッダ設定

タグ名 header

メール送信時に付与する任意のメールヘッダを指定します。同じヘッダが複数指定された場合は、最下行に指定されたものがヘッダ API (jp.co.intra_mart.foundation.mail.javamail.StandardMail#ad

【設定項目】

```
<javamail-config>
<mail-headers>
  <header name="Error-To" value="xxxx@intra-mart.jp" />
</mail-headers>
</javamail-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容 メール送信時に付与する任意のメールヘッダを指定します。

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 なし

親タグ mail-headers

【属性】

属性名	説明	必須	デフォルト値
name	メールヘッダ名を設定します。	○	なし
value	メールヘッダ値を設定します。	○	なし

メールエンコード設定

タグ名

ロケールに対応したメールエンコードに関する設定を行います。
locale属性が設定されていない要素は、ロケールに対応したメールエン

【設定項目】

```
<javamail-config>
<encode>
<charset>UTF-8</charset>
<mime-encoding>B</mime-encoding>
<content-transfer-encoding>base64</content-transfer-en
</encode>
</javamail-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ○

設定値・設定 ロケールに対応したメールエンコードに関する設定をする内容

親タグ javamail-config

【属性】

属性名	説明	必須	デフォルト値
locale	ロケールIDを指定します。	×	なし

文字コード設定

タグ名

文字コードの指定を行います。

【設定項目】

```
<javamail-config>
<encode>
<charset>UTF-8</charset>
...
</encode>
</javamail-config>
```

必須項目 ○

複数設定 ×

設定 文字コードの指定を行います。

値・設定する
内容

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 なし

親タグ encode

MIMEエンコード設定

タグ mime-encoding
名

MIMEエンコードの指定を行います。
指定可能な値は B または Q です。

【設定項目】

```
<javamail-config>
<encode>
...
<mime-encoding>B</mime-encoding>
...
</encode>
</javamail-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する
内容 MIMEエンコードの指定を行います。

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 なし

親タグ encode

ボディエンコード設定

タグ content-transfer-encoding
名

ボディのエンコードの指定を行います。
7bit、8bit、base64、または、quoted-printable 等の値を指定します

【設定項目】

```
<javamail-config>
<encode>
...
<content-transfer-encoding>base64</content-transfer-en
</encode>
</javamail-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する
内容 ボディのエンコードの指定を行います。

単位・型 文字列

省略時の
デフォルト値

親タグ encode

リクエスト制御設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [サーバの同時処理の制限](#)
 - [リクエストの処理制限](#)
 - [リクエストクエリの制限](#)
 - [リクエストクエリの長さ制限](#)
 - [リクエスト処理の直列化](#)
 - [直列処理を行うリクエストクエリの制限](#)
 - [直列処理を行うリクエストクエリの長さ制限](#)

概要

リクエスト制御の設定です。
リクエストの同時処理制限やクエリの長さによるページ処理を制御する。

モジュール	Webモジュール
フォーマット ファイル(xsd)	WEB-INF/schema/request-control-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/request-control-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<request-control-config
  xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/servlet/filter/xml/request_
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/system/servlet/filter
<thread max="32"/>
<accept queue="100">
  <query>
    <length max="0"/>
  </query>
</accept>
<synchronized queue="8">
  <query>
    <length min="1048576"/>
  </query>
</synchronized>
</request-control-config>
```

リファレンス

サーバの同時処理の制限

タ thread
グ
名

サーバの同時処理制限を指定します。
制限数を超えるリクエストを受け付けた場合、制限数を超えたリクエストmaxに0を指定するとリクエストの同時処理数を制限しません。

【設定項目】

```
<request-control-config>
  <thread max="32"/>
</request-control-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・ 設定する
内容

単位・型 なし

省略時の
デフォル
ト値

親タグ request-control-config

【属性】

属性名	説明	必須	デフォルト値
max	サーバの最大同時処理数を設定します。	<input type="radio"/>	なし

リクエストの処理制限

タグ
名

サーバが受け付けたリクエストの処理制限を指定します。
同時処理数を超えた場合の処理待ちを行うリクエストの最大数やリクエ

【設定項目】

```
<request-control-config>
<accept queue="100">
...
</accept>
</request-control-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・ 設定する
内容

単位・型 なし

省略時の
デフォル
ト値

親タグ request-control-config

【属性】

属性名	説明	必須
queue	処理待ちを行うリクエストの最大数を設定します。	<input type="radio"/>

リクエストクエリの制限

タグ
名

リクエストクエリの制限を指定します。
リクエストクエリに対する制限を行います。

【設定項目】

```
<request-control-config>
<accept queue="100">
<query>
...
</query>
</accept>
</request-control-config>
```

必須項目 複数設定

設定値・設定する内容 リクエストクエリの制限を設定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ accept

リクエストクエリの長さ制限

タグ名 length

リクエストクエリの長さ制限を指定します。

リクエストクエリの長さがこの設定値よりも大きい場合は、HTTPレスポンスに 0 を指定するとリクエストクエリの長さによる制限を行いません。

【設定項目】

```
<request-control-config>
  <accept>
    <query>
      <length max="0">
        ...
      </length>
    </query>
  </accept>
</request-control-config>
```

必須項目 複数設定

設定値・設定する内容 リクエストクエリの長さ制限を設定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ query

【属性】

属性名	説明
max	この設定値に指定された長さよりリクエストクエリを処理を行います。

リクエスト処理の直列化

タグ名 synchronized

クエリサイズの大きいリクエストの処理に関する制限を指定します。

サイズの大きいリクエストを処理する場合に、リソース不足によるエラー。この設定を行うとサイズの大きいリクエストは受付順に直列処理されます。

【設定項目】

```
<request-control-config>
  <synchronized queue="8">
    ...
  </synchronized>
</request-control-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定内容	リクエストの処理制限を設定します。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	request-control-config

【属性】

属性名	説明	必須
queue	処理待ちを行うリクエストの最大数を設定します。	○

直列処理を行うリクエストクエリの制限

タグ名

直列処理を行うリクエストのクエリの制限を指定します。
この設定値を基準に並列処理するリクエストと直列処理するリクエスト

【設定項目】

```
<request-control-config>
<synchronized queue="8">
  <query>
    ...
  </query>
</synchronized>
</request-control-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定内容	直列処理を行うリクエストのクエリの制限を設定します。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	synchronized

直列処理を行うリクエストクエリの長さ制限

タグ名

直列処理を行うリクエストのクエリの長さを指定します。
minに指定されたサイズよりリクエストクエリのサイズが小さいクエリ

【設定項目】

```
<request-control-config>
<synchronized>
  <query>
    <length min="1048576"/>
  </query>
</synchronized>
</request-control-config>
```


必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定	直列処理を行うリクエストのクエリの長さを設定します する内容
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	query

【属性】

属性名	説明
min	直列処理を行うリクエストのクエリの長さを設定します。

レスポンスヘッダ設定

項目
<ul style="list-style-type: none"> • 概要 • リファレンス <ul style="list-style-type: none"> ◦ 静的なヘッダの指定 ◦ 動的なヘッダの指定

概要

レスポンスヘッダの設定です。
レスポンスに任意のヘッダを追加する機能を提供します。

モジュール	Webモジュール
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/response-header-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/response-header-config/default

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<response-header-config
xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/servlet/filter/xml/response_f
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/system/servlet/filter/
<!-- Avoid IE Content Sniffing XSS Attacks -->
<!--
<static-response-header name="X-Content-Type-Options" value=
-->
</response-header-config>
```

リファレンス

静的なヘッダの指定

タグ static-response-header
名

静的なレスポンスヘッダを指定します。

【設定項目】

```
<response-header-config>
  <static-response-header name="X-Content-Type-Options" val
</response-header-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ○

設定値・静的なレスポンスヘッダを設定します。
設定する
内容

単位・型 なし

 省略時の
デフォル
ト値

親タグ response-header-config

【属性】

属性名	説明
name	ヘッダ名です。
value	ヘッダ値です。
type	ヘッダ値の型です。text, int, date のい
format	type 属性に date を指定した際、value が date の value は long を指定します。
useAddHeader	ヘッダを追加するかどうかのフラグです。

動的なヘッダの指定

 タグ dynamic-response-header
名

動的なレスポンスヘッダを指定します。

【設定項目】

```
<response-header-config>
  <dynamic-response-header name="X-Dynamic-Sample" class="Sample">
</response-header-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ○

設定値・動的なレスポンスヘッダを設定します。
設定する
内容

単位・型 なし

 省略時の
デフォル
ト値

親タグ response-header-config

【属性】

属性名	説明
name	ヘッダ名です。
class	ヘッダ値を返すJavaのクラス名です。jp.c... たクラスを指定してください。
type	ヘッダ値の型です。text, int, date のい
useAddHeader	ヘッダを追加するかどうかのフラグです。

IM-Propagation 設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [ロック時待機動作の設定](#)
 - [デッドロック検知時間の設定](#)

概要

IM-Propagation 基本機能の設定です。

モジュール	IM-Propagation
フォーマット ファイル(xsd)	WEB-INF/schema/propagation-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/propagation-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<propagation-config xmlns="http://www.intra-mart.jp/propagation-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/propagation-config"
  <each-thread-sleep>100</each-thread-sleep>
  <max-thread-sleep>1000</max-thread-sleep>
</propagation-config>
```

リファレンス

ロック時待機動作の設定

タグ名
each-thread-sleep

データの受信側で IM-Propagation を使用して次のデータ送信を行う場

【設定項目】

```
<propagation-config>
  <each-thread-sleep>100</each-thread-sleep>
</propagation-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容 待機する時間

単位・型 数値[ミリ秒] (0 - 1000)

省略時のデフォルト値 100

親タグ propagation-config

注意

通常はデフォルト値（設定なし）のまま使用して、IM-Propa

数値を小さく設定すると、ロック確認の間隔が短くなり処理が
数値を大きく設定すると、ロック確認の間隔が長くなりサーバ

デッドロック検知時間の設定

タグ名 max-thread-sleep

次のデータ受信先がロック状態の場合に最大で待機する時間を設定しま
この時間を超えた場合、デッドロックが発生したとみなされ、IM-Propa

【設定項目】

```
<propagation-config>
<max-thread-sleep>1000</max-thread-sleep>
</propagation-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定内容 デッドロック判定までの時間

単位・型 数値[ミリ秒] (0 - 60000)

省略時のデフォルト値 1000

親タグ propagation-config

注意

通常はデフォルト値（設定なし）のまま使用して、IM-Propa

数値を小さく設定すると、デッドロック検知が顕著になりデー
数値を大きく設定すると、デッドロック検知までの時間が長く

IM-Propagation 受信側設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [受信データ定義の設定](#)
 - [受信側データ変換クラスの設定](#)
 - [データ変換クラスパラメータの設定](#)
 - [データ変換クラスのパラメータ値の設定](#)
 - [受信側データ処理クラスの設定](#)
 - [データ処理クラスパラメータの設定](#)
 - [データ処理クラスのパラメータ値の設定](#)

概要

IM-Propagation を利用してデータを伝搬するための受信側を設定しま
受信するデータを格納するクラスと、データ変換クラスを紐付けるため

IM-Propagation を利用してデータを他モジュールから伝搬するため

データを伝搬する際に他モジュールとの依存関係を切り離す必要がある。

データの受信側は IM-Propagation 用のモデルから自モジュールで定義
そこで、データをコピーする作業を行うデータ変換クラスの設定を行い

また、受信したデータをもとに処理を行うデータ処理クラスの設定も同

モジュール	IM-Propagation
フォーマットファイル (xsd)	WEB-INF/schema/propagation-receivers
設定場所	WEB-INF/conf/propagation-receivers-co

注意
ファイル名は、他のモジュールが提供しているものと重複しな

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<propagation-receivers-config xmlns="http://www.intra-mart.jp
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/propagation/recei
<receiver source="jp.co.intra_mart.foundation.sample.model.Sar
<decoder class="jp.co.intra_mart.system.sample.propagation.S
  <params>
    <param key="key1">value1</param>
    <param key="key2">value2</param>
  </params>
</decoder>
<procedure class="jp.co.intra_mart.system.sample.propagation
  <params>
    <param key="key1">value1</param>
    <param key="key2">value2</param>
  </params>
</procedure>
</receiver>
</propagation-receivers-config>
```

リファレンス

受信データ定義の設定

タグ receiver
名

IM-Propagation を使用してデータを受信する側が受信するデータの型

【設定項目】

```
<propagation-receivers-config>
  <receiver source="jp.co.intra_mart.foundation.sample.model.Sar
  . . . . .
</receiver>
</propagation-receivers-config>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する 内容	なし
単位・型	なし
省略時の デフォルト値	なし
親タグ	propagation-receivers-config

【属性】

属性名	説明
source	データ送信側が IM-Propagation に渡すクラスです。
operationType	データ送信側が IM-Propagation に渡すデータの

コラム
 source 属性には IM-Propagation 用のデータが格納されたク。これにより、データの送信側を意識せず、常に共通的なデータ

注意
 データ送信側設定の sender タグに設定された source と operationType が指定されている場合は

受信側データ変換クラスの設定

タグ名

IM-Propagation 用のデータを受信側のデータに変換するための、データ

【設定項目】

```
<propagation-receivers-config>
  <receiver source="jp.co.intra_mart.foundation.sample.model.Sar
    <decoder class="jp.co.intra_mart.system.sample.propagation.S
  </receiver>
</propagation-receivers-config>
```

必須

複数

設定 なし

値・設定する内容

単位・型

省略時のデフォルト値

親タグ receiver

【属性】

属性名	説明	必須	デフォルト値
class	データ変換クラスの完全修飾クラス名です。	<input type="radio"/>	なし

注意
 class 属性に指定したクラスが見つからない場合や適切なイン。この場合、データを受信することができませんので注意してく

タグ名

データ変換クラスに受け渡す任意のパラメータ情報を設定します。

【設定項目】

```
<propagation-receivers-config>
  <receiver source="jp.co.intra_mart.foundation.sample.model.Sar
    <decoder class="jp.co.intra_mart.system.sample.propagation.S
      <params>
        . . . . .
      </params>
    </decoder>
  </receiver>
</propagation-receivers-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容

単位・型

省略時のデフォルト値

親タグ

データ変換クラスのパラメータ値の設定

タグ名

データ変換クラスに受け渡す任意のパラメータ情報を設定します。

【設定項目】

```
<propagation-receivers-config>
  <receiver source="jp.co.intra_mart.foundation.sample.model.Sar
    <decoder class="jp.co.intra_mart.system.sample.propagation.S
      <params>
        <param key="key1">value1</param>
        <param key="key2">value2</param>
      </params>
    </decoder>
  </receiver>
</propagation-receivers-config>
```

必須項目

複数設定

設定 任意のパラメータ値
 値・設定する
 内容

単位・文字列
 型

省略時のデフォルト値
 のデフォルト値

親タグ params

【属性】

属性名	説明	デフォルト値	必須
key	パラメータ値を取得するためのキー。		<input type="radio"/> なし

受信側データ処理クラスの設定

タグ名
 procedure
 グ
 名

データ変換クラスによって変換されたデータを処理するための、データ

【設定項目】

```
<propagation-receivers-config>
  <receiver source="jp.co.intra_mart.foundation.sample.model.Sar
    <procedure class="jp.co.intra_mart.system.sample.propagation
  </receiver>
</propagation-receivers-config>
```

必須
 項目

複数 ×
 設定

設定なし
 値・設定する
 内容

単位・なし
 型

省略時のデフォルト値
 のデフォルト値

親タグ receiver
 グ

【属性】

属性名	説明	デフォルト値	必須
class	データ処理クラスの完全修飾クラス名です。		<input type="radio"/> なし

注意
 class 属性に指定したクラスが見つからない場合や適切なインポートがない場合、データを受信することができませんので注意してください。

タ
グ
名

データ処理クラスに受け渡す任意のパラメータ情報を設定します。

【設定項目】

```
<propagation-receivers-config>
  <receiver source="jp.co.intra_mart.foundation.sample.model.Sar
    <procedure class="jp.co.intra_mart.system.sample.propagation
      <params>
        . . . . .
      </params>
    </procedure>
  </receiver>
</propagation-receivers-config>
```

必須 ×
項目

複数 ×
設定

設定 なし
値・
設定
する
内容

単 なし
位・
型

省略 なし
時の
デ
フォ
ルト
値

親タ procedure
グ

データ処理クラスのパラメータ値の設定

タ param
グ
名

データ処理クラスに受け渡す任意のパラメータ情報を設定します。

【設定項目】

```
<propagation-receivers-config>
  <receiver source="jp.co.intra_mart.foundation.sample.model.Sar
    <procedure class="jp.co.intra_mart.system.sample.propagation
      <params>
        <param key="key1">value1</param>
        <param key="key2">value2</param>
      </params>
    </procedure>
  </receiver>
</propagation-receivers-config>
```

必須項 ×
目

複数設 ○
定

設定 任意のパラメータ値

値・設定する
内容

単位・文字列
型

省略時 空文字
のデフォルト値

親タグ params

【属性】

属性名	説明	デフォルト値	必須
key	パラメータ値を取得するためのキー。		<input type="radio"/> なし

IM-Propagation 送信側設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [送信データ定義の設定](#)
 - [送信側データ変換クラスの設定](#)
 - [データ変換クラスパラメータの設定](#)
 - [データ変換クラスのパラメータ値の設定](#)
 - [必須呼出データ処理クラスの設定](#)

概要

IM-Propagation を利用してデータを伝搬するための送信側を設定し、送信するデータを格納するクラスと、データ変換クラスを紐付けるため

IM-Propagation を利用してデータを他モジュールへ伝搬するためには、

データを伝搬する際に他モジュールとの依存関係を切り離す必要がある。データの送信側は自モジュールで定義されている独自のモデルから、IM
そこで、データをコピーする作業を行うデータ変換クラスの設定を行い

モジュール	IM-Propagation
フォーマットファイル	WEB-INF/schema/propagation-senders-conf(xsd)
設定場所	WEB-INF/conf/propagation-senders-conf

 注意

ファイル名は、他のモジュールが提供しているものと重複しな

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<propagation-senders-config xmlns="http://www.intra-mart.jp/
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/propagation/send
<sender source="jp.co.intra_mart.foundation.sample.model.Sam
<encoder class="jp.co.intra_mart.system.sample.propagation.S
<params>
<param key="key1">value1</param>
<param key="key2">value2</param>
</params>
</encoder>
<required-procedure class="jp.co.intra_mart.system.sample.p
</sender>
</propagation-senders-config>
```

リファレンス

タグ名

IM-Propagation を使用してデータを送信する側が送信するデータの型、

【設定項目】

```
<propagation-senders-config>
<sender source="jp.co.intra_mart.foundation.sample.model.SampleModel">
</sender>
</propagation-senders-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容

単位・型

省略時のデフォルト値

親タグ propagation-senders-config

【属性】

属性名	説明
source	データ送信側が IM-Propagation に渡すクラスの。
operationType	データ送信側が IM-Propagation に渡すデータの

コラム
operationType 属性には IM-Propagation によりいくつかの自モジュール内で完結する伝搬処理の場合は、独自の operati

注意
source 属性に定義されていないクラスが IM-Propagation に送られるデータの定義は必ず設定ファイルに記述してください

送信側データ変換クラスの設定

タグ名

送信側のデータを IM-Propagation 用のデータに変換するための、デー

【設定項目】

```
<propagation-senders-config>
<sender source="jp.co.intra_mart.foundation.sample.model.SampleModel">
<encoder class="jp.co.intra_mart.system.sample.propagation.SampleEncoder">
</encoder>
</sender>
</propagation-senders-config>
```

必須

項目

複数

設定

設定 なし

値・

設定

する

内容

単 なし

位・

型

省略 なし

時の

デ

フォ

ルト

値

親タ sender

グ

【属性】

属性名	説明	必須	デ ル
class	データ変換クラスの完全修飾クラス名です。	<input type="radio"/>	な

注意
class 属性に指定したクラスが見つからない場合や適切なイン

データ変換クラスパラメータの設定

タ params

グ

名

データ変換クラスに受け渡す任意のパラメータ情報を設定します。

【設定項目】

```
<propagation-senders-config>
<sender source="jp.co.intra_mart.foundation.sample.model.Sam
<encoder class="jp.co.intra_mart.system.sample.propagation.S
<params>
. . . . .
</params>
</encoder>
</sender>
</propagation-senders-config>
```

必須

項目

複数

設定

設定 なし

値・

設定

する

内容

単 なし

位・

型

省略 なし
 時の
 デ
 フォ
 ルト
 値

親タグ encoder

データ変換クラスのパラメータ値の設定

タグ param
 グ
 名

データ変換クラスに受け渡す任意のパラメータ情報を設定します。

【設定項目】

```
<propagation-senders-config>
<sender source="jp.co.intra_mart.foundation.sample.model.Sam
<encoder class="jp.co.intra_mart.system.sample.propagation.S
  <params>
    <param key="key1">value1</param>
    <param key="key2">value2</param>
  </params>
</encoder>
</sender>
</propagation-senders-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ○

設定 任意のパラメータ値
 値・設定する
 内容

単位・文字列
 型

省略時のデフォルト値
 フォールト値

親タグ params

【属性】

属性名	説明	デフォルト値	必須
key	パラメータ値を取得するためのキー。	なし	○

必須呼出データ処理クラスの設定

タグ required-procedure
 グ
 名

IM-Propagation でデータを必ず受け取って欲しい受信側のデータ処理:

【設定項目】

```
<propagation-senders-config>
<sender source="jp.co.intra_mart.foundation.sample.model.Sam
<required-procedure class="jp.co.intra_mart.system.sample.p
</sender>
</propagation-senders-config>
```

必須 ×
項目

複数 ○
設定

設定 なし
値・
設定
する
内容

単 なし
位・
型

省略 なし
時の
デ
フォ
ルト
値

親タ sender
グ

【属性】

属性名	説明
-----	----

class	データ受信側のデータ処理クラスの完全修飾クラス名です。
--------------	-----------------------------



注意

class 属性に指定したクラスに対してデータが送信されなかつ

システム管理者用スクリプト開発モデルルーテ

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [ファイルマッピング設定](#)
 - [フォルダマッピング設定](#)

概要

システム管理者用のURLに対して、スクリプト開発モデルの処理のマッ

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイ ル(xsd)	WEB-INF/schema/admin-routing-jssp-con f(xsd)
設定場所	WEB-INF/conf/admin-routing-jssp-config/

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<admin-routing-jssp-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/router/admin/admin-routing-jss
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/router/admin/adm
<file-mapping path="/system/application/main" page="system/ap
<file-mapping path="/system/application/list" page="system/ap
<file-mapping path="/system/application/process/create" page=
<file-mapping path="/system/application/process/update" page=
<file-mapping path="/system/application/process/delete" page=
</admin-routing-jssp-config>
```

リファレンス

ファイルマッピング設定

タ file-mapping
グ
名

URLとスクリプト開発モデルのプログラムのマッピングを行います。

【設定項目】

```
<admin-routing-jssp-config>
<file-mapping path="/system/application/main" page="system/ap
<file-mapping path="/system/application/list" page="system/ap
</admin-routing-jssp-config>
```

必須項 ×
目

複数設 ○
定

設定 なし
値・設
定する
内容

単位・ なし
型

省略時のデフォルト値	なし
親タグ	admin-routing-jssp-config

【属性】

属性名	説明
path	マッピングを行うURLを指定します。 値の末尾にワイルドカード「*」を指定し、値に{<識別子>}を記述することでURLの中で使用可能です。 例： /sample/view/{dataId}
page	マッピングを行うスクリプト開発モデルの
action	page属性に指定されたプログラムの実行 from属性を指定した場合はfrom属性に指 合はpage属性に指定されたスクリプト開
from	action属性で指定した関数を呼び出すプロ

i コラム

page, from 属性で指定するスクリプト開発モデルのプログラ
スクリプト開発モデルプログラムのソースディレクトリからの
デフォルトではWEB-INF/jssp/srcからの相対パス形式です。

フォルダマッピング設定

タグ名	folder-mapping
-----	----------------

URLのパターンとスクリプト開発モデルのプログラムのマッピングを行
特定のスクリプト開発モデルのプログラムのディレクトリ配下すべての

【設定項目】

```
<admin-routing-jssp-config>
<folder-mapping path-prefix="/system/application" folder="sys
</admin-routing-jssp-config>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	なし
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	admin-routing-jssp-config

【属性】

属性名	説明
path-prefix	マッピングを行うURLを指定します。
folder	マッピングを行うスクリプト開発モデルのプログラ します。

注意

この設定を使用するとルーティングに時間が掛かる、スクリプト
 実行されません。
 使用するスクリプト開発モデルのプログラムに対してfile-map

システム管理者用IM-JavaEE Frameworkルー

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [サービスマッピング設定](#)
 - [アプリケーションマッピング設定](#)

概要

システム管理者用のURLに対して、IM-JavaEE Frameworkの処理のマ

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイル	WEB-INF/schema/admin-routing-service (xsd)
設定場所	WEB-INF/conf/admin-routing-service-co

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<admin-routing-service-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/router/admin-routing-service-co
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/router/admin-rout
  <service-mapping path="/system/application/main" application:
</admin-routing-service-config>
```

リファレンス

サービスマッピング設定

タグ名 service-mapping

URLとIM-JavaEE Frameworkのプログラムのマッピングを行います。

【設定項目】

```
<admin-routing-service-config>
  <service-mapping path="/system/application/main" application:
</admin-routing-service-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ○

設定値・なし
 設定する
 内容

単位・型 なし

省略時の
 デフォル
 ト値

親タグ admin-routing-service-config

【属性】

属性名	説明
path	マッピングを行うURLを指定します。 値の末尾にワイルドカード「*」を指定するこ 値に {<識別子>} を記述することでURLの途 で取得可能です。 例： /sample/view/{dataId}
application	マッピングを行うIM-JavaEE Frameworkのア
service	マッピングを行うIM-JavaEE Frameworkのサー

アプリケーションマッピング設定

タグ名	application-mapping; admin-routing-service- config
-----	---

URLのパターンとIM-JavaEE Frameworkのアプリケーションのマッピ
特定のIM-JavaEE Frameworkのアプリケーションが持つすべてのサー

【設定項目】

```
<admin-routing-service-config>
<application-mapping path-prefix="/system/application" applic
</admin-routing-service-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ○

設定値・なし

設定する

内容

単位・型 なし

省略時の

デフォル

ト値

親タグ admin-routing-service-config

【属性】

属性名	説明
path-prefix	マッピングを行うURLを指定します。
application	マッピングを行うIM-JavaEE Frameworkのプロク 定します。

注意

この設定を使用するとルーティングに時間が掛かる、IM-JavaE
されません。
使用するIM-JavaEE Frameworkのサービスに対してservice-

システム管理者用サブリットルーティング設

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [サブリットマッピング設定](#)

概要

システム管理者用のURLに対して、フォワード先のサブリットパスへ

モジュール

テナント管理機能

フォーマットファイル WEB-INF/schema/admin-routing-servlet-
(xsd)

設定場所 WEB-INF/conf/admin-routing-servlet-cor

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<admin-routing-servlet-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/router/admin-routing-servlet-co
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/router/admin-ro
  <servlet-mapping path="/system/application/main" servlet="ap
</admin-routing-servlet-config>
```

リファレンス

サーブレットマッピング設定

タグ名
servlet-mapping

URLとサーブレットパスのマッピングを行います。

【設定項目】

```
<admin-routing-servlet-config>
  <servlet-mapping path="/user/application/main" servlet="appli
</admin-routing-servlet-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ○

設定値・設定する内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ admin-routing-servlet-config

【属性】

属性名	説明
path	マッピングを行うURLを指定します。 値の末尾にワイルドカード「*」を指定すること、 値に {<識別子>} を記述することでURLの途中 HttpServletRequest#getAttribute()で取得可 例： /sample/view/{dataId}
servlet	マッピングを行うサーブレットパスを指定します

認可判断モジュール設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - 認可判断に使用する認可判断モジュールの構成
 - 使用する実装クラスの設定

認可判断に使用する認可判断モジュールの構成と、結果を取りまとめる。この設定による動作の詳細については認可仕様書も合わせて参照してください。

モジュール	テナント管理機能
フォーマット ファイル(xsd)	WEB-INF/schema/authz-decision-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/authz-decision-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<authz-decision-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-decision-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-decision-config
  <decision-config name="default" combinator="permit-override"
    <module class="jp.co.intra_mart.foundation.authz.services.de
    <module class="jp.co.intra_mart.foundation.authz.services.de
    <module class="jp.co.intra_mart.foundation.authz.services.de
  </decision-config>
</authz-decision-config>
```

リファレンス

認可判断に使用する認可判断モジュールの構成

タグ
名

子要素に認可判断に使用するモジュールを <module> タグとして列挙。認可判断に使用するモジュールの列挙と、複数のモジュールの下した判

【設定項目】

```
<authz-decision-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-decision-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-decision-config
  <decision-config name="default" combinator="permit-override"
  ....
  </decision-config>
</authz-decision-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容

単位・型

省略時のデフォルト値

親タグ authz-decision-config

【属性】

属性名	説明
name	この設定の名前です。将来の拡張のために

属性名	説明
combinator	<p>子要素に指定する情報 <module> タグに <code>NotApplicable</code>)。その結果をどのように設定できる値は以下の3種類です</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>permit-overrides</code> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 上から順に評価して最初に <code>Permit</code> • <code>deny-overrides</code> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 上から順に評価して最初に <code>Deny</code> / • <code>first-applicable</code> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 上から順に評価して最初に <code>Permit</code>

使用する実装クラスの設定

タ グ
名

使用する認可判断モジュールのクラス名を設定します。認可判断モジュール



注意

認可判断機能は<module>タグの記述された順番にモジュール

【設定項目】

```

<authz-decision-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-decision-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-decision-config"
  <decision-config name="default" combinator="permit-override"
    <module class="jp.co.intra_mart.foundation.authz.services.default" />
  </decision-config>
</authz-decision-config>
    
```

必須
項目

複数
設定

設定
値・
設定
する
内容

単
位・
型

省略
時の
デ
フォ
ルト
値

親タ
グ decision-config

【属性】

属性名	説明
class	認可判断モジュールとして使用するクラスの完全修飾名を設定します。

項目

- 概要
- リファレンス
 - 認可ポリシー更新処理設定
 - キャッシュ更新エラー設定 (認可ポリシー)
 - 認可リソースグループ更新処理設定
 - キャッシュ更新エラー設定 (認可リソースグループ)
 - リソースグループバックアップ設定
 - バックアップ先パス設定
 - バックアップ最大件数設定
 - Excelインポート設定
 - Excelインポート処理結果配置パス設定
 - Excelインポートコミット間隔設定
 - 未設定認可ポリシー検証設定
 - リソースグループ・リソース存在検証設定
 - サブジェクトグループ存在検証設定
 - Excelインポート処理の処理結果ファイル数設定
 - Excelエクスポート設定
 - テンプレートファイル設定
 - Excelエクスポートファイル配置パス設定
 - Excelエクスポートファイル名設定
 - Excelエクスポートファイル拡張子設定
 - Excelエクスポート保存ファイル数設定
 - 保護パスワード設定

概要

認可設定画面の設定を行います。

モジュール	テナント管理機能
フォーマット ファイル(xsd)	WEB-INF/schema/authz-editor-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/authz-editor-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<authz-editor-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-editor-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-edito
<policy-update>
  <cache-update-error rollback="true" />
</policy-update>
<resource-group-update>
  <cache-update-error rollback="true" />
</resource-group-update>
<resource-group-backup>
  <path>im_authz/backup</path>
  <max-size>10</max-size>
</resource-group-backup>
<xlsx-import>
  <path>im_authz/xlsx_import</path>
  <commit-count>0</commit-count>
  <validate-inherits>>false</validate-inherits>
  <validate-resource-exists>>true</validate-resource-exists>
  <validate-subject-exists>>false</validate-subject-exists>
  <max-size>10</max-size>
</xlsx-import>
<xlsx-export>
  <template-file>products/im_authz_xlsx_import_export/authz_t
  <path>im_authz/xlsx_export</path>
  <file-name>yyyyMMdd_HHmms</file-name>
  <file-ext>.xlsx</file-ext>
  <max-size>10</max-size>
  <xlsx-password>intramart</xlsx-password>
</xlsx-export>
</authz-editor-config>
```

認可ポリシー更新処理設定

タグ名 `policy-update`

認可ポリシー更新時の処理の設定を行います。

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<policy-update>
...
</policy-update>
</authz-editor-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ `authz-editor-config`

キャッシュ更新エラー設定（認可ポリシー）

タグ名 `cache-update-error`

認可ポリシーのキャッシュ更新によるエラー時の挙動について設定します。

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<policy-update>
  <cache-update-error rollback="true" />
</policy-update>
</authz-editor-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容 なし

単位・型 なし

省略 なし
 時の
 デ
 フォ
 ルト
 値

親タグ policy-update
 グ

【属性】

属性名	説明
rollback	キャッシュ更新失敗し認可ポリシーの更新をロール 定します。

認可リソースグループ更新処理設定

タグ resource-group-update
 名

認可リソースグループ更新時の処理の設定を行います。

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
  <resource-group-update>
    ...
  </resource-group-update>
</authz-editor-config>
```

必須項 ×
 目

複数設 ×
 定

設定 なし
 値・設
 定する
 内容

単位・ なし
 型

省略時 なし
 のデ
 フォル
 ト値

親タグ authz-editor-config

キャッシュ更新エラー設定（認可リソースグループ）

タグ cache-update-error
 グ
 名

認可リソースグループのキャッシュ更新によるエラー時の挙動について

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
  <resource-group-update>
    <cache-update-error rollback="true" />
  </resource-group-update>
</authz-editor-config>
```

必須項 ×
 目

複数設 ×
 定

設定値・設定する内容	なし
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	resource-group-update

【属性】

属性名	説明
rollback	キャッシュ更新失敗し認可リソースグループの更新を設定します。

リソースグループバックアップ設定

タグ名	resource-group-backup
-----	-----------------------

リソースグループと、紐づくリソースを削除した場合に、関係する認可

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<resource-group-backup>
...
</resource-group-backup>
</authz-editor-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	なし
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	authz-editor-config

バックアップ先パス設定

タグ名	path
-----	------

バックアップした認可設定のファイルを保存する場所について設定しま
パブリックストレージのルートからの相対パスです。

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<resource-group-backup>
<path>im_authz/backup</path>
</resource-group-backup>
</authz-editor-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	パブリックストレージのルートからの相対パスを指定する内容
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	im_authz/backup
親タグ	resource-group-backup

バックアップ最大件数設定

タグ名

バックアップとして認可設定のファイルを保存する最大件数について設定する内容。0を指定した場合は、保存件数は無制限です。この場合、パブリックス

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<resource-group-backup>
  <max-size>30</max-size>
</resource-group-backup>
</authz-editor-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	バックアップを残す最大件数を指定します。
単位・型	数値
省略時のデフォルト値	30
親タグ	resource-group-backup

Excelインポート設定

タグ名

認可設定画面上からExcelファイルを用いて認可設定のインポートを行う

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<xlsx-import>
  ...
</xlsx-import>
</authz-editor-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	なし
単位・型	なし

省略時 なし
 のデ
 フォル
 ト値

親タグ authz-editor-config

Excelインポート処理結果配置パス設定

タグ path
 グ
 名

Excelインポート処理の処理結果が保存されているJSON形式のファイルはパブリックストレージに配置されるため、パブリックストレージ認可設定画面にてExcelインポートを行う際にアップロードを行ったExc

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<xlsx-import>
<path>im_authz/xlsx_import</path>
</xlsx-import>
</authz-editor-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	Excelインポート処理結果ファイルを格納す。
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	im_authz/xlsx_import
親タグ	xlsx-import

Excelインポートコミット間隔設定

タグ commit-count
 グ
 名

インポート処理で、認可ポリシー変更（追加・更新・削除を指します）：例えば、10 を指定した場合は 10 件の認可ポリシーを変更する度にデー0 以下を指定した場合、インポート処理が完了するまでコミットが行わ：インポート処理にてコミットを行う順序については、「IM-Authz（認可

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<xlsx-import>
<commit-count>0</commit-count>
</xlsx-import>
</authz-editor-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	コミットを行うまでのポリシー変更件数
単位・型	数値
省略時のデフォルト値	0
親タグ	xlsx-import

未設定認可ポリシー検証設定

タグ validate-inherits
 名

インポートファイルにて明示的に「許可」／「禁止」を設定されていない
 検証は、インポートファイルの編集者のミスなどにより意図しない認可
 検証を行う場合、「許可」／「禁止」以外が設定されている認可ポリシ

- セルの内容が「未設定（継承した結果、許可）」であり、セルの上
- セルの内容が「未設定（継承した結果、禁止）」であり、セルの上

未設定認可ポリシー検証設定によるインポート時の挙動の違いについて

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<xlsx-import>
<validate-inherits>false</validate-inherits>
</xlsx-import>
</authz-editor-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定 する内容	未設定である認可ポリシーセルの検証を行うかどうかどう する内容
単位・型	真偽値 (true/false)
省略時のデ フォルト値	false
親タグ	xlsx-import

リソースグループ・リソース存在検証設定

タグ validate-resource-exists
 名

インポートするExcel (xlsx) ファイルに定義されたリソースグループ・
 検証を行う場合、存在しないリソースグループ・リソースが定義されてい

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<xlsx-import>
<validate-resource-exists>true</validate-resource-exists>
</xlsx-import>
</authz-editor-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定 する内容	リソースグループ・リソース存在検証を行うかどうかどう する内容
単位・型	真偽値 (true/false)
省略時のデ フォルト値	true
親タグ	xlsx-import

サブジェクトグループ存在検証設定

タグ validate-subject-exists
 名

インポートするExcel (xlsx) ファイルに定義されたサブジェクトグルー
 存在しないサブジェクトグループが定義されていた場合、エラー扱いと

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<xlsx-import>
  <validate-subject-exists>>false</validate-subject-exists>
</xlsx-import>
</authz-editor-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	サブジェクトグループを行うかどうかを設定します。
単位・型	真偽値 (true/false)
省略時のデフォルト値	false
親タグ	xlsx-import

Excelインポート処理の処理結果ファイル数設定

タグ名

Excelインポート処理の処理結果ファイルを保存するファイル数を設定し、Excelインポート処理の処理結果ファイルの数が設定値を超えた場合、「認可設定」画面のインポート結果一覧に表示される結果数はこの設定値以下を指定した場合は、保存件数は無制限です。この場合、パブリッ

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<xlsx-import>
  <max-size>10</max-size>
</xlsx-import>
</authz-editor-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	Excelインポート処理の処理結果のファイル数
単位・型	数値
省略時のデフォルト値	10
親タグ	xlsx-import

Excelエクスポート設定

タグ名

認可設定画面上からExcelファイルを用いて認可設定のエクスポートを行

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<xlsx-export>
...
</xlsx-export>
</authz-editor-config>
```

必須項目	×
複数設定	×

設定	なし
値・設定する内容	
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	authz-editor-config

テンプレートファイル設定

タグ名	template-file
-----	---------------

エクスポートするExcel (xlsx) ファイルを作成するための、テンプレ

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<xlsx-export>
  <template-file>products/im_authz_xlsx_import_export/authz_t
</xlsx-export>
</authz-editor-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	エクスポートするExcel (xlsx) ファイルを作成するための、テンプレートファイルのパスを設定します。
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	products/im_authz_xlsx_import_export
親タグ	xlsx-export

Excelエクスポートファイル配置パス設定

タグ名	path
-----	------

Excelエクスポートを行い出力されるファイルを配置する場所を設定します。このファイルはパブリックストレージに配置されるため、パブリックストレ

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<xlsx-export>
  <path>im_authz/xlsx_export</path>
</xlsx-export>
</authz-editor-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	Excelエクスポートされたファイルを格納する場所を設定します。
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	im_authz/xlsx
親タグ	xlsx-export

Excelエクスポートファイル名設定

タグ名

Excelエクスポートされたファイルのファイル名を設定します。
 ファイル名には、日付と時刻のフォーマットパターンを利用することが
 SimpleDateFormatのJavaDocを参照してください。

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<xlsx-export>
<file-name>yyyyMMdd_HHmss</file-name>
</xlsx-export>
</authz-editor-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定	エクスポートするExcelファイルのファイル名を設定する内容
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	yyyyMMdd_HHmss
親タグ	xlsx-export

Excelエクスポートファイル拡張子設定

タグ名

Excelエクスポートされたファイルの拡張子を設定します。
 設定値に置換文字列が利用可能です。利用可能な置換文字列は以下の通

- `{^userCd^}`: 出力操作を行ったユーザコード
- `{^partId^}`: 出力した part-id

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<xlsx-export>
<file-ext> .xlsx</file-ext>
</xlsx-export>
</authz-editor-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定	エクスポートするExcelファイルの拡張子を設定する内容
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	.xlsx
親タグ	xlsx-export

Excelエクスポート保存ファイル数設定

タグ名

Excelエクスポートを行い出力されるファイルを保存するファイル数を設定します。
 Excelエクスポートを行い出力されるファイルの数が設定値を超えた場合は
 「認可設定」画面のエクスポート済みファイル一覧に表示される結果数
 0以下を指定した場合、保存件数は無制限です。この場合、パブリック

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<xlsx-export>
  <max-size>10</max-size>
</xlsx-export>
</authz-editor-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	Excelエクスポートを行い出力されるファイルの数が定する内容
単位・型	数値
省略時のデフォルト値	10
親タグ	xlsx-export

保護パスワード設定

タグ名 xlsx-password

エクスポートするExcel (xlsx) ファイルの変更不可部分を保護するパ
ン指定しない場合、保護パスワードはかからず行・列の追加・更新・削除:

【設定項目】

```
<authz-editor-config>
<xlsx-export>
  <xlsx-password>intramart</xlsx-password>
</xlsx-export>
</authz-editor-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	保護するパスワードの値を設定します。
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	intramart
親タグ	xlsx-export

ポリシー部分編集定義設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [認可設定画面の部品化設定](#)
 - [設定ID](#)
 - [設定のキャプション](#)
 - [対象リソースグループ](#)
 - [リソースグループ](#)
 - [対象サブジェクトタイプ](#)
 - [サブジェクトタイプ](#)
 - [コールバック設定](#)
 - [リソースグループ権限設定可否判断クラス](#)

概要

認可設定画面を部品として使用する際に必要になる設定を記述します。

この設定を使用する前に、この設定に記載するリソースグループセット:

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイル (xsd)	WEB-INF/schema/authz-partial-policy-e
設定場所	WEB-INF/conf/authz-partial-policy-edit-c

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<authz-partial-policy-edit-config xmlns="http://www.intra-mart
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-partial-p
<part-config>
  <part-id>im_authz_impl_router</part-id>
  <caption-cd>CAP.Z.IWP.ROUTER.AUTHZ.PARTCONFIG.TITLE</c
  <resource-groups>
    <resource-group-id>http-services</resource-group-id>
  </resource-groups>
  <subject-types>
    <subject-type-id>im_authz_meta_subject</subject-type-id:
    <subject-type-id>imm_user</subject-type-id>
    <subject-type-id>imm_company_post</subject-type-id>
    <subject-type-id>imm_department</subject-type-id>
    <subject-type-id>imm_public_grp</subject-type-id>
    <subject-type-id>imm_public_grp_role</subject-type-id>
    <subject-type-id>b_m_role</subject-type-id>
  </subject-types>
  <callbacks>
    <resource-group-authorizer>jp.co.intra_mart.system.authz
  </callbacks>
</part-config>
</authz-partial-policy-edit-config>
```

リファレンス

認可設定画面の部品化設定

タグ名

part-config

認可設定画面を部品として使用するための設定項目のひとつとまもりです。

【設定項目】

```
<authz-partial-policy-edit-config xmlns="http://www.intra-mart
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-partial-p
<part-config>
  ...
</part-config>
</authz-partial-policy-edit-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・なし

設定する

内容

単位・型 なし

省略時の

デフォル

ト値

親タグ authz-partial-policy-edit-config

設定ID

タグ名
part-id

設定のIDを指定します。この値は部品化された認可設定画面を使用する先頭にモジュールのIDを使用するなどし、他の設定と重複しないようID

【設定項目】

```
<authz-partial-policy-edit-config xmlns="http://www.intra-mart
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-partial-p
<part-config>
  <part-id>im_authz_impl_router</part-id>
</part-config>
</authz-partial-policy-edit-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	設定のIDを指定します。他の設定と重複しないよ
単位・型	文字列（半角英数、ハイフン、アンダースコア）
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	part-config

設定のキャプション

タグ名
caption-cd

この設定の表示名を取得するためのメッセージコードを設定します。こ

【設定項目】

```
<authz-partial-policy-edit-config xmlns="http://www.intra-mart
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-partial-p
<part-config>
  <caption-cd>CAP.Z.IWP.ROUTER.AUTHZ.PARTCONFIG.TITLE</c
</part-config>
</authz-partial-policy-edit-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	キャプションのメッセージコード
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	part-config

対象リソースグループ

タグ名
resource-groups

この設定で使用するリソースグループを指定します。

「認可設定」画面ではここで指定されたリソースグループ配下を表示すを指定した場合、それらのグループ配下がマージして表示されます。複

【設定項目】

```
<authz-partial-policy-edit-config xmlns="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-partial-policy-edit-config"
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-partial-policy-edit-config"
  <part-config>
    <resource-groups>
      ...
    </resource-groups>
  </part-config>
</authz-partial-policy-edit-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	なし
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	part-config

リソースグループ

タグ名	resource-group-id
-----	-------------------

リソースグループIDを指定します。リソースグループIDは動的に作成され

【設定項目】

```
<authz-partial-policy-edit-config xmlns="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-partial-policy-edit-config"
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-partial-policy-edit-config"
  <part-config>
    <resource-groups>
      <resource-group-id>http-services</resource-group-id>
    </resource-groups>
  </part-config>
</authz-partial-policy-edit-config>
```

必須項目	○
複数設定	○
設定値・設定する内容	使用するリソースグループID
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	resource-groups

対象サブジェクトタイプ

タグ名
subject-types

この設定で使用するサブジェクトタイプを指定します。

ここで指定していないサブジェクトタイプは、この設定を使用して開いているサブジェクトタイプのIDでなければなりません。

【設定項目】

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<authz-partial-policy-edit-config xmlns="http://www.intra-mart
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-partial-p
<part-config>
  <subject-types>
    ...
  </subject-types>
</part-config>
</authz-partial-policy-edit-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	なし
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	part-config

サブジェクトタイプ

タグ名
subject-type-id

使用するサブジェクトタイプのIDを設定します。

【設定項目】

```
<authz-partial-policy-edit-config xmlns="http://www.intra-mart
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-partial-p
<part-config>
  <subject-types>
    <subject-type-id>b_m_role</subject-type-id>
  </subject-types>
</part-config>
</authz-partial-policy-edit-config>
```

必須項目	○
複数設定	○
設定値・設定する内容	この設定で使用するサブジェクトタイプID
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし

親タグ subject-types

コールバック設定

タグ名 callbacks

この設定によって認可設定画面を部品として使用した際に利用されるコールバック設定画面を部品として使用する場合は呼び出し元が認可設定画面に:

【設定項目】

```
<authz-partial-policy-edit-config xmlns="http://www.intra-mart.jp/accel/accel-
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-partial-policy-edit-config"
<part-config>
  <callbacks>
    ...
  </callbacks>
</part-config>
</authz-partial-policy-edit-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ part-config

リソースグループ権限設定可否判断クラス

タグ名 resource-group-authorizer

この設定によって認可設定画面を部品として使用した際に利用されるリソースグループ権限設定可否判断クラスは jp.co.intra_mart.foundation.authz.partial.AuthzPartialResourceGroupAuthorizer

認可設定画面を部品として使用する場合は呼び出し元が認可設定画面にリソースグループが指定された場合に、認証済みユーザの権限を超えて権限設定がかどうか判断します。

この設定は省略可能です。省略した場合はデフォルトの判断クラスが使用されます。

【設定項目】

```
<authz-partial-policy-edit-config xmlns="http://www.intra-mart.jp/accel/accel-
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-partial-policy-edit-config"
<part-config>
  <callbacks>
    <resource-group-authorizer>jp.co.intra_mart.system.authz.partial.ResourceGroupAuthorizer</resource-group-authorizer>
  </callbacks>
</part-config>
</authz-partial-policy-edit-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容	jp.co.intra_mart.foundation.authz.p 飾名。
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	callbacks

認可設定画面 保護リソース設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [保護するリソースとアクションの指定](#)

概要

この設定は、認可設定画面上での変更を保護するリソースの一覧です。

操作中のユーザが、この設定に記載されているリソース・アクションに
中のユーザに対してこれらの権限すべてを失わせる操作を行った場合、

これは認可設定の変更中に自身で操作の続行ができなくなるような変更

モジュール	テナント管理
フォーマットファイル	WEB-INF/schema/authz-protected-reso (xsd)
設定場所	WEB-INF/conf/authz-protected-resource

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<tns:authz-protected-resource-config
xmlns="http://www.intra-mart.jp/authz/ui/protected-resources"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/ui/protected-

<protected-resource uri="service://authz/settings/basic" action
<protected-resource uri="service://authz/settings/parts" action
<protected-resource uri="service://authz/settings/procedure" a

</tns:authz-protected-resource-config>
```

リファレンス

保護するリソースとアクションの指定

タグ protected-resource
グ
名

保護するリソースとアクションを指定します。

【設定項目】

```
<tns:authz-protected-resource-config
xmlns="http://www.intra-mart.jp/authz/ui/protected-resources"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/ui/protected-

<protected-resource uri="service://authz/settings/basic" action

</tns:authz-protected-resource-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ○

設定値・なし
 設定する
 内容

単位・型 なし

省略時の
 デフォルト値

親タグ authz-protected-resource-config

【属性】

属性名	説明
uri	保護する対象のリソースのURIを指定します。必要があります。
action	uriに対して保護するアクションを指定します。

注意

この設定は通常変更の必要はありません。

ルーティングテーブル用 認可リソースマッパー

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [リソースマッパー設定](#)

概要

ルーティングテーブルの認可設定で使用するマッパーの登録を行う設定。ルータにはそれぞれのパスに対してマッピングされるプログラムの実体。認可リソースの紐づけに関して、パスに対して特定のリソースを指定するによって登録されたものから選択できます。

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/authz-resource-mapper(xsd)
設定場所	WEB-INF/conf/authz-resource-mappers/{

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<authz-resource-mappers xmlns="http://www.intra-mart.jp/router/authz-resour
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/router/authz-resour
<mapper name="dev-auto-register" class="jp.co.intra_mart.system.rc
<mapper name="welcome-all" class="jp.co.intra_mart.system.rc
</authz-resource-mappers>
```

リファレンス

リソースマッパー設定

タグ
 mapper
 名

マッパーの名前と実際にマッピングを行う実装クラスを設定します。マッパーの実装は jp.co.intra_mart.system.router.authz.user.Authz

【設定項目】

```
<authz-resource-mappers xmlns="http://www.intra-mart.jp/router/authz-resour
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/router/authz-resour
<mapper name="welcome-all" class="jp.co.intra_mart.system.rc
</authz-resource-mappers>
```

必須項 ×
目

複数設定 ○

設定 なし
値・設定する
内容

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ authz-resource-mappers

【属性】

属性名	説明
name	マッパーの名前です。ルーティングテーブルのはここで指定した値です。
class	この名前に割り当てるマッパーの実装クラスの

リソースタイプ拡張設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [リソースタイプ設定](#)

概要

認可機構にリソースタイプを追加するための設定です。
リソースタイプと、リソースタイプの取り扱うリソースモデルを定義し、リソースタイプの詳細については認可仕様書を参照してください。

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイル	WEB-INF/schema/authz-resource-type-config(xsd)
設定場所	WEB-INF/conf/authz-resource-type-confi

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<authz-resource-type-config xmlns="http://www.intra-mart.jp/axsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-resource-type"
<resource-type
type-class="jp.co.intra_mart.system.router.authz.resourcetype.C
model-class="jp.co.intra_mart.system.router.authz.resourcetype
cache-class="jp.co.intra_mart.system.router.authz.resourcetype.
</authz-resource-type-config>
```

リファレンス

リソースタイプ設定

タグ resource-type
タグ名

リソースタイプの実装クラスと、この実装クラスが扱うリソースモデル

【設定項目】


```
<authz-resource-type-config xmlns="http://www.intra-mart.jp/axsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-resource-type">
  <resource-type
    type-class="jp.co.intra_mart.system.router.authz.resourcetype.C
    model-class="jp.co.intra_mart.system.router.authz.resourcetype
    cache-class="jp.co.intra_mart.system.router.authz.resourcetype.
  </authz-resource-type-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ authz-resource-type-config

【属性】

属性名	説明
type-class	リソースタイプの実装クラスの完全修飾クラス名
model-class	このリソースタイプで扱うリソースモデルクラスを指す。
cache-class	このリソースタイプで扱うキャッシュコントローラを指します。

サブジェクトタイプ拡張設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [サブジェクトタイプ設定](#)

概要

認可機構にサブジェクトタイプを追加するための設定です。サブジェクトタイプと、サブジェクトタイプの取り扱うサブジェクトモデルのサブジェクトタイプの詳細については認可仕様書を参照してください。

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/authz-subject-type-config(xsd)
設定場所	WEB-INF/conf/authz-subject-type-config/

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<authz-subject-type-config xmlns="http://www.intra-mart.jp/axsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-subject-type">
  <subject-type type-class="jp.co.intra_mart.foundation.authz.subject.model.Role
  model-class="jp.co.intra_mart.foundation.admin.role.model.Role
</authz-subject-type-config>
```

リファレンス

[サブジェクトタイプ設定](#)

タ subject-type
グ
名

サブジェクトタイプの実装クラスと、この実装クラスが扱うサブジェク

【設定項目】

```
<authz-subject-type-config xmlns="http://www.intra-mart.jp/au
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/authz-subject-
<subject-type type-class="jp.co.intra_mart.foundation.authz.sut
model-class="jp.co.intra_mart.foundation.admin.role.model.Role
</authz-subject-type-config>
```

必須項
目

複数設
定

設定 なし
値・設
定する
内容

単位・ なし
型

省略時 なし
のデ
フォ
ルト値

親タグ authz-subject-type-config

【属性】

属性名	説明
type-class	サブジェクトタイプの実装クラスの完全修飾クラ
model-class	このサブジェクトタイプで扱うサブジェクトモデ

暗号化設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [暗号化設定](#)
 - [暗号化クラス設定](#)

概要

Java API CryptionUtil を利用して、暗号／復号を行うための暗号化方式

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファ イル(xsd)	WEB-INF/schema/cryption-config.xsd
設定場所	intra-mart Accel Platform 2013 Autumn 以 WEB-INF/conf/cryption-config/cryption-c intra-mart Accel Platform 2013 Summer 以 WEB-INF/conf/cryption-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<cryption-config xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/security/c

<!-- 該当するカテゴリがない場合使われず -->
<cryption category="default" default="true">
  <cryption-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.cryption
</cryption>

<!-- アカウントパスワード用 -->
<cryption category="account">
  <cryption-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.cryption
</cryption>

<!-- システム管理者パスワード用 -->
<cryption category="administrator">
  <cryption-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.cryption
</cryption>

</cryption-config>
```

リファレンス

暗号化設定

タ cryption
グ
名

暗号化方式の定義を行います。

【設定項目】

```
<cryption-config>
  <cryption category="default" default="true">
    . . . . .
  </cryption>
</cryption-config>
```

必須 ×
項目

複数 ○
設定

設定値・
設定する
内容 なし

単位・
型 なし

省略時の
デフォルト
値 なし

親タグ cryption-config

【属性】

属性名	説明
-----	----

属性名	説明
category	暗号化設定にプログラムから利用するためのカテゴリ。各カテゴリの役割は以下の通りです。
account	アカウントのパスワードに対するパスワードの保存方式が「暗号パスワードの保存方式について」をご覧ください。
administrator	システム管理者のパスワードに
default	true の場合、システム・デフォルトの暗号化設定が

注意

default="true" の暗号化設定が複数ある場合、設定ファイル default="true" の暗号化設定が見つからない場合、設定ファ

注意

カテゴリは一意的な値となるように指定してください。

暗号化クラス設定

タグ名

暗号化方式の実装クラスの設定を行います。

【設定項目】

```
<crypton-config>
<crypton category="default" default="true">
  <crypton-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.cryption.
</crypton>
</crypton-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	Javaインタフェース jp.co.intra_mart.foi す。 テナント環境セットアップを行った環境に 用意されているクラスは以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> jp.co.intra_mart.foundation.secur DESを用いて文字列の暗号化・復号化 jp.co.intra_mart.foundation.secur トリプルDESを用いて文字列の暗号化 jp.co.intra_mart.foundation.secur AESを用いて文字列の暗号化・復号化 intra-mart Accel Platform 2016 Sp
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	crypton

サブジェクトリゾルバ(DeclaredSubjectResc

項目

- 概要
- リファレンス
 - DeclaredSubjectResolverの追加設定

概要

認可のサブジェクト解決系を追加する設定です。ここではサブジェクト

サブジェクトリゾルバ、DeclaredSubjectResolverについての詳細は認

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイル	WEB-INF/schema/declared-subject-resol (xsd)
設定場所	WEB-INF/conf/declared-subject-resolvers

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<declared-subject-resolvers xmlns="http://www.intra-mart.jp/au
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/declared-subje
<class-name>jp.co.intra_mart.foundation.authz.subjectresolver.i
</declared-subject-resolvers>
```

リファレンス

DeclaredSubjectResolverの追加設定

タグ名

認可機構に追加するDeclaredSubjectResolverを定義します。

【設定項目】

```
<declared-subject-resolvers xmlns="http://www.intra-mart.jp/au
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/declared-subje
<class-name>jp.co.intra_mart.foundation.authz.subjectresolver.i
</declared-subject-resolvers>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	認可機構に追加するDeclaredSubjectResolverの内容
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	declared-subject-resolvers

サブジェクトリゾルバ(OnDemandSubjectRe

項目

- 概要
- リファレンス
 - OnDemandSubjectResolverの追加設定

概要

認可のサブジェクト解決系を追加する設定です。ここではサブジェクト

サブジェクトリゾルバ、OnDemandSubjectResolverについての詳細は認

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイル	WEB-INF/schema/ondemand-subject-res (xsd)
設定場所	WEB-INF/conf/ondemand-subject-resolv

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<ondemand-subject-resolvers xmlns="http://www.intra-mart.jp,
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/ondemand-sul
<class-name>sample.TimeDependResolver</class-name>
</ondemand-subject-resolvers>
```

リファレンス

OnDemandSubjectResolverの追加設定

タグ名

認可機構に追加するOnDemandSubjectResolverを定義します。

【設定項目】

```
<ondemand-subject-resolvers xmlns="http://www.intra-mart.jp,
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/ondemand-sul
<class-name>sample.TimeDependResolver</class-name>
</ondemand-subject-resolvers>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	認可機構に追加するOnDemandSubjectResolver
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	ondemand-subject-resolvers

認可ポリシーキャッシュ対象設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [キャッシュ対象設定](#)
 - [キャッシュ対象リソースタイプ設定](#)

概要

認可ポリシー取得処理でのキャッシュ設定を行います。

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/policy-cache-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/policy-cache-config/{任意の}

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<policy-cache-config
xmlns="http://www.intra-mart.jp/authz/policy-cache-config"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/authz/policy-cach
<cache-target>
<resource-type>service</resource-type>
</cache-target>
</policy-cache-config>
```

キャッシュ対象設定

タグ名
cache-target

キャッシュ対象を設定します。

【設定項目】

```
<policy-cache-config>
<cache-target>
...
</cache-target>
</policy-cache-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ policy-cache-config

キャッシュ対象リソースタイプ設定

タグ名
resource-type

認可ポリシーのキャッシュの対象となるリソースタイプを設定します。

【設定項目】

```
<policy-cache-config>
<cache-target>
<resource-type>service</resource-type>
</cache-target>
</policy-cache-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容 キャッシュ対象とするリソースタイプです。

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 なし

親タグ cache-target

パスワード履歴管理設定

項目

- 概要
- リファレンス
 - デフォルト設定
 - テナントごとの設定
 - 初回ログイン時パスワード変更
 - パスワード有効日数
 - 管理するパスワード履歴数
 - パスワード履歴管理対象外クライアントタイプ
 - パスワード変更画面パス
 - パスワード文字列チェック
 - パスワード暗号化アルゴリズムクラス
 - パスワード変更後ログイン画面表示
 - パスワードの長さチェック
 - パスワード利用可能文字（英文字）
 - パスワード利用可能文字（数字）
 - パスワード利用可能文字（その他）
 - パスワード利用可能文字グループ
 - パスワード履歴内のパスワードの利用禁止
 - ユーザコードパスワードの利用禁止

概要

パスワードの履歴管理機能の設定です。
 パスワード履歴管理機能は、パスワードの履歴管理を行い、パスワードの
 また、パスワードの様々な制約を設定することが可能です。

 コラム

2021 Summer(Cattleya) から画面上でテナントごとの設定を
 詳細は「テナント管理者操作ガイド」-「パスワードポリシー」
 画面上で設定を変更した場合、そちらの値の方が設定ファイル

モジュール	テナント管理機能モジュール
フォーマット ファイル(xsd)	WEB-INF/schema/password-history-config.xs
設定場所	WEB-INF/conf/password-history.xml


```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<password-history>
  <group-default accessor-class="jp.co.intra_mart.foundation.sec
    <change-password-first-login>true</change-password-fir
    <password-expire-limit>0</password-expire-limit>
    <password-history-count>0</password-history-count>
    <deny-client-types>sp</deny-client-types>
    <password-expire-page>/user/password/expire</password-
    <check-password enable="true" check-password-class="">
      <check-password-length enable="false" min="0" max="50",
      <allow-latin-letters required="false" enable="true">ABCDEF
      <allow-number required="false" enable="true">0123456789
      <allow-extra-char required="false" enable="true">!&quot;;#
      <allow-group-char required="false"></allow-group-char>
      <deny-old-password include="false">>false</deny-old-pass
      <deny-userid include="false">>false</deny-userid>
    </check-password>
    <password-cryption-class>jp.co.intra_mart.foundation.securit
    <return-initial-page>>false</return-initial-page>
  </group-default>

  <group name="secondary" accessor-class="jp.co.intra_mart.four
    <change-password-first-login>true</change-password-fir
    <password-expire-limit>0</password-expire-limit>
    <password-history-count>0</password-history-count>
    <deny-client-types>sp</deny-client-types>
    <password-expire-page>/user/password/expire</password-
    <check-password enable="true" check-password-class="">
      <check-password-length enable="false" min="0" max="50",
      <allow-latin-letters required="false" enable="true">ABCDEF
      <allow-number required="false" enable="true">0123456789
      <allow-extra-char required="false" enable="true">!&quot;;#
      <allow-group-char required="false"></allow-group-char>
      <deny-old-password include="false">>false</deny-old-pass
      <deny-userid include="false">>false</deny-userid>
    </check-password>
    <password-cryption-class>jp.co.intra_mart.foundation.securit
    <return-initial-page>>false</return-initial-page>
  </group>

  <group name="thirdly" accessor-class="jp.co.intra_mart.foundat
    <change-password-first-login>true</change-password-fir
    <password-expire-limit>0</password-expire-limit>
    <password-history-count>0</password-history-count>
    <deny-client-types>sp</deny-client-types>
    <password-expire-page>/user/password/expire</password-
    <check-password enable="true" check-password-class="">
      <check-password-length enable="false" min="0" max="50",
      <allow-latin-letters required="false" enable="true">ABCDEF
      <allow-number required="false" enable="true">0123456789
      <allow-extra-char required="false" enable="true">!&quot;;#
      <allow-group-char required="false"></allow-group-char>
      <deny-old-password include="false">>false</deny-old-pass
      <deny-userid include="false">>false</deny-userid>
    </check-password>
    <password-cryption-class>jp.co.intra_mart.foundation.securit
    <return-initial-page>>false</return-initial-page>
  </group>
</password-history>

```

コラム

groupタグは複数設定が行えます。groupタグを複数定義する詳細はリファレンス内の「テナントごとの設定」を参照してください。

コラム

password-history.xmlはpassword-history-config.xsdを参照するxmlファイル修正時は上記設定例を参照の上、実施してください。

リファレンス

デフォルト設定

タグ名

パスワード履歴管理機能の標準設定を行います。

【設定項目】

```
<password-history>
<group-default accessor-class="StandardPasswordHistoryAcces
...
</group-default>
</password-history>
```

必須項目 ○

複数設定 ×

設定値・設定する内容 パスワード履歴管理機能の標準設定を設定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ password-history

【属性】

属性名	説明
accessor-class	パスワード履歴管理モジュールの実装クラスを設定します。jp.co.intra_mart.foundation.security.password.PasswordHistoryAccessインターフェースを実装している必要があります。

テナントごとの設定

タグ名	group
-----	-------

テナントごとに、パスワード履歴管理機能の設定を行います。

【設定項目】

```
<password-history>
<group name="secondary" accessor-class="StandardPasswordH
...
</group>
</password-history>
```

必須項目 ×

複数設定 ○

設定値・設定する内容 テナントごとの、パスワード履歴管理機能を設定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ password-history

【属性】

属性名	説明
name	テナントID
accessor-class	パスワード履歴管理モジュールの実装クラスjp.co.intra_mart.foundation.security.password.PasswordHistoryAccessインターフェースを実装している必要があります。

初回ログイン時パスワード変更

タグ名	change-password-first-login
-----	-----------------------------

初期ログイン時にパスワード変更を要求するかどうかを設定します。

【設定項目】

```
<password-history>
<group-default accessor-class="jp.co.intra_mart.foundation.sec
<change-password-first-login>true</change-password-fir
</group-default>
</password-history>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定 する内容	false 初期ログイン時にパスワード変更を要求し true 初期ログイン時にパスワード変更を要求し
単位・型	真偽値 (true/false)
省略時のデ フォルト値	親タグが group-default の場合、true 親タグが group の場合、group-default タグ内の設
親タグ	group-default, group

パスワード有効日数

タグ password-expire-limit
名

パスワードの有効日数を設定します。
有効期間を無制限に設定するには、0を設定してください。

【設定項目】

```
<password-history>
<group-default accessor-class="jp.co.intra_mart.foundation.sec
<password-expire-limit>0</password-expire-limit>
</group-default>
</password-history>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定 する内容	パスワードの有効日数を設定します。
単位・型	数値 (0 -)
省略時のデ フォルト値	親タグが group-default の場合、0 親タグが group の場合、group-default タグ内の設
親タグ	group-default, group

管理するパスワード履歴数

タグ password-history-count
名

パスワードの履歴を管理する世代。
0を設定した場合、履歴管理を行いません。

【設定項目】

```
<password-history>
<group-default accessor-class="jp.co.intra_mart.foundation.sec
<password-history-count>0</password-history-count>
</group-default>
</password-history>
```

必須項目	×
複数設定	×

設定値・設定 管理するパスワード履歴数を設定します。
 する内容

単位・型 数値 (0 -)

省略時のデフォルト値 親タグが group-default の場合、0
 親タグが group の場合、group-default タグ内の設定

親タグ group-default, group

パスワード履歴管理対象外クライアントタイプ

タグ deny-client-types
 名

パスワード履歴管理対象とされないクライアントタイプを設定します。
 複数設定する場合は、カンマ区切りで設定してください。

【設定項目】

```
<password-history>
<group-default accessor-class="jp.co.intra_mart.foundation.sec
<deny-client-types>sp</deny-client-types>
</group-default>
</password-history>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容 パスワード履歴管理対象とされないクライアントタイプ

単位・型 文字列 (xxxxxx,xxxxxxxx)

省略時のデフォルト値 親タグが group-default の場合、なし
 親タグが group の場合、group-default タグ内の設定

親タグ group-default, group

パスワード変更画面パス

タグ password-expire-page
 名

パスワード変更画面のパスを設定します。

【設定項目】

```
<password-history>
<group-default accessor-class="jp.co.intra_mart.foundation.sec
<password-expire-page>/user/password/expire</password-
</group-default>
</password-history>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容 パスワード変更画面のパスを設定します。

単位・型 文字列 (xxx/xxx/xxx/xxxxx)

省略時のデフォルト値 親タグが group-default の場合、/user/password/e
 親タグが group の場合、group-default タグ内の設定

親タグ group-default, group

【属性】

属性名	説明
-----	----

属性名	説明
client-type	クライアントタイプを設定します。 クライアントタイプ別にパスワード変更画面 てください。 クライアントタイプが設定されていない場合 変更画面として扱われます。

パスワード文字列チェック

タグ名	check-password
-----	----------------

パスワード文字列に対する有効チェックの内容を設定します。

【設定項目】

```
<password-history>
<group-default accessor-class="jp.co.intra_mart.foundation.sec
<check-password enable="true" check-password-class="">
...
</check-password>
</group-default>
</password-history>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定	パスワード文字列に対する有効チェックの内容を設定 する内容
単位・型	なし
省略時のデ フォルト値	親タグが group-default の場合、なし 親タグが group の場合、group-default タグ内の設
親タグ	group-default, group

【属性】

属性名	説明
enable	パスワード文字列の有効チェックを行うか
check-password- class	Javaインタフェース jp.co.intra_mart.foundation.security.pa を実装したクラスのFQDNを設定してくだ クラスが設定されている場合は、設定され ドが実行されます。



コラム

check-password-class属性は intra-mart Accel Platform 2

パスワード暗号化アルゴリズムクラス

タグ名	password-cryption-class
-----	-------------------------

パスワードの履歴を保管する際に用いられる暗号化アルゴリズムクラス。
パスワードの保存方式が「暗号化」方式である場合に利用可能です。
パスワードの保存方式については「システム管理者操作ガイド」-「パ

【設定項目】

```
<password-history>
<group-default accessor-class="jp.co.intra_mart.foundation.sec
<password-cryption-class>jp.co.intra_mart.foundation.securit
</group-default>
</password-history>
```

必須項目	×
------	---

複数設定	×
設定値・設定する内容	jp.co.intra_mart.foundation.security.cry
単位・型	文字列 (xxxxxxxxxxxxxx)
省略時のデフォルト値	親タグが group-default の場合、 jp.co.intra_mart.foundation.security.cry 親タグが group の場合、group-default タグ
親タグ	group-default, group

パスワード変更後ログイン画面表示

タグ名
return-initial-page

パスワード変更要求画面よりパスワードを変更した後に、ログイン画面

【設定項目】

```
<password-history>
<group-default accessor-class="jp.co.intra_mart.foundation.sec
<return-initial-page>false</return-initial-page>
</group-default>
</password-history>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	false パスワード変更後にユーザの「ホーム」画面 true パスワード変更後に「ログイン」画面を表示
単位・型	真偽値 (true/false)
省略時のデフォルト値	親タグが group-default の場合、false 親タグが group の場合、group-default タグ内の値
親タグ	group-default, group

パスワードの長さチェック

タグ名
check-password-length

パスワードの長さ制約に関する設定です。

【設定項目】

```
<password-history>
<group-default>
<check-password enable="true" check-password-class="">
<check-password-length enable="false" min="0" max="50">
</check-password>
</group-default>
</password-history>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	パスワードの長さ制約を設定します。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	親タグが group-default/check-password の場合、group-default/check-password 親タグが group/check-password の場合、group/check-password
親タグ	check-password

【属性】

属性名	説明
enable	パスワードの長さ制約を行うかどうかを設定
min	パスワードの最小の長さを設定します。最小
max	パスワードの最大の長さを設定します。最大

パスワード利用可能文字（英文字）

タ allow-latin-letters
 グ
 名

パスワードに利用できる英文字を設定します。

【設定項目】

```

<password-history>
<group-default>
  <check-password enable="true" check-password-class="">
    <allow-latin-letters required="false" enable="true">ABCDEF
  </check-password>
</group-default>
</password-history>
    
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内 容	パスワードに利用できる英文字を設定します。
単位・型	文字列 (xxxxxxxxxxxxxx)
省略時のデフォルト 値	親タグが group-default/check-password の値 親タグが group/check-password の場合、gr
親タグ	check-password

【属性】

属性名	説明
required	パスワード利用可能文字（英文字）の制約 true の場合は、少なくとも 1 文字は設定し
enable	allow-latin-lettersタグを利用するかどうか



コラム

enable属性は intra-mart Accel Platform 2017 Summer(Q

パスワード利用可能文字（数字）

タ allow-number
 グ
 名

パスワードに利用できる数字を設定します。


【設定項目】

```
<password-history>
<group-default>
<check-password enable="true" check-password-class="">
  <allow-number required="false" enable="true">0123456789
</check-password>
</group-default>
</password-history>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	パスワードに利用できる数字を設定します。
単位・型	文字列 (xxxxxxxxxxxxxx)
省略時のデフォルト値	親タグが group-default/check-password の場合は、親タグが group/check-password の場合、gr
親タグ	check-password

【属性】

属性名	説明
required	パスワード利用可能文字（数字）の制約を true の場合は、少なくとも 1 文字は設定し
enable	allow-numberタグを利用するかどうかを

 **コラム**
enable属性は intra-mart Accel Platform 2017 Summer(Q

パスワード利用可能文字（その他）

タグ名 allow-extra-char

パスワードに利用できるその他の文字を設定します。

【設定項目】

```
<password-history>
<group-default>
<group-default>
<check-password enable="true" check-password-class="">
  <allow-extra-char required="false" enable="true">!"&quot;;#
</check-password>
</group-default>
</password-history>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	パスワードに利用できるその他の文字を設定し
単位・型	文字列 (xxxxxxxxxxxxxx)
省略時のデフォルト値	親タグが group-default/check-password の場合は、親タグが group/check-password の場合、gr
親タグ	check-password

【属性】

属性名	説明
required	パスワード利用可能文字（その他）の制約 true の場合は、少なくとも 1 文字は設定し

属性名	説明
enable	allow-extra-charタグを利用するかどうか

i コラム
enable属性は intra-mart Accel Platform 2017 Summer(Q

パスワード利用可能文字グループ

タグ名 allow-group-char

パスワードに利用できる文字グループを設定します。

【設定項目】

```
<password-history>
<group-default>
  <check-password enable="true" check-password-class="">
    <allow-group-char required="false"></allow-group-char>
  </check-password>
</group-default>
</password-history>
```

必須項目 ×

複数設定 ○

設定値・設定する内容 パスワードに利用できる文字グループを設定します。複数設定することが可能です。

単位・型 文字列 (xxxxxxxxxxxxxx)

省略時のデフォルト値 なし

親タグ check-password

【属性】

属性名	説明
required	パスワード利用可能文字グループの制約を true の場合は、少なくとも 1 文字は設定し

i コラム
allow-group-charタグは intra-mart Accel Platform 2017 S

パスワード履歴内のパスワードの利用禁止

タグ名 deny-old-password

パスワード履歴に存在するパスワードの利用を禁止します。

【設定項目】

```
<password-history>
<group-default>
  <check-password enable="true" check-password-class="">
    <deny-old-password include="false">false</deny-old-pass
  </check-password>
</group-default>
</password-history>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容	false	パスワード履歴に存在するパスワード
	true	パスワード履歴に存在するパスワード

単位・型 真偽値 (true/false)

省略時のデフォルト値 親タグが group-default/check-password の場合、gr
親タグが group/check-password の場合、gr

親タグ check-password

【属性】

属性名	説明
include	パスワード履歴に存在するパスワードを含まどうかを設定します。 true の場合は、パスワード履歴に存在するパスワードを利用できません。

コラム

include属性は intra-mart Accel Platform 2017 Summer(C)パスワードの保存形式が非可逆形式の場合、include属性は利

ユーザコードパスワードの利用禁止

タグ deny-userid
親タグ

ユーザコードと同じパスワードの利用を禁止します。

【設定項目】

```
<password-history>
  <group-default>
    <check-password enable="true" check-password-class="">
      <deny-userid include="false">>false</deny-userid>
    </check-password>
  </group-default>
</password-history>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容	false	ユーザコードと同じパスワードの利用
	true	ユーザコードと同じパスワードの利用

単位・型 真偽値 (true/false)

省略時のデフォルト値 親タグが group-default/check-password の場合、gr
親タグが group/check-password の場合、gr

親タグ check-password

【属性】

属性名	説明
include	ユーザコードを含んだパスワードの利用をtrue の場合は、ユーザコードを含んだパ

コラム

include属性は intra-mart Accel Platform 2017 Summer(C)

スクリプト開発モデルルーティング設定

項目

- 概要
- リファレンス
 - デフォルト認可設定
 - ファイルマッピング設定
 - フォルダマッピング設定
 - 認可設定
 - 認可パラメータ

概要

URLに対して、スクリプト開発モデルの処理のマッピングを行うための設定

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/routing-jssp-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/routing-jssp-config/{任意のフ

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<routing-jssp-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/router/routing-jssp-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/router/routing-jssp-config
  <authz-default uri="service://application/default" action="execute" />
  <file-mapping path="/user/application/main" page="user/application/main" />
  <file-mapping path="/user/application/list" page="user/application/list" />
  <authz mapper="sample-mapper">
    <param key="foo" value="FOO" />
    <param key="bar" value="BAR" />
  </authz>
</file-mapping>
<file-mapping path="/user/application/process/create" page="user/application/process/create" />
  <authz uri="service://application/update" action="execute" />
</file-mapping>
<file-mapping path="/user/application/process/update" page="user/application/process/update" />
  <authz uri="service://application/update" action="execute" />
</file-mapping>
<file-mapping path="/user/application/process/delete" page="user/application/process/delete" />
  <authz uri="service://application/update" action="execute" />
</file-mapping>
</routing-jssp-config>
```

リファレンス

デフォルト認可設定

タグ名
authz-default

同じ設定ファイル上でのデフォルトの認可設定を行います。

【設定項目】

```
<routing-jssp-config>
  <authz-default uri="service://application/default" action="execute" />
</routing-jssp-config>
```

必須項目

複数設定

設定 なし
 値・設定する
 内容

単位・型 なし

省略時のデフォルト値
 なし

親タグ routing-jssp-config

【属性】

属性名	説明
uri	認可リソースURIを指定します。
action	認可アクションを指定します。
mapper	認可リソースマッパーを指定します。 使用可能な値はauthz-resource-mapper設定で設定済です。

注意
 この設定は、以下のいずれかの設定を行う必要があります。
 uri属性とaction属性
 mapper属性

注意
 authz-defaultタグを省略した場合、file-mappingタグ、fold

ファイルマッピング設定

タグ名
 file-mapping

URLとスクリプト開発モデルのプログラムのマッピングを行います。

【設定項目】

```
<routing-jssp-config>
<authz-default uri="service://application/default" action="execu
<file-mapping path="/user/application/main" page="user/applic
<file-mapping path="/user/application/list" page="user/applicati
...
</file-mapping>
</routing-jssp-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ○

設定 なし
 値・設定する
 内容

単位・型 なし

省略時のデフォルト値
 なし

親タグ routing-jssp-config

【属性】

属性名	説明
path	マッピングを行うURLを指定します。 値の末尾に ワイルドカード「*」を指定する値に {<識別子>} を記述することでURLのプログラム中で使用可能です。 例： /sample/view/{dataId}
page	マッピングを行うスクリプト開発モデルのプログラム名を指定します。
action	page属性で指定されたプログラムで定義されたアクション名が指定されている場合は、page属性のアクション名を指定します。
from	action属性で指定した関数を呼び出すプログラムの名前を指定します。
client-type	マッピングが有効となるクライアントタイプを指定します。省略時は、すべてのクライアントタイプに適用されます。

i コラム

page, from 属性で指定するスクリプト開発モデルのプログラム名は、スクリプト開発モデルプログラムのソースディレクトリからの相対パス形式です。デフォルトではWEB-INF/jsp/srcからの相対パス形式です。

フォルダマッピング設定

タグ名
folder-mapping

URLのパターンとスクリプト開発モデルのプログラムのマッピングを行う。特定のスクリプト開発モデルのプログラムのディレクトリ配下すべてのプログラムに適用される。

【設定項目】

```
<routing-jssp-config>
  <folder-mapping path-prefix="/user/application" folder="user/application" />
  ...
</folder-mapping>
</routing-jssp-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容
なし

単位・型
なし

省略時のデフォルト値
なし

親タグ routing-jssp-config

【属性】

属性名	説明
path-prefix	マッピングを行うURLを指定します。
folder	マッピングを行うスクリプト開発モデルのプログラムのディレクトリを指定します。
client-type	マッピングが有効となるクライアントタイプを指定します。省略時は、すべてのクライアントタイプにおいて有効です。

属性名	説明
-----	----

注意

この設定を使用するとルーティングに時間が掛かる、スクリプト変更されません。
使用するスクリプト開発モデルのプログラムに対してfile-map

認可設定

タグ名

認可設定

【設定項目】

```
<routing-jssp-config>
<file-mapping path="/user/application/list" page="user/applicati
<authz mapper="sample-mapper">
...
</authz>
</file-mapping>
<file-mapping path="/user/application/process/create" page="u:
<authz uri="service://application/update" action="execute" />
</file-mapping>
</routing-jssp-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ file-mapping
folder-mapping

【属性】

属性名	説明
-----	----

uri 認可リソースURIを指定します。

action 認可アクションを指定します。

mapper 認可リソースマッパーを指定します。
使用可能な値はルーティング用 認可リソースマッパーの値です。

コラム

authz-defaultタグが指定されていて、かつ、file-mappingタグ

注意

この設定は、以下のいずれかの設定を行う必要があります。
uri属性とaction属性
mapper属性

認可パラメータ

タグ名

認可リソースマッパーに対するパラメータを設定します。
親タグにmapper属性が指定されていない場合は無視されます。

【設定項目】

```
<routing-jssp-config>
<file-mapping path="/user/application/list" page="user/applicati
<authz mapper="sample-mapper">
  <param key="foo" value="FOO" />
  <param key="bar" value="BAR" />
</authz>
</file-mapping>
</routing-jssp-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ authz
authz-default

【属性】

属性名	説明	必須	デフォルト値
key	パラメータのキーを指定します。	<input type="checkbox"/>	なし
value	パラメータの値を指定します。	<input type="checkbox"/>	なし

IM-JavaEE Frameworkルーティング設定

- 項目
- [概要](#)
 - [リファレンス](#)
 - [デフォルト認可設定](#)
 - [サービスマッピング設定](#)
 - [アプリケーションマッピング設定](#)
 - [認可設定](#)
 - [認可パラメータ](#)

[概要](#)

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/routing-service-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/routing-service-config/{任意}

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<routing-service-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/router/routing-service-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/router/routing-ser
<authz-default uri="service://application/default" action="execu
<service-mapping path="/user/application/main" application="
<service-mapping path="/user/application/list" application="ap
  <authz mapper="sample-mapper">
    <param key="foo" value="FOO" />
    <param key="bar" value="BAR" />
  </authz>
</service-mapping>
<service-mapping path="/user/application/process/create" appli
  <authz uri="service://application/update" action="execute" />
</service-mapping>
<service-mapping path="/user/application/process/update" app
  <authz uri="service://application/update" action="execute" />
</service-mapping>
<service-mapping path="/user/application/process/delete" appli
  <authz uri="service://application/update" action="execute" />
</service-mapping>
</routing-service-config>
```

リファレンス

デフォルト認可設定

タグ名
authz-default

同じ設定ファイル上でのデフォルトの認可設定を行います。

【設定項目】

```
<routing-service-config>
  <authz-default uri="service://application/default" action="execu
</routing-service-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ routing-service-config

【属性】

属性名	説明
uri	認可リソースURIを指定します。
action	認可アクションを指定します。
mapper	認可リソースマッパーを指定します。 使用可能な値はルーティング用 認可リソースマッパーの値です。

注意
この設定は、以下のいずれかの設定を行う必要があります。
uri属性とaction属性
mapper属性

注意
authz-defaultタグを省略した場合、service-mappingタグ、

サービスマッピング設定

タグ名 service-mapping

URLとIM-JavaEE Frameworkのプログラムのマッピングを行います。

【設定項目】

```
<routing-service-config>
<authz-default uri="service://application/default" action="execute" />
<service-mapping path="/user/application/main" application="application" />
<service-mapping path="/user/application/list" application="application" />
...
</service-mapping>
<service-mapping path="/user/application/process/create" application="application" />
...
</service-mapping>
</routing-service-config>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	なし
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	routing-service-config

【属性】

属性名	説明
path	マッピングを行うURLを指定します。 値の末尾にワイルドカード「*」を指定すること 値に {<識別子>} を記述することでURLの途中 で取得可能です。 例： /sample/view/{dataId}
application	マッピングを行うIM-JavaEE Frameworkのアプリケーション名
service	マッピングを行うIM-JavaEE Frameworkのサー

属性名	説明
client-type	マッピングが有効となるクライアントタイプを指定します。省略時は、すべてのクライアントタイプにおいて有効です。

アプリケーションマッピング設定

タグ名 application-mapping

URLのパターンとIM-JavaEE Frameworkのアプリケーションのマッピング。特定のIM-JavaEE Frameworkのアプリケーションを持つすべてのサービスに対して適用されます。

【設定項目】

```
<routing-service-config>
  <application-mapping path-prefix="/user/application" application="..." />
</application-mapping>
</routing-service-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ routing-service-config

【属性】

属性名	説明
path-prefix	マッピングを行うURLを指定します。
application	マッピングを行うIM-JavaEE Frameworkのアプリケーションを指定します。
client-type	マッピングが有効となるクライアントタイプを指定します。省略時は、すべてのクライアントタイプにおいて有効です。

注意

この設定を使用するとルーティングに時間が掛かる、IM-JavaEE Frameworkのサービスに対してservice-を使用するIM-JavaEE Frameworkのサービスに対してservice-

認可設定

タグ名 authz

認可設定

【設定項目】

```
<routing-service-config>
<service-mapping path="/user/application/list" application="ap
<authz mapper="sample-mapper">
...
</authz>
</service-mapping>
<service-mapping path="/user/application/process/create" appli
<authz uri="service://application/update" action="execute" />
</service-mapping>
</routing-service-config>
```

必須項 ×
目

複数設 ×
定

設定 なし
値・設
定する
内容


単位・ なし
型


省略時 なし
のデ
フォ
ルト値

親タグ service-mapping
application-mapping

【属性】

属性名	説明
uri	認可リソースURIを指定します。
action	認可アクションを指定します。
mapper	認可リソースマッパーを指定します。 使用可能な値はルーティング用 認可リソースマッパ の値です。

 **コラム**
authz-defaultタグが指定されていて、かつ、service-mappi

 **注意**
この設定は、以下のいずれかの設定を行う必要があります。
uri属性とaction属性
mapper属性

認可パラメータ

タグ param
名

認可リソースマッパーに対するパラメータを設定します。
親タグにmapper属性が指定されていない場合は無視されます。

【設定項目】

```
<routing-service-config>
<service-mapping path="/user/application/list" application="ap
<authz mapper="sample-mapper">
<param key="foo" value="FOO" />
<param key="bar" value="BAR" />
</authz>
</service-mapping>
</routing-service-config>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定内容	なし
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	authz
子タグ	authz-default

【属性】

属性名	説明	必須	デフォルト値
key	パラメータのキーを指定します。	○	なし
value	パラメータの値を指定します。	○	なし

サーブレットルーティング設定

項目
<ul style="list-style-type: none"> • 概要 • リファレンス <ul style="list-style-type: none"> ◦ デフォルト認可設定 ◦ サーブレットマッピング設定 ◦ 認可設定 ◦ 認可パラメータ

概要

URLに対して、フォワード先のサーブレットパスへのマッピングを行う。

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/routing-servlet-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/routing-servlet-config/{任意}

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<routing-servlet-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/router/routing-servlet-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/router/routing-ser
<authz-default uri="service://application/default" action="execu
<servlet-mapping path="/user/application/main" servlet="appli
<servlet-mapping path="/user/application/list" servlet="applica
  <authz mapper="sample-mapper">
    <param key="foo" value="FOO" />
    <param key="bar" value="BAR" />
  </authz>
</servlet-mapping>
<servlet-mapping path="/user/application/process/create" servi
<authz uri="service://application/update" action="execute" />
</servlet-mapping>
<servlet-mapping path="/user/application/process/update" servi
<authz uri="service://application/update" action="execute" />
</servlet-mapping>
<servlet-mapping path="/user/application/process/delete" servi
<authz uri="service://application/update" action="execute" />
</servlet-mapping>
</routing-servlet-config>
```

リファレンス

デフォルト認可設定

タグ名 authz-default

同じ設定ファイル上でのデフォルトの認可設定を行います。

【設定項目】

```
<routing-servlet-config>
  <authz-default uri="service://application/default" action="execu
</routing-servlet-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容

単位・型

省略時のデフォルト値

親タグ routing-servlet-config

【属性】

属性名	説明
uri	認可リソースURIを指定します。
action	認可アクションを指定します。
mapper	認可リソースマッパーを指定します。 使用可能な値はルーティング用認可リソースマッパーの値です。

注意
この設定は、以下のいずれかの設定を行う必要があります。
uri属性とaction属性
mapper属性

注意
authz-defaultタグを省略した場合、servlet-mappingタグに

サブレットマッピング設定

タグ名

URLとサブレットパスのマッピングを行います。

【設定項目】

```
<routing-servlet-config>
<authz-default uri="service://application/default" action="execute">
<servlet-mapping path="/user/application/main" servlet="application">
<servlet-mapping path="/user/application/list" servlet="application">
...
</servlet-mapping>
</routing-servlet-config>
```

必須項目 ×
 複数設定 ○
 設定値・設定する内容 なし
 単位・型 なし
 省略時のデフォルト値 なし
 親タグ routing-servlet-config

【属性】

属性名	説明
path	マッピングを行うURLを指定します。 値の末尾にワイルドカード「*」を指定することで、値に{<識別子>}を記述することでURLの途中で取得可能です。 例： /sample/view/{dataId}
servlet	マッピングを行うサブレットパスを指定します。
client-type	マッピングが有効となるクライアントタイプを指定します。 省略時は、すべてのクライアントタイプにおいて有効です。

注意

認可によるアクセス制御について

サーブレットに対して認可によるアクセス制御を行う場合、具体的には、以下の3つで同じパスを指定したマッピング設定

- web.xml に定義されたサーブレットに対するURL (servlet-name)
- <routing-servlet-config> タグ内 <servlet-mapping> タグ内 <url-pattern>
- <routing-servlet-config> タグ内 <servlet-mapping> タグ内 <authz uri>

このマッピング設定がない場合、認可を経由せずにサーブレットが呼び出される

例えば web.xml で以下のようにサーブレットが定義されている

```
<servlet-mapping>
  <servlet-name>SampleServlet</servlet-name>
  <url-pattern>/sample_servlet</url-pattern>
</servlet-mapping>
```

この場合 routing-servlet-config には、以下のような <servlet-mapping> タグが追加されている

```
<servlet-mapping path="/sample_servlet" servlet="SampleServlet" authz uri="service://sample/servlet" action="execute" />
</servlet-mapping>
```

ワイルドカード指定について

servlet属性には、* (アスタリスク) 等のワイルドカード指定が使用できる

認可設定

タグ名

認可設定

【設定項目】

```
<routing-servlet-config>
  <servlet-mapping path="/user/application/list" servlet="application" authz mapper="sample-mapper">
    ...
  </servlet-mapping>
  <servlet-mapping path="/user/application/process/create" servlet="application" authz uri="service://application/update" action="execute" />
</routing-servlet-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ servlet-mapping

【属性】

属性名	説明
uri	認可リソースURIを指定します。
action	認可アクションを指定します。
mapper	認可リソースマッパーを指定します。 使用可能な値はルーティング用 認可リソースマッパーの値です。

i コラム
authz-defaultタグが指定されていて、かつ、servlet-mapping

! 注意
この設定は、以下のいずれかの設定を行う必要があります。
uri属性とaction属性
mapper属性

認可パラメータ

タグ名

認可リソースマッパーに対するパラメータを設定します。
親タグにmapper属性が指定されていない場合は無視されます。

【設定項目】

```
<routing-servlet-config>
<servlet-mapping path="/user/application/list" servlet="application"
<authz mapper="sample-mapper">
  <param key="foo" value="FOO" />
  <param key="bar" value="BAR" />
</authz>
</servlet-mapping>
</routing-servlet-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ authz
authz-default

【属性】

属性名	説明	必須	デフォルト値
key	パラメータのキーを指定します。	<input type="checkbox"/>	なし
value	パラメータの値を指定します。	<input type="checkbox"/>	なし

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [ショートカット操作モジュール](#)
 - [ショートカット操作実装クラス](#)
 - [エラーページパス](#)
 - [メインページパス](#)
 - [ショートカット情報検証設定](#)

概要

ショートカットアクセス機能の設定です。
 ショートカットアクセス機能はショートカットアクセス用のURLからア

モジュール	テナント管理機能モジュール
フォーマット	なし
ファイル	
(xsd)	
設定場所	WEB-INF/conf/short-cut-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<short-cut-config>
  <short-cut-accessor>
    <short-cut-accessor-class>jp.co.intra_mart.foundation.securi
    <error-page>/user/shortcut/error</error-page>
    <main-page>/home</main-page>
    <deny-client-types>sp</deny-client-types>
    <validator code="RegExpUser" class="jp.co.intra_mart.foundat
    <validator code="RoleUser" class="jp.co.intra_mart.foundation
    <validator code="Script" class="jp.co.intra_mart.foundation.se
  </short-cut-accessor>
</short-cut-config>
```

i コラム

short-cut-config.xmlのXMLスキーマ定義ファイル（xsdファイル修正時は上記設定例を参照の上、実施してください

リファレンス

ショートカット操作モジュール

タグ名	short-cut-accessor
-----	--------------------

ショートカット操作モジュールに関する設定を行います。

【設定項目】

```
<short-cut-config>
  <short-cut-accessor>
    ...
  </short-cut-accessor>
</short-cut-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定	ショートカット操作モジュールに関する設定を行います内容
単位・型	なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ short-cut-config

ショートカット操作実装クラス

タグ名 short-cut-accessor-class

ショートカット情報を操作するモジュール（ショートカットアクセッサ）

【設定項目】

```
<short-cut-config>
<short-cut-accessor>
  <short-cut-accessor-class>jp.co.intra_mart.foundation.securi
</short-cut-accessor>
</short-cut-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	jp.co.intra_mart.foundation.security.sho
単位・型	文字列 (xxxxxxxxxxxxxx)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	short-cut-accessor

エラーページパス

タグ名 error-page

ショートカット情報が存在しない場合に表示するページパスを指定しま

【設定項目】

```
<short-cut-config>
<short-cut-accessor>
  <error-page>/user/shortcut/error</error-page>
</short-cut-accessor>
</short-cut-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	ショートカット情報が存在しない場合に表示するへ
単位・型	文字列 (xxxxxxxxxxxxxx)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	short-cut-accessor

メインページパス

タグ名 main-page

ショートカットページを表示するためのメインページパスを設定します。

【設定項目】

```
<short-cut-config>
<short-cut-accessor>
  <main-page>/home</main-page>
</short-cut-accessor>
</short-cut-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	ショートカットページを表示するためのメインページの内容
単位・型	文字列 (xxxxxxxxxxxxxxxx)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	short-cut-accessor

ショートカット情報検証設定

タグ名

検証コードと検証プログラムの紐付けを行い、ショートカット情報の検証

【設定項目】

```
<short-cut-config>
<short-cut-accessor>
  <validator code="RegExpUser" class="jp.co.intra_mart.foundation.security.shortcut.validator.RegExpUser">
</short-cut-accessor>
</short-cut-config>
```

必須項目	○
複数設定	○
設定値・設定する内容	ショートカット情報の検証プログラムを設定します。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	short-cut-accessor

【属性】

属性名	説明
code	検証コードを指定します。
class	検証プログラムのクラスを指定します。 jp.co.intra_mart.foundation.security.shortcut.validator.RegExpUser を指定します。

システム期間情報の管理

- 項目
- [概要](#)
 - [リファレンス](#)
 - [システム最小日の設定](#)
 - [システム最大日の設定](#)

概要

システム期間情報を管理するための設定を行います。

モジュール テナント管理機能

フォーマットファイル(WEB-INF/schema/system-valid-date-config.xml(xsd))

設定場所 WEB-INF/conf/system-valid-date-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<system-valid-date-config
xmlns="http://www.intra_mart.co.jp/foundation/admin/validdate/c
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:schemaLocation="http://www.intra_mart.co.jp/foundation/adm
<min-date value="1900-01-01" />
<max-date value="3000-01-01" />
</system-valid-date-config>
```

リファレンス

システム最小日の設定

タグ名

システムで取り扱う最小日を設定します。

【設定項目】

```
<system-valid-date-config>
<min-date value="1900-01-01" />
</system-valid-date-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ system-valid-date-config

【属性】

属性名	説明	必須	レ
value	システム最小日の日付 (YYYY-MM-DD) です。	<input type="radio"/>	な

システム最大日の設定

タグ名

システムで取り扱う最大日を設定します。

【設定項目】

```
<system-valid-date-config>
  <max-date value="3000-01-01" />
</system-valid-date-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ system-valid-date-config

【属性】

属性名	説明	必須	デフォルト
value	システム最大日の日付 (YYYY-MM-DD) です。	<input type="radio"/>	なし

セキュア・トークンフィルタ設定

項目

- 概要
- リファレンス
 - セキュア・トークン対象URL設定

概要

セキュア・トークンによるリクエスト正当性チェックを実施するための設定

ここで設定されたURLにアクセスされた場合、特定のリクエストパラメータ内部には、正当性のチェックには [SecureTokenManager](#) を利用してリクエストパラメータの付与は `<imSecureToken>` タグを利用します。詳しくは、APIドキュメントの [スクリプト開発モデル・タグライブラリ](#)

正当だと判断された場合は、対象となるURLの内容が表示されます。正

i コラム

intra-mart Accel Platform 2014 Summer(Honoka)以降、`true` を設定することで、チェックを無視することが可能です。

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイル	WEB-INF/schema/token-filtering-target-conf(xsd)
設定場所	WEB-INF/conf/token-filtering-target-conf

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<token-filtering-target-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/secure-token/target-url-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/secure-token/target-url-config"
  >
  <entry url="/application/process/create" />
  <entry url="/application/process/update" />
  <entry url="/application/process/delete" />
</token-filtering-target-config>
```

リファレンス

セキュア・トークン対象URL設定

タグ名

リクエスト時にセキュア・トークンによるチェックを行うパスを指定します。

【設定項目】

```
<token-filtering-target-config>
  <entry url="/application/process/create" />
  <entry url="/application/process/update" />
  <entry url="/application/process/delete" />
</token-filtering-target-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ token-filtering-target-config

【属性】

属性名	説明
url	チェック対象となるURLを指定します。指定された文字列に完全一致するURLへアクセスしたときにチェックが実施されます。

システム管理者用グローバルナビ設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [メニュー設定](#)
 - [メニューの子要素](#)

概要

システム管理者用の画面に表示するグローバルナビの項目を設定します。

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/admin-global-navi-conf
設定場所	WEB-INF/conf/admin-global-navi-config/{

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<admin-global-navi-config
  xmlns="http://www.example.org/im-admin-home"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/admin-global-navi-
  <menu label="%CAP.Z.IWP.SYSTEM.HOME.CONSTRUCTION.TITL
  <children>
    <menu href="system/settings/license" label="%CAP.Z.IWP
    <menu href="system/settings/tenant" label="%CAP.Z.IWP.
    <menu href="system/setup" label="%CAP.Z.IWP.SYSTEM.HO
  </children>
</menu>
<menu label="%CAP.Z.IWP.SYSTEM.HOME.ADMINISTRATION.TIT
  <children>
    <menu href="master/maintenance/call/user" label="%CAP
    <menu href="system/service/module" label="%CAP.Z.IWP.
    <menu href="system/service/status" label="%CAP.Z.IWP.S
    <menu href="system/service/lock" label="%CAP.Z.IWP.SY
    <menu href="system/storage/view" label="%CAP.Z.IWP.SY
    <menu href="system/database" label="%CAP.Z.IWP.SYSTE
    <menu href="portal/portlet/app/list" label="%CAP.Z.IWP.S
    <menu href="portal/setting" label="%CAP.Z.IWP.SYSTEM.H
    <menu href="system/async/admin/task_queue_list" label=
    <menu href="system/settings/shared_database" label="%
  </children>
</menu>
</admin-global-navi-config>
```

リファレンス

メニュー設定

タグ名

メニューツリーの設定を行います。

【設定項目】

```
<menu label="%CAP.Z.IWP.SYSTEM.HOME.CONSTRUCTION.TITLE"
  <children>
    <menu href="system/settings/license" label="%CAP.Z.IWP.SY
    <menu href="system/settings/tenant" label="%CAP.Z.IWP.SY
    <menu href="system/setup" label="%CAP.Z.IWP.SYSTEM.HO
  </children>
</menu>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ admin-global-navi-config children

【属性】

属性名	説明
label	メニューに表示するラベルを指定します。

属性名	説明
href	メニューをクリックした際に遷移するURL
target	メニューをクリックした際のtargetを指定
id	このメニューのIDを指定します。複数ファ ている場合、そのメニューはマージされて
sort	メニューの要素のルートに同じIDが指定さ
useiframe	IFRAMEを使用した画面遷移を行うかを指

メニューの子要素

タ children
グ
名

メニューの子要素を指定します。子要素にはmenu要素を指定します。c

【設定項目】

```
<children>
  <menu href="system/settings/license" label="%CAP.Z.IWP.SYST
  <menu href="system/settings/tenant" label="%CAP.Z.IWP.SYST
  <menu href="system/setup" label="%CAP.Z.IWP.SYSTEM.HOME
</children>
```

必須 ×
項目

複数 ○
設定

設定 なし
値・
設定
する
内容

単 なし
位・
型

省略 なし
時の
デ
フォ
ルト
値

親タ menu
グ

コラム

label属性に%から始まる値を指定すると、MessageManage

システム管理者用ホームウィジェット設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [ホームウィジェット設定](#)
 - [パラメータ設定](#)

概要

システム管理者のホーム画面に表示するウィジェットを設定します。

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイル	WEB-INF/schema/admin-home-widget-cc (xsd)
設定場所	WEB-INF/conf/admin-home-widget-config

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<admin-home-widget-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/im-admin-home-widget-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/im-admin-home-w
  <widget url="system/home/widgets/status/status" captionUrl="
  <widget url="system/home/widgets/module/module" id="modu
  <widget url="system/home/widgets/license/license" id="licen
  <widget url="system/home/widgets/system-info/system-info" id
  <widget url="system/home/widgets/bookmark/bookmark" id="l
    <parameter name="bookmark" value="[
      {&quot;href&quot;: &quot;http://www.intra-mart.jp/&quot;;
      {&quot;href&quot;: &quot;http://www.intra-mart.jp/imart/pa
      {&quot;href&quot;: &quot;http://www.intra-mart.jp/support/
      {&quot;href&quot;: &quot;http://imfaq.intra-mart.jp/imfaq/&
      {&quot;href&quot;: &quot;http://www.intra-mart.jp/downloa
      &quot;external&quot;:true},
      {&quot;href&quot;: &quot;http://demo.intra-mart.jp/&quot;;
      {&quot;href&quot;: &quot;http://www.intra-mart.jp/apilist/&
    ]"/>
  </widget>
  <widget url="system/home/widgets/node/node" captionUrl="sy
  <widget url="system/home/widgets/tenant/tenant" id="tenant"
  <widget url="system/home/widgets/memory/memory" id="mer
</admin-home-widget-config>
```

リファレンス

ホームウィジェット設定

タグ名

ホーム画面のウィジェット設定を行います。

【設定項目】

```
<widget url="system/home/widgets/status/status" captionUrl="sy
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ admin-home-widget-config

【属性】

属性名	説明
id	このウィジェットのidを指定します。
url	このウィジェットの内容を返すURLを指定します。
captionUrl	このウィジェットのキャプションを返すURLを指定し
row	このウィジェットが表示される行を指定します。
col	このウィジェットが表示される列を指定します。
sizeX	このウィジェットの横幅を指定します。
sizeY	このウィジェットの縦幅を指定します。
color	このウィジェットの背景色を指定します。
flip	このウィジェットにキャプションを表示するかどうか す。

パラメータ設定

タ
グ
名

ウィジェットのパラメータ設定を行います。

【設定項目】

```
<parameter name="bookmark" value="[
{&quot;href&quot;: &quot;http://www.intra-mart.jp/&quot;, &quo
}]" />
```

必須 ×
項目

複数 ○
設定

設定 なし
値・
設定
する
内容

単 なし
位・
型

省略 なし
時の
デ
フォ
ルト
値

親タ widget
グ

【属性】

属性名	説明	デ フォ ルト 値	必 須
name	パラメータの名前です。	なし	×
value	パラメータの値です。	なし	×

システム管理者用ユーティリティメニュー設定

項目

- 概要
- リファレンス
 - ユーティリティメニュー設定
 - メニューの子要素

概要

システム管理者のユーティリティメニューの項目を設定します。

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/admin-utility-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/admin-utility-config/{任意の}

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<admin-utility-config xmlns="http://www.example.org/im-admin-utility-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.example.org/im-admin-utility-config http://www.example.org/im-admin-utility-config.xsd">
  <menu href="javascript:void(0);" label="%CAP.Z.IWP.SYSTEM.HOME">
    <children>
      <menu href="system/administrator/password" label="%CAP.Z.IWP.SYSTEM.ADMIN.PASSWORD">
      <menu href="system/administrator/locale" label="%CAP.Z.IWP.SYSTEM.ADMIN.LOCALE">
    </children>
  </menu>
  <menu href="logout" label="%CAP.Z.IWP.SYSTEM.COMMON.LOGOUT">
  </admin-utility-config>
```

リファレンス

ユーティリティメニュー設定

タグ名

システム管理者のユーティリティメニュー設定を行います。

【設定項目】

```
<menu href="javascript:void(0);" label="%CAP.Z.IWP.SYSTEM.HOME">
  <children>
    <menu href="system/administrator/password" label="%CAP.Z.IWP.SYSTEM.ADMIN.PASSWORD">
    <menu href="system/administrator/locale" label="%CAP.Z.IWP.SYSTEM.ADMIN.LOCALE">
  </children>
</menu>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	なし
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	admin-utility-config children

【属性】

属性名	説明
label	メニューに表示するラベルを指定します。
href	メニューをクリックした際に遷移するURL
target	メニューをクリックした際のtargetを指定
id	このメニューのIDを指定します。複数フアている場合、そのメニューはマージされて
sort	メニューの要素のルートに同じIDが指定さ
useiframe	IFRAMEを使用した画面遷移を行うかを指

メニューの子要素

タ children
グ
名

メニューの子要素を指定します。子要素にはmenu要素を指定します。c

【設定項目】

```
<children>
  <menu href="system/settings/license" label="%CAP.Z.IWP.SYST
  <menu href="system/settings/tenant" label="%CAP.Z.IWP.SYST
  <menu href="system/setup" label="%CAP.Z.IWP.SYSTEM.HOME
</children>
```

必須 ×
項目

複数 ○
設定

設定 なし
値・
設定
する
内容

単 なし
位・
型

省略 なし
時の
デ
フォ
ルト
値

親タ menu
グ



コラム

label属性に%から始まる値を指定すると、MessageManage

ブラウザロケールデコレータ設定

項目

- 概要
- リファレンス
 - プロパティの解決順序の変更設定

概要

アカウントコンテキストのプロパティの解決順序を変更するための設定
プロパティの解決順序は、以下の通りです。

1. アカウント設定
2. ブラウザ
3. テナント設定
4. システム設定
5. 環境設定

上記の解決順序のうち、「ブラウザ」と「テナント設定」の解決順序を

モジュール	テナント管理機能
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/browser-locale-decorator
設定場所	WEB-INF/conf/browser-locale-decorator-co

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<browser-locale-decorator-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/system/admin/context/web/brow
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/system/admin/cont
  <enable>true</enable>
</browser-locale-decorator-config>
```

リファレンス

プロパティの解決順序の変更設定

タグ名

プロパティの解決順序を変更するための設定を行います。
「ブラウザ」と「テナント設定」の解決順序を変更できます。

【設定項目】

```
<browser-locale-decorator-config>
  <enable>true</enable>
</browser-locale-decorator-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容 true ブラウザを優先します。

false テナント設定を優先します。

単位・型 真偽値 (true/false)

省略時のデフォルト値 true

親タグ browser-locale-decorator-config

コラム

プロパティの解決順序を変更するための設定は、intra-mart、intra-mart Accel Platform 2018 Spring(Skylark) 以前と同

IM-Notice 設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [ベースURLの設定](#)
 - [ショートカットURLの有効期間の設定](#)

概要

通知機能全般に関する設定です。

モジュール	通知機能全般
フォーマット ファイル(xsd)	WEB-INF/schema/im-notice-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/im-notice-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<im-notice-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/notice/config/im-notice-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/notice/config/im-notice-config"

  <base-url></base-url>
  <short-cut-duration-minutes>43200</short-cut-duration-minutes>
</im-notice-config>
```

リファレンス

ベースURLの設定

タグ base-url
属性 名

intra-mart Accel Platform のベースURLを設定します。
この設定は、ショートカットURLの作成に使用されます。
未設定の場合、server-context-config.xml で指定したベースURLが使

IM-Noticeへのメッセージ配信処理をジョブ経由で行う場合は、ベースURL
「セットアップガイド」の「ベースURL」または、「テナント環境情報

注意

ベースURLを指定しない場合、以下のエラーが発生します。
jp.co.intra_mart.system.notice.exception.NoticeRuntime

【設定項目】

```
<base-url>http://example.org/imart</base-url>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	クライアント（ブラウザ等）からアクセスを
単位・型	URI
省略時のデフォルト値	server-context-config.xmlで設定したベー
親タグ	im-notice-config

タグ short-cut-duration-minutes
名

ショートカットURLの有効期間を設定します。
クライアントがショートカットURLを使用しログインを行った後、有効

【設定項目】

```
<short-cut-duration-minutes>43200</short-cut-duration-mi
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定 する内容	ショートカットURLの有効期間を設定してください。 「0」を設定した場合、ショートカットURLは作成さ
単位・型	数値 (分) (0-)
省略時のデ フォルト値	なし
親タグ	im-notice-config

IM-Notice Mobile設定

項目

- リファレンス
 - プロキシの設定
 - ホストの設定
 - ポート番号の設定
 - ユーザ名の設定
 - パスワードの設定
 - ワークステーションの設定
 - ドメインの設定
 - Amazon SNSの設定
 - エンドポイントの設定
 - Amazon リソースネームの設定
 - アクセスキーの設定
 - シークレットキーの設定
 - Firebase Cloud MessagingのプロジェクトIDの設定
 - Firebase Cloud MessagingのアプリケーションIDの設定
 - Firebase Cloud MessagingのウェブAPIキーの設定
 - Firebase Cloud Messagingの送信者IDの設定
 - Baidu APIキーの設定
 - Firebase Cloud Messagingの設定
 - URLの設定
 - プロジェクトIDの設定
 - アプリケーションIDの設定
 - APIキーの設定
 - サーバーキーの設定
 - 送信者IDの設定
 - 通知方法の設定
 - 通知タイトルの最長文字数の設定
 - 通知内容の最長文字数の設定

概要 **

モバイル通知機能に関する設定です。

モジュール	モバイル通知機能
フォーマット ファイル(xsd)	WEB-INF/schema/im-notice-mobile-config.xs
設定場所	WEB-INF/conf/im-notice-mobile-config.xml

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<im-notice-mobile-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/notice/mobile/config/im-notice-
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/notice/mobile/con

  <proxy enable="false">
    <host></host>
    <port xsi:nil="true"></port>
    <username></username>
    <password></password>
    <workstation></workstation>
    <domain></domain>
  </proxy>

  <asns name="asns-apns">
    <endpoint>sns.ap-northeast-1.amazonaws.com</endpoint>
    <platform-application-arn></platform-application-arn>
    <access-key></access-key>
    <secret-key></secret-key>
  </asns>

  <asns name="asns-fcm">
    <endpoint>sns.ap-northeast-1.amazonaws.com</endpoint>
    <platform-application-arn></platform-application-arn>
    <access-key></access-key>
    <secret-key></secret-key>
    <fcm-project-id></fcm-project-id>
    <fcm-application-id></fcm-application-id>
    <fcm-api-key></fcm-api-key>
    <fcm-sender-id></fcm-sender-id>
  </asns>

  <asns name="asns-baidu">
    <endpoint>sns.ap-northeast-1.amazonaws.com</endpoint>
    <platform-application-arn></platform-application-arn>
    <access-key></access-key>
    <secret-key></secret-key>
    <baidu-api-key></baidu-api-key>
  </asns>

  <fcm name="fcm">
    <url>https://fcm.googleapis.com/fcm/send</url>
    <project-id></project-id>
    <application-id></application-id>
    <api-key></api-key>
    <server-key></server-key>
    <project-number></project-number>
  </fcm>

  <push type="android" engine="fcm" />
  <push type="ios" engine="asns-apns" />

  <max-push-subject-length>30</max-push-subject-length>
  <max-push-body-length>70</max-push-body-length>
</im-notice-mobile-config>

```

リファレンス

プロキシの設定

タ
グ
名

Amazon SNSやFirebase Cloud Messagingへ接続するためのプロキシ

【設定項目】

```

<im-notice-mobile-config>
  <proxy enable="false">
    . . . . .
  </proxy>
</im-notice-mobile-config>

```

必須項目 ○

複数設定	×
設定値・設定する内容	プロキシを使用する際に必要な設定をしてください。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	im-notice-mobile-config

【属性】

属性名	説明
enable	プロキシを使用する場合、trueを設定してください。プロキシを使用しない場合、falseを設定してください。

ホストの設定

タグ名

プロキシサーバのIPアドレスを設定します。

【設定項目】

```
<proxy enable="true">
  <host>XXX.XXX.XXX.XXX</host>
</proxy>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容

単文字列単位・型

省略時のデフォルト値

親タグ proxy

ポート番号の設定

タグ名

プロキシサーバのポート番号を設定します。

【設定項目】

```
<proxy enable="true">
  <port>XXXX</port>
</proxy>
```

必須 ×
項目

複数 ×
設定

設定 なし
値・
設定
する
内容

単 数値 (0-)
位・
型

省略 なし
時の
デ
フォ
ルト
値

親タ グ proxy

【属性】

属性名	説明
xsi:nil	ポート番号を指定する場合、この属性を削除してください。 ポート番号を指定しない場合、trueを設定してください。

ユーザ名の設定

タ username
グ
名

プロキシ使用時にユーザ認証が必要な場合、ユーザ名を設定します。

【設定項目】

```
<proxy enable="true">
  <username>XXXXXXXX</username>
</proxy>
```

必須 ×
項目

複数 ×
設定

設定 なし
値・
設定
する
内容

単 文字列
位・
型

省略 なし
時の
デ
フォ
ルト
値

親タ proxy
グ

パスワードの設定

タ password
グ
名

プロキシ使用時にユーザ認証が必要な場合、パスワードを設定します。

【設定項目】

```
<proxy enable="true">
  <password>XXXXXXXX</password>
</proxy>
```

必須 ×
項目

複数 ×
設定

設定 なし
値・
設定
する
内容

単 文字列
位・
型

省略 なし
時の
デ
フォ
ルト
値

親タ proxy
グ

ワークステーションの設定

タ workstation
グ
名

NTLM認証を行っている場合、ワークステーションを設定します。

【設定項目】

```
<proxy enable="true">
  <workstation>XXXXXXXX</workstation>
</proxy>
```

必須 ×
項目

複数 ×
設定

設定 なし
 値・
 設定
 する
 内容

単 文字列
 位・
 型

省略 なし
 時の
 デ
 フォ
 ルト
 値

親タ proxy
 グ

ドメインの設定

タ domain
 グ
 名

NTLM認証を行っている場合、ドメインを設定します。

【設定項目】

```
<proxy enable="true">  
  <domain>XXXXXXXX</domain>  
</proxy>
```

必須 ×
 項目

複数 ×
 設定

設定 なし
 値・
 設定
 する
 内容

単 文字列
 位・
 型

省略 なし
 時の
 デ
 フォ
 ルト
 値

親タ proxy
 グ

Amazon SNSの設定

タ asns
 グ
 名

Amazon SNSを使用するための項目値を設定します。

【設定項目】

```
<im-notice-mobile-config>
  <asns name="asns-apns">
    . . . . .
  </asns>
</im-notice-mobile-config>
```

必須項目	○
複数設定	○
設定値・設定内容	Amazon SNSを使用するために必要な設定をしてください
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	im-notice-mobile-config

【属性】

属性名	説明
name	任意の名前を設定してください。 pushタグのengine要素で通知方法を設定する際に使用

エンドポイントの設定

タグ名

エンドポイントを設定します。

【設定項目】

```
<im-notice-mobile-config>
  <asns name="asns-apns">
    <endpoint>sns.ap-northeast-1.amazonaws.com</endpoint>
  </asns>
</im-notice-mobile-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定内容	使用するリージョンに対応するAmazon SNS 各リージョンのエンドポイントは AWS docu
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	空文字
親タグ	asns

Amazon リソースネームの設定

タグ名

Amazonリソースネームを設定します。

【設定項目】

```
<im-notice-mobile-config>
  <asns name="asns-apns">
    <platform-application-arn>arn:aws:sns:ap-northeast-1:XX
  </asns>
</im-notice-mobile-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	Amazon SNSで作成したアプリケーションのAPI内容
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	空文字
親タグ	asns

アクセスキーの設定

タグ名

アクセスキーを設定します。

【設定項目】

```
<im-notice-mobile-config>
  <asns name="asns-apns">
    <access-key>XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX</access-key>
  </asns>
</im-notice-mobile-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	AWSで作成したアクセスキーを設定してください。
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	空文字
親タグ	asns

シークレットキーの設定

タグ名

シークレットキーを設定します。

【設定項目】

```
<im-notice-mobile-config>
  <asns name="asns-apns">
    <secret-key>XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX</secret-key>
  </asns>
</im-notice-mobile-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	AWSで作成したシークレットキーを設定してください。
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	空文字
親タグ	asns

Firebase Cloud MessagingのプロジェクトIDの設定

タグ名 `fcm-project-id`

FirebaseプロジェクトのプロジェクトIDを設定します。

【設定項目】

```
<im-notice-mobile-config>
  <asns name="asns-fcm">
    <fcm-project-id>XXXXXXXXXXXX</fcm-project-id>
  </asns>
</im-notice-mobile-config>
```

必須項目	通知手段にAmazon SNS+Firebase Cloud Mess
複数設定	×
設定値・設定する内容	Firebaseで作成したプロジェクトのプロジェクトID
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	asns

Firebase Cloud MessagingのアプリケーションIDの設定

タグ名 `fcm-application-id`

Firebaseプロジェクトに追加したAndroidアプリのアプリケーションID

【設定項目】

```
<im-notice-mobile-config>
  <asns name="asns-fcm">
    <fcm-application-id>XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX</fcm-application-id>
  </asns>
</im-notice-mobile-config>
```

必須項目	通知手段にAmazon SNS+Firebase Cloud Me
複数設定	×
設定値・設定する内	Firebaseプロジェクトに追加したAndroidアプ
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	asns

Firebase Cloud MessagingのウェブAPIキーの設定

タグ名 `fcm-api-key`

Firebaseで作成したプロジェクトのウェブAPIキーを設定します。

【設定項目】

設定値・設定内容 BaiduクラウドプロジェクトのAPIキーを設定して
する内容

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 なし

親タグ asns

Firebase Cloud Messagingの設定

タグ名

Firebase Cloud Messagingを使用するための設定をします。

【設定項目】

```
<im-notice-mobile-config>
  <fcm name="fcm">
    . . . . .
  </fcm>
</im-notice-mobile-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 Firebase Cloud Messagingを使用するために必
要な内容

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ im-notice-mobile-config

【属性】

属性名 説明

name 任意の名前を設定してください。
pushタグのengine要素で通知方法を設定する際に使
用します。

URLの設定

タグ名

Firebase Cloud MessagingのURLを設定します。

【設定項目】

```
<im-notice-mobile-config>
  <fcm name="fcm">
    <url>https://fcm.googleapis.com/fcm/send</url>
  </fcm>
</im-notice-mobile-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 「<https://firebase.google.com/docs/cloud-messaging>」

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 空文字

親タグ fcm

プロジェクトIDの設定

タグ project-id
名

プロジェクトIDを設定します。

【設定項目】

```
<im-notice-mobile-config>
  <fcm name="fcm">
    <project-id>XXXXXXXXXXXX</project-id>
  </fcm>
</im-notice-mobile-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容 Firebaseで作成したプロジェクトのプロジェクトID

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 空文字

親タグ fcm

アプリケーションIDの設定

タグ application-id
名

アプリケーションIDを設定します。

【設定項目】

```
<im-notice-mobile-config>
  <fcm name="fcm">
    <application-id>XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
  </fcm>
</im-notice-mobile-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容 Firebaseプロジェクトに追加したAndroidアプリ

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 空文字

親タグ fcm

APIキーの設定

タグ api-key
名

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	Firebase Cloud Messagingの送信者IDを設定してください
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	空文字
親タグ	fcm

通知方法の設定

タグ名

各通知先へ通知を行う際に使用するサービスを設定します。

【設定項目】

```
<im-notice-mobile-config>
  <push type="android" engine="fcm" />
  <push type="ios" engine="asns-apns" />
</im-notice-mobile-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容

単位・型

省略時のデフォルト値

親タグ im-notice-mobile-config

【属性】

属性名	説明
type	通知先 (android/ios) を設定してください。
engine	各通知先への通知方法 (asnsタグまたはfcmタグ) を設定してください。

通知タイトルの最長文字数の設定

タグ名

Push通知受信時に表示するタイトルの最大文字数を設定します。

【設定項目】

```
<im-notice-mobile-config>
  <max-push-subject-length>30</max-push-subject-length>
</im-notice-mobile-config>
```

必須項目

複数設定	×
設定値・設定内容	Push通知受信時に表示するタイトルの最大文字数
単位・型	数値 (0-)
省略時のデフォルト値	空文字
親タグ	im-notice-mobile-config

通知内容の最長文字数の設定

タグ名 max-push-body-length

Push通知受信時に表示する本文の最長文字数を設定します。

【設定項目】

```
<im-notice-mobile-config>
  <max-push-body-length>70</max-push-body-length>
</im-notice-mobile-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定内容	Push通知受信時に表示する本文の最長文字数を設定する内容
単位・型	数値 (0-)
省略時のデフォルト値	空文字
親タグ	im-notice-mobile-config

IM-Notice MQ設定

項目	<ul style="list-style-type: none"> • 概要 • リファレンス <ul style="list-style-type: none"> ◦ ポート番号の設定 ◦ ping機能の設定 ◦ エンドポイントの設定 ◦ I/Oスレッドの設定 ◦ ソケットの最大数の設定 ◦ リンガーの設定
----	---

概要

デスクトップ通知機能を使用するための設定です。

モジュール	デスクトップ通知機能
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/im-notice-mq-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/im-notice-mq-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<im-notice-mq-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/notice/mq/config/im-notice-mq-
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/notice/mq/config/i

  <address bind="true">tcp://*:40608</address>
  <ping enable="false" interval-seconds="0" time-to-live-seconds=
  <endpoints>
    <endpoint>tcp://localhost:40608</endpoint>
  </endpoints>
  <zmq-io-threads>1</zmq-io-threads>
  <zmq-max-sockets>1024</zmq-max-sockets>
  <zmq-linger>1000</zmq-linger>

</im-notice-mq-config>
```

リファレンス

ポート番号の設定

タグ名

サーバがクライアントとの通信を行う際に使用するポート番号を設定し、分散構成やWeb Serverを利用している構成の場合はブローカーを利用し、デフォルトの設定では40608ポートを使用します。



コラム

ブローカーとは、ネットワーク中継を行うためのプロキシです。

【設定項目】

```
<im-notice-mq-config>
  <address bind="true">tcp://*:40608</address>
</im-notice-mq-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	ポート番号を設定してください。ブローカーを利用する場合、「tcp:」を指定します。
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	im-notice-mq-config

【属性】

属性名	説明
bind	スタンドアローン構成の場合、trueを設定してください。ブローカーを利用する構成の場合、falseを設定してください。

ping機能の設定

タグ名

ping機能に関する設定をします。

【設定項目】

```
<im-notice-mq-config>
  <ping enable="false" interval-seconds="0" time-to-live-seconds="0">
</im-notice-mq-config>
```

必須項目 複数設定

設定値・ping機能の設定をしてください。
設定する
内容

単位・型 なし

省略時の
デフォル
ト値

親タグ im-notice-mq-config

【属性】

属性名	説明
enable	ping機能の利用設定を行います。 利用する場合はtrue、利用しない場合はfalseを設
interval-seconds	クライアントにpingを流す間隔を数値（秒）で設
time-to-live-seconds	クライアントがサーバに再接続を行うまでの時間

エンドポイントの設定

タグ endpoint
タグ
名

エンドポイントを設定します。
ブローカーを利用する場合ブローカーのホストまたはIPアドレスとプロ

【設定項目】

```
<im-notice-mq-config>
  <endpoints>
    <endpoint>tcp://localhost:40608</endpoint>
  </endpoints>
</im-notice-mq-config>
```

必須項目 複数設定

設定値・設定する内容 クライアントの接続先を設定します。
addressタグで設定したポート番号
ブローカーを利用する場合、「tcp」
を指定します。

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 なし

親タグ endpoints

I/Oスレッドの設定

タグ zmq-io-threads
タグ
名

ZeroMQで使用されるI/Oスレッドの設定をします。
詳細は [ZMQ_IO_THREADS: Set number of I/O threads](#) を参照してく

【設定項目】

```
<im-notice-mq-config>
  <zmq-io-threads>1</zmq-io-threads>
</im-notice-mq-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	I/O操作を処理するためのZeroMQスレッドプールの内容
単位・型	数値
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	im-notice-mq-config

ソケットの最大数の設定

タグ名
zmq-max-sockets

ZeroMQで 사용되는ソケットの最大数の設定をします。

【設定項目】

```
<im-notice-mq-config>
  <zmq-max-sockets>1024</zmq-max-sockets>
</im-notice-mq-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	ZeroMQのコンテキストで許可されているソケット内容
単位・型	数値
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	im-notice-mq-broker-config

リンガーの設定

タグ名
zmq-linger

リンガー期間を設定します。
クライアントのソケットが閉じられた場合、未送信のメッセージは設定詳細は [ZMQ_LINGER: Set linger period for socket shutdown](#) を参照

【設定項目】

```
<im-notice-mq-config>
  <zmq-linger>1000</zmq-linger>
</im-notice-mq-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	リンガー期間を設定してください。

単位・型 数値 (秒) (0-)

省略時の なし

デフォルト値

親タグ im-notice-mq-config

IM-Notice MQブローカー設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [ポート番号 \(フロントエンド\) の設定](#)
 - [ポート番号 \(バックエンド\) の設定](#)
 - [ping機能の設定](#)
 - [I/Oスレッドの設定](#)
 - [ソケットの最大数の設定](#)
 - [リンガー \(バックエンド\) の設定](#)
 - [リンガー \(フロントエンド\) の設定](#)

概要

ブローカーを含む構成でデスクトップ通知機能を使用するための設定です。

モジュール	デスクトップ通知機能
フォーマットファイル(xsd)	ブローカーサービス実行ファイルを参照 config.xsd
設定場所	ブローカーサービス実行ファイルを参照

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<im-notice-mq-broker-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/notice/mq/broker/config/im-notice-mq-broker-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/notice/mq/broker/config/im-notice-mq-broker-config config.xsd">

  <frontend>tcp://*:40608</frontend>
  <backend>tcp://*:40609</backend>
  <ping enable="false" interval-seconds="0" />
  <zmq-io-threads>1</zmq-io-threads>
  <zmq-max-sockets>1024</zmq-max-sockets>
  <zmq-backend-linger>1000</zmq-backend-linger>
  <zmq-frontend-linger>1000</zmq-frontend-linger>

</im-notice-mq-broker-config>
```

リファレンス

ポート番号 (フロントエンド) の設定

タグ frontend
タグ
名

ブローカーがデスクトップ通知アプリケーションとの通信を行うポート番号を設定します。デフォルトの設定では40608ポートを使用します。

【設定項目】

```
<im-notice-mq-broker-config>
  <frontend>tcp://*:40608</frontend>
</im-notice-mq-broker-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	ブローカーがクライアントとの通信を行う際に使用する内容
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	im-notice-mq-broker-config

ポート番号（バックエンド）の設定

タグ名

ブローカーがWeb Application Server との通信を行うポート番号を設定する際は、デフォルトの設定では40609ポートを使用します。

【設定項目】

```
<im-notice-mq-broker-config>
  <backend>tcp://*:40609</backend>
</im-notice-mq-broker-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	ブローカーがサーバとの通信を行う際に使用する内容
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	im-notice-mq-broker-config

ping機能の設定

タグ名

ping機能の設定をします。

【設定項目】

```
<im-notice-mq-broker-config>
  <ping enable="false" interval-seconds="0" />
</im-notice-mq-broker-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	ping機能の設定をしてください。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	im-notice-mq-broker-config

【属性】

属性名	説明
enable	ping機能の利用設定を行います。 利用する場合はtrue、利用しない場合はfalseを設定
interval-seconds	クライアントにpingを流す間隔を数値（秒）で設定

I/Oスレッドの設定

タグ名

zmq-io-threads

ZeroMQで使用されるI/Oスレッドの設定をします。

詳細は [ZMQ_IO_THREADS: Set number of I/O threads](#) を参照してください。

【設定項目】

```
<im-notice-mq-broker-config>
  <zmq-io-threads>1</zmq-io-threads>
</im-notice-mq-broker-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	I/O操作を処理するためのZeroMQスレッドプールの内容
単位・型	数値
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	im-notice-mq-broker-config

ソケットの最大数の設定

タグ名

zmq-max-sockets

ZeroMQで使用されるソケットの最大数の設定をします。

【設定項目】

```
<im-notice-mq-broker-config>
  <zmq-max-sockets>1024</zmq-max-sockets>
</im-notice-mq-broker-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	ZeroMQのコンテキストで許可されているソケットの内容
単位・型	数値
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	im-notice-mq-broker-config

リンガー（バックエンド）の設定

タグ名
zmq-backend-linger

サーバ側のリンガー期間を設定します。
サーバのソケットが閉じられた場合、未送信のメッセージは設定された！
詳細は [ZMQ_LINGER: Set linger period for socket shutdown](#) を参照

【設定項目】

```
<im-notice-mq-broker-config>
  <zmq-backend-linger>1000</zmq-backend-linger>
</im-notice-mq-broker-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する
内容 リンガー期間を設定してください。

内容

単位・型 数値 (秒) (0-)

省略時のデフォルト値 なし

デフォルト値

親タグ im-notice-mq-broker-config

リンガー（フロントエンド）の設定

タグ名
zmq-frontend-linger

クライアント側のリンガー期間を設定します。
クライアントのソケットが閉じられた場合、未送信のメッセージは設定
詳細は [ZMQ_LINGER : Set linger period for socket shutdown](#) を参照

【設定項目】

```
<im-notice-mq-broker-config>
  <zmq-frontend-linger>1000</zmq-frontend-linger>
</im-notice-mq-broker-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する
内容 リンガー期間を設定してください。

内容

単位・型 数値 (秒) (0-)

省略時のデフォルト値 なし

デフォルト値

親タグ im-notice-mq-broker-config

招待権限リスト設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [招待権限デコレータ](#)

概要

招待時に付与される権限デコレータの設定です。

招待情報の権限リストに表示されます。

この招待権限デコレータによって招待されたユーザに対して、様々な権

モジュール	招待機能と外部ユーザ
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/invitation-decorator-conf
設定場所	WEB-INF/conf/invitation-decorator-config/

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<invitation-decorator-config
  xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/external/user/config/decor"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/system/external/use

  <invitation-decorator id="im_role" name="%CAP.Z.IWP.EX"
  class="jp.co.intra_mart.foundation.external.user.invitation.decorat
  <invitation-decorator id="im_department" name="%CAP.Z
  class="jp.co.intra_mart.foundation.external.user.invitation.decorat
  path="im_external_user/invitation/admin/decorators/department"/>
  <invitation-decorator id="im_app_license" name="%CAP.Z
  class="jp.co.intra_mart.foundation.external.user.invitation.decorat
  path="im_external_user/invitation/admin/decorators/app_license"/>
  <invitation-decorator id="im_external_user" name="%CAP.
  class="jp.co.intra_mart.foundation.external.user.invitation.decorat

</invitation-decorator-config>
```

リファレンス

招待権限デコレータ

タグ invitation-decorator
グ
名

招待権限デコレータを設定します。

招待したユーザに対して行う処理（権限の付与など）を定義します。

設定された招待権限デコレータは招待情報の権限リストに表示されます。

【設定項目】

```
<invitation-decorator-config>
  <invitation-decorator id="im_role" name="%CAP.Z.IWP.E
  class="jp.co.intra_mart.foundation.external.user.invitation.decorat
</invitation-decorator-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容	なし
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	invitation-decorator-config

【属性】

属性名	説明
id	権限デコレータを一意に識別するIDです。 利用できる文字は、半角英数および_（アンダースコア）です。
name	権限デコレータの名称です。 招待情報の権限リストの名称として表示されます。 先頭に%をつけて、メッセージキーを書くことで、表示ロケールに合わせた文字を取得します。 %をつけない場合は、そのまま設定した値が表示されます。 【例】 %CAP.Z.IWP.EXTERNAL.USER.INVI
decorator-class	権限デコレータの処理クラスです。 招待されたユーザに対して、実行する処理を記述したクラスである必要があります。 権限デコレータの処理クラスの開発方法については、「 リストを拡張する 」を参照してください。
editable	権限デコレータに対してパラメータが設定できるかどうか。 false : パラメータを必要としません。 true : パラメータを必要とします。 この値がtrueの場合は、招待情報の権限リストの編集画面が表示されます。
edit-path	権限デコレータのパラメータを編集するための画面のパスです。 画面プログラムの開発方法については、「 招待機能のデコレータのパラメータ編集画面の作成 」を参照してください。 editable属性がtrueの場合で、edit-pathを指定しない場合は、招待機能のデコレータのパラメータ編集画面が表示されます。

招待メールデフォルト設定

項目
<ul style="list-style-type: none"> • 概要 • リファレンス <ul style="list-style-type: none"> ◦ 招待確認URL ◦ Fromアドレス ◦ ReplyToアドレス ◦ Ccアドレス ◦ Bccアドレス ◦ メールアドレス

概要

招待メールのデフォルト設定です。
招待情報を新規作成する場合のメール送信方法に関する設定を行う機能。本設定ファイルでは、招待情報の新規作成時に画面に表示されるデフォルト設定です。

モジュール	招待機能と外部ユーザ
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/invitation-mail-config.xsd

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<invitation-mail-config
  xmlns="http://intra-mart.co.jp/system/external/user/config/mail/i
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/system/external/use

<programPath>/invitation/invitation_register</programPath>
<mailFrom>sender@sample.com</mailFrom>
<mailReplyTo>reply@sample.com</mailReplyTo>
<mailCc>
  <address>cc1@sample.com</address>
  <address>cc2@sample.com</address>
</mailCc>
<mailBcc>
  <address>bcc1@sample.com</address>
  <address>bcc2@sample.com</address>
</mailBcc>

</invitation-mail-config>
```

リファレンス

招待確認用URL

タグ名

招待確認用のURLです。
コンテキストパスからの相対パスを設定します。

【設定項目】

```
<invitation-mail-config>
  <programPath>/invitation/invitation_register</programPath>
</invitation-mail-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 /invitation/invitation_registerで固定です。
変更する必要はありません。

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 なし

親タグ invitation-mail-config

Fromアドレス

タグ名

招待メールのFromアドレスを指定します。

【設定項目】

```
<invitation-mail-config>
  <mailFrom>sender@sample.com</mailFrom>
</invitation-mail-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 招待メールのFromアドレスを設定します。

単位・型 文字列（メールアドレス）

省略時のデフォルト値 なし

親タグ invitation-mail-config

ReplyToアドレス

タグ mailReplyTo

招待メールのReplyToアドレスを指定します。

【設定項目】

```
<invitation-mail-config>
<mailReplyTo>reply@sample.com</mailReplyTo>
</invitation-mail-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 招待メールのReplyToアドレスを設定します。

単位・型 文字列（メールアドレス）

省略時のデフォルト値 なし

親タグ invitation-mail-config

Ccアドレス

タグ mailCc

招待メールのCcアドレスを指定します。

【設定項目】

```
<invitation-mail-config>
<mailCc>
<address>cc1@sample.com</address>
<address>cc2@sample.com</address>
</mailCc>
</invitation-mail-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 招待メールのCcアドレスを設定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ invitation-mail-config

Bccアドレス

タグ名
mailBcc

招待メールのBccアドレスを指定します。

【設定項目】

```
<invitation-mail-config>
<mailBcc>
  <address>bcc1@sample.com</address>
  <address>bcc1@sample.com</address>
</mailBcc>
</invitation-mail-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する 招待メールのBccアドレスを設定します。

内容

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ invitation-mail-config

メールアドレス

タグ名
address

メールの送信先メールアドレスを指定します。

【設定項目】

```
<invitation-mail-config>
<mailCc>
  <address>cc1@sample.com</address>
</mailCc>
</invitation-mail-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する メールアドレスを設定します。

内容

単位・型 文字列（メールアドレス）

省略時のデフォルト値 なし

親タグ mailCc, mailBcc

利用機能アプリケーション設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [利用機能アプリケーション設定](#)
 - [標準表示名称設定](#)
 - [国際化設定](#)
 - [国際化詳細設定](#)
 - [国際化名称設定](#)
 - [アプリケーションライセンス設定](#)
 - [アプリケーションライセンス詳細設定](#)
 - [プロダクトID設定](#)
 - [認可ポリシー設定](#)

概要

利用機能アプリケーション設定を行います。

モジュール	プロジェクトチーム機能
フォーマットファイル (xsd)	WEB-INF/schema/improject-application-
設定場所	WEB-INF/conf/improject-application-con

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<improject-application-config xmlns="http://intra-mart.co.jp/im
xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/improject/improject-ap
<application application-cd="application" sort-key="0" tenant="
<default-name>Application</default-name>
<localizations>
  <localize locale="ja">
    <name>アプリケーション</name>
  </localize>
  <localize locale="en">
    <name>Application</name>
  </localize>
  <localize locale="zh_CN">
    <name>应用程序</name>
  </localize>
</localizations>
<required-licenses>
  <required-license>
    <product-id>XXXXX</product-id>
    <product-id>YYYYY</product-id>
  </required-license>
  <required-license>
    <product-id>ZZZZZ</product-id>
  </required-license>
</required-licenses>
<authz-policy resource="admin-resource" type="service" actio
</application>
</improject-application-config>
```

リファレンス

利用機能アプリケーション設定

タ application
グ
名

利用機能アプリケーションを設定します。

【設定項目】

```
<improject-application-config>
  <application application-cd="application" sort-key="0" tenant="
  ....
</application>
</improject-application-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容 利用機能アプリケーションを設定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ improject-application-config

【属性】

属性名	説明
application-cd	この設定のコードを設定します。
sort-key	この設定のソートキーです。アプリケーションの並びます。
tenant	この設定が有効なテナントIDをスペース区切りで設定。すべてのテナントで有効にする場合は、設定を省略し

標準表示名称設定

タグ default-name
グ
名

標準表示名称を設定します。

【設定項目】

```
<improject-application-config>
  <application application-cd="application" sort-key="0" tenant="
  <default-name>Application</default-name>
</application>
</improject-application-config>
```

必須項目 ○

複数設定 ×

設定値・設定する内容 標準表示名称を設定します。

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 なし

親タグ application

国際化設定

タグ名

国際化を設定します。

【設定項目】

```
<improject-application-config>
<application application-cd="application" sort-key="0" tenant="
<localizations>
....
</localizations>
</application>
</improject-application-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容
国際化を設定します。

単位・型

省略時のデフォルト値

親タグ application

国際化詳細設定

タグ名

国際化詳細設定を設定します。

【設定項目】

```
<improject-application-config>
<application application-cd="application" sort-key="0" tenant="
<localizations>
<localize locale="ja">
....
</localize>
<localize locale="en">
....
</localize>
<localize locale="zh_CN">
....
</localize>
</localizations>
</application>
</improject-application-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容
国際化詳細を設定します。

単位・型

省略時のデフォルト値	なし
親タグ	application

【属性】

属性名	説明	必須	デフォルト値
locale	ロケールIDを設定します。	<input type="radio"/>	なし

国際化名称設定

タグ名

国際化名称設定を設定します。

【設定項目】

```
<improject-application-config>
  <application application-cd="application" sort-key="0" tenant=">
    <localizations>
      <localize locale="ja">
        <name>アプリケーション</name>
      </localize>
      <localize locale="en">
        <name>Application</name>
      </localize>
      <localize locale="zh_CN">
        <name>应用程序</name>
      </localize>
    </localizations>
  </application>
</improject-application-config>
```

必須項目	<input type="radio"/>
複数設定	<input checked="" type="checkbox"/>
設定値・設定する内容	国際化名称を設定します。
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	localize

【属性】

属性名	説明	必須	デフォルト値
locale	ロケールIDを設定します。	<input type="radio"/>	なし

アプリケーションライセンス設定

タグ名 required-licenses

アプリケーションライセンスを設定します。

【設定項目】

```
<improject-application-config>
<application application-cd="application" sort-key="0" tenant="
<required-licenses>
....
</required-licenses>
</application>
</improject-application-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 アプリケーションライセンスを設定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ application

アプリケーションライセンス詳細設定

タグ required-license

アプリケーションライセンス詳細を設定します。

【設定項目】

```
<improject-application-config>
<application application-cd="application" sort-key="0" tenant="
<required-licenses>
<required-license>
....
</required-license>
</required-licenses>
</application>
</improject-application-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 アプリケーションライセンス詳細を設定します。
複数設定した場合は、それぞれのライセンスを付与し

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ required-licenses

プロダクトID設定

タグ product-id

アプリケーションライセンスのプロダクトIDを設定します。

【設定項目】

```
<improject-application-config>
<application application-cd="application" sort-key="0" tenant="
<required-licenses>
<required-license>
<product-id>XXXXX</product-id>
<product-id>YYYYY</product-id>
</required-license>
<required-license>
<product-id>ZZZZZ</product-id>
</required-license>
</required-licenses>
</application>
</improject-application-config>
```

必須項目	○
複数設定	○
設定値・設定する内容	アプリケーションライセンスの製品IDをいくつかひとつのライセンスが付与できれば良い
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	application

i **コラム**
この設定例の場合、「XXXXX」「YYYYY」のどちらかのライセンスを指定する必要があります。

認可ポリシー設定

タグ名
authz-policy

利用機能の認可ポリシーを設定します。
プロジェクトメンバー、プロジェクトリーダーのサブジェクトに対して:

【設定項目】

```
<improject-application-config>
<application application-cd="application" sort-key="0" tenant="
<authz-policy resource="user-resource" type="service" action="
<authz-policy resource="admin-resource" type="service" action="
</application>
</improject-application-config>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	利用機能の認可ポリシーを設定します。 プロジェクトメンバー、プロジェクトリーダー
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	application

【属性】

属性名	説明
resource	リソースグループIDを設定します。
type	リソースタイプIDを設定します。
action	アクションを設定します。
effect	エフェクトを設定します。

属性名	説明
target	ポリシーを付与するターゲットを設定します。 メンバーに対して付与する場合は省略します。 リーダーに付与する場合は、リーダーの役職コードで 定めます。

利用機能設定

項目
<ul style="list-style-type: none"> • 概要 • リファレンス <ul style="list-style-type: none"> ◦ 利用機能設定 ◦ 標準表示名称設定 ◦ 国際化設定 ◦ 国際化詳細設定 ◦ 国際化名称設定 ◦ アプリケーションライセンス設定 ◦ アプリケーションライセンス詳細設定 ◦ プロダクトID設定 ◦ 認可ポリシー設定

概要

利用機能設定を行います。

モジュール	プロジェクトチーム機能
フォーマットファイ ル(xsd)	WEB-INF/schema/improject-function-con fig(xsd)
設定場所	WEB-INF/conf/improject-function-config/

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<improject-function-config xmlns="http://intra-mart.co.jp/impro
xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/improject/improject-fur
<function application-cd="application" function-cd="function" sc
<default-name>Function</default-name>
<localizations>
<localize locale="ja">
<name>ファンクション</name>
</localize>
<localize locale="en">
<name>Function</name>
</localize>
<localize locale="zh_CN">
<name>功能</name>
</localize>
</localizations>
<required-licenses>
<required-license>
<product-id>XXXXX</product-id>
<product-id>YYYYY</product-id>
</required-license>
<required-license>
<product-id>ZZZZZ</product-id>
</required-license>
</required-licenses>
<authz-policy resource="user-resource" type="service" action
<authz-policy resource="admin-resource" type="service" actio
</function>
</improject-function-config>
```

リファレンス

利用機能設定

タグ function
グ
名

利用機能を設定します。

【設定項目】

```
<improject-function-config>
  <function application-cd="application" function-cd="function" sc
  ....
  </function>
</improject-function-config>
```

必須項 目

複数設 定

設定 利用機能を設定します。
値・設
定する
内容

単位・ なし
型

省略時 なし
のデ
フォ
ルト
値

親タグ improject-function-config

【属性】

属性名	説明
function-cd	この設定のコードを設定します。
application-cd	この設定が属するアプリケーションコードを設定し アプリケーションコードは 利用機能アプリケーション です。
sort-key	この設定のソートキーです。利用機能の並び順を設
tenant	この設定が有効なテナントIDをスペース区切りで設 すべてのテナントで有効にする場合は、設定を省略

標準表示名称設定

タグ default-name
名

標準表示名称を設定します。

【設定項目】

```
<improject-function-config>
  <function application-cd="application" function-cd="function" sc
  <default-name>Function</default-name>
  </function>
</improject-function-config>
```

必須項 目

複数設 定

設定 標準表示名称を設定します。
値・設
定する
内容

単位・ 文字列
型

省略時のデフォルト値	なし
親タグ	function

国際化設定

タグ名	localizations
-----	---------------

国際化を設定します。

【設定項目】

```
<improject-function-config>
<function application-cd="application" function-cd="function" sc
<localizations>
....
</localizations>
</function>
</improject-function-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	国際化を設定します。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	function

国際化詳細設定

タグ名	localize
-----	----------

国際化詳細設定を設定します。

【設定項目】

```
<improject-function-config>
<function application-cd="application" function-cd="function" sc
<localizations>
<localize locale="ja">
....
</localize>
<localize locale="en">
....
</localize>
<localize locale="zh_CN">
....
</localize>
</localizations>
</function>
</improject-function-config>
```

必須項目	○
------	---

複数設定

設定値・設定する内容 国際化詳細を設定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ function

【属性】

属性名	説明	必須	デフォルト値
locale	ロケールIDを設定します。	<input type="radio"/>	なし

国際化名称設定

タグ名

国際化名称設定を設定します。

【設定項目】

```
<improject-function-config>
  <function application-cd="application" function-cd="function" sc
    <localizations>
      <localize locale="ja">
        <name>ファンクション</name>
      </localize>
      <localize locale="en">
        <name>Function</name>
      </localize>
      <localize locale="zh_CN">
        <name>功能</name>
      </localize>
    </localizations>
  </function>
</improject-function-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 国際化名称を設定します。

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 なし

親タグ localize

【属性】

属性名	説明	デフォルト値	必須
locale	ロケールIDを設定します。	なし	○

アプリケーションライセンス設定

タグ名
required-licenses

アプリケーションライセンスを設定します。

【設定項目】

```
<improject-function-config>
<function application-cd="application" function-cd="function" sc
<required-licenses>
....
</required-licenses>
</function>
</improject-function-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容
アプリケーションライセンスを設定します。

単位・型
なし

省略時のデフォルト値
なし

親タグ
function

アプリケーションライセンス詳細設定

タグ名
required-license

アプリケーションライセンス詳細を設定します。

【設定項目】

```
<improject-function-config>
<function application-cd="application" function-cd="function" sc
<required-licenses>
<required-license>
....
</required-license>
</required-licenses>
</function>
</improject-function-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定内容
アプリケーションライセンス詳細を設定します。
複数設定した場合は、それぞれのライセンスを付与し

単位・型
なし

省略時のデフォルト値
なし

親タグ
function

プロダクトID設定

タグ名

アプリケーションライセンスのプロダクトIDを設定します。

【設定項目】

```
<improject-function-config>
<function application-cd="application" function-cd="function" sc
<required-licenses>
<product-id>XXXXX</product-id>
<product-id>YYYYY</product-id>
</required-licenses>
<product-id>ZZZZZ</product-id>
</required-licenses>
</function>
</improject-function-config>
```

必須項目	○
複数設定	○
設定値・設定する内容	アプリケーションライセンスのプロダクトIDを どれかひとつのライセンスが付与できれば良い
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	required-licenses

i コラム
この設定例の場合、「XXXXX」「YYYYY」のどちらかのライ

認可ポリシー設定

タグ名

利用機能の認可ポリシーを設定します。
プロジェクトメンバー、プロジェクトリーダーのサブジェクトに対して

【設定項目】

```
<improject-function-config>
<function application-cd="application" function-cd="function" sc
<authz-policy resource="user-resource" type="service" action
<authz-policy resource="admin-resource" type="service" actio
</function>
</improject-function-config>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	利用機能の認可ポリシーを設定します。 プロジェクトメンバー、プロジェクトリーダ です。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	function

【属性】

属性名	説明
resource	リソースグループIDを設定します。

属性名	説明
type	リソースタイプIDを設定します。
action	アクションを設定します。
effect	エフェクトを設定します。
target	ポリシーを付与するターゲットを設定します。 メンバーに対して付与する場合は省略します。 リーダーに付与する場合は、リーダーの役職コードで 定めます。

プロジェクトチーム認可設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [利用機能設定](#)
 - [アプリケーションライセンス設定](#)
 - [アプリケーションライセンス詳細設定](#)
 - [プロダクトID設定](#)
 - [認可ポリシー設定](#)

概要

プロジェクトチームの認可の設定を行います。
すべてのプロジェクトのプロジェクト作成時に作られる認可サブジェク
また、すべてのプロジェクトのメンバーに対して共通に付与するアプリ

モジュール	プロジェクトチーム機能
フォーマットファイル (xsd)	WEB-INF/schema/improject-project-aut
設定場所	WEB-INF/conf/improject-project-authz-c

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<improject-project-authz-config
  xmlns="http://intra-mart.co.jp/improject/improject-project-authz-
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/improject/improject-
  <project-authz-config sort-key="0" tenant="default secondary"
  <required-licenses>
  <required-license>
  <product-id>XXXXX</product-id>
  <product-id>YYYYY</product-id>
  </required-license>
  <required-license>
  <product-id>ZZZZZ</product-id>
  </required-license>
  </required-licenses>
  <authz-policy resource="user-resource" type="service" action=
  <authz-policy resource="admin-resource" type="service" actio
  </project-authz-config>
</improject-project-authz-config>
```

リファレンス

利用機能設定

タ project-authz-config
グ
名

利用機能を設定します。

【設定項目】

```
<improject-project-Authz-config>
  <project-authz-config sort-key="0" tenant="default secondary"
  ....
</project-authz-config>
</improject-project-Authz-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・ プロジェクトの認可を設定します。

設定する
内容

単位・型 なし

省略時の
デフォル
ト値

親タグ improject-project-authz-config

【属性】

属性名	説明
sort-key	この設定のソートキーです。
tenant	この設定が有効なテナントIDをスペース区切りで設定し す。すべてのテナントで有効にする場合は、設定を省略しま

アプリケーションライセンス設定

タグ required-licenses

アプリケーションライセンスを設定します。

すべてのプロジェクトのメンバーに対して共通に付与するアプリケーション

【設定項目】

```
<improject-project-Authz-config>
  <project-authz-config sort-key="0" tenant="default secondary"
  <required-licenses>
  ....
  </required-licenses>
</project-authz-config>
</improject-project-Authz-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ○

設定値・設定する内
容 アプリケーションライセンスを設定します。
すべてのプロジェクトのメンバーに対して一律

単位・型 なし

省略時のデフォルト
値

親タグ project-authz-config

アプリケーションライセンス詳細設定

タグ required-license

アプリケーションライセンス詳細を設定します。

【設定項目】

```
<improject-project-authz-config>
<project-authz-config sort-key="0" tenant="default secondary">
<required-licenses>
<required-license>
....
</required-license>
</required-licenses>
</project-authz-config>
</improject-project-authz-config>
```

必須項目	○
複数設定	○
設定値・設定する内容	アプリケーションライセンス詳細を設定します。 複数設定した場合は、それぞれのライセンスを付与し
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	required-licenses

プロダクトID設定

タグ名

アプリケーションライセンスのプロダクトIDを設定します。

【設定項目】

```
<improject-project-authz-config>
<project-authz-config sort-key="0" tenant="default secondary">
<required-licenses>
<required-license>
<product-id>XXXXX</product-id>
<product-id>YYYYY</product-id>
</required-license>
<required-license>
<product-id>ZZZZZ</product-id>
</required-license>
</required-licenses>
</project-authz-config>
</improject-project-authz-config>
```

必須項目	○
複数設定	○
設定値・設定する内容	アプリケーションライセンスのプロダクトIDを記 どれかひとつのライセンスが付与できれば良い
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	required-license

コラム

この設定例の場合、「XXXXX」「YYYYY」のどちらかのライセンス

認可ポリシー設定

タグ名

プロジェクト作成時に作られる認可サブジェクトに共通で付与する認可
プロジェクトメンバー、プロジェクトリーダーのサブジェクトに対しては

利用機能を更新する際には、更新したプロジェクトの認可サブジェクト
ただし、本設定に記載している認可リソースのポリシーについては更新

【設定項目】

```
<improject-project-Authz-config>
  <project-authz-config sort-key="0" tenant="default secondary"
    <authz-policy resource="user-resource" type="service" action
      <authz-policy resource="admin-resource" type="service" action
    </project-authz-config>
  </improject-project-Authz-config>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	プロジェクト作成時に作られる認可サブジェクトメンバー、プロジェクトリーダー。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	project-authz-config

【属性】

属性名	説明
resource	リソースグループIDを設定します。
type	リソースタイプIDを設定します。
action	アクションを設定します。
effect	エフェクトを設定します。 プロジェクト作成時に認可ポリシーの付与は行われ
target	ポリシーを付与するターゲットを設定します。 メンバーに対して付与する場合は省略します。 リーダーに付与する場合は、リーダーの役職コー
descendant	設定したリソースグループの配下のリソースグループ値を設定します。 "true" に設定した場合は、指定したリソースグループ "false" に設定した場合は、指定したリソースク

リバースプロキシの設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [リバースプロキシの設定](#)
 - [認可設定](#)
 - [リバースプロキシ対象のURLの設定](#)
 - [リバースプロキシ対象のリダイレクトURLの設定](#)
 - [リクエストヘッダの設定](#)
 - [リクエストヘッダの変更設定](#)
 - [リクエストヘッダの追加設定](#)
 - [リクエストヘッダの削除設定](#)
 - [レスポンスヘッダの設定](#)
 - [レスポンスヘッダの変更設定](#)
 - [レスポンスヘッダの追加設定](#)
 - [レスポンスヘッダの削除設定](#)
 - [レスポンス置換処理一覧設定](#)
 - [レスポンス置換処理設定](#)
 - [レスポンス置換文字列設定](#)
 - [独自設定](#)

概要

リバースプロキシの動作設定を行います。

モジュール	リバースプロキシ
フォーマットファイル	WEB-INF/schema/im-reverse-proxy-patt (xsd)
設定場所	WEB-INF/conf/im-reverse-proxy-path-co

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<im-reverse-proxy-path-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/reverse-proxy/config/im-reverse"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/reverse-proxy/conf/im-reverse-proxy-path-co" />

  <reverse-proxy handler="jp.co.intra_mart.foundation.reverse_proxy" />
  <authz action="execute" uri="service://intra-mart.jp/public-res" />
  <proxy-pass default-charset="UTF-8" path="/example/" timeout="30" />
  <proxy-pass-reverse path="/example/" url="https://www.example.com" />
  <request-headers>
    <set header="x-my-header" value="my-value" />
    <append header="x-my-header" value="my-value" />
    <unset header="x-my-header" where-value="my-value" />
  </request-headers>
  <response-headers>
    <set header="x-my-header" value="my-value" />
    <append header="x-my-header" value="my-value" />
    <unset header="x-my-header" where-value="my-value" />
  </response-headers>
  <substitutes>
    <substitute content-type="text/html" regexp="http://www.example.com" />
    <replacement>${im-reverse-proxy-base-url}/example/</replacement>
  </substitute>
  </substitutes>
  </any-config />
</reverse-proxy>
</im-reverse-proxy-path-config>
```

リファレンス

タグ名 reverse-proxy

リバースプロキシを設定します。

【設定項目】

```
<im-reverse-proxy-path-config>
  <reverse-proxy handler="jp.co.intra_mart.foundation.reverse_proxy">
</im-reverse-proxy-path-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ○

設定値・リバースプロキシを設定します。

設定する
内容

単位・型 なし

省略時の
デフォルト値

親タグ

im-reverse-proxy-path-config

【属性】

属性名	説明
handler	リバースプロキシを実行するクラス名を設定します。プロキシハンドラでは実現不可能な処理等を行ってハンドラを実装し、クラス名を設定してください。

認可設定

タグ名 authz

リバースプロキシするURLに対する認可を設定します。

【設定項目】

```
<im-reverse-proxy-path-config>
  <reverse-proxy>
    <authz action="execute" uri="service://intra-mart.jp/public-res">
  </reverse-proxy>
</im-reverse-proxy-path-config>
```

必須項目 ○

複数設定 ×

設定値・設定する内容 リバースプロキシするURLに対する認可をします。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ

reverse-proxy

【属性】

属性名	説明	必須	デフォルト値
action	認可アクションを設定します。	○	なし
uri	認可リソースURIを設定します。	○	なし

タグ名 proxy-pass

リバースプロキシを行う対象のURLを設定します。

【設定項目】

```
<im-reverse-proxy-path-config>
<reverse-proxy>
  <proxy-pass default-charset="UTF-8" path="/example/" timeout=
</reverse-proxy>
</im-reverse-proxy-path-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	リバースプロキシを行う対象のURLを設定します。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	reverse-proxy

【属性】

属性名	説明
default-charset	プロキシ対象のURLの文字コードを設定し自動判別できなかった場合、ここで指定さ
path	プロキシ対象のURLの文字コードを設定し「http://<HOST>:<PORT>/<CONTEX
timeout-seconds	プロキシを行う際のタイムアウト値を設定
url	プロキシ対象のURLを設定します。

リバースプロキシ対象のリダイレクトURLの設定

タグ名 proxy-pass-reverse

リバースプロキシ対象のリダイレクトレスポンスのURLの設定

【設定項目】

```
<im-reverse-proxy-path-config>
<reverse-proxy>
  <proxy-pass-reverse path="/example/" url="https://www.exar
</reverse-proxy>
</im-reverse-proxy-path-config>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	リバースプロキシ対象のリダイレクトレスポンスの内容
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	reverse-proxy

【属性】

属性名	説明
path	リダイレクトレスポンスの変換対象のURLを、この設定します。
url	リダイレクトレスポンスの変換対象のURLを設定しま

リクエストヘッダの設定

タグ名

リクエストヘッダに関する設定を行います。

【設定項目】

```
<im-reverse-proxy-path-config>
<reverse-proxy>
  <request-headers>
  ....
  </request-headers>
</reverse-proxy>
</im-reverse-proxy-path-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容 リクエストヘッダに関する設定を指定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ reverse-proxy

リクエストヘッダの変更設定

タグ名

リクエストヘッダを変更するための設定を行います。

【設定項目】

```
<im-reverse-proxy-path-config>
<reverse-proxy>
  <request-headers>
  <set header="x-my-header" value="my-value" />
  </request-headers>
</reverse-proxy>
</im-reverse-proxy-path-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ○

設定値・設定する内容 リクエストヘッダを変更するための設定を指定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ request-headers

【属性】

属性名	説明	必須	ラ
header	変更するリクエストヘッダ名を設定します。	<input type="radio"/>	な
value	新しいリクエストヘッダ値を設定します。	<input type="radio"/>	な

リクエストヘッダの追加設定

タグ名

リクエストヘッダを追加するための設定を行います。
同名のリクエストヘッダ名が存在する場合、リストに追加されます。

【設定項目】

```
<im-reverse-proxy-path-config>
<reverse-proxy>
  <request-headers>
    <append header="x-my-header" value="my-value" />
  </request-headers>
</reverse-proxy>
</im-reverse-proxy-path-config>
```

必須項目 ×

複数設定

設定値・設定内容 リクエストヘッダを追加するための設定を指定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ request-headers

【属性】

属性名	説明	必須	ラ
header	追加するリクエストヘッダ名を設定します。	<input type="radio"/>	な
value	追加するリクエストヘッダ値を設定します。	<input type="radio"/>	な

リクエストヘッダの削除設定

タグ名

リクエストヘッダを削除するための設定を行います。

【設定項目】

```
<im-reverse-proxy-path-config>
<reverse-proxy>
  <request-headers>
    <unset header="x-my-header" where-value="my-value" />
  </request-headers>
</reverse-proxy>
</im-reverse-proxy-path-config>
```

必須項目 ×

複数設定

設定値・設定する内容	リクエストヘッダを削除するための設定を指定します。
------------	---------------------------

単位・型	なし
------	----

省略時のデフォルト値	なし
------------	----

親タグ	request-headers
-----	-----------------

【属性】

属性名	説明
-----	----

header	削除するリクエストヘッダ名を設定します。
---------------	----------------------

where-value	本属性に指定された正規表現にマッチする値を持てます。 省略した場合、header属性に設定した値と同名します。
--------------------	--

レスポンスヘッダの設定

タグ名	response-headers
-----	------------------

レスポンスヘッダに関する設定を行います。

【設定項目】

```
<im-reverse-proxy-path-config>
<reverse-proxy>
  <response-headers>
    ....
  </response-headers>
</reverse-proxy>
</im-reverse-proxy-path-config>
```

必須項目	×
------	---

複数設定	×
------	---

設定値・設定する内容	レスポンスヘッダに関する設定を指定します。
------------	-----------------------

単位・型	なし
------	----

省略時のデフォルト値	なし
------------	----

親タグ	reverse-proxy
-----	---------------

レスポンスヘッダの変更設定

タグ名	set
-----	-----

レスポンスヘッダを変更するための設定を行います。

【設定項目】

```
<im-reverse-proxy-path-config>
<reverse-proxy>
  <response-headers>
    <set header="x-my-header" value="my-value" />
  </response-headers>
</reverse-proxy>
</im-reverse-proxy-path-config>
```

必須項目	×
------	---

複数設定	○
------	---

設定値・設定する内容 レスポンスヘッダを変更するための設定を指定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ response-headers

【属性】

属性名	説明	必須	ラ
header	変更するレスポンスヘッダ名を設定します。	<input type="radio"/>	な
value	新しいレスポンスヘッダ値を設定します。	<input type="radio"/>	な

レスポンスヘッダの追加設定

タグ名

レスポンスヘッダを追加するための設定を行います。
同名のレスポンスヘッダ名が存在する場合、リストに追加されます。

【設定項目】

```
<im-reverse-proxy-path-config>
<reverse-proxy>
  <response-headers>
    <append header="x-my-header" value="my-value" />
  </response-headers>
</reverse-proxy>
</im-reverse-proxy-path-config>
```

必須項目 ×

複数設定

設定値・設定する内容 レスポンスヘッダを追加するための設定を指定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ response-headers

【属性】

属性名	説明	必須	ラ
header	追加するレスポンスヘッダ名を設定します。	<input type="radio"/>	な
value	追加するレスポンスヘッダ値を設定します。	<input type="radio"/>	な

レスポンスヘッダの削除設定

タグ名

レスポンスヘッダを削除するための設定を行います。

【設定項目】


```
<im-reverse-proxy-path-config>
  <reverse-proxy>
    <response-headers>
      <unset header="x-my-header" where-value="my-value" />
    </response-headers>
  </reverse-proxy>
</im-reverse-proxy-path-config>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	レスポンスヘッダを削除するための設定を指定します。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	response-headers

【属性】

属性名	説明
header	削除するレスポンスヘッダ名を設定します。
where-value	本属性に指定された正規表現にマッチする値を持ちます。 省略した場合、header属性に設定した値と同名します。

レスポンス置換処理一覧設定

タグ名

レスポンスの置換処理の一覧を設定します。

【設定項目】

```
<im-reverse-proxy-path-config>
  <reverse-proxy>
    <substitutes>
      ....
    </substitutes>
  </reverse-proxy>
</im-reverse-proxy-path-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	レスポンスの置換処理の一覧を設定します。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	reverse-proxy

レスポンス置換処理設定

タグ名

レスポンスの置換処理を設定します。

【設定項目】

```
<im-reverse-proxy-path-config>
<reverse-proxy>
<substitutes>
  <substitute content-type="text/html" regexp="http://www\.">
</substitutes>
</reverse-proxy>
</im-reverse-proxy-path-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 レスポンスの置換処理を設定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ substitutes

【属性】

属性名	説明
content-type	レスポンスが本属性に設定したコンテンツタイプといます。
regexp	レスポンスに対して置換を行う対象を正規表現で話
where-path	URLが本属性に設定した正規表現にマッチする場合

レスポンス置換文字列設定

タグ名 replacement

レスポンスの置換後の文字列を設定します。

【設定項目】

```
<im-reverse-proxy-path-config>
<reverse-proxy>
<substitutes>
  <substitute>
    <replacement>${im-reverse-proxy-base-url}/example/</replacem
  </substitute>
</substitutes>
</reverse-proxy>
</im-reverse-proxy-path-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 置換後の文字列を設定します。

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 なし

親タグ substitute

i コラム

<replacement> では以下の変数を利用できます。

- `${im-base-url}`
 - 「<ベースURL>」に置換されます。
- `${im-reverse-proxy-base-url}`
 - 「<ベースURL>/reverse_proxy」に置換されます。

独自設定

タグ
名

独自の設定を行います。
デフォルトハンドラ以外の実装を用いた際に、独自の設定をリバースプロキシに適用します。

【設定項目】

```
<im-reverse-proxy-path-config>
<reverse-proxy>
<any-config>
....
</any-config>
</reverse-proxy>
</im-reverse-proxy-path-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容
ハンドラー独自の設定を指定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値
なし

親タグ reverse-proxy

Salesforceクライアントの設定

項目

- 概要
- リファレンス
 - Salesforceクライアントの設定
 - Salesforceクライアントの詳細設定
 - OAuthプロバイダID
 - トークンエンドポイント
 - コンシューマ鍵
 - コンシューマの秘密
 - Salesforceユーザのユーザ名
 - Salesforceユーザのパスワード
 - UserPasswordResolver の 実装クラス
 - 追加パラメータ

概要

Salesforce連携時の接続先情報を設定します。

モジュール	Salesforce連携
フォーマットファイ ル(xsd)	WEB-INF/schema/salesforce-client-config
設定場所	WEB-INF/conf/salesforce-client-config/{任

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<salesforce-client-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/system/salesforce/client/config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/system/salesforce

<salesforce-clients>
  <salesforce-client id="sample_1" type="oauth-client">
    <oauth-provider-id>[Please input OAuth provider ID in oa
  </salesforce-client>

  <salesforce-client id="sample_2" type="fixed-user-passwor
    <token-end-point>https://login.salesforce.com/services/o
    <consumer-key>[Please input your Consumer Key]</con
    <consumer-secret>[Please input your Consumer Secret]<
    <user>[Please input your Salesforce user name]</user>
    <password cryption="sample-cryption-category">[Please
    <extra-parameter name="timeout-minutes">[Please inpu
  </salesforce-client>

  <salesforce-client id="sample_3" type="user-password" ter
    <token-end-point>https://login.salesforce.com/services/o
    <consumer-key>[Please input your Consumer Key]</con
    <consumer-secret>[Please input your Consumer Secret]<
    <user-password-resolver>[Please input fully qualified cl
    <extra-parameter name="timeout-minutes">[Please inpu
  </salesforce-client>
</salesforce-clients>
</salesforce-client-config>
```

リファレンス

Salesforceクライアントの設定

タグ salesforce-clients
名前

Salesforce連携時の接続先情報を設定します。

【設定項目】

```
<salesforce-client-config>
<salesforce-clients>
...
</salesforce-clients>
</salesforce-client-config>
```

必須項目	×	
複数設定	×	
設定値・設定する内容	salesforce-client	Salesforceクライアントの詳細設定
単位・型	なし	
省略時のデフォルト値	なし	
親タグ	salesforce-client-config	

Salesforceクライアントの詳細設定

タグ名

Salesforceクライアントの詳細を設定します。

【設定項目】

```
<salesforce-clients>
<salesforce-client id="sample_2" type="fixed-user-password"
  <token-end-point>https://login.salesforce.com/services/oauth2/
  <consumer-key>[Please input your Consumer Key]</consumer-key>
  <consumer-secret>[Please input your Consumer Secret]</consumer-secret>
  <user>foo@your_company.com</user>
  <password>foo's password</password>
  <oauth-provider-id>oauth_provider_for_salesforce_sample_2</oauth-provider-id>
  <user-password-resolver>sample.salesforce.SampleUserPasswordResolver</user-password-resolver>
  <extra-parameter name="timeout-minutes">60</extra-parameter>
</salesforce-client>
</salesforce-clients>
```

必須項目	×	
複数設定	○	
設定値・設定する内容	token-end-point	トークンエンドポイント
	consumer-key	コンシューマ鍵
	consumer-secret	コンシューマの秘密
	user	Salesforceユーザのユーザ名
	password	Salesforceユーザのパスワード
	oauth-provider-id	OAuthプロバイダID
	user-password-resolver	UserPasswordResolverのクラス名
	extra-parameter	追加パラメータ
単位・型	なし	
省略時のデフォルト値	なし	
親タグ	salesforce-clients	

【属性】

属性名	説明
id	Salesforceクライアントを識別する一意のID
type	アクセストークンを取得する際の認証タイプを 認証タイプは以下のいずれかを設定してください <ul style="list-style-type: none"> • oauth-client : 「OAuthプロバイダ設定」 • fixed-user-password : 指定されたSalesforceユーザー名とパスワードを使用してアクセストークンを取得します。 • user-password : <code>UserPasswordResc</code>を使用してアクセストークンを取得します。
tenant	利用できる intra-mart Accel Platform のテナント 複数のテナントを指定する場合、テナントID テナントIDの指定がない場合、全てのテナント

コラム

アクセストークンを取得する際の認証タイプ毎に、Salesforceのアプリケーション認証に関する詳細は、以下を参照してください。

- **oauth-client** の場合
 - [OAuth 2.0 Web サーバ認証フロー](#) (日本語)
 - [OAuth 2.0 Web Server Authentication Flow](#) (English)
 - [OAuth 2.0 Web 服务器认证流程](#) (中文)
- **fixed-user-password**、および、**user-password** の場合
 - [OAuth 2.0 ユーザー名パスワードフロー](#) (日本語)
 - [OAuth 2.0 Username-Password Flow](#) (English)
 - [OAuth 2.0 用户名密码流程](#) (中文)

OAuthプロバイダID

タグ名

oauth-provider-id

使用するOAuthプロバイダのIDを設定します。

【設定項目】

```
<salesforce-client>
  <oauth-provider-id>oauth_provider_for_salesforce_sample</oauth-provider-id>
</salesforce-client>
```

必須項目

アクセストークンを取得する際の認証タイプが以下

- **oauth-client**

複数設定

×

設定値・設定する内容

「[OAuthプロバイダ設定](#)」に定義されているOAuthプロバイダID

単位・型

文字列

省略時のデフォルト値

なし

親タグ

salesforce-client

トークンエンドポイント

タグ名

token-end-point

アクセストークンを取得するためのトークンエンドポイントを設定します。

【設定項目】

```
<salesforce-client>
<token-end-point>https://login.salesforce.com/services/oauth2/
</salesforce-client>
```

必須項目	アクセストークンを取得する際の認証タイプが以下 <ul style="list-style-type: none"> • fixed-user-password • user-password
複数設定	×
設定値・設定する	アクセストークンを取得するためのトークンエン内容
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	salesforce-client

コンシューマ鍵

```
タグ consumer-key
```

Salesforceへ接続する際に利用する「コンシューマ鍵」を設定します。

【設定項目】

```
<salesforce-client>
<consumer-key>Consumer Key</consumer-key>
</salesforce-client>
```

必須項目	アクセストークンを取得する際の認証タイプが以下 <ul style="list-style-type: none"> • fixed-user-password • user-password
複数設定	×
設定値・設定する	Salesforceへ接続する際に利用する「コンシューマ内容 OAuth 2.0 では client_id と呼ばれます。
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	salesforce-client

コラム

Salesforceへ接続する際に利用する「コンシューマ鍵」の取得

- [接続アプリケーションの作成](#)（日本語）
- [Creating a Connected App](#) (English)
- [创建连接的应用程序](#)（中文）

コンシューマの秘密

```
タグ consumer-secret
```

Salesforceへ接続する際に利用する「コンシューマの秘密」を設定し、*cryption* 属性が設定されている場合、指定の方式で暗号化された文字列 *cryption* 属性に設定するカテゴリは、「[暗号化設定](#)」を参照してください。

【設定項目】

```
<salesforce-client>
<consumer-secret cryption="category">Consumer Secret</consumer-secret>
</salesforce-client>
```

必須項目	アクセストークンを取得する際の認証タイプが以下 <ul style="list-style-type: none"> • fixed-user-password • user-password
------	---

複数設定	×
------	---

設定値・設定する内容	Salesforceへ接続する際に利用する「コンシューマ OAuth 2.0」では client_secret と呼ばれます。
------------	---

cryption 属性が設定されている場合、指定の暗号化方法が cryption 属性が設定されていない場合、パスワード

単位・型	なし
------	----

省略時のデフォルト値	なし
------------	----

親タグ	salesforce-client
-----	-------------------

【属性】

属性名	説明
cryption	暗号化したパスワードを設定する場合に、暗号化方法を指定します。

注意

パスワード文字列を暗号化するためのツールは提供されません。Java API CryptionUtil を利用して、指定したカテゴリで暗号化されたパスワードを設定します。Java API CryptionUtil の詳細は「CryptionUtil APIドキュメント」を参照してください。

コラム

Salesforceへ接続する際に利用する「コンシューマの秘密」の作成方法

- [接続アプリケーションの作成](#)（日本語）
- [Creating a Connected App](#) (English)
- [创建连接的应用程序](#)（中文）

Salesforceユーザのユーザ名

タグ user
 タグ名

Salesforceユーザのユーザ名を設定します。

【設定項目】

```
<salesforce-client>
<user>foo@your_company.com</user>
</salesforce-client>
```

必須項目	アクセストークンを取得する際の認証タイプが以下 <ul style="list-style-type: none"> • fixed-user-password
------	---

複数設定	×
------	---

設定値・設定する内容	Salesforceユーザのユーザ名を設定します。「OAuth 2.0 ユーザ名パスワードフロー」のエ
------------	---

単位・型	文字列
------	-----

省略時のデフォルト値	なし
------------	----

親タグ	salesforce-client
-----	-------------------

タグ password
グ
名

Salesforceユーザのパスワードを設定します。
cryption 属性が設定されている場合、指定の方式で暗号化された文字列
cryption 属性に設定するカテゴリは、「[暗号化設定](#)」を参照してください

【設定項目】

```
<salesforce-client>
  <password cryption="category">salesforce password[&security token]
</salesforce-client>
```

必須項目	アクセストークンを取得する際の認証タイプが以下 • fixed-user-password
複数設定	×
設定値・設定する内容	Salesforceユーザのパスワードを設定します。 「 OAuth 2.0 ユーザ名パスワードフロー 」の <i>password</i> 属性に設定する値です。 <i>cryption</i> 属性が設定されている場合、指定の方式で暗号化された文字列 <i>cryption</i> 属性が設定されていない場合、パスワード
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	salesforce-client

【属性】

属性名	説明
cryption	暗号化したパスワードを設定する場合に、暗号化方式を指定します。

注意

Salesforce の REST API を利用する際にセキュリティトークン
トークンは Salesforce で自動生成されたキーです。

例えば、ユーザのパスワードが mypassword で、セキュリティ
セキュリティトークンを取得するには、Salesforce ユーザイ
るか、セキュリティトークンをリセットすると、Salesforce ユ
ンは、ユーザがセキュリティトークンをリセットするか、パス
セキュリティトークンの詳細は、以下の Salesforce オンライン

- [セキュリティトークンのリセット](#) (日本語)
- [ログイン履歴にAPI セキュリティトークンが必要ですよ](#)
- [Reset Your Security Token](#) (English)
- [重置您的安全](#) (中文)

セキュリティトークンを使用せずに Salesforce の REST API
照してください。

- [ユーザが Salesforce にログインできる範囲と時間帯の制](#)
- [Restrict Where and When Users Can Log In to Sales](#)
- [限制用可以 Salesforce 的与地点 - 范围内受信任的](#)

注意

パスワード文字列を暗号化するためのツールは提供されません
Java API CryptionUtil を利用して、指定したカテゴリで暗号化
Java API CryptionUtil の詳細は「[CryptionUtil APIドキュメント](#)」

UserPasswordResolver の 実装クラス

タグ user-password-resolver
名

UserPasswordResolver の実装クラスを設定します。

【設定項目】

```
<salesforce-client>
<user-password-resolver>sample.salesforce.SampleUserPassw
</salesforce-client>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	jp.co.intra_mart.foundation.sal
単位・型	UserPasswordResolver を実装し
省略時のデフォルト値	jp.co.intra_mart.system.salesfo UserPasswordResolverImplForI るように実装されています。
親タグ	salesforce-client

注意

intra-mart Accel Platform のパスワード保存方式に「ハッシュ」は利用できません。（理由：平文パスワードを取得することができない）
以下の代替案を検討してください。

- 認証タイプ **oauth-client**、または、**fixed-user-pass**

注意

以下の全ての条件に該当する場合、省略時のデフォルト値「UserPasswordResolverImplForPasswordCredentials」は利用できません。

- Salesforce の REST API を利用する際にセキュリティトークンを使用する
- アクセストークンを取得する際の認証タイプが **user-password**

以下の代替案を検討してください。

- 認証タイプ **oauth-client**、または、**fixed-user-pass**
- パスワードの末尾に Salesforceのセキュリティトークンを使用する
- セキュリティトークンを使用せずに Salesforce の REST API を利用する
 - ユーザが Salesforce にログインできる範囲と時間帯の制限
 - Restrict Where and When Users Can Log In to Salesforce
 - 制限用可以 Salesforce 的与地点 - 范围内受信任的

追加パラメータ

タグ extra-parameter
名

追加情報のパラメータを設定します。

【設定項目】

```
<salesforce-client>
<extra-parameter name="timeout-minutes">60</extra-param
</salesforce-client>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	追加情報のパラメータを設定します。
単位・型	なし

省略時の
デフォルト値

親タグ salesforce-client

【属性】

属性名	説明	必須	デフォルト値
name	パラメータ名を設定します。	<input type="radio"/>	なし

注意

アクセストークンの有効期間を設定するために、タイムアウト

- 認証タイプが **fixed-user-password**、および、**user-**
 - 「Salesforce クライアントの設定」の「追加パラメータ

```
<salesforce-client>
<extra-parameter name="timeout-minutes">60
</salesforce-client>
```

- 認証タイプが **oauth-client** の場合
 - 「OAuth プロバイダ設定」の「追加設定」

```
<extra-config>
<parameter name="timeout-minutes">60</parameter>
</extra-config>
```

アクセストークンは、Salesforce のセッションタイムアウトの有効期限の切れたアクセストークンを使用すると、「Session

Salesforce のセッションタイムアウト値は、以下の順番で解決

1. 接続アプリケーションのセッションポリシーのタイムアウト値
2. ユーザプロファイル内のタイムアウト値
3. 組織の [セッションの設定] のタイムアウト値

タイムアウト値の設定方法は、以下の Salesforce オンライン

- 接続アプリケーションの編集
 - [接続アプリケーションの編集](#) (日本語)
 - [Edit a Connected App](#) (English)
 - [连接的应用程序](#) (中文)
- セッションタイムアウト設定
 - [プロファイルでのセッションタイムアウト設定の表示と編集](#)
 - [View and Edit Session Timeout Settings in Profiles](#)
 - [查看和组织档案中的会话超时设置](#) (中文)

Kibana ポートレットの設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [Kibana ポートレットの設定](#)
 - [Kibana ポートレットの詳細設定](#)
 - [カスタムフィールド](#)
 - [フィールド](#)
 - [認可の設定](#)
 - [ハンドラー実装クラス](#)

概要

Kibana ポートレット連携時の接続先情報を設定します。

モジュール	Kibana ポートレット連携
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/im-kibana-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/im-kibana-config/{任意のファイル}

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<im-kibana-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/system/im-kibana/config/im-kibana"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/system/im-kibana"
  <authz action="execute" uri="service://im_kibana_portlet/web_
<kibana-config-list>
  <kibana-config id="sample_1">
    <root-url>http://localhost:5601</root-url>
    <kibana-version>5.2.0</kibana-version>
  </kibana-config>
  <kibana-config id="sample_2" tenant="default another">
    <root-url>http://localhost:5602</root-url>
    <kibana-version>4.3.1</kibana-version>
    <kibana-meta-index>.kibana</kibana-meta-index>
    <authorizer>sample.Authorizer</authorizer>
    <custom-field>
      <field type="boolean" required="true" key="foo1">bar
      <field required="true" key="foo2">bar2</field>
      <field key="foo3">bar3</field>
    </custom-field>
    <field-mapper>sample.FieldMapper</field-mapper>
    <field-provider>sample.FieldProvider</field-provider>
  </kibana-config>
</kibana-config-list>
</im-kibana-config>
```

リファレンス

Kibana ポートレットの設定

タグ名

Kibana ポートレット連携時の接続先情報を設定します。

【設定項目】

```
<im-kibana-config>
<kibana-config-list>
...
</kibana-config-list>
</im-kibana-config>
```

必須項目	×	
複数設定	×	
設定値・設定する内容	kibana-config	Kibana ポートレットの詳細設定
単位・型	なし	
省略時のデフォルト値	なし	
親タグ	im-kibana-config	

Kibana ポートレットの詳細設定

タグ名

Kibana ポートレットの詳細を設定します。

【設定項目】

```
<kibana-config id="sample_2" tenant="default another">
<root-url>http://localhost:5602</root-url>
<kibana-version>4.3.1</kibana-version>
<kibana-meta-index>.kibana</kibana-meta-index>
<authorizer>sample.Authorizer</authorizer>
<custom-field>
  <field type="boolean" required="true" key="I18N.MESSAGE.EXAMPLE1">example1</field>
  <field required="true" key="I18N.MESSAGE.EXAMPLE2">example2</field>
  <field key="I18N.MESSAGE.EXAMPLE3">example3</field>
</custom-field>
<field-mapper>sample.FieldMapper</field-mapper>
<field-provider>sample.FieldProvider</field-provider>
</kibana-config>
```

必須項目	×	
複数設定	○	
設定値・設定する内容	root-url	接続先KibanaのルートURL
	kibana-version	接続先Kibanaのバージョン
	kibana-meta-index	接続先Kibanaのメタインデックス
	authorizer	アクセス権のチェックを行うクラス
	custom-field	カスタムフィールド
	field-mapper	フィールド名の物理名を返すクラス
	field-provider	フィールドの一覧を提供するクラス
単位・型	なし	
省略時のデフォルト値	なし	
親タグ	kibana-config-list	

【属性】

属性名	説明
id	Kibana ポートレットを識別する一意のIDを設定します。
timeout	Kibana ポートレットへ接続する際のコネクションタイムアウトを設定します。

属性名	説明
tenant	利用できる intra-mart Accel Platform のテナン複数のテナントを指定する場合、テナントIDは半 ててください。 テナントIDの指定がない場合、全てのテナントで

カスタムフィールド

タグ名
custom-field

カスタムフィールドを設定します。

【設定項目】

```
<kibana-config>
<custom-field>
...
</custom-field>
</kibana-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	field カスタムフィールドの詳細設定
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	kibana-config

フィールド

タグ名
field

カスタムフィールドの詳細を設定します。

【設定項目】

```
<<custom-field>
<field type="boolean" required="true" key="I18N.MESSAGE.EXA
</custom-field>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	カスタムフィールドの詳細を設定します。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	custom-field

【属性】

属性名	説明
type	カスタムフィールドのタイプを設定します <ul style="list-style-type: none"> string, boolean, integer のいずれか
required	このカスタムフィールドが必須かどうかを

属性名	説明
key	このカスタムフィールドの名称を取得する ティファイル (conf/message/*.property)

認可の設定

タグ名

認可の設定をします。
通常は変更しません。

【設定項目】

```
<im-kibana-config>
<authz action="" uri=""/>
</im-kibana-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	Kibana ポートレット への接続を許可する認可の内容
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	im-kibana-config

【属性】

属性名	説明	必須	デフォルト値
action	認可のアクションを指定します。	×	execute
uri	認可のリソースURIを指定します。	×	service://im_kit

ハンドラー実装クラス

タグ名

Kibana ポートレットへ接続する処理を実装したクラスを設定します。
通常は変更しません。

【設定項目】

```
<im-kibana-config>
<handler />
</im-kibana-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	Kibana ポートレットへ接続する処理を実装したクラスの内容
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	jp.co.intra_mart.foundation.kibana.proxy.Kiba
親タグ	im-kibana-config

【属性】

属性名	説明
className	KibanaDefaultReverseProxyHandler を実装します。

セッションストア設定

項目

- 概要
- リファレンス
 - セッションリーバ実行間隔 (秒)
 - 強制削除間隔 (秒)
 - セッション設定
 - セッションタイムアウト間隔 (分)
 - セッションバージョンング
 - セッションCookie設定
 - Cookie名
 - Cookieのdomain設定
 - Cookieのdomain属性
 - Cookieのdomainの正規表現
 - Cookieのpath属性
 - max-age属性
 - httponly属性
 - secure属性

概要

セッション管理モジュールに関する設定です。

モジュール	セッション管理モジュール
フォーマット ファイル(xsd)	WEB-INF/schema/session-store-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/session-store-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<session-store-config
  xmlns="http://intra-mart.co.jp/session-store/session-store-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/session-store/session-store-config"
  >
  <reaper-interval>300</reaper-interval>
  <forced-removal-duration>10800</forced-removal-duration>
  <session-config>
    <session-timeout>30</session-timeout>
    <session-versioning>true</session-versioning>
    <cookie-config>
      <name>JSESSIONID</name>
      <domain>
        <name>localhost</name>
      </domain>
      <path>/imart</path>
      <max-age>-1</max-age>
      <http-only>true</http-only>
      <secure>true</secure>
    </cookie-config>
  </session-config>
</session-store-config>
```

リファレンス

セッションリーバ実行間隔 (秒)

タ reaper-interval
グ
名

セッションリーバの実行間隔を設定します。

【設定項目】

```
<session-store-config>
<reaper-interval>300</reaper-interval>
</session-store-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容 セッションリーパの実行間隔を指定します。

単位・型 秒

省略時のデフォルト値 300

親タグ session-store-config

コラム

セッションリーパについて

セッションは、時間の経過によって期限切れが発生します。セッションリーパは、時間の経過によって期限切れとなったセッション管理モジュールでは、基本的に管理しているセッションを管理します。

注意

セッションタイムアウト間隔を長くした場合、セッションが実行される必要はありません。よって、セッションタイムアウト

セッションタイムアウト間隔を短くした場合、セッションが実行されず、セッションリーパの実行間隔を短くすることで、其

強制削除間隔（秒）

タグ forced-removal-duration
名

不要なセッションとして扱う期限を設定します。

【設定項目】

```
<session-store-config>
<forced-removal-duration>10800</forced-removal-duration>
</session-store-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容 不要なセッションとして扱う期限を設定します。

単位・型 秒

省略時のデフォルト値 10800

親タグ session-store-config

コラム

不要なセッションについて

セッションが最後に使われてからこの期限を超えてセッションは、期限切れのセッションとして扱われな

セッション設定

タグ session-config
名

セッションに関する情報を設定します。

【設定項目】

```
<session-store-config>
<session-config>
...
</session-config>
</session-store-config>
```

必須項目	×	
複数設定	×	
設定値・設定する内容	session-timeout	セッションタイムアウト間隔
	session-versioning	セッションバージョンングの有効/無効
	cookie-config	Cookieに関する情報を設定
単位・型	なし	
省略時のデフォルト値	なし	
親タグ	session-store-config	

セッションタイムアウト間隔 (分)

タグ名 session-timeout

セッションタイムアウト間隔を設定します。

【設定項目】

```
<session-config>
<session-timeout>30</session-timeout>
</session-config>
```

必須項目	×	
複数設定	×	
設定値・設定する内容	セッションタイムアウト間隔を指定します。	
単位・型	分	
省略時のデフォルト値	30	
親タグ	session-config	

セッションバージョンング

タグ名 session-versioning

セッションバージョンングを有効するかどうかを設定します。

【設定項目】

```
<session-config>
<session-versioning>true</session-versioning>
</session-config>
```

必須項目	×	
複数設定	×	
設定値・設定する内容	セッションバージョンングを有効するかどうかを設定	

単位・型	真偽値 (true/false)
------	------------------

省略時のデフォルト値	true
------------	------

親タグ	session-config
-----	----------------

コラム

セッションバージョンングについて

セッション管理モジュールにおいて、セッションは以下で管

- アプリケーションサーバ内のメモリ
- クラスタ間の分散キャッシュ
- 永続化先

クラスタ間の分散キャッシュからセッションを読み込む場合が発生します。

セッションバージョンングを有効にすると、それぞれが管理バージョン情報からクラスタ間の分散キャッシュや永続化先

セッション管理モジュールでは、このセッションバージョン

セッションCookie設定

タグ名	cookie-config
-----	---------------

セッションのCookieに関する情報を設定します。

【設定項目】

```
<session-config>
<cookie-config>
...
</cookie-config>
</session-config>
```

必須項目	×
------	---

複数設定	×
------	---

設定値・設定する内容	name	セッションIDのCookie名を設定する内容
	domain	セッション関連のCookieのドメインを設定する。
	path	セッション関連のCookieのパスを設定する。
	max-age	セッション関連のCookieの有効期限を設定する。
	http-only	セッション関連のCookieのhttpOnly属性を設定する。
	secure	セッション関連のCookieのsecure属性を設定する。

単位・型	なし
------	----

省略時のデフォルト値	なし
------------	----

親タグ	session-config
-----	----------------

Cookie名

タグ名	name
-----	------

セッションIDのCookie名を設定します。

【設定項目】

```
<cookie-config>
<name>JSESSIONID</name>
</cookie-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容 セッションIDのCookie名を設定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 JSESSIONID

親タグ cookie-config

Cookieのdomain設定

タグ名

セッション関連のCookieのdomain属性に関する情報を設定します。

【設定項目】

```
<cookie-config>
<domain>
...
</domain>
</cookie-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容	name	セッション関連のCookie
	name-pattern	セッション関連のCookieす。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ cookie-config

Cookieのdomain属性

タグ名

セッション関連のCookieのdomain属性を設定します。

【設定項目】

```
<domain>
<name>localhost</name>
</domain>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容 セッション関連のCookieのdomainを設定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ domain

Cookieのdomainの正規表現

タグ名 name-pattern

セッション関連のCookieのdomainを正規表現で設定します。

【設定項目】

```
<domain>
<name-pattern>^\.+?\\.(\\w+\\.[a-z]+)$</name-pattern>
</domain>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定内容 セッション関連のCookieのdomainを正規表現で設定する内容

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ domain

Cookieのpath属性

タグ名 path

セッション関連のCookieのpath属性を設定します。

【設定項目】

```
<cookie-config>
<path>/imart</path>
</cookie-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定内容 セッション関連のCookieのpath属性を設定します。

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 コンテキストパスが設定されます。

親タグ cookie-config

max-age属性

タグ名 max-age

セッション関連のCookieのmax-age属性を設定します。

【設定項目】

```
<cookie-config>
<max-age>0</max-age>
</cookie-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定内容	セッション関連のCookieのmax-age属性を設定します。
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	-1
親タグ	cookie-config

httponly属性

タグ名

セッション関連のCookieのhttponly属性を設定します。

【設定項目】

```
<cookie-config>
  <http-only>true</http-only>
</cookie-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定内容	セッション関連のCookieのhttponly属性を設定します。
単位・型	真偽値 (true/false)
省略時のデフォルト値	true
親タグ	cookie-config

secure属性

タグ名

セッション関連のCookieのsecure属性を設定します。

【設定項目】

```
<cookie-config>
  <secure>true</secure>
</cookie-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定内容	セッション関連のCookieのsecure属性を設定します。
単位・型	真偽値 (true/false)
省略時のデフォルト値	false
親タグ	cookie-config

セッションリсна設定

項目

- 概要
- リファレンス
 - リスナクラス設定
 - リスナパッケージ設定

概要

セッションリスナに関する情報を設定します。

セッション管理モジュールを利用する場合には、ここで設定したクラス

- セッションのライフサイクルに関する通知
- セッション属性の変更に関する通知

モジュール	セッション管理モジュール
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/session-listener-config.xml
設定場所	WEB-INF/conf/session-listener-config/{任意}

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<session-listener-config
  xmlns="http://intra-mart.co.jp/session-store/session-listener-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/session-store/session-listener-config"
  >
  <!-- HttpSessionListenerを実装したクラス -->
  <listener-class>jp.co.intra_mart.sample.SampleHttpSessionListener</listener-class>
  <!-- HttpSessionAttributeListenerを実装したクラス -->
  <listener-class>jp.co.intra_mart.sample.SampleHttpSessionAttributeListener</listener-class>
  <!-- WebListenerアノテーションが付与されたセッションリスナを検索 -->
  <listener-package>jp.co.intra_mart.sample</listener-package>
</session-listener-config>
```

リファレンス

リスナクラス設定

タグ listener-class

HttpSessionListenerまたはHttpSessionAttributeListenerを実装した

【設定項目】

```
<session-listener-config>
  <listener-class>jp.co.intra_mart.sample.SampleHttpSessionListener</listener-class>
</session-listener-config>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	HttpSessionListenerまたはHttpSessionAttributeListener
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	session-listener-config

リスナパッケージ設定

タグ listener-package

WebListenerアノテーションを付与したセッションリスナを検索する
 ここで設定したパッケージ配下のクラスのみが検索されます。

【設定項目】

```
<session-listener-config>
<listener-package>jp.co.intra_mart.sample</listener-package>
</session-listener-config>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内 容	WebListenerアノテーションを付与したセッ ションリスナ
単位・型	なし
省略時のデフォルト 値	なし
親タグ	session-listener-config

 注意

セッションリスナは、intra-mart Accel Platform の起動時に
 指定したパッケージ配下の検索対象が多くなると、intra-mar

Hazelcast設定

項目

- 概要
- リファレンス
 - クラスタグループ設定
 - ID設定
 - 通信スレッド数設定
 - ネットワーク構成設定
 - ポート設定
 - クラスタグループ構成方法設定
 - マルチキャスト通信設定
 - マルチキャストアドレス設定
 - マルチキャスト通信ポート設定
 - ユニキャスト通信設定
 - メンバ設定
 - メンバアドレス設定
 - セッションストア設定
 - セッションストアメモリサイズ設定
 - セッションストア永続化設定
 - データソース設定
 - 永続化情報記録ユーザ設定

概要

intra-mart Accel Platformに組み込んでセッション管理に利用する Ha

コラム

Hazelcast の仕様の詳細については、以下を参照してください

「Hazelcast Reference Manual Version: 3.7.5」

- <https://docs.hazelcast.org/docs/3.7/manual/html-sir>

モジュール im_session_store_hazelcast_em

フォーマット WEB-INF/schema/hazelcast-config.xsd
ファイル(xsd)

設定場所 WEB-INF/conf/hazelcast-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<hazelcast-config
  xmlns="http://intra-mart.co.jp/session-store/hazelcast-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/session-store/hazelcast-config
  http://intra-mart.co.jp/session-store/hazelcast-config.xsd">

  <base>
    <id>im_session_store</id>
  </base>

  <network>
    <port port-count="2">5701</port>
    <join>
      <TCP>
        <member-list>
          <member>127.0.0.1</member>
        </member-list>
      </TCP>
    </join>
  </network>

  <store>
    <max-memory-size>1024</max-memory-size>
    <persistence enabled="false">
      <jndi-name>java:comp/env/jdbc/iap-session</jndi-name>
    </persistence>
  </store>

</hazelcast-config>
```

クラスタグループ設定

タグ名

クラスタを構成するグループを設定します。

【設定項目】

```
<hazelcast-config>
<base>
...
</base>
</hazelcast-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・ クラスタグループを設定します。

設定する

内容

単位・型 なし

省略時の

デフォル

ト値

親タグ hazelcast-config

ID設定

タグ名

クラスタを構成するグループの一意のIDです。

Webアプリケーション毎に一意となるIDを設定してください。

【設定項目】

```
<hazelcast-config>
<base>
<id>im_session_store</id>
</base>
</hazelcast-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・ クラスタグループのIDを設定します。

設定する

内容

単位・型 文字列

省略時の im_session_store

デフォル

ト値

親タグ base

通信スレッド数設定

タグ名

クラスタグループ内の通信に利用するスレッド数を設定します。

ここで設定した値と同数のスレッドが、読み込み用、および書き込み用

【設定項目】

```
<hazelcast-config>
<base>
  <io-thread-count>3</io-thread-count>
</base>
</hazelcast-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	クラスタグループ内の通信に利用するスレッド数を記述する内容
単位・型	数値（正の整数）
省略時のデフォルト値	3
親タグ	base

ネットワーク構成設定

タグ名

クラスタグループのネットワーク構成に関する設定を行います。

【設定項目】

```
<hazelcast-config>
<network>
  ...
</network>
</hazelcast-config>
```

必須項目	○				
複数設定	×				
設定値・設定する内容	<table border="0"> <tr> <td>port</td> <td>クラスタグループ内の通信に利用します。</td> </tr> <tr> <td>join</td> <td>クラスタグループメンバの発見方法</td> </tr> </table>	port	クラスタグループ内の通信に利用します。	join	クラスタグループメンバの発見方法
port	クラスタグループ内の通信に利用します。				
join	クラスタグループメンバの発見方法				
単位・型	なし				
省略時のデフォルト値	なし				
親タグ	hazelcast-config				

ポート設定

タグ名

クラスタグループ内の通信に利用するポート番号を設定します。

【設定項目】

```
<hazelcast-config>
<network>
  <port port-count="2">5701</port>
</network>
</hazelcast-config>
```

必須項目	×
複数設定	×

設定値・設定する内容	利用するポート番号の最小値を設定します。このポート番号から、 <code>port-count</code> 属性の値を
------------	--

単位・型	数値（ポート番号）
------	-----------

省略時のデフォルト値	5701
------------	------

親タグ	network
-----	---------

【属性】

属性名	説明	必須
port-count	利用するポート番号の範囲を指定します。	×

クラスタグループ構成方法設定

タグ名

クラスタグループを構成する方法を設定します。
子要素に `<UDP>` または `<TCP>` のいずれか片方を記述してください。

【設定項目】

```
<hazelcast-config>
<network>
<join>
...
</join>
</network>
</hazelcast-config>
```

必須項目	○
------	---

複数設定	×
------	---

設定値・設定する内容	UDP	マルチキャスト通信でメンバを発見します。
	TCP	ユニキャスト通信でメンバを特定します。

単位・型	なし
------	----

省略時のデフォルト値	なし
------------	----

親タグ	network
-----	---------

マルチキャスト通信設定

タグ名

マルチキャスト通信でメンバを発見する設定を行います。

【設定項目】

```
<hazelcast-config>
<network>
<join>
<UDP>
...
</UDP>
</join>
</network>
</hazelcast-config>
```

必須項目	×
------	---

複数設定	×	
設定値・設定する内容	multicast-group	マルチキャスト通信に利用
	multicast-port	マルチキャスト通信を送す。
単位・型	なし	
省略時のデフォルト値	なし	
親タグ	join	

コラム

この設定を行った場合、ユニキャストの設定(TCP)は行えませ

マルチキャストアドレス設定

タグ名
multicast-group

マルチキャスト通信に利用するIPアドレスを設定します。

【設定項目】

```
<hazelcast-config>
<network>
<join>
<UDP>
<multicast-group>224.2.2.3</multicast-group>
...
</UDP>
</join>
</network>
</hazelcast-config>
```

必須項目	×	
複数設定	×	
設定値・設定する内容	マルチキャスト通信に利用するIPアドレスを設定する内容	224.0.0.0 から 239.255.255.255 の範囲内で指定
単位・型	IPアドレス	
省略時のデフォルト値	224.2.2.3	
親タグ	UDP	

マルチキャスト通信ポート設定

タグ名
multicast-port

マルチキャスト通信を送受信するポート番号を設定します。

【設定項目】

```
<hazelcast-config>
<network>
<join>
<UDP>
<multicast-port>54327</multicast-port>
...
</UDP>
</join>
</network>
</hazelcast-config>
```

必須項目	×	
複数設定	×	

設定値・設定 する内容	マルチキャスト通信を送受信するポート番号を設定し する内容
単位・型	数値（ポート番号）
省略時のデ フォルト値	54327
親タグ	UDP

ユニキャスト通信設定

タグ名

ユニキャスト通信でメンバを特定する設定を行います。

【設定項目】

```
<hazelcast-config>
<network>
  <join>
    <TCP>
    ...
  </TCP>
</join>
</network>
</hazelcast-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定 する内容	member-list クラスタグループのメンバ情報を 列挙します。
単位・型	なし
省略時のデ フォルト値	なし
親タグ	join

i コラム
この設定を行った場合、マルチキャストの設定(UDP)は行えま

メンバ設定

タグ名

クラスタグループのメンバ情報を列挙します。

【設定項目】

```
<hazelcast-config>
<network>
  <join>
    <TCP>
    <member-list>
    ...
  </member-list>
  </TCP>
</join>
</network>
</hazelcast-config>
```

必須項目	×
複数設定	×

設定値・設定する内容	member	メンバのIPアドレスを設定します。
単位・型	なし	
省略時のデフォルト値	なし	
親タグ	TCP	

メンバアドレス設定

タグ名

メンバのIPアドレスを設定します。

【設定項目】

```
<hazelcast-config>
<network>
  <join>
    <TCP>
      <member-list>
        <member>192.168.0.1</member>
        <member>192.168.0.2</member>
        ...
      </member-list>
    </TCP>
  </join>
</network>
</hazelcast-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容

単位・型 IPアドレス

省略時のデフォルト値 127.0.0.1

親タグ member-list

セッションストア設定

タグ名

セッションストアに関する設定を行います。

【設定項目】

```
<hazelcast-config>
<store>
  ...
</store>
</hazelcast-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容

max-memory-size	セッションストアのメモリサイズ
persistence	セッションの永続化について設定

単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	hazelcast-config

セッションストアメモリサイズ設定


タグ名

セッションストアのメモリサイズを設定します。

【設定項目】

```
<hazelcast-config>
<store>
<max-memory-size>
...
</max-memory-size>
</store>
</hazelcast-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	セッションストアのメモリサイズを設定します。
単位・型	MB (メガバイト)
省略時のデフォルト値	1024
親タグ	store

 **コラム**
メモリサイズの算出方法に関しては「intra-mart Accel Platf

セッションストア永続化設定

タグ名

セッションの永続化について設定します。

【設定項目】

```
<hazelcast-config>
<store>
<persistence enabled="true">
...
</persistence>
</store>
</hazelcast-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	jndi-name データソースのJNDI名を設定します。 access-user 永続化情報に記録するユーザ名を設定
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	store

【属性】

属性名	説明	必
enabled	セッションの永続化を行うかどうかを設定します。	×

注意

セッションの永続化を有効にしている場合でも、フェイルオーバーに追加して永続化を行いたい場合のみ、この設定を行う上ではいくつかの注意点ががあります。詳細は「[in](#)」。

データソース設定

タグ名
jndi-name

データソースのJNDI名を設定します。

【設定項目】

```
<hazelcast-config>
<store>
  <persistence enabled="true">
    <jndi-name>java:comp/env/jdbc/iap-session</jndi-name>
    ...
  </persistence>
</store>
</hazelcast-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容
データソースのJNDI名を設定します。

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値
なし

親タグ persistence

永続化情報記録ユーザ設定

タグ名
access-user

永続化情報に記録するユーザ名を設定します。

【設定項目】

```
<hazelcast-config>
<store>
  <persistence enabled="true">
    <access-user>im_http_session</access-user>
    ...
  </persistence>
</store>
</hazelcast-config>
```

必須項目 ×

複数設定 ×

設定値・設定する内容
永続化情報に記録するユーザ名を設定します。

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 im_http_session

親タグ persistence

外部メニュー連携接続先設定

項目

- [概要](#)
- [リファレンス](#)
 - [外部メニュー連携接続先の共通設定](#)
 - [メニュープロバイダー一覧の設定](#)
 - [メニュープロバイダの設定](#)
 - [外部メニューを全て表示する](#)
 - [任意の外部メニューを表示する](#)
 - [メニュープロバイダの接続先エンドポイント設定](#)
 - [メニュープロバイダの接続先ログイングループ設定](#)
 - [メニュープロバイダの接続先ユーザ設定](#)
 - [メニュープロバイダの接続先ユーザパスワード設定](#)

概要

外部メニュー情報を取得するための接続先となるメニュープロバイダ情報

モジュール	外部メニュー連携
フォーマット ファイル(xsd)	WEB-INF/schema/menu-provider-config.xsd
設定場所	WEB-INF/conf/menu-provider-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<menu-provider-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/menu/external/menu-provider-c
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://intra-mart.co.jp/menu/external/menu
  skip-on-error="true" retry-interval="300">

  <menu-providers>
    <menu-provider id="sample" target-tenant="default" enable
      <end-point>http://127.0.0.1:8080/imart/services/MenuServi
      <login-group>default</login-group>
      <user>aoyagi</user>
      <password cryption="default">0A1msI0DLNo=</password
    </menu-provider>
  </menu-providers>

</menu-provider-config>
```

リファレンス

外部メニュー連携接続先の共通設定

タグ menu-provider-config
名

外部メニュー連携処理に関する共通項目を設定します。

【設定項目】

```
<menu-provider-config skip-on-error="true" retry-interval="300
...
</menu-provider-config>
```

必須
項目

複数 ×
設定

設定 なし
値・
設定
する
内容

単 なし
位・
型

省略 なし
時の
デ
フォ
ルト
値

親タ
グ なし

【属性】

属性名	説明
skip-on-error	接続先への接続エラー時に次のメニューフ <ul style="list-style-type: none"> • <i>false</i> を設定した場合、接続エラーが • <i>true</i> を設定した場合、接続エラーが ず。その場合、このメニュープロバ
retry-interval	接続先への接続エラー発生によりメニュー す。

i コラム

retry-interval について

skip-on-error が *true* の場合、接続エラーが発生したメニュー
エラー発生後、*retry-interval* に設定した時間が経過すると、
その後、メニュー情報取得時に、再び外部メニュー連携により
この値に 0 またはマイナスの値を設定した場合、一度エラーか
グローバルナビのメニュー情報はキャッシュされています。
そのため *retry-interval* が経過しても、メニューキャッシュを

メニュープロバイダー一覧の設定

タ menu-providers
グ
名

外部メニュー連携の接続先となるメニュープロバイダ情報をまとめる設

【設定項目】

```
<menu-provider-config>
  <menu-providers>
    ...
  </menu-providers>
</menu-provider-config>
```

必須項 ×
目

複数設 ×
定

設定	なし
値・設定する	
内容	
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	menu-provider-config

メニュープロバイダの設定

タグ名	menu-provider
-----	---------------

外部メニュー連携の接続先となるメニュープロバイダを設定します。

メニュープロバイダの設定は複数設定することが可能です。

外部メニュー連携機能では、グローバルナビ、サイトマップ表示時に、取得したメニューツリー情報は、メニュークライアントのメニューツリー

外部メニューを全て表示する

`editable` 属性を設定しなかった場合、取得したメニューツリー情報はメ
グローバルナビでは、取得した全てのメニューツリー情報の後ろに「サ
表示順序を変更したい場合は、この設定項目の記述順序を変更してくだ

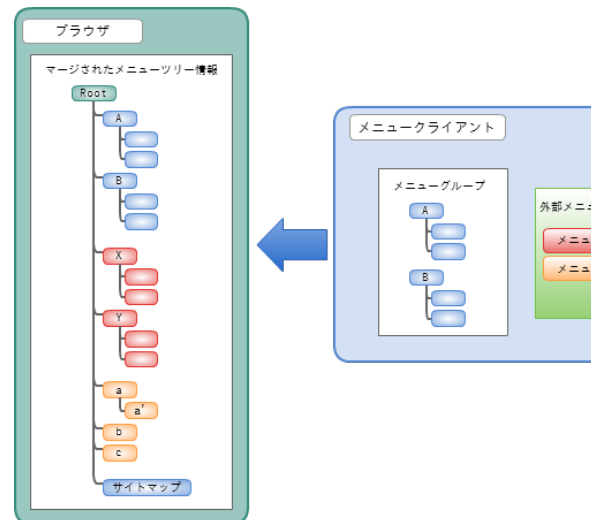


図 外部メニュー連携におけるメニューツリー表示順序

任意の外部メニューを表示する

`editable` 属性に「true」を設定した場合、取得したメニューツリー情報
メニュー設定画面では、取得したメニューツリー情報のトップ階層をメ
設定した外部メニューの表示位置情報は、「外部メニューリンク」とし
グローバルナビの表示時にメニュープロバイダからメニューツリー情報
メニュー設定画面で設定されなかったメニューツリー情報は、表示され

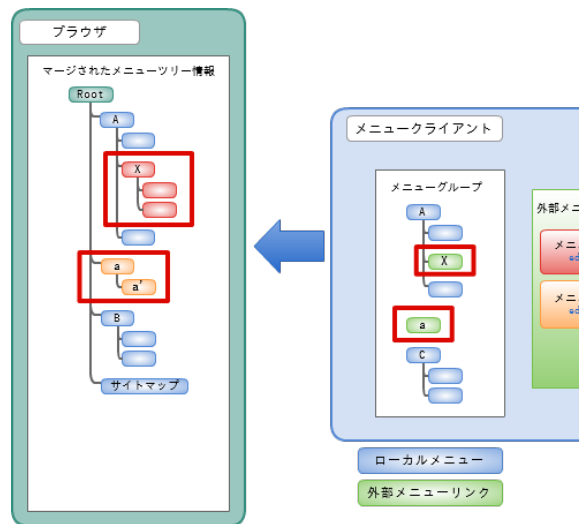


図 任意の外部メニューリンクを表示する場合のメニューツリー表示

- コラム**
メニュー設定画面での表示順序の設定については「テナント管
- コラム**
外部メニューを任意の位置に表示する設定は、グローバルナビ
サイトマップおよび互換テーマのメニューツリーでは、メニュー

【設定項目】

```
<menu-provider-config>
<menu-providers>
  <menu-provider id="sample" target-tenant="default" enable
  ...
  </menu-provider>
</menu-providers>
</menu-provider-config>
```

必須項目	×
複数設定	○
設定値・設定する内容	なし
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	menu-providers

【属性】

属性名	説明
id	メニュープロバイダを特定する、システムこの値は全てのメニュープロバイダで重複
target-tenant	メニュープロバイダの接続元を指定するテこの設定で指定したテナントにのみ、この省略した場合、デフォルト値はデフォルト

属性名	説明
enable	メニュープロバイダ有効フラグです。 <i>true</i> メニュープロバイダを利用しま <i>false</i> メニュープロバイダを利用しま ん。
editable	メニュープロバイダ管理フラグです。この 位置を変更することが可能です。 <i>true</i> メニュー管理画面でこのプロバ <i>false</i> メニュー管理画面でこのプロバ
use-popup	ポップアップ表示フラグです。 リンクをクリックした場合に、別ウィンド <i>true</i> ポップアップで表示します。 <i>false</i> IFrame で表示します。
support-anonymous	未認証ユーザの外部メニュー連携利用フラ グです。メニュープロバイダが intra-mart Accel 「true」を設定します。 <i>true</i> 未認証の場合でも外部メニュー 連携します。 <i>false</i> 未認証の場合は外部メニュー連 携しません。

メニュープロバイダの接続先エンドポイント設定

タグ名

メニュープロバイダの管理者から提供された接続先エンドポイントを設
 定する。接続先エンドポイントは、Webサービス「MenuService」のエンドポ
 イントのフォーマットは、以下の通りです。

`http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/services/MenuServi`

【設定項目】

```
<menu-provider-config>
  <menu-providers>
    <menu-provider id="sample" target-tenant="default" enable
      <end-point>http://127.0.0.1:8080/imart/services/MenuServi
      ...
    </menu-provider>
  </menu-providers>
</menu-provider-config>
```

必須項目 ○

複数設定 ×

設定値・設定す
 る内容

単位・型 文字列 (URL)

省略時のデフォ
 ルト値 なし

親タグ menu-provider

メニュープロバイダの接続先ログイングループ設定

タグ login-group
グループ名

メニュープロバイダの管理者から提供された接続先ログイングループID、このタグが必要な場合は、以下の通りです。

- 接続先のメニュープロバイダが intra-mart WebPlatform の場合
- 接続先のメニュープロバイダが intra-mart Accel Platform でかつ

i コラム

接続するメニュープロバイダがintra-mart Accel PlatformのログイングループIDの詳細については、「[Webサービス 認証](#)」を参照してください。

【設定項目】

```
<menu-provider-config>
  <menu-providers>
    <menu-provider id="sample" target-tenant="default" enable="true">
      ...
      <login-group>default</login-group>
      ...
    </menu-provider>
  </menu-providers>
</menu-provider-config>
```

必須項目	× (接続先のメニュープロバイダに依存します)
複数設定	×
設定値・設定する内容	メニュープロバイダの管理者から提供されたログイングループID
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	menu-provider

メニュープロバイダの接続先ユーザ設定

タグ user
グループ名

メニュープロバイダの管理者から提供された接続先の接続用ユーザーID

【設定項目】

```
<menu-provider-config>
  <menu-providers>
    <menu-provider id="sample" target-tenant="default" enable="true">
      ...
      <user>aoyagi</user>
      ...
    </menu-provider>
  </menu-providers>
</menu-provider-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	メニュープロバイダの管理者から提供された接続用ユーザーID
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	menu-provider

メニュープロバイダの接続先ユーザパスワード設定

タグ名
password

メニュープロバイダの管理者から提供された接続先の接続用ユーザパス

word *crypton* 属性が設定されている場合、指定の方式で暗号化された文字列
crypton 属性に設定するカテゴリは、「[暗号化設定](#)」を参照してくださ

【設定項目】

```
<menu-provider-config>
  <menu-providers>
    <menu-provider id="sample" target-tenant="default" enable
    ...
    <password crypton="default">0A1msl0DLNo=</password
  </menu-provider>
</menu-providers>
</menu-provider-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	メニュープロバイダの管理者から提供された接続 <i>crypton</i> 属性が設定されている場合、指定の方 <i>crypton</i> 属性が設定されていない場合、パスワ
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	menu-provider

【属性】

属性名	説明
crypton	暗号化したパスワードを設定する場合に、暗号化方式 りです。

注意
パスワード文字列を暗号化するためのツールは提供されません
Java API *CryptionUtil* を利用して、指定したカテゴリで暗号化
[CryptionUtil APIドキュメント](#)

SSO連携用マッピング設定

項目

- 概要
 - IM-HybridSSO の共通設定
 - サイトドメイン設定
 - 再実行時間設定
 - HttpOnly設定
 - ログアウトタイムアウト設定
 - SSOマッピング一覧の設定
 - SSOマッピング設定
 - SSO認証プロバイダ対象テナント設定
 - SSOサービスプロバイダ設定
 - SSOサービスプロバイダID設定
 - 認証情報取得の接続先エンドポイント設定
 - SSOサービスプロバイダ対象ログイングループ設定
 - Webサービス実行ユーザ設定
 - Webサービス実行ユーザパスワード設定
 - ログアウト先URL
 - サイトパス設定

概要

intra-mart Accel Platform (SSO認証プロバイダ) から iWP / iAF (S
IM-HybridSSO の詳細は、「[セットアップガイド](#)」 - 「[iAP-iWP間SSO連](#)

モジュール	iAP-iWP間SSO連携モジュール(IM-HybridSSO)
フォーマットファイル(xsd)	WEB-INF/schema/hybrid-sso-mapping-config.xml(xsd)
設定場所	WEB-INF/conf/hybrid-sso-mapping-config.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<hybrid-sso-mapping-config
xmlns="http://www.intra-mart.jp/hybrid_sso/hybrid-sso-mapping-c
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/hybrid_sso/hybrid-s

<common-settings>
  <site-domain>example.com</site-domain>
  <retry-interval>300</retry-interval>
  <http-only>true</http-only>
  <logout-timeout>60</logout-timeout>
</common-settings>

<mappings>
  <mapping id="sample">
    <tenant-id>tenant-a</tenant-id>
    <provider>
      <provider-id>provider-0</provider-id>
      <end-point>http://intra-mart.example.com:8080/imart/servic
      <login-group>default</login-group>
      <user>aoyagi</user>
      <password crypton="category">0A1msI0DLNo=</passwor
      <logout-url>http://intra-mart.example.com:8080/imart/user.
      <site-path>/imart</site-path>
    </provider>
  </mapping>
</mappings>

</hybrid-sso-mapping-config>
```

IM-HybridSSO の共通設定

タグ名
common-settings

IM-HybridSSO に関する共通項目を設定します。

【設定項目】

```
<hybrid-sso-mapping-config>
<common-settings>
...
</common-settings>
</hybrid-sso-mapping-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 なし

単位・型 なし

省略時のデフォルト値 なし

親タグ hybrid-sso-mapping-config

サイトドメイン設定

タグ名
site-domain

サイトドメインの設定を行います。

IM-HybridSSO では、認証情報の管理に Cookie を利用します。

この設定では認証情報を格納した Cookie を参照可能なサイトドメイン

IM-HybridSSO を構成するサーバは、全て同一のドメイン上に構築する以下の構成の場合、サイトドメインに設定する値は「intra-mart.jp」で

- SSO認証プロバイダ：iap.intra-mart.jp
- SSOサービスプロバイダ1：iwp1.intra-mart.jp
- SSOサービスプロバイダ2：iwp2.intra-mart.jp

【設定項目】

```
<hybrid-sso-mapping-config>
<common-settings>
<site-domain>example.com</site-domain>
</common-settings>
</hybrid-sso-mapping-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 サイトドメインを指定します。

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値	なし
親タグ	common-settings

再実行時間設定

タグ名	retry-interval
-----	----------------

SSOサービスプロバイダへのWebサービスの再実行間隔を設定します。SSO認証プロバイダはユーザがログイン時にSSO連携用マッピング設定このWebサービスで接続エラーが発生した場合、一定の時間が経つまで再実行時間設定では、接続エラーが発生した際に再度 認証情報の取得を

この値に0を設定した場合、一度接続エラーが発生したSSOサービスもまた、マイナスの値を設定した場合は、デフォルト値(300)が採用さ

【設定項目】

```
<hybrid-sso-mapping-config>
<common-settings>
  <retry-interval>300</retry-interval>
</common-settings>
</hybrid-sso-mapping-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	認証情報取得時の接続エラー発生後にふたたび
単位・型	数値(秒)
省略時のデフォルト値	300
親タグ	common-settings

HttpOnly設定

タグ名	http-only
-----	-----------

HttpOnly属性を利用するかどうかを設定します。IM-HybridSSOでは、認証情報の管理にCookieを利用します。この設定では認証情報を格納するCookieにHttpOnly属性を指定する

【設定項目】

```
<hybrid-sso-mapping-config>
<common-settings>
  <http-only>true</http-only>
</common-settings>
</hybrid-sso-mapping-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	true CookieにHttpOnly属性を付与します。 false CookieにHttpOnly属性を付与しません。
単位・型	真偽値(true/false)
省略時のデフォルト値	true
親タグ	common-settings

タグ名
logout-timeout

SSOサービスプロバイダへのログアウト実行時のタイムアウト時間を設定します。IM-HybridSSOでは、SSO認証プロバイダにてログアウトを行うとSSOログアウト時にはSSOサービスプロバイダでのログアウト処理の完了を待たずにログアウトタイムアウト設定では、SSOサービスプロバイダでのログアウト処理が完了してからログアウトタイムアウト設定で設定した値の経過した時点で、SSOサービスプロバイダからログアウト時に、ログアウトタイムアウト設定で設定した値の経過した時点で、ログアウト処理を行います。

この値に0を設定した場合、SSOサービスプロバイダでのログアウトを待たずにログアウト処理を行います。また、マイナスの値を設定した場合は、デフォルト値(60)が採用されます。

【設定項目】

```
<hybrid-sso-mapping-config>
  <common-settings>
    <logout-timeout>60</logout-timeout>
  </common-settings>
</hybrid-sso-mapping-config>
```

必須項目	×
複数設定	×
設定値・設定する内容	SSOサービスプロバイダのログアウトの最大応答時間
単位・型	数値(秒)
省略時のデフォルト値	60
親タグ	common-settings

SSOマッピング一覧の設定

タグ名
mappings

IM-HybridSSO 接続を行う SSO 認証プロバイダ と SSO サービスプロバイダ のマッピングを設定します。

【設定項目】

```
<hybrid-sso-mapping-config>
  <mappings>
    ...
  </mappings>
</hybrid-sso-mapping-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	なし
単位・型	なし
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	hybrid-sso-mapping-config

SSOマッピング設定

タ mapping
グ
名

SSO接続を行う SSO認証プロバイダ と SSOサービスプロバイダのSSO

【設定項目】

```
<hybrid-sso-mapping-config>
<mappings>
  <mapping id="sample">
    ...
  </mapping>
</mappings>
</hybrid-sso-mapping-config>
```

必須 ×
項目

複数 ○
設定

設定 なし
値・
設定
する
内容

単 なし
位・
型

省略 なし
時の
デ
フォ
ルト
値

親タ mappings
グ

【属性】

属性名	説明
id	IM-HybridSSO のマッピングを特定する、システムでIDです。 この値はすべてのマッピングで重複しないようにして
enable	マッピングの有効フラグです。 true マッピングを有効とします。 false マッピングを無効とします。

SSO認証プロバイダ対象テナント設定

タ tenant-id
グ
名

SSOマッピング設定に対して、SSO認証プロバイダとして動作する対象

【設定項目】

```
<hybrid-sso-mapping-config>
<mappings>
  <mapping id="sample">
    <tenant-id>tenant-a</tenant-id>
  </mapping>
</mappings>
</hybrid-sso-mapping-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定	SSO認証プロバイダとして動作する対象となるテナン する内容
単位・型	文字列
省略時のデ フォルト値	なし
親タグ	mapping

SSOサービスプロバイダ設定

タグ名

SSOマッピング設定に対して、SSOサービスプロバイダの情報を設定し

【設定項目】

```
<hybrid-sso-mapping-config>
<mappings>
  <mapping id="sample">
    <provider>
      ...
    </provider>
  </mapping>
</mappings>
</hybrid-sso-mapping-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定	なし
単位・型	なし
省略時のデ フォルト値	なし
親タグ	mapping

SSOサービスプロバイダID設定

タグ名

SSOサービスプロバイダのプロバイダIDを設定します。
プロバイダIDは SSOサービスプロバイダ側で設定ファイルで定義したID

【設定項目】


```
<hybrid-sso-mapping-config>
<mappings>
  <mapping id="sample">
    <provider>
      <provider-id>provider-0</provider-id>
    </provider>
  </mapping>
</mappings>
</hybrid-sso-mapping-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 SSOサービスプロバイダのプロバイダID

単位・型 文字列

省略時のデフォルト値 なし

親タグ provider

認証情報取得の接続先エンドポイント設定

タグ名 end-point

SSOサービスプロバイダから認証情報を取得するための接続先エンドポイントの接続先エンドポイントは、Webサービス「AdmissionService」のエン

通常、エンドポイントのURLは以下の通りです。

`http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/services/Admission:`

または

`https://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/services/Admission:`

【設定項目】

```
<hybrid-sso-mapping-config>
<mappings>
  <mapping id="sample">
    <provider>
      <end-point>http://intra-mart.example.com:8080/imart/service
    </provider>
  </mapping>
</mappings>
</hybrid-sso-mapping-config>
```

必須項目

複数設定

設定値・設定する内容 SSOサービスプロバイダから認証情報を取得する内容

単位・型 文字列（URL）

省略時のデフォルト値 なし

親タグ provider

SSOサービスプロバイダ対象ログイングループ設定

タグ名 login-group

SSOサービスプロバイダとして動作するログイングループを設定します。

【設定項目】

```
<hybrid-sso-mapping-config>
<mappings>
  <mapping id="sample">
    <provider>
      <login-group>default</login-group>
    </provider>
  </mapping>
</mappings>
</hybrid-sso-mapping-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	SSOサービスプロバイダとして動作するログイングループの内容
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	provider

Webサービス実行ユーザ設定

タグ名

SSOサービスプロバイダから認証情報を取得するWebサービスを実行する
ここで設定するユーザはSSOサービスプロバイダにてWebサービスA
Webサービス実行用に新しくユーザを作成してWebサービス実行用のC

【設定項目】

```
<hybrid-sso-mapping-config>
<mappings>
  <mapping id="sample">
    <provider>
      <user>aoyagi</user>
    </provider>
  </mapping>
</mappings>
</hybrid-sso-mapping-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	認証情報を取得するWebサービスを実行するユーザの内容
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	provider

Webサービス実行ユーザパスワード設定

タグ名

SSOサービスプロバイダから認証情報を取得するWebサービスを実行する

【設定項目】

```
<hybrid-sso-mapping-config>
<mappings>
  <mapping id="sample">
    <provider>
      <password crypton="category">0A1msI0DLNo=</password>
    </provider>
  </mapping>
</mappings>
</hybrid-sso-mapping-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	認証情報を取得するWebサービスを実行するユーザーの <code>crypton</code> 属性を設定することで、パスワードの値
単位・型	文字列
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	provider

【属性】

属性名	説明
crypton	パスワードの暗号化方式のカテゴリを指定します。暗号化方式のカテゴリは「 暗号化設定 」で設定した値です。この属性が未指定の場合は、暗号化なしでパスワードです。

注意

パスワード文字列を暗号化するためのツールは提供されません。Java API `CryptionUtil` を利用して、指定したカテゴリで暗号化

[CryptionUtil APIドキュメント](#)

ログアウト先URL

タグ名

SSOサービスプロバイダからログアウトを行うためのURLを指定します。ログアウト先URLは、SSOサービスプロバイダのログアウトサブプレッ

通常、ログアウトサブプレットのURLは以下の通りです。

`http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/user.logout`

または

`https://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/user.logout`

【設定項目】

```
<hybrid-sso-mapping-config>
<mappings>
  <mapping id="sample">
    <provider>
      <logout-uri>http://intra-mart.example.com:8080/imart/user.
    </provider>
  </mapping>
</mappings>
</hybrid-sso-mapping-config>
```

必須項目	○
複数設定	×
設定値・設定する内容	SSOサービスプロバイダからログアウトを行うための

単位・型	文字列 (URL)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	provider

サイトパス設定

タグ名: site-path

サイトパスを設定します。
 IM-HybridSSO では、認証情報の管理に Cookie を利用します。
 この設定では認証情報を格納した Cookie を参照可能なサイトパス (Context Path) を設定します。
 通常の場合、サイトパスは、`/` + `<CONTEXT_PATH>` を設定します。

【設定項目】

```
<hybrid-sso-mapping-config>
  <mappings>
    <mapping id="sample">
      <provider>
        <site-path>/imart</site-path>
      </provider>
    </mapping>
  </mappings>
</hybrid-sso-mapping-config>
```

必須項目	<input type="radio"/>
複数設定	×
設定値・設定内容	サイトパス
単位・型	文字列 (/xxxxx)
省略時のデフォルト値	なし
親タグ	provider

